

杉並区 河川の生物  
-第九次河川生物調査報告書-

令和8年3月

杉並区環境部環境課



## はじめに

杉並区では、区内の自然環境を定期的に調査し記録に留めるとともに、これからの施策や環境学習を実施する際の基礎資料として役立てることを目的として、河川生物調査や自然環境調査を継続的に行っています。

河川生物調査は、昭和 57 年より 8 回にわたり実施し、その結果を公表してきました。

今回の調査は第九次調査で、底生動物、付着藻類、魚類、水草の 4 項目の定点調査を行いました。また、平成 20 年度より区において善福寺川「水鳥の棲む水辺」創出事業による水鳥調査などが行われているため、これに合わせて第六次調査以降、善福寺川における植物相の調査も行いました。

河川はまさに、杉並区の自然環境の中核をなす場所であり、周辺も含めてみどりを増やすだけでなく、水辺の健全で豊かな生態系の質を向上させる意味で、生物の多様性を高めることがこれからの大きな課題であると考えられます。

本報告書が、安らぎとうるおいのある快適な生活環境の創造のため、より良好な水辺環境に向けた取り組みや環境学習等を推進する基礎資料として大いに活用されればと考えております。

令和 8 年 3 月

杉並区環境部環境課



## 目次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の内容	2
(1) 報告書の構成と内容	2
(2) 調査の概要	3
II 調査地域の概況	5
1. 杉並区の地形と水系	5
(1) 杉並区の位置および地形概況	5
(2) 区内河川および周辺河川の流域や水源の概況	8
(3) 杉並区の河川と池とその歴史	10
2. 河川周辺の土地利用の変遷	12
(1) 区内の土地利用	12
(2) 河川周辺の土地利用	14
3. 河川の変遷	17
(1) 神田川の歴史	17
(2) 神田川流域の近年の主要な水害	17
(3) 神田川水系における近年の河川改修事業	19
4. 河川の水質	23
(1) 環境基準類型指定状況	23
(2) 水質の変遷	24
(3) 河川別の水質	26
(4) 水質の水準	28
III 河川生物調査の結果	33
III-1 河川生物調査	33
1. 現地調査の内容	33
(1) 現地調査時期	33
(2) 現地調査地点と項目	35
(3) 現地調査方法および分析方法	37
(4) 重要種の選定	39
(5) 外来種の選定	40
(6) 調査時の状況	41
2. 現地調査の結果	54
(1) 底生動物	54
(2) 付着藻類	85
(3) 魚類	112
(4) 水草（沈水植物）	125
(5) 重要な生物の経年確認状況	135

III-2 河川環境調査 -善福寺川における植物相調査-	137
1. 現地調査の内容	137
(1) 現地調査の時期	137
(2) 現地調査の方法	137
(3) 調査地の現況	137
2. 現地調査の結果	139
(1) 出現種とその分布	139
(2) 重要種・外来種	151
IV 今後の課題と提言	156
1. 河川調査によって見えてきた課題	156
2. 杉並区の河川環境保全にむけて	157
(1) 河川の維持管理	157
(2) 河川構造の改善	157
(3) 普及啓発	158

# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

近年、地球温暖化や野生生物の減少などの環境問題が深刻化する中、都市環境整備においても、私たちの暮らしを支えている生態系に配慮した環境の充実が求められている。

かつて杉並区でも、都市化以前には自然豊かな水辺環境が存在していたが、都市化の進展に伴う人口増加や土地利用の変化といった社会的背景により、当時と同じ環境を取り戻すことは容易ではない。

しかし、都市化した環境も生態系の一端であることを認識し、生物の生息環境となる地域の自然に目を向け、関心を高め、さらには活動へとつなげていくことが、地域の自然環境の改善につながる。これは、結果として安らぎとうるおいのある快適な生活環境の形成にも寄与すると考えられる。

杉並区ではこれまで8回にわたり、魚類・底生生物・付着藻類・水草（沈水植物）を対象とした河川生物調査を同一地点で実施し、生物相の現状とその推移を把握してきた(表 I-1)。本調査は、こうした重要な環境要素である河川環境に関する調査結果を踏まえ、持続可能な環境施策に生かしていくことを目的としている。

表 I-1 これまでに実施された河川の生物調査と調査年度

調査回	調査年度	報告書名
第一次調査	昭和57年度	河川の生物 ー第一次河川生物調査報告書ー
第二次調査	昭和63年度	河川の生物 ー第二次河川生物調査報告書ー
第三次調査	平成6年度	河川の生物 ー第三次河川生物調査報告書ー
第四次調査	平成12年度	河川の生物 ー第四次河川生物調査報告書ー
第五次調査	平成16年度	河川の生物 ー第五次河川生物調査報告書ー
第六次調査	平成21年度	河川の生物 ー第六次河川生物調査報告書ー
第七次調査	平成27年度	河川の生物 ー第七次河川生物調査報告書ー
第八次調査	令和2年度	河川の生物 ー第八次河川生物調査報告書ー
第九次調査	令和7年度	河川の生物 ー第九次河川生物調査報告書ー

## 2. 調査の内容

### (1) 報告書の構成と内容

本報告書の構成と内容を図 I-1 に示す。

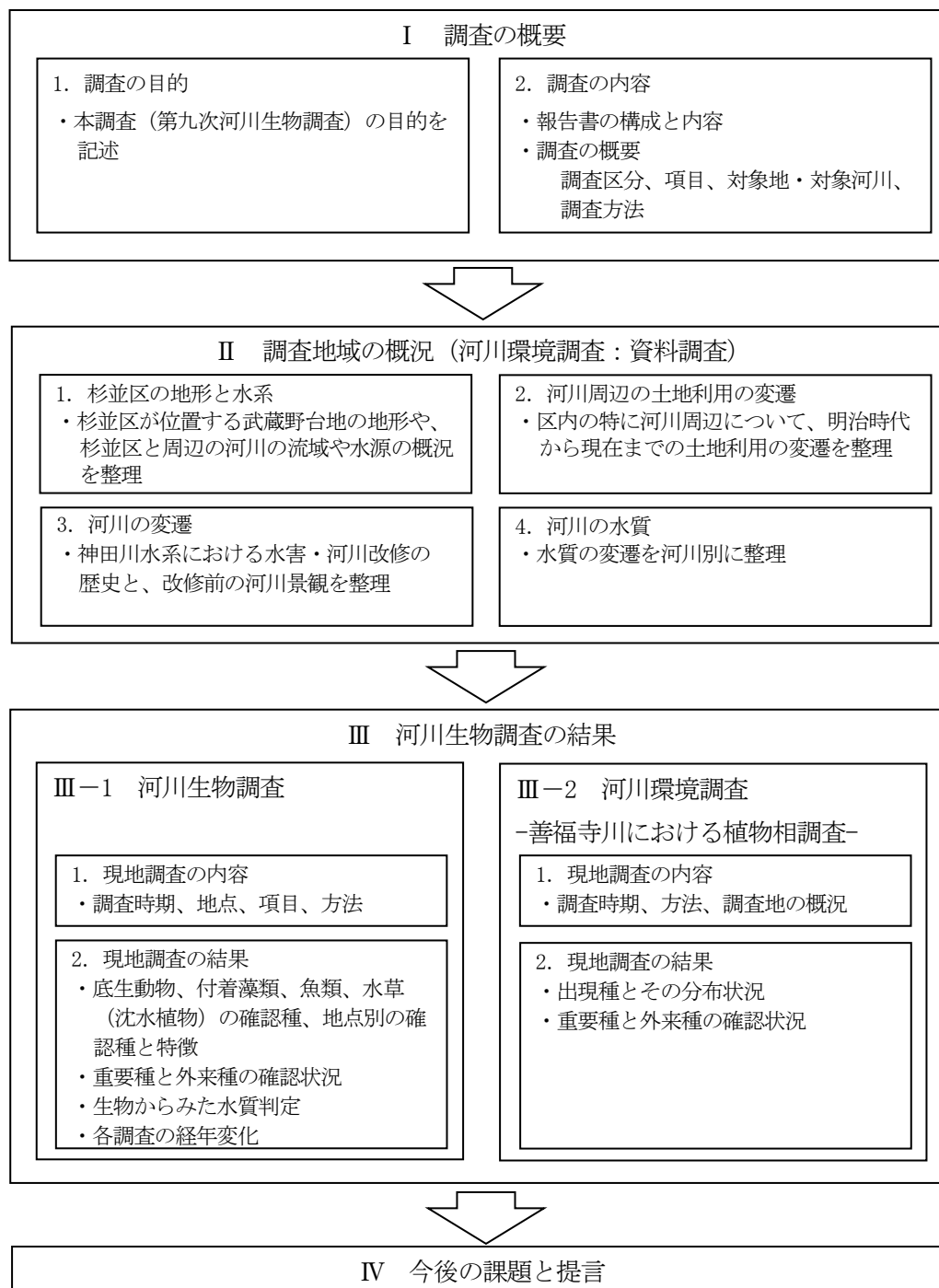


図 I-1 本報告書の構成と内容

## (2) 調査の概要

### 1) 調査区分と調査対象地・河川

調査区分、調査項目、対象地・対象河川を表 I-2 に示す。

河川生物調査の調査地点を図 I-2 に示す。河川環境調査の現地調査（植物相）は、善福寺川全体を対象に実施した。

表 I-2 調査項目と調査対象地・河川

調査区分		調査項目	対象地・河川
河川生物調査	現地調査	① 底生動物	・妙正寺川 ・善福寺川 ・神田川
		② 付着藻類	
		③ 魚類	
		④ 水草（沈水植物）	
河川環境調査	資料調査	a. 水質	・神田川流域 (区内全域)
		b. 河川整備	
	現地調査	c. 植物相	・善福寺川

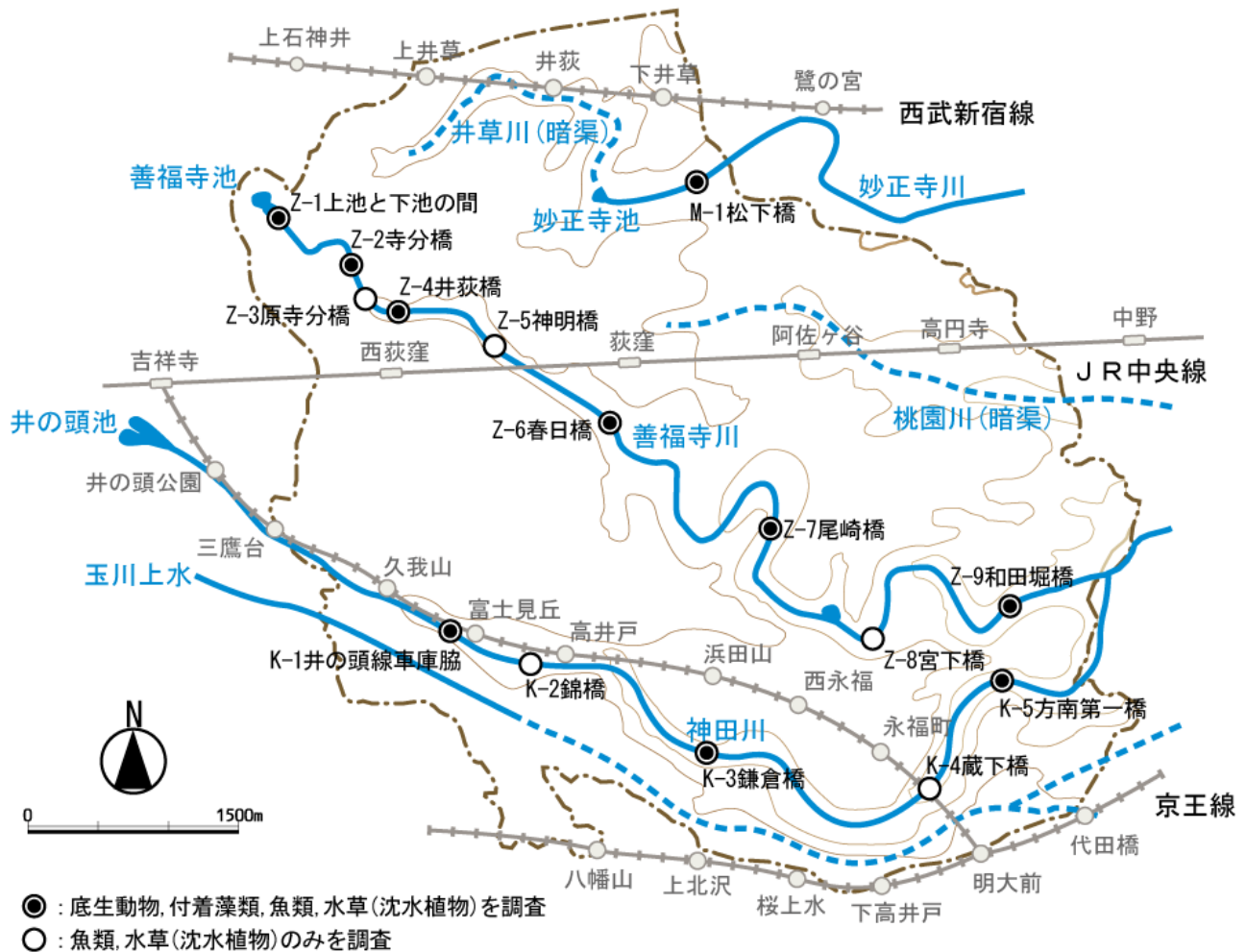


図 I-2 河川生物調査の調査地点

## 2) 調査方法

各現地調査の調査方法を表 I-3 に示す。

表 I-3 調査方法一覧

区分	項目		調査方法
河川生物 調査	底生動物	定量採集	・地点の環境を代表する箇所、流れに向かう方向に 30×30 cm のサーバーネットを設置し、枠内の底生動物をネット内に流し込んで採取した。
		定性採集	・定量調査を行った箇所以外で、タモ網等を用いて底泥のかくはんや、水草の根元をすくう等をして、主として大型の底生動物類を採取した。
		室内分析	・試料はホルマリン固定後持ち帰り、実体顕微鏡および生物顕微鏡下で種の同定・計数を行った。
	付着藻類	定量採集	・地点の環境を代表する箇所、石礫の表面に 5×5 cm の枠をあて、枠内に付着している藻類を、ナイロンブラシを用いて剥ぎ落として採取した。
		定性採集	・5×5 cm の枠外の藻類を定量採集と同様に採取した。
		室内分析	・試料は、ホルマリン固定後持ち帰り、顕微鏡下で種の同定・計数を行った。 ・藻類は熱処理後、プリーラックスで封入したプレパラートを作成した。また、主要な種は写真撮影を行った。
	魚類		・調査地点周辺の魚類を投網・タモ網を用いて捕獲した。 ・飼育品種を含むコイ類は目視観察でも確認した。 ・採捕した魚類は地点ごとに 20 個体を上限に体長を測定した後、種別の写真撮影を行った。 ・不明種はホルマリン固定標本作製し保存した。
水草(沈水植物)		・調査地点に生育している水草(沈水植物)を記録した。 ・確認された水草(沈水植物)は、全種の写真撮影を行った。	
河川環境 調査	植物相		・区内の善福寺川において橋間ごとに植物相調査を実施した。 ・調査は踏査で行い、出現種を記録した。

## II 調査地域の概況

### 1. 杉並区の地形と水系

#### (1) 杉並区の位置および地形概況

##### 1) 位置

杉並区は関東地方の南部、東京都 23 区の西部に位置し（北緯 35 度 40～44 分、東経 139 度 35～40 分）、北は練馬区、東は中野区と渋谷区、南は世田谷区、西は武蔵野市と三鷹市に接している。東西 7,508m、南北 7,159m に広がり、34.06km<sup>2</sup> の面積をもつ。

##### 2) 武蔵野台地と杉並区の地形

杉並区は、東京都中央部の大部分を占める武蔵野台地上にある（図 II-1）。

武蔵野台地は北西を入間川、北東を荒川、南を多摩川の各低地に囲まれた厚いローム層に覆われた洪積台地であり、東京都から埼玉県西南部にまで広がっている。

武蔵野台地は、多摩川の扇状地として形成されていることから、東京都青梅市付近から東に向かって緩やかに傾斜しているものの（図 II-2）、杉並区内はほぼ平坦で、海拔は西部が約 50m、東部は約 40m、河川の谷底低地では東部で概ね 30m である（図 II-3）。

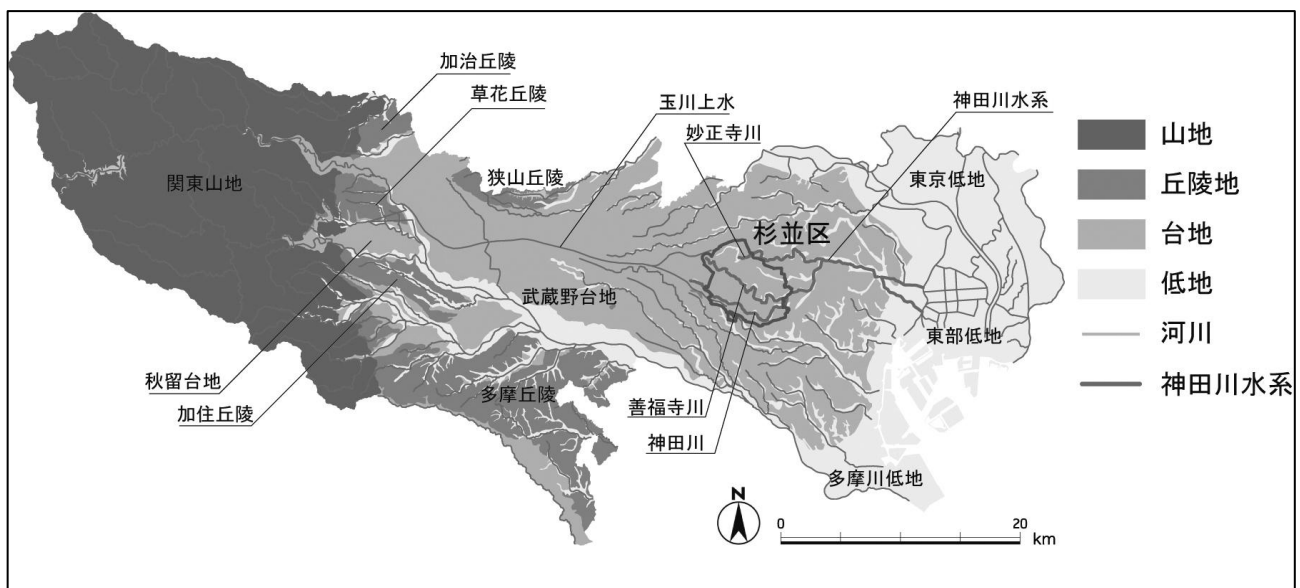


図 II-1 東京都の地形 出典:「すぎなみの川と生き物」(杉並区環境清掃部環境課, 2005)

### 3) 杉並区の地形の特徴

杉並区には、北から妙正寺川、善福寺川、神田川がそれぞれ西から東に向かって流れ、台地上に浅い低地が入り込んだ地形となっている(図 II-2)。一方で、現在の東京都区部は河川際まで宅地化が進み、河川周辺は盛土によって平坦化されているため、斜面がはっきりとみられる台地と谷底低地との境界を除いて、もともとの地形の凹凸は、地形図からは読み取ることが難しくなっている。

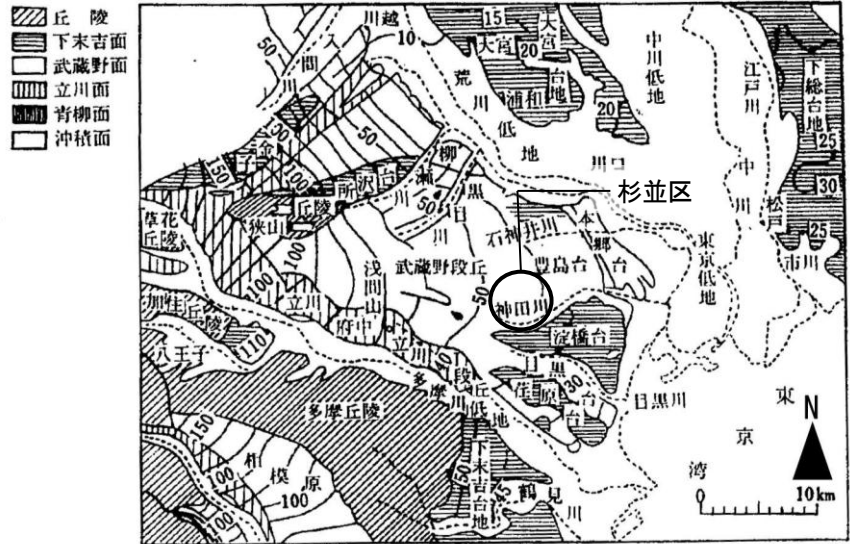


図 II-2 武蔵野台地周辺の地形区分

出典:「新修杉並区史(上巻) (杉並区, 1982)

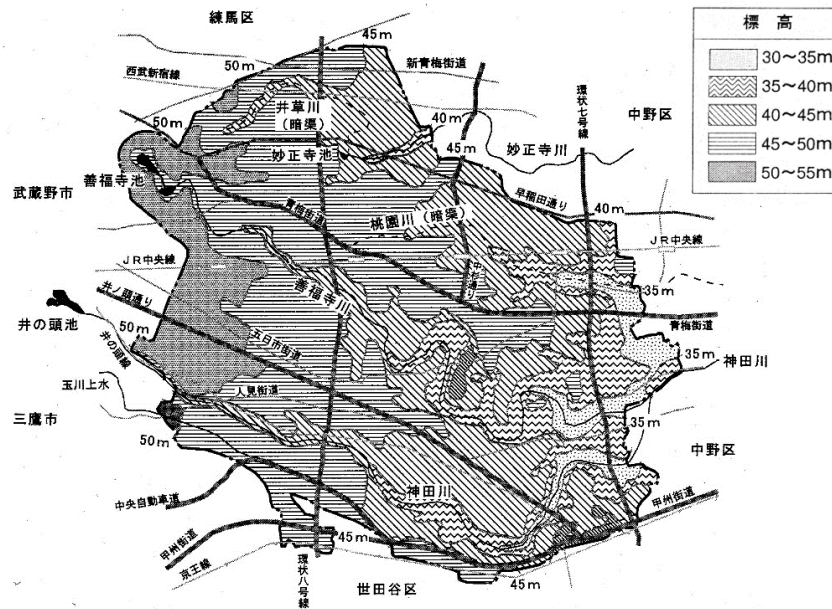


図 II-3 杉並区の地形概要

出典:「令和4年度杉並区みどりの実態調査報告書」(杉並区都市整備部みどり公園課, 2023a)

### 4) 土地条件図から読み取る杉並区の地形

「二万五千分の一 土地条件図II-(東京)」(1981, 国土地理院)を基に作成した図(図 II-4)では、杉並区内は台地中位面が広く覆い、河川沿いは「盛土地(人工地形)」となっている。

この盛土地がかつての谷底低地であり、現在は暗渠になった妙正寺川の最上流部(上井草・下井草)や神田川支流の桃園川(天沼・阿佐谷・高円寺)の谷底低地も同様に盛土地として示されている。

河川沿いの盛土地からかつての谷底低地は、現在の環状八号線より西側の上流部で幅50m~100m、これより東側の中流部で100m前後、広いところで200mほどであったことがうかがえる。

台地中位面と盛土地の間には、所により「平坦地化(人工地形)」が示され、また同様に一部には「直線型斜面」が示されている。これらはかつて台地面と谷底低地との境界をなした斜面であったと考えられる。

また、現在の盛土地と繋がって、幅50m~100mほどの「凹地・浅い谷」が伸びている。この土地の中には、河川の小支流の谷底低地も含まれている。

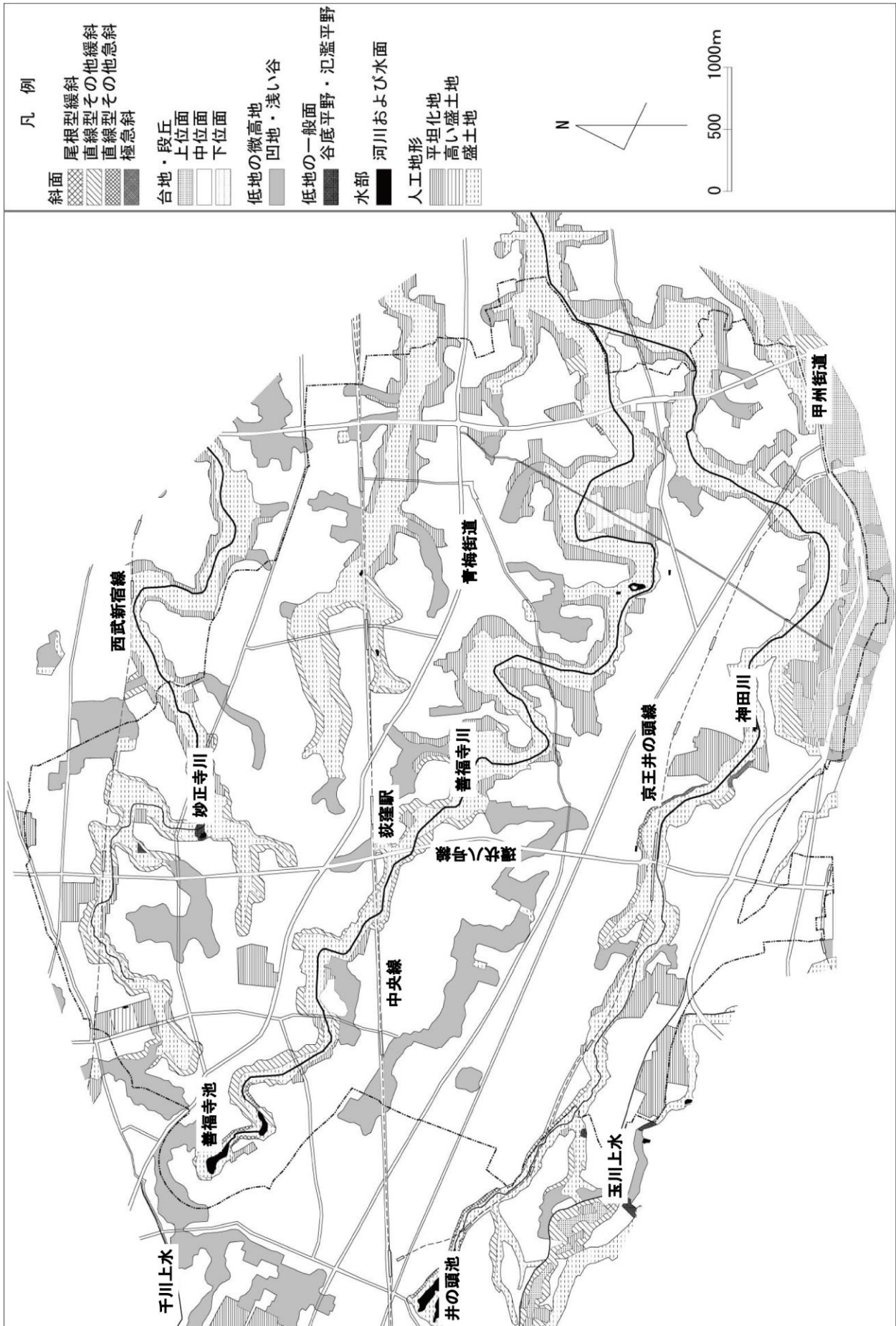


図 11-4 土地条件図 「二万五千分の一 土地条件図Ⅱ- (東京)」 (国土地理院, 1981) を基に作成

## (2) 区内河川および周辺河川の流域や水源の概況

### 1) 神田川水系

杉並区を流れる河川には、荒川水系に属する自然河川である妙正寺川・善福寺川・神田川と人工水路の玉川上水がある。一方で表流水が見えない暗渠として、妙正寺池付近で妙正寺川に注ぐ井草川と中野区内で神田川に注ぐ桃園川がある他、玉川上水の下流部（浅間橋～水道局新宿営業所）も暗渠である（図 II-5）。

杉並区を流れるこれらの河川はいずれも、杉並区よりも下流で順次合流し、ほぼ西から東へ貫流しながら隅田川に注いでいる（図 II-6）。

表 II-1 に神田川流域の河川一覧を示す。

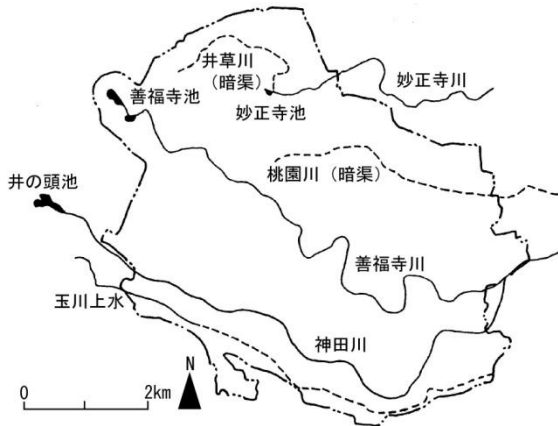


図 II-5 杉並区の河川

表 II-1 神田川流域の河川一覧

河川法区分	河川名	延長 (km)
一級河川	神田川水系	46.4
	神田川	24.6
	善福寺川	10.5
	妙正寺川	9.7
	江古田川	1.6

「事業概要 令和6年版」(東京都第三建設事務所, 2024) を基に作成

出典:「平成9年度緑化基本調査報告書」(杉並区, 1998)

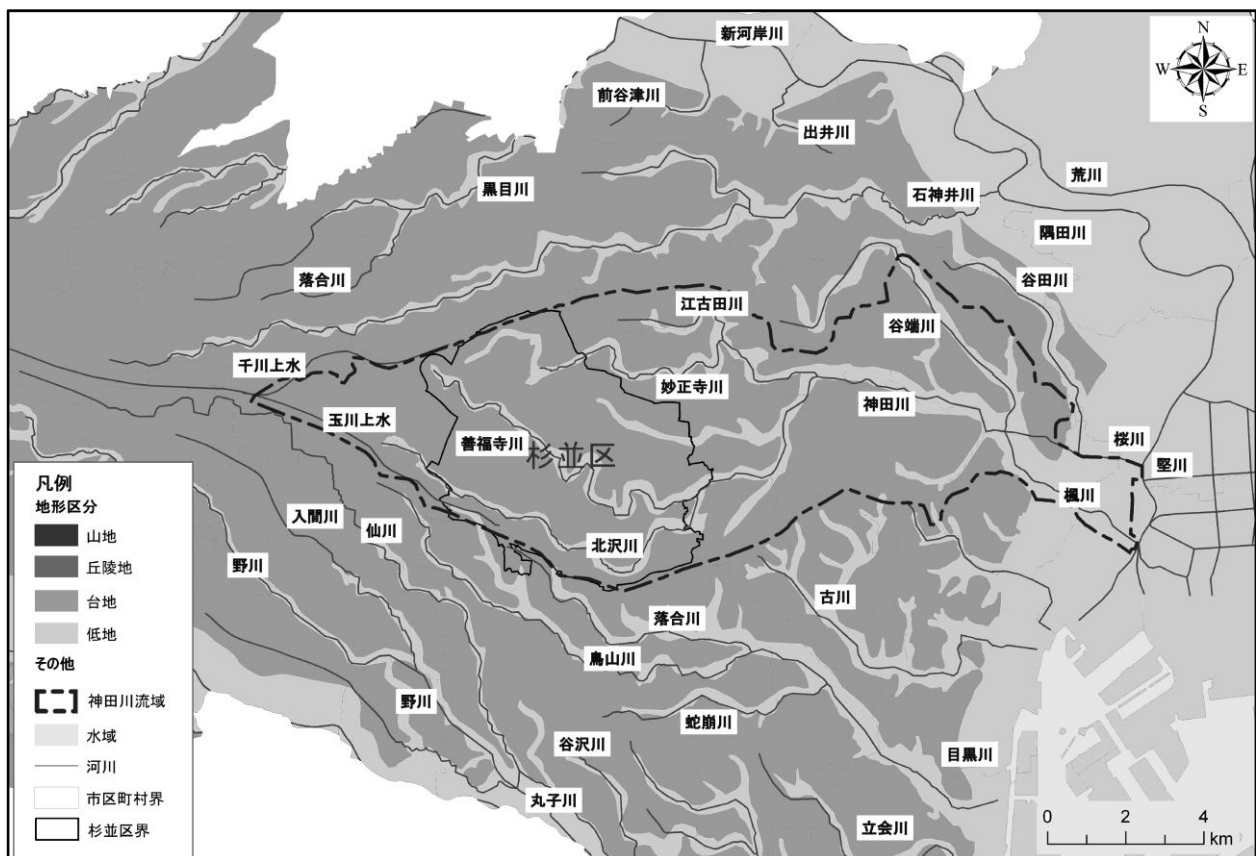


図 II-6 神田川流域の河川図 出典:「杉並区 河川の生物—第七次河川生物調査報告書—」(杉並区環境部環境課, 2016)

## 2) 台地を水源とする河川の特徴

武蔵野台地の標高ほぼ 50m の等高線上には、東京都の三大湧水地である井の頭池（三鷹市）、善福寺池（杉並区）および三宝寺池（練馬区）が並び、それぞれ神田川、善福寺川、石神井川の水源地となっている。

このほか都内で武蔵野台地に水源をもつ河川は、荒川水系の新河岸川へ注ぐ黒目川（水源は東久留米市内、以下同じ）や白子川（練馬区）がある。また、奥多摩の山地を主な水源とする多摩川の支流にも、残堀川（瑞穂町）、野川（国分寺市）、などのように武蔵野台地に水源をもつものが数多くある（図 II-7）。

台地に水源をもつこれらの河川は、いずれも武蔵野台地の表面を覆うローム層の下層にあたる「武蔵野礫層<sup>れきそう</sup>」の中を通る地下水が、地表に現れることによって生まれている。武蔵野礫層中を流れる地下水は、段丘崖の崖線では崖から染み出して流れ出し、また台地面においては表層のローム層の下の礫層から湧き出て池をつくり、そこから川となって流れ出している。

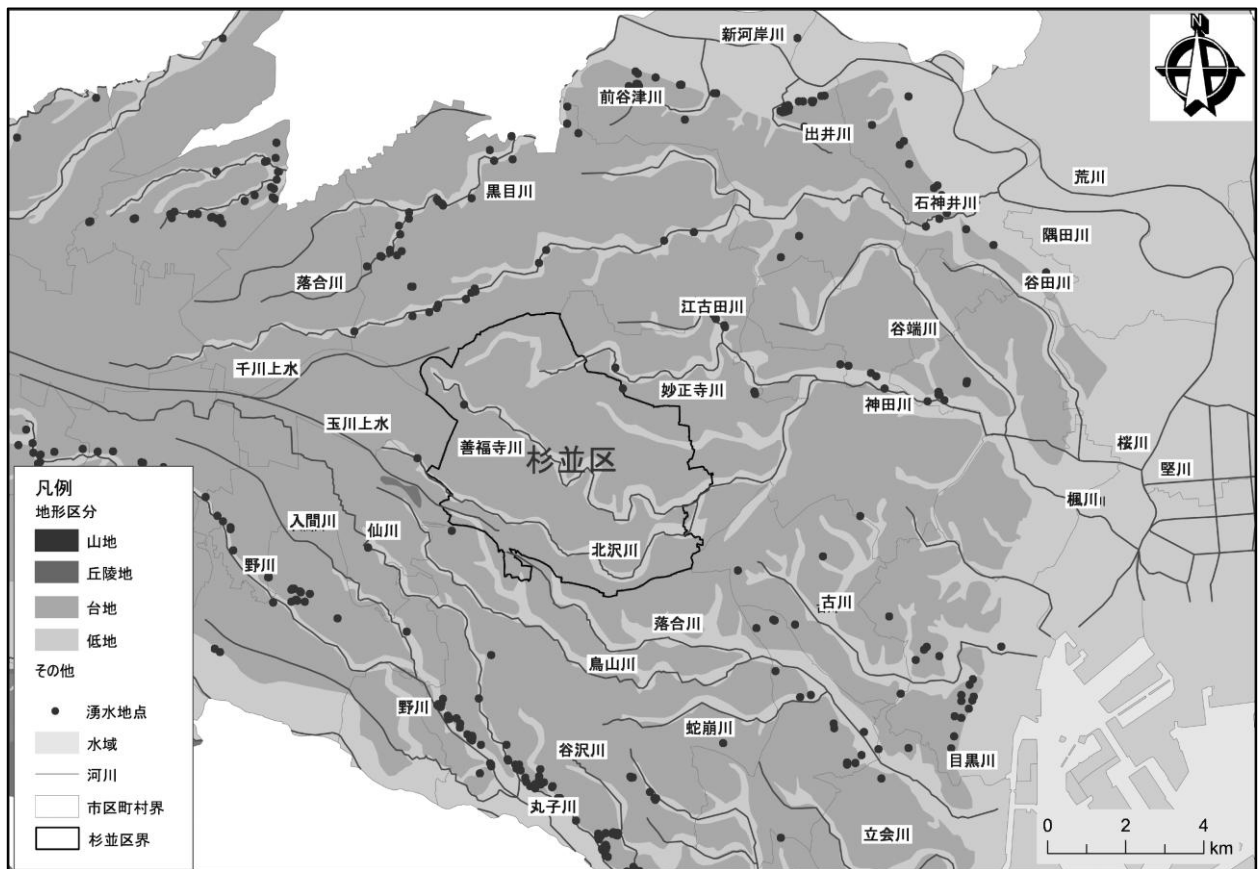


図 II-7 東京都の河川と湧水 出典：「東京都環境白書 2000（資料集）」（東京都，2000）

### (3) 杉並区の河川と池とその歴史

#### 1) 神田川

西に隣接する三鷹市に湧出する井の頭池を源とし、区の南部を流れ、善福寺川と桃園川（暗渠）を合わせた後、新宿区内で妙正寺川と合流して東へ流れ、文京区と千代田区境の水道橋駅付近で日本橋川を分け、中央区と台東区の区境の柳橋付近で隅田川に注いでいる。

水源地である井の頭池の標高は約 50m、区内の標高は 45m 強～30m 弱である。流路延長は 24.6km、流域面積 105.0km<sup>2</sup>、都内を流れる中小河川の中では最大の川である。また、高井戸の佃橋下では玉川上水の水が放流されている。

かつては東京最古の上水道で神田上水と呼ばれ、17 世紀初めの江戸時代に開設されて以来、明治 34（1901）年まで飲用に使用されていた。

#### ◆井の頭池

神田川の水源地である井の頭池（三鷹市）は、武蔵野の湧水池の一つで、池の中に 7 つの湧水口があったことから、「七井の池」とも呼ばれていた。現在の井の頭池は、井の頭恩賜公園の東半分を占め、形状は二股に分かれた Y 字形で、池畔を含めて約 148,700m<sup>2</sup> の広さがある。

戦前までは、池の周囲にはスギの大木が茂り、池の中には所々にヨシが群生し、ヒシも多く水鳥が集っていたという（坂田, 1987）。

#### ◆桃園川

区内中北部にある弁天池の湧水を源とし、千川上水や善福寺川から水を引いて水量を補いながら区の北部を東へ流れ、中野区東部で神田川と合流する。かつては農業用水として利用されていたが、昭和 42（1967）年に周辺に下水道が整備されたことにより、地下に埋められ暗渠となった。現在は、桃園川緑道となっている。

#### 2) 善福寺川

区内北西部の上井草、善福寺池に源を發し、区のほぼ中央部を蛇行しながら東へ流れ、中野区との区境付近で神田川に合流する。区内の標高は、45m（善福寺池）から 30m である。

流路延長は 10.5km、流域 18.3km<sup>2</sup> である。かつては、神田川と同様に上水として利用されていた。

近年は善福寺池からの放出量がわずかなため、平成元（1989）年から最上流部より千川上水が送水され、水量の確保が図られている（杉並区環境清掃部環境課, 2008）。

#### ◆善福寺池

善福寺川の源で、かつての神田上水の補助水源でもあった。湧水量が多く、武蔵野三大湧水池のひとつとして知られていた。上池と下池に分かれ、双方で約 37,000m<sup>2</sup> の広さがある。上池は二つの中島をもつ広い池で、池のほもりにはヤナギが植樹されている。下池は上池に比べてやや小さく、池の半分近くをヨシなどの水生植物が覆い、周囲は樹林に囲まれている。

#### ◆和田堀池

和田堀周辺はもともと谷底低地にあり地盤が低く、善福寺川の氾濫などで自然に池ができるような地形（氾濫原）であったが、昭和 30 年代の中頃の河川改修において、人工の池を造成し公園として整備された（東京都建設局公園緑地部, 2025）。

### 3) 妙正寺川

区内の妙正寺池を源として東へ流れ、中野区北部の江古田川の流入をへて、高田馬場付近で神田川に合流する。流路延長は9.7km、流域21.4km<sup>2</sup>である。区内での標高は、45m（妙正寺池）から40mである。かつては区内西端の上井草を源として妙正寺池付近で合流する支流があり井草川と呼ばれていたが、現在は住宅地となっている。

雨量の多い時期には湧水も確認されるが流量は少なく、平常時の妙正寺川の流量を増加させるほどの湧水量はない。平成7（1995）年から、中野処理場からの下水処理水が流入する他、新宿区内では落合処理場の下水処理水も流入して流量を増している（杉並区環境清掃部環境課, 2003）。

#### ◆妙正寺池

湧水によって作られた池であったが、近年になって湧水の量が減少したため、近くに井戸を掘り、地下水を汲み上げて池の水の大部分をまかなっている（杉並区都市整備部みどり公園課, 2023b）。

## 2. 河川周辺の土地利用の変遷

### (1) 区内の土地利用

#### 1) 区内の土地利用変遷の概要

明治以降の杉並区内の土地利用の変遷を図 II-8 に示す。

杉並区の土地利用は、明治の中頃の畑・草地等を中心とした土地利用から、市街地が拡大する土地利用へと変遷してきたことがわかる。

明治の中頃の台地や平坦地は畑・草地等や樹林、河川沿いには水田が広がっていた。集落は街道沿い帯状に分布していた。

大正から昭和初期は交通網の発達にともない、国鉄（現在の JR）中央線等沿線の市街地が発達し、台地上の畑・草地等や樹林が減少したが、河川沿いの水田は残っていた。また、善福寺川の周囲では台地上の畑・草地等、樹林が近接し緑地としてのまとまりをもち、農村型土地利用がまだ残っていた。

昭和後期には、河川周辺を含む区内全域で市街地化が進み、河川改修にともない水田や低地の湿地が消失した。また、台地上の畑・草地等や樹林は市街地に代わり、公園、社寺林、屋敷林、企業グラウンドなどの緑地が点在する程度になった（図 II-8）。

#### 2) 近年の区内緑被率の変化

地球観測衛星ランドサットの衛星画像等を用いた画像解析による緑被率（樹林、樹木、草地、芝地、農地といった緑に土地が被われている割合で水域は含まない）の推移を図 II-9、図 II-10 に整理した。

多摩部は、昭和 47（1972）年から平成 20（2008）年まで緩やかに減少した。また区部は、昭和 47（1972）年以降概ね変化はない。杉並区は平成 9（1997）年まで緩やかに減少したが、平成 14（2002）年以降は、昭和 47（1972）年と同等まで増加し、それ以降その水準を維持している（図 II-9）。

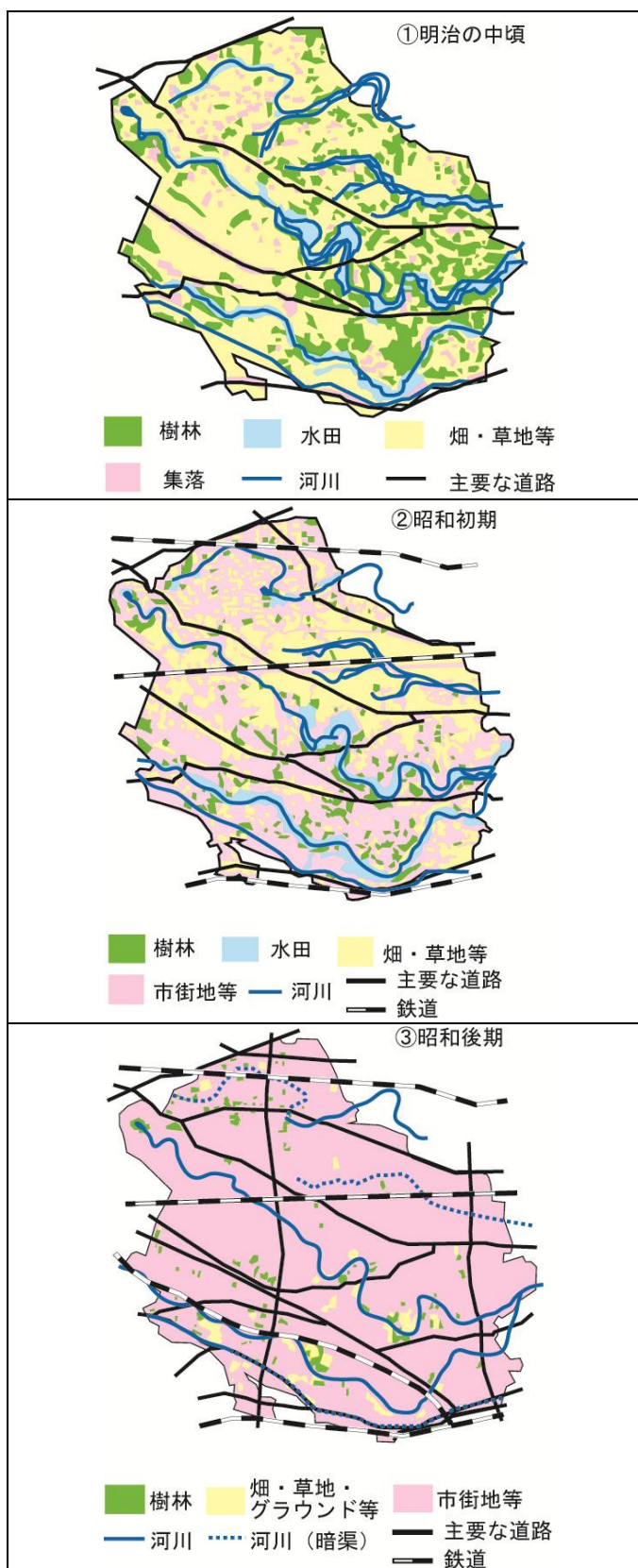
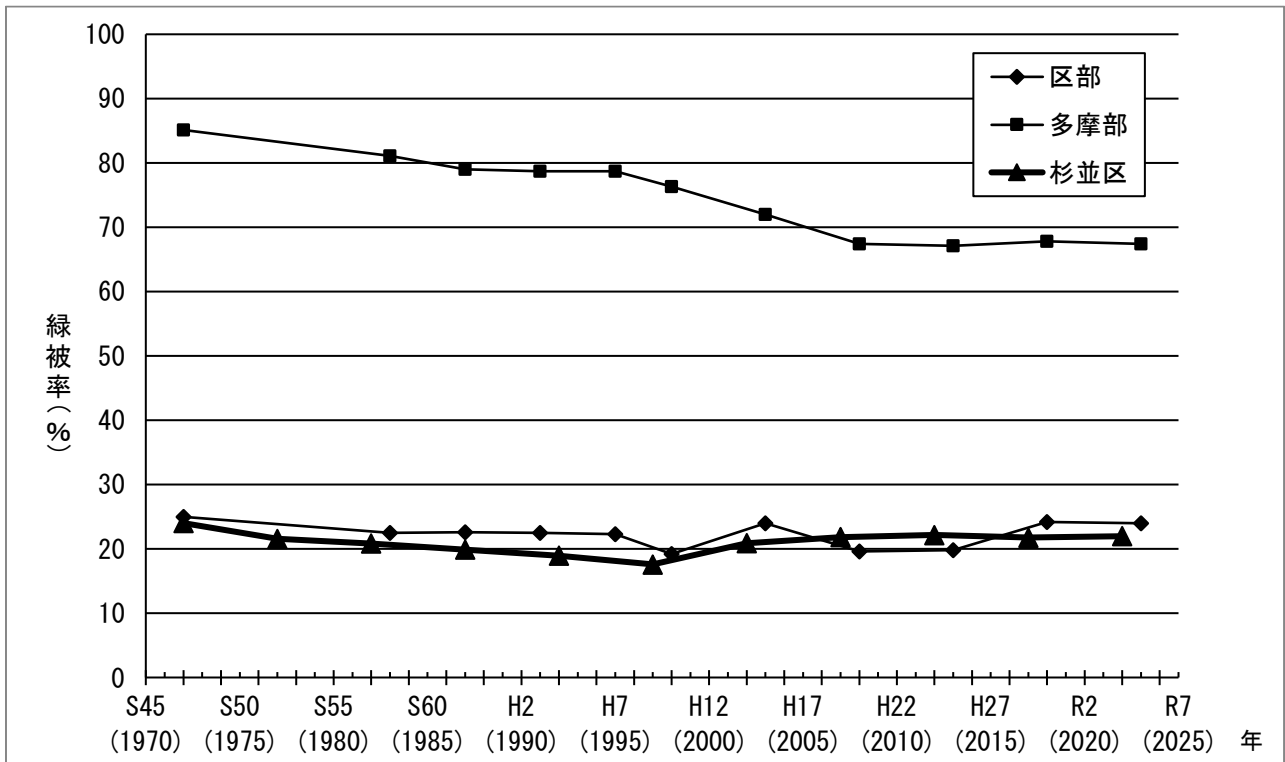


図 II-8 区内土地利用の変遷

出典：「平成 9 年度緑化基本調査報告書」（杉並区、1998）

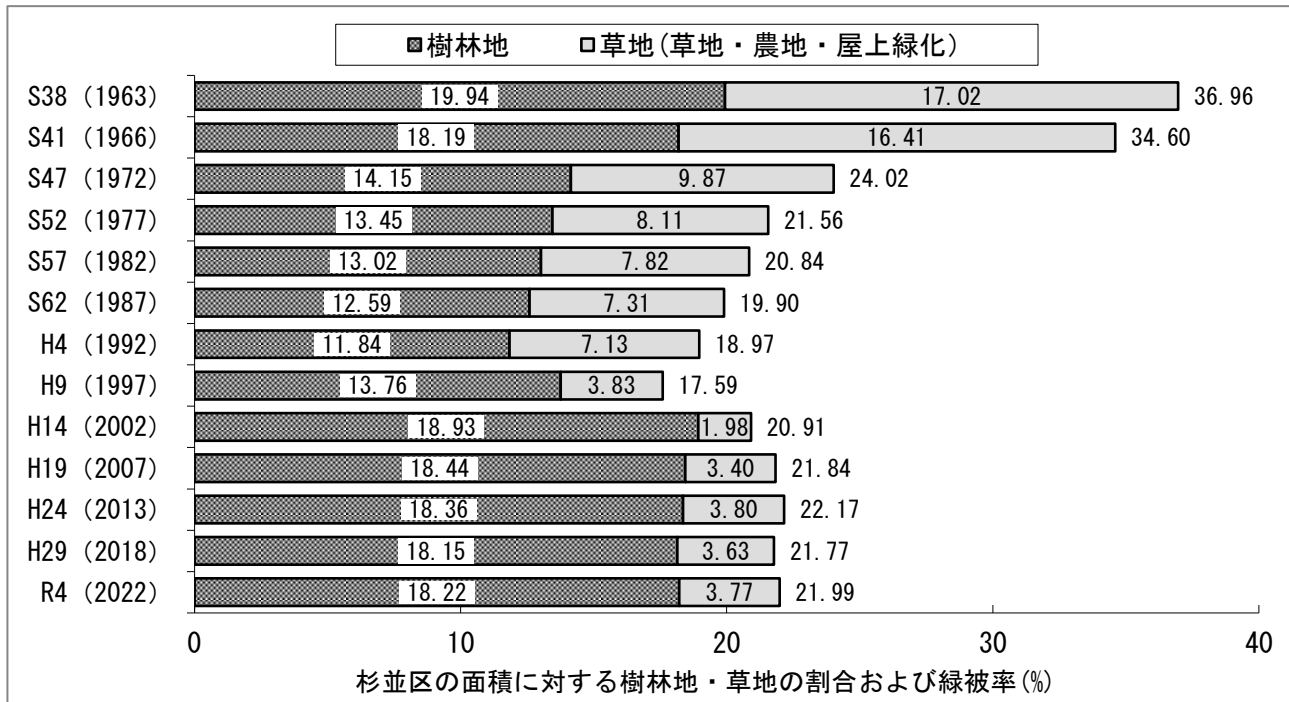
杉並区における緑被率は、昭和 38 (1963) 年の 39.96%から平成 9 (1997) 年の 17.59%まで減少するが、平成 14 (2002) 年に 20.91%に増加し概ね 22%程度を維持している。なお、平成 9 (1997) 年から平成 14 (2002) 年の緑被率の増加は、使用した写真のオルソ化等、新技術導入による調査方法の変更による影響と考えられる (図 II-10)。



\*平成 10 (1998) 年の区部および多摩部における緑被率は、みどり率の数値から、公園と河川等の水面が占める割合を除いた数値を用いた。

図 II-9 東京都の多摩部、区部および杉並区の緑被率の推移

「令和 5 (2023) 年「みどり率」の調査結果について」(東京都環境局, 2024a) 及び「令和 4 年度杉並区みどりの実態調査報告書」(杉並区都市整備部みどり公園課, 2023a) を基に作成



\*緑被率とは、ある区域に占める緑被地 (樹林地および草地) の割合のこと。樹林地の割合と草地の割合を合計した値が緑被率となる。

図 II-10 杉並区における緑被率の経年変化とその内訳

「令和 4 年度杉並区みどりの実態調査報告書」(杉並区都市整備部みどり公園課, 2023a) を基に作成

## (2) 河川周辺の土地利用

### 1) 明治中頃の河川周辺の土地利用

明治13(1880)年の地形図をもとに、当時の土地利用状況を図 II-11 に示す。

現在杉並区を流れる河川沿いには谷底低地が広がり水田として耕作され、耕作されていない場所はオギやヨシなどによる湿生植物群が生育していたと考えられる。現在は、暗渠となっている妙正寺川の最上流部や、阿佐谷付近の桃園川も同様である。一方、谷底平野に挟まれた台地の中ほどをみると、現在の区西部ではやや広い畑地(または草地)が中心に広がり、畑地を挟む道沿いの一方には集落が並び、もう一方に夏緑広葉樹二次林(コナラ林等)を中心とする樹林帯が広がっていた。また現在の区東部では、妙正寺川、桃園川、善福寺川、神田川といった多くの河川に挟まれた台地面は西部よりもやや狭く、また河川の蛇行が大きいため、西部に比べると畑地や樹林の土地区画が細かく不揃いで、畑地と樹林とがモザイク状に分布していた。

民家は谷底平野に沿った台地の上にもみられるが、まとまった集落は谷底平野からはやや離れた台地中ほどを走る街道筋などを中心にみられた。

河川沿いの谷底低地と台地面との境界部の斜面などの土地利用をみると、いずれの河川も、所々に谷底低地に沿った帯状の夏緑広葉樹二次林(コナラ林等)の分布がみられるとともに、直接畑地(または草地)が谷底低地に接している部分もあった。谷底低地沿いの樹林地の分布状況は、河川ごとにそれぞれ異なるが、河川の蛇行部で夏緑広葉樹二次林(コナラ林等)と谷底低地とが隣接していることは概ね共通している。

#### 1. 神田川

神田川の上流部は細い谷底平野に沿ってやや幅の広い樹林が分布している。このような広い樹林は他の河川ではみられない。この樹林の外側の台地面に広い畑地が広がっていた。

下流部では他の河川と同様に、蛇行部分で帯状の樹林地が谷底平野に沿うことが多く、またところにより畑地が直接接する場所もあった。

#### 2. 善福寺川

水源地の善福寺池の周囲は他の河川と異なり、畑地または草地であった。右岸では、善福寺池のすぐ下流部から長い帯状の樹林が谷底平野に沿って分布し、その外側には畑地や草地が広がっていた。対岸の左岸ではこのような樹林はみられず、谷底平野の外側の台地面には畑地や草地が広がっていた。

蛇行が大きな下流部では、神田川などと同様に谷底平野に沿った細長い夏緑広葉樹二次林(コナラ林等)がみられ、その外側の台地面でも畑地や草地とともに夏緑広葉樹二次林(コナラ林等)が分布していた。

#### 3. 桃園川

水源地には大きな池はなく、妙正寺川と同様に水源地付近は夏緑広葉樹二次林(コナラ林等)に囲まれていた。これより下流部は、他の河川と同様に所々で夏緑広葉樹二次林(コナラ林等)が谷底平野に沿って分布し、その外側に畑地や草地と樹林地が広がっていたが、谷底平野と樹林地との間に畑地や草地を挟む場所もやや多くみられる。

#### 4. 妙正寺川

妙正寺川では、当時の最上流部の水源地周辺は斜面樹林に取り囲まれているが、そこから妙正寺池のやや下流部までは、畑地や草地と隣接している場所もある。さらに、下流部では所々で谷底平野に沿った細長い夏緑広葉樹二次林（コナラ林等）が分布している。

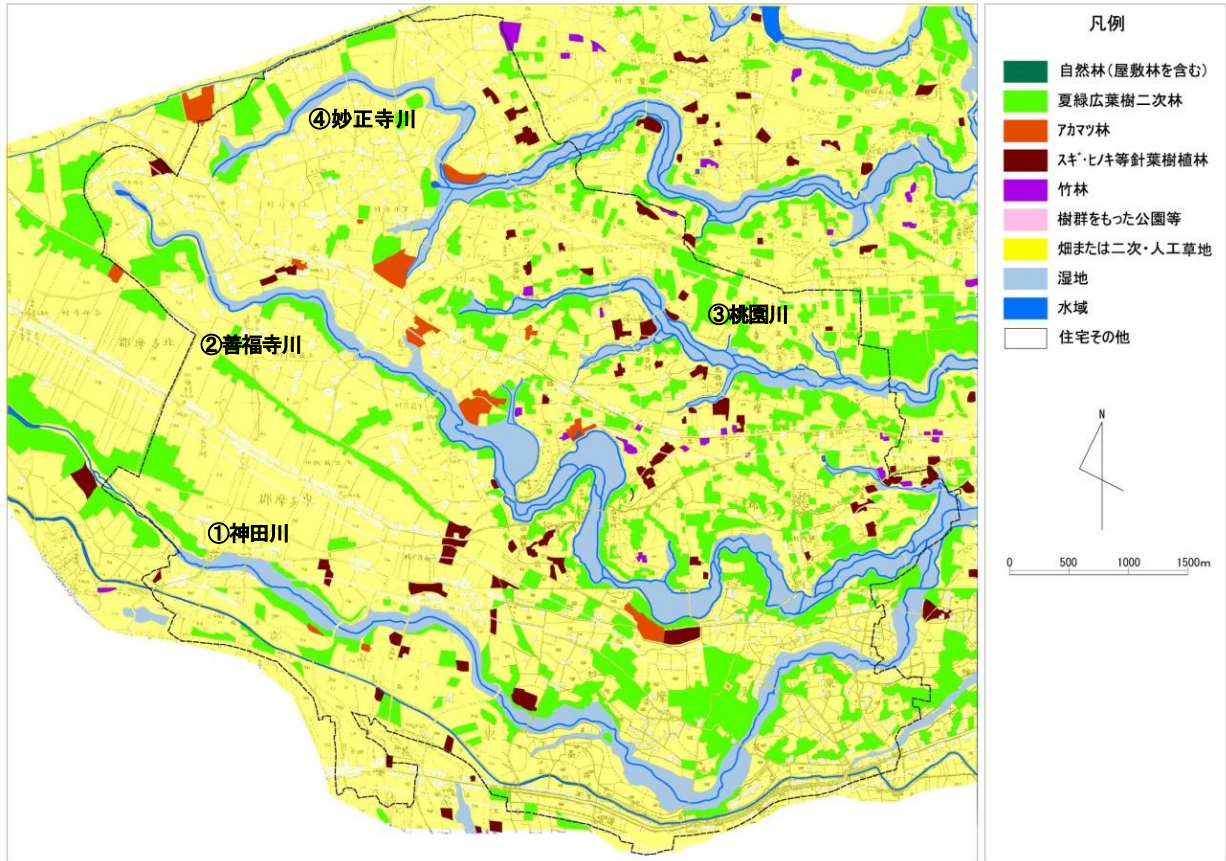


図 II-11 明治中期の土地利用状況図

「明治前期測量 2 万分 1 フランス式彩色地図, 東京都杉並区・世田谷区・中野区・田無市・武蔵野市・三鷹市・調布市周辺」  
(一般財団法人 日本地図センター, 1996) を基に作成

## 2) 平成 19 年の河川周辺の土地利用

平成 19 (2007) 年の土地利用については、現存植生図 (東京都, 2009) の凡例をまとめて土地利用状況図を作成した (図 II-12)。

平成 19 (2007) 年の杉並区は、著しい市街地化により建造物や道路などの構造物が区域の大半を占めている。かつて河川に沿って伸びていた谷底平野も埋め立てて、台地と同じく市街地となっている。

かつて広がっていた畑地や樹林地などの緑地にかわり、現在の杉並区内の緑地の中心は「樹群を伴った公園等」であり、これは地形を問わず区内にまんべんなく点在している。これらの樹林の多くは、土地改変や河川改修の後に、新しく植栽されたものが多い。

これとは別に、古くから民家の周囲にあった屋敷林が今も残り、自然植生のシラカシ・ケヤキ屋敷林が区の北部の台地を中心に点在する。同じく自然植生のシラカシ林が、善福寺川緑地の右岸の一部、大宮八幡、和田堀公園自然観察の森など善福寺川に沿って残存している。これらの樹林は、現在善福寺川沿いにある善福寺下池南側の樹林、善福寺川緑地の一部、和田堀公園の一部などにみられる二次林や「樹群を伴った公園等」の樹林とともに、かつて台地の縁に分布していた夏緑広葉樹二次林 (コナラ林等) などの樹林に由来するものと考えられる。また同様に、かつての夏緑広葉樹二次林 (コナラ林等) に由来すると思われる公園等の樹群には、妙正寺池の南側の樹群、神田川右岸の台地上にあるややまとまった樹群、柏の宮公園付近にある樹群や二次林、浴風園の二次林などが挙げられる。

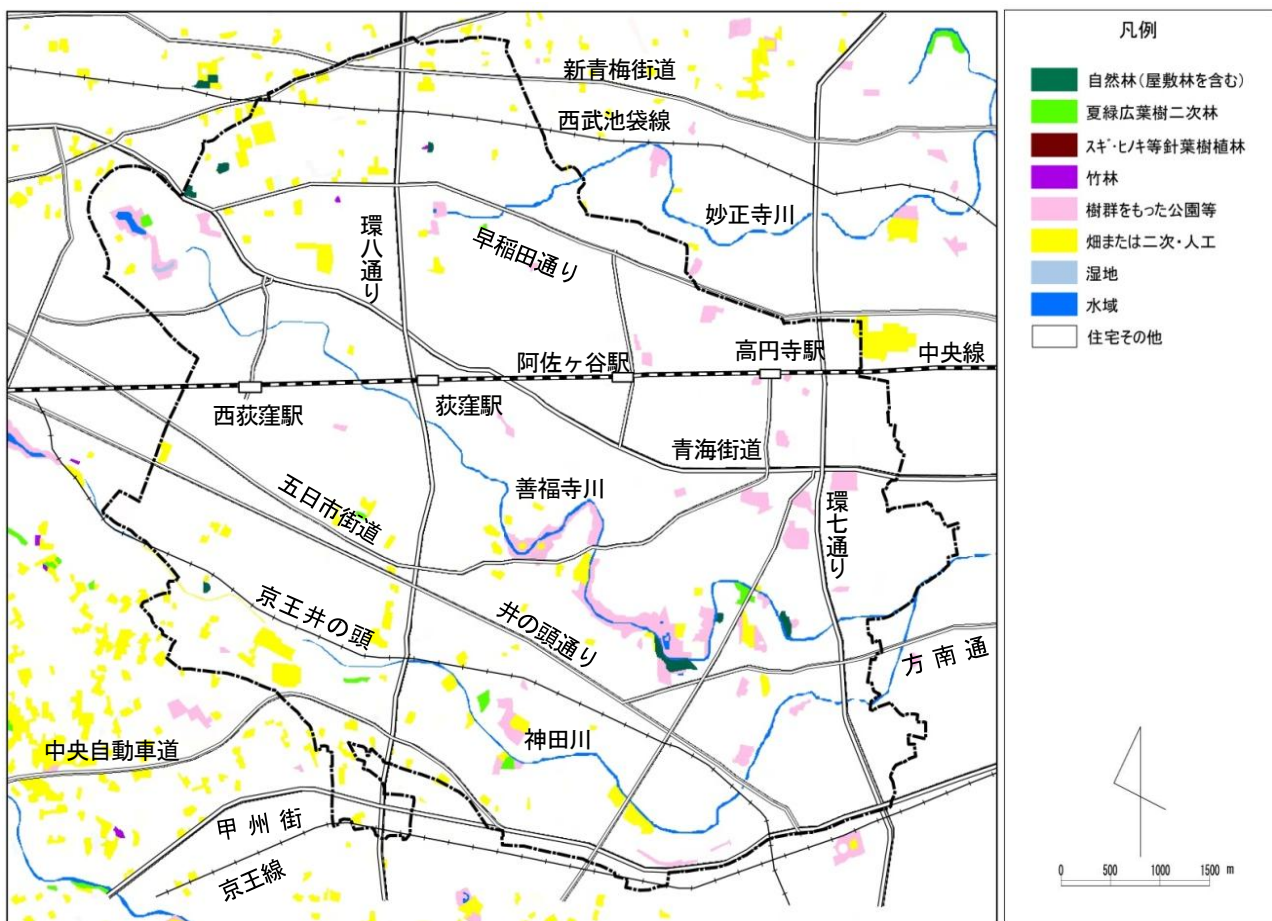


図 II-12 現在の土地利用状況図 「東京都現存植生図(2007年版)」(東京都, 2009)を基に作成

### 3. 河川の変遷

#### (1) 神田川の歴史

中世以降の神田川の歴史については、図書『江戸 東京の神田川』（坂田, 1987）に詳しく述べられている。この文献から、戦前までの神田川の歴史について略述する。

今の神田川・日本橋川は、中世鎌倉時代のころには平川と呼ばれ、その上流は古川と呼ばれていた。中世のころから平川は井の頭池を水源とし、現在の妙正寺川や善福寺川と合流して、今の皇居前広場を中心に日比谷公園から新橋方面にかけて広がっていた日比谷入江と呼ばれる遠浅の入り江に注いでいたと考えられている。

その後、戦国時代の太田道灌の時代から徳川家の江戸時代にかけて、平川下流の流路は水運のための輸送路として利用されていた。また、水害対策のために改修整備され、現在のように御茶ノ水の本郷台地を削って隅田川に注ぐ流路が形成された。

一方、神田川の上流部は、江戸時代に神田上水として整備された。神田上水の完成は、三代将軍家光の時代、寛永6（1629）年といわれている。この時代、江戸の中心となる下町は埋立地が多く、井戸を掘っても飲用に適さないため、上水を通すことが街づくりの急務であった。神田上水は、井の頭池と善福寺池とを水源とし、ここから野方堀と呼ばれる開渠の掘割によって市街地の近くまで導かれ、主に石樋によって地下を通り、道筋に沿って武家屋敷や町屋へ引き込まれ、溜枳から汲み上げられ使用されていた。井の頭池と善福寺池を水源として、その後も上水に用いる水を取り入れるための堰（関口大洗堰）や、上水の水を対岸へ渡すための懸樋（御茶ノ水懸樋など）なども整備された。神田上水は、明治時代、東京の近代水道が完成したことによりその役目を終え、明治34（1901）年に同じく江戸時代に整備された玉川上水とともに廃止された。

#### (2) 神田川流域の近年の主要な水害

廃止された神田上水はその後、戦前より洪水の排水路として改修工事が行われてきた。

昭和33年9月には狩野川台風により、神田川流域で大きな水害が発生した。このときの豪雨では、東京の下町低地だけでなく、武蔵野台地も中小河川の洪水と窪地での冠水により相当の被害をこうむった（表 II-2、表 II-3）。これを契機に昭和34年から本格的な整備に着手し、昭和56年には1時間あたり30mm規模の降雨に対応できる護岸の整備が完了した。しかし、流域の市街化はさらに進み、現在ではほぼ全域が市街地となったため、雨水の貯留・浸透機能が低下し、雨が降ると流域から一挙に大量の水が河川や下水道に流入し、水害が頻発するようになった。

これまで、1時間あたり50mm規模の降雨に対応できるように、河道の拡幅や掘削、調節池、分水路の整備を行ってきた。また、河川施設だけで洪水を処理することは困難であることから、総合的な治水対策として、流域内の公共施設などを利用して、雨水を一時的に貯留・浸透させるような施設の設置も順次行われている。このように、高度利用されている流域の市街地を水害から守るため、治水の安全性の向上に努めているが、用地の確保や支障物件の移設等に長期間を要しており、1時間あたり50mm規模の降雨に対応する護岸の整備率は約7割という状況である。

このような中、頻発している集中豪雨等により、近年においても水害が発生している。特に平成17年9月には大規模な集中豪雨により、中野区や杉並区などを中心に3,000棟以上が被災した（表 II-4）。

表 II-2 各河川流域における狩野川台風による被害 「新修杉並区史(上巻)」(杉並区, 1982)を基に作成

河川	浸水面積 (ha)	浸水戸数 (戸)
神田川	310	11,372
妙正寺川	230	4,400
善福寺川	140	1,440

表 II-3 神田川流域における2大台風による被害 「事業概要令和6年版」(東京都第三建設事務所, 2024)を基に作成

災害種別	降雨記録		区分	水害状況				都内全域の 浸水被害
	総降雨量	時間最大 降雨量		新宿区	中野区	杉並区	計	
狩野川 台風	昭和33年 9月22~27日 444.1mm	76.0mm	浸水面積 (ha)	70	191	646	907	21,103
			浸水戸数 (戸)	6,207	6,761	10,168	23,136	464,030
第四号 台風	昭和41年 6月27~28日 235.0mm	30.0mm	浸水面積 (ha)	62	52	214	328	8,762
			浸水戸数 (戸)	1,773	1,035	2,112	4,920	102,896

表 II-4 神田川流域の主な水害状況 「神田川流域河川整備計画」(東京都建設局河川部, 2023)を基に作成

年月日	洪水要因	浸水面積 (ha)	浸水棟数 (棟)			降雨記録		
			床下	床上	合計	雨量観測	時間最大雨量 (mm/h)	日雨量 (mm)
S33.9.26	狩野川台風	1,194.0	19,962	18,394	38,356	東京	76.0	371.9
S38.8.1	集中豪雨	363.0	7,327	2,129	9,456	豊島	43.0	78.5
S41.6.28	台風4号	403.2	5,836	3,339	9,175	中野	30.0	175.5
S49.7.20	集中豪雨	57.6	800	749	1,549	中野	51.0	111.5
S53.4.6	集中豪雨	120.6	1,432	311	1,743	中野新井	62.0	100.0
S54.5.15	集中豪雨	62.4	640	904	1,544	善福寺川	39.0	114.0
S56.7.22	集中豪雨	188.7	4,073	1,624	5,697	東京	77.0	81.0
S56.10.22	台風24号	214.5	2,757	2,182	4,939	丸の内	47.0	210.0
S57.6.20	集中豪雨	90.6	761	319	1,080	東京	52.5	60.5
S57.9.12	台風18号	285.5	1,913	3,943	5,856	久我山	56.0	167.0
S57.11.30	集中豪雨	115.6	1,382	587	1,969	新宿	50.0	82.0
S58.6.10	集中豪雨	105.7	2,199	233	2,432	豊島	29.0	30.0
S60.7.14	集中豪雨	70.7	1,003	455	1,458	久我山	62.0	65.0
S62.7.25	雷雨	41.4	1,598	249	1,847	中野	73.0	82.0
S62.7.31	雷雨	39.5	1,310	258	1,568	豊島	60.0	60.0
H1.8.1	大雨(雷雨)	51.8	1,550	1,119	2,669	中野	70.0	203.0
H3.9.18-20	台風18号	28.5	870	197	1,067	新宿	44.0	141.0
H5.8.27	台風11号	117.1	3,271	1,435	4,706	狛江市	47.0	195.0
H17.9.4-5	集中豪雨	125.9	1,265	2,236	3,501	下井草	112.0	251.0

※昭和49年以降は、神田川流域において1,000棟以上浸水被害があったものを表示

### (3) 神田川水系における近年の河川改修事業

近代における神田川の氾濫への対策は、最初に昭和4(1929)年から昭和14(1939)年にかけて、下流域の船河原橋から中野寿橋に至る延長9.6kmが改修され、一応の治水水準に達していたが、流域の宅地化が進むにつれ、以後も氾濫を繰り返していた。

戦前の改修部に引き続き、戦後は昭和25(1950)年に善福寺川、昭和34(1959)年に神田川、妙正寺川の整備が本格的に再開された。

その後、昭和39(1964)年の「中小河川改修緊急3か年整備計画(39～41年度)」、同42(1967)年の「中小河川緊急整備5か年計画(42～46年度)」、同52(1977)年の「中小河川水害緊急整備計画(52～54年度)」を経て、同53(1978)年までに1時間あたり30mm規模の降雨に対応できる護岸の整備は完了した。

この間、昭和33(1958)年9月には狩野川台風、同41(1966)年6月には台風4号により都内各所で大水害が発生し、中小河川の改修促進の契機となった。

神田川水系では、これまで1時間あたり50mm規模の降雨に対応できるよう、河道整備や調節池、分水路の整備を行ってきた。しかし、1時間あたり50mmを超えるような局地的集中豪雨により、一部の地域で浸水被害が発生するなど、これまでの対策の基本としていた時間50mm規模の治水施設のみでは、このような豪雨に対応できない場面が発生している。このため、1時間あたり50mm規模の降雨に対応できる河道に加え、調節池の整備や雨水浸透施設の設置など流域対策により、1時間あたり75mm規模の降雨に対応していく予定である(東京都第三建設事務所, 2024)。

令和6年度までの整備状況を河川毎に整理した(表II-5～表II-7)。整備状況は図II-13に示した。

#### 1) 神田川

本川は、三鷹市の井の頭池に源を発し、善福寺川及び妙正寺川を合流し、新宿、豊島、文京の区境を東流し、JR水道橋駅付近で日本橋川を分派し、台東区柳橋地先で隅田川に注ぐ延長24.6km、流域面積105.0km<sup>2</sup>の都内中小河川としては、最大の規模をもつ重要な河川である。

表 II-5 神田川における河川改修事業「事業概要令和6年版」(東京都第三建設事務所, 2024)を基に作成

区分	工事名称	工事区分	着工	完成	摘要
本川	駒塚橋～高戸橋	改修工事	S53年度	S63年度	5橋の架替を含む
	源水橋～清水川橋	護岸工事	H7年度	H21年度	神田上水橋梁架替含む JR山手線橋梁架替は調整中
	旧妙正寺川合流点 ～末広橋	護岸工事	S57年度	H1年度	
	末広橋上流～淀橋	護岸工事	H1年度	H7年度	
	淀橋～長者橋	護岸工事	H6年度	H9年度 (概成)	H5台風11号で激特事業 <sup>※</sup> H18東京電力占用橋で完了
	長者橋～新橋	護岸工事	H8年度	H12年度	H5台風11号で激特事業 H19長者橋架替で完了
	新橋～寿橋	護岸工事	H19年度	-	R6工事中
	方南第一橋～神泉橋	護岸工事	H17年度	-	R6工事中
分水路	江戸川橋分水路	分水路建設	S50年度	S52年度	第六建設事務所が維持管理
	高田馬場分水路	分水路建設	S43年度	S53年度	H30～R3補修工事
調節池	下高井戸調節池	調節池整備	H29年度	-	R6電気・機械設備・橋梁・上部公園の整備等

※激特事業とは、河川激甚対策特別緊急事業の略称で、洪水や高潮などで甚大な被害が発生した際に、緊急かつ重点的な治水対策を実施する事業。

## 2) 善福寺川

本川は、杉並区の善福寺池に源を發し、同区内を蛇行しながら中野区境付近で神田川に合流する延長 10.5 km、流域面積 18.3km<sup>2</sup>の河川である。

50mm/h 整備については、都立和田堀公園内に水害軽減対策として、堀込式調節池 3 箇所を設置している。

表 II-6 善福寺川における河川改修事業「事業概要令和 6 年版」(東京都第三建設事務所, 2024)を基に作成

区分	工事名称	工事区分	着工	完成	摘要
本川	和田堀橋～済美橋	護岸工事	H19 年度	H24 年度	5 橋の架替を含む
	済美橋～宮下橋	護岸工事	H24 年度	-	R4 済美橋～大松橋まで完了
	宮下橋～白山前橋	護岸工事	H24 年度	-	R4 宮下橋～御供米橋まで完了
	神通橋	護岸工事	H29 年度	-	R6 工事中、橋の架替を含む
	西田橋～松溪橋	護岸工事	R5 年度	-	R6 工事中
	環状七号線地下調節池 ～和田堀第六調節池	護岸整備 調節池改築 取水施設	H17 年度	H21 年度	激特事業* H19 和田堀第六調節池増強整備 H20 済美橋・本村橋架替 H21 武蔵野橋架替によって完了
調節池	和田堀公園調節池	調節池整備	H29 年度	(R5 年度)	本体工事は R5 終了 R6 公園園地整備工事
	善福寺調節池	調節池整備	H24 年度	H29 年度	公園内の地下調整池の整備
	善福寺川上流調節池 (仮称)	調節池整備	-	-	事業化に向け検討・調整中

※激特事業とは、河川激甚対策特別緊急事業の略称で、洪水や高潮などで甚大な被害が発生した際に、緊急かつ重点的な治水対策を実施する事業。

## 3) 妙正寺川

本川は、杉並区の妙正寺池に源を發し、中野区北部を流れ江古田公園付近で江古田川を合わせて新宿区に入り、高田馬場分水路に流入する延長 9.7 km、流域面積 21.4km<sup>2</sup>の河川である。

50mm/h 整備については、妙正寺川調節池群との組合せにより進めている。

表 II-7 妙正寺川における河川改修事業「事業概要令和 6 年版」(東京都第三建設事務所, 2024)を基に作成

区分	工事名称	工事区分	着工	完成	摘要
本川	下田橋～大北橋	護岸工事	H8 年度	H16 年度	5 橋の架替を含む
	大北橋～三谷橋	護岸工事	H3 年度	-	
	水車橋上流～下田橋	護岸工事	H5 年度	H21 年度	西武新宿線妙正寺第三橋梁架替で完了
	鷺宮調節池～八幡橋	護岸整備	H26 年度	-	R4 皐月橋～オリーブ橋上流まで完了
	三谷橋～新昭栄橋	護岸整備	R1 年度	-	工事休止中
	落合調整池～ 環状七号線地下調節池	護岸整備 河床掘削 橋梁架替	H17 年度	H21 年度	激特事業* 敷地内にピロティー住宅、公園広場を配した多目的利用
調節池	妙正寺川第一調節池	調節池整備	S59 年度	S61 年度	敷地内にピロティー住宅、公園広場を配した多目的利用
	妙正寺川第二調節池	調節池整備	S63 年度	H7 年度	R1 補修工事実施
	落合調整池	調節池整備	S62 年度	H7 年度	西武新宿線に隣接
	上高田調節池	調節池整備	S63 年度	H10 年度	H29～R2 補修工事
	鷺宮調節池	調節池整備	H22 年度	H25 年度	都営住宅用地内に整備

※激特事業とは、河川激甚対策特別緊急事業の略称で、洪水や高潮などで甚大な被害が発生した際に、緊急かつ重点的な治水対策を実施する事業。

#### 4) 神田川・環状七号線地下調節池

本調節池は、環状七号線の道路地下に設置したトンネル型式調節池で、主に神田川と善福寺川合流点付近より下流部の水害の早期軽減を目的に計画されたものである。

##### ○第一期事業

梅里立坑から神田川の南約 300m 地点までの約 2.0 km について路面下約 40m に内径 12.5m、最大貯留量 240,000m<sup>3</sup>の調節池を築造するもので、昭和 61 (1986) 年 12 月に都市計画決定、同 62 (1987) 年 3 月に事業承認を受け、昭和 63 (1988) 年より発進立坑に着工し、平成 4 (1992) 年 8 月からトンネル掘進を行い、平成 7 年 (1995) 1 月にトンネル工事が完成した。神田川取水施設については、平成 3 年度に工事着手し、平成 10 年度に施設が完成した。なお、完成に先立ち平成 9 年度より取水を開始した。また、平成 12 年度から渇水期のうち、12 月から 5 月までの 6 か月、震災時や火災時に消火用の水として利用できるよう河川水を最大 60,000m<sup>3</sup>貯留している。

##### ○第二期事業

妙正寺川立坑から梅里立坑までの約 2.5 km で、最大貯留量は 300,000m<sup>3</sup>である。平成 2 (1990) 年 1 月に都市計画決定、同 5 年 7 月に事業承認を受け、その後、平成 15 年度よりトンネル掘進に着手、平成 16 年 8 月に梅里立坑に到達し、平成 17 年度にはトンネル接続工事が完了した。

平成 7 年度から工事に着手した善福寺川取水施設は、平成 17 (2005) 年 9 月から取水を開始し、平成 19 (2007) 年 3 月に施設が完成した。また、妙正寺川取水施設については、平成 19 (2007) 年 3 月に土木施設が完成し、同年 4 月から暫定的に取水を開始し、平成 20 (2008) 年 3 月に設備等の工事が完了し、これで神田川・環状七号線地下調節池の完成となった。

#### 5) 環状七号線地下広域調節池(石神井川区間)

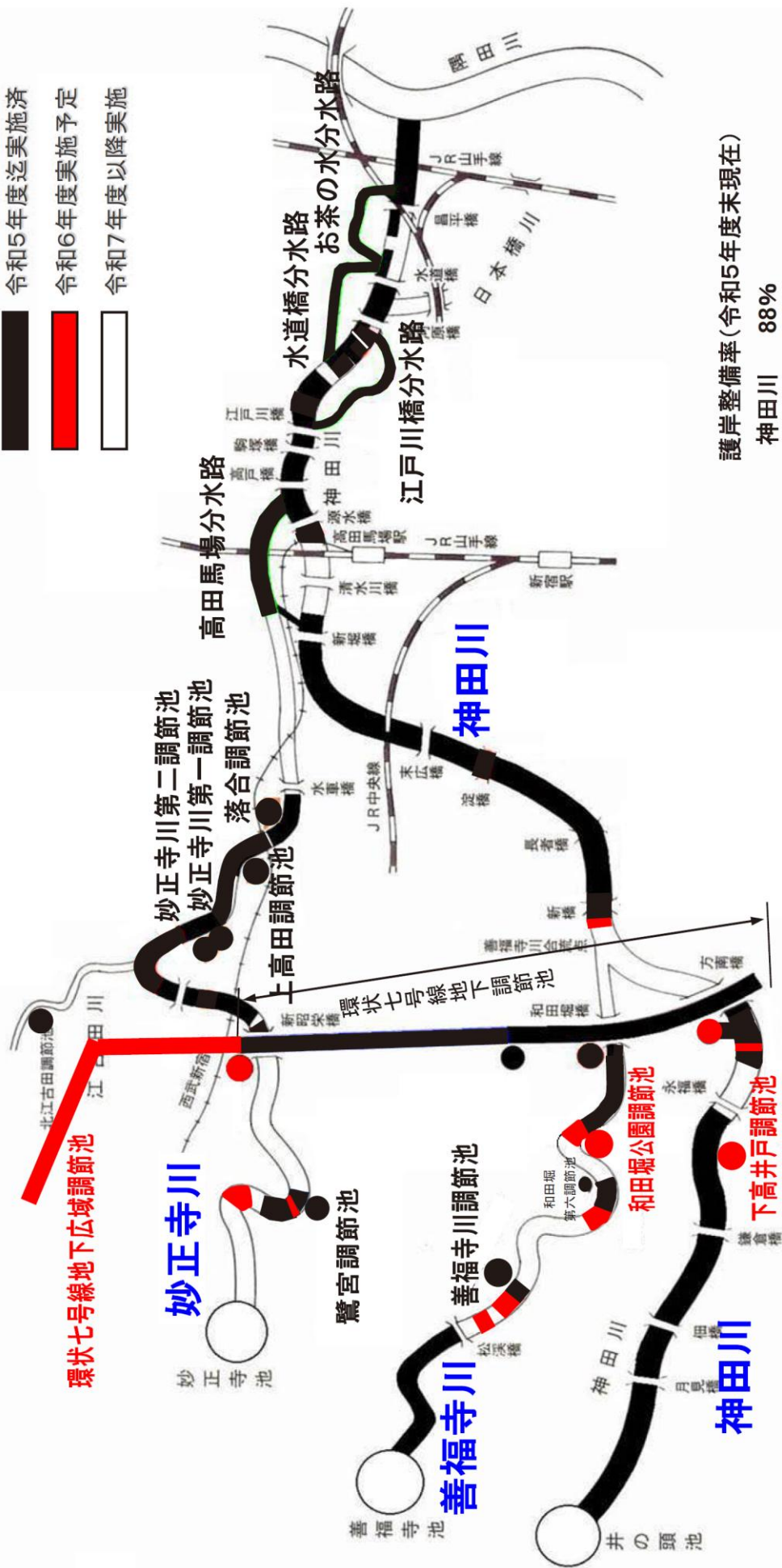
「中小河川における都の整備方針」(平成 24 年 11 月)に基づき、区部の中小河川は、目標整備水準を時間最大 75 ミリ降雨に引き上げ、時間 50 ミリを超える部分については、調節池(時間 15 ミリ分)及び流域対策(時間 10 ミリ分)による対応を基本としている。そのため、神田川、石神井川及び白子川流域における時間 75 ミリ降雨対策では、神田川・環状七号線地下調節池と白子川地下調節池を連結する「環状七号線地下広域調節池(石神井川区間)」の整備を計画した。

この調節池の整備にともない神田川、石神井川及び白子川流域の間で調節池の相互融通が可能となり、局地的かつ短時間の集中豪雨(時間 100 ミリ程度の降雨)に対しても大きな効果を発揮することが期待されている。

シールドトンネル本体工事である「環状七号線地下広域調節池(石神井川区間)工事」については、平成 26 年度に基本設計、平成 27~28 年度に詳細設計を行い、平成 28 年度末に工事着手し、令和 12 年度の完了を目指して工事を実施している。本体工事の他、排水や換気設備等の機能向上を図るための増強工事を実施し、上記 3 地下調節池が連結した「環状七号線地下広域調節池」として、令和 12 年度末の稼働を予定している。

凡 例

- 令和5年度迄実施済
- 令和6年度実施予定
- 令和7年度以降実施



護岸整備率(令和5年度末現在)

- 神田川 88%
- 妙正寺川 46%
- 善福寺川 62%

図 11-13 神田川水系河川改修状況図 出典:「事業概要令和6年版」(東京都第三建設事務所, 2024)

## 4. 河川の水質

### (1) 環境基準類型指定状況

水質環境基準には、人の健康の保護に関する基準（健康項目）と生活環境の保全に関する基準（生活環境項目）の2つがある。健康項目は、全国一律の基準であるが、生活環境項目については、河川、湖沼、海域の各公共用水域について、水道、水産、工業用水、農業用水、水浴等の利用目的に応じて設けられたいくつかの水質環境基準ごとに基準値が定められており、具体的な水域への類型指定は、都道府県知事が決定する仕組みになっている。

東京都では、平成 29（2017）年 2 月 6 日に環境基準の水質環境基準の類型指定が見直しされており、同年 4 月より新基準による類型指定となっている（表 II-8）。

杉並区を流れる神田川は「C 類型」、善福寺川は「類型指定なし」で、いずれも以前の基準と同様である。一方で、類型指定がなかった妙正寺川は「B 類型」に新たに指定されている。

東京都内の指定状況は、図 II-14 に示した。

表 II-8 公共用水域の水質汚濁に係る環境基準

河川名	類型	基準値			
		pH	BOD	SS	DO
神田川	C	6.5 以上 8.5 以下	5 mg/L 以下	50 mg/L 以下	5 mg/L 以下
善福寺川	無し	無し	無し	無し	無し
妙正寺川	B	6.5 以上 8.5 以下	3 mg/L 以下	25 mg/L 以下	5 mg/L 以下

「公共用水域の水質汚濁に係る環境基準等」（東京都環境局，2018）を基に作成

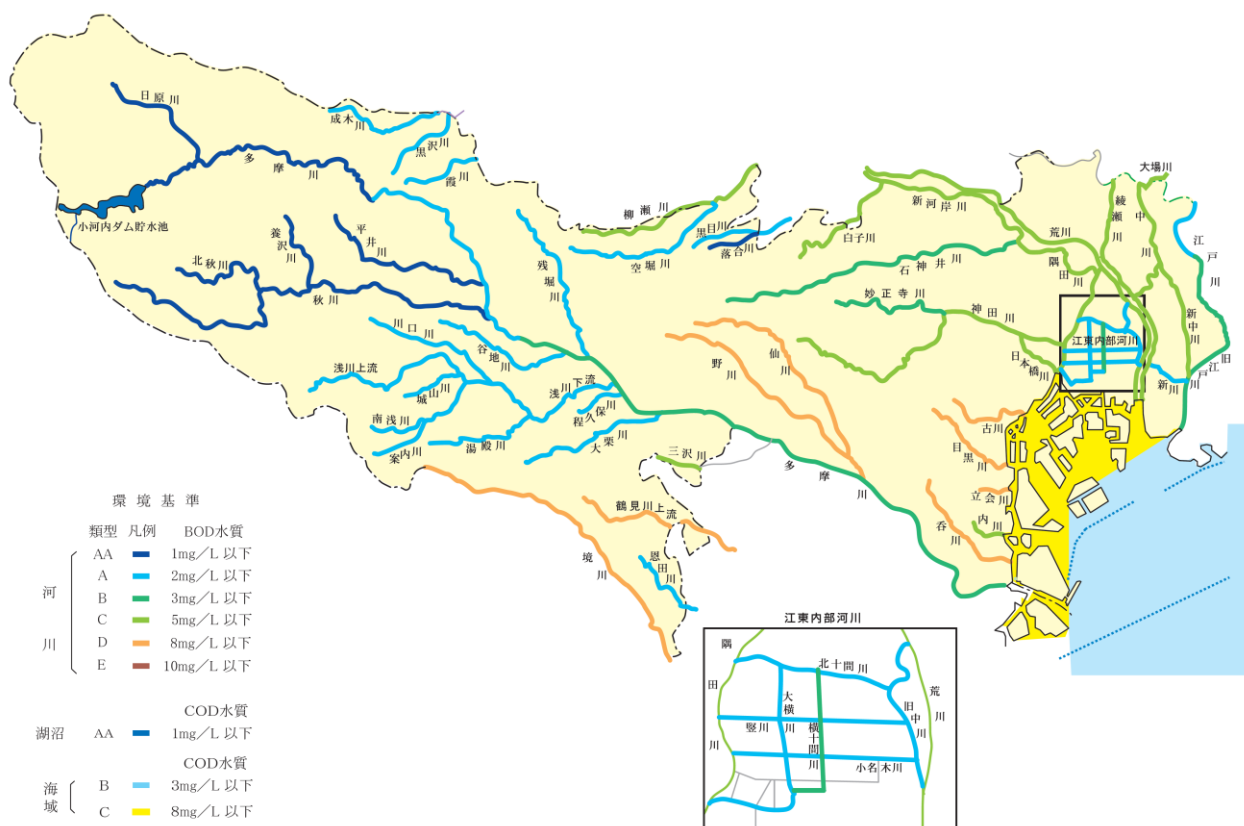


図 II-14 東京都水質環境基準水域類型指定図(平成 29 年 4 月 1 日～)

出典:「公共用水域の水質汚濁に係る環境基準等」（東京都環境局，2018）

## (2) 水質の変遷

### 1) 東京都の河川（59 水域）及び湖沼の水質達成状況

水質汚濁の目安となる BOD（生物化学的酸素要求量：微生物が有機物の分解時に消費する酸素量で汚濁の目安）では、1960 年代頃の高度経済成長期に水質が著しく悪化していたが下水道の整備等により改善しており、都内河川では平成 9～19（1997～2007）年は 80～90%、平成 20（2008）年以降は概ね 100%で推移している（図 II-15）。

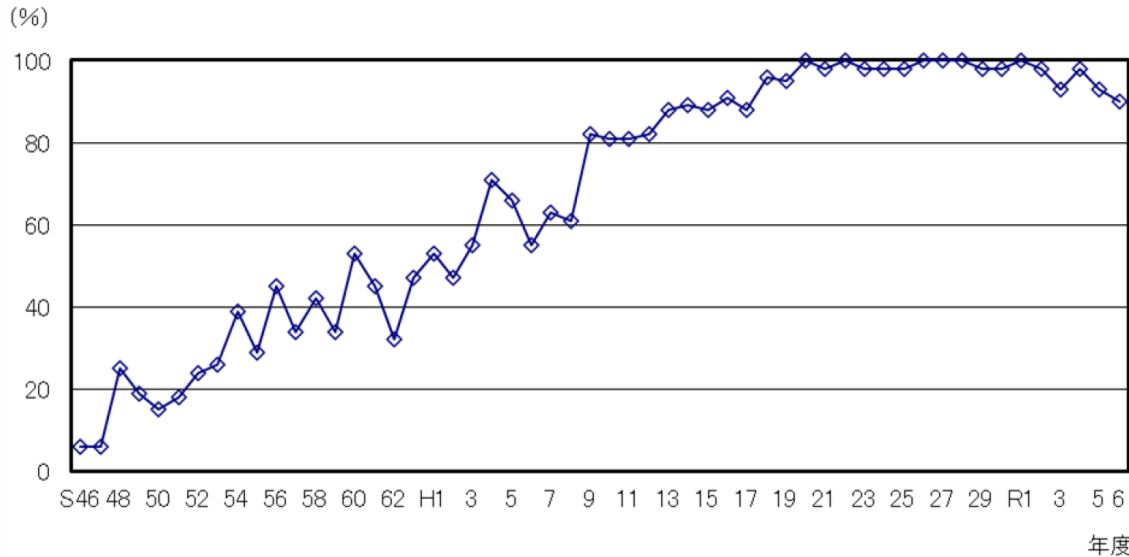


図 II-15 都内河川の BOD 環境基準達成率の推移 出典：「令和 6 年度公共用水域測定結果」(東京都環境局, 2024b)

### 2) 神田川における水質達成状況

昭和 57～62（1982～1987）年は概ね 3 mg/L 前後で高い傾向にあるが、昭和 63（1988）年以降概ね 2 mg/L 以下で推移しており、水質環境基準に概ね適合している（図 II-16）。

高い数値がみられる調査年については、降雨時に合流式下水道のオーバーフローによる汚濁物質の流入によって一時的に高い数値を示すことがある（杉並区環境清掃部環境課, 2003）。

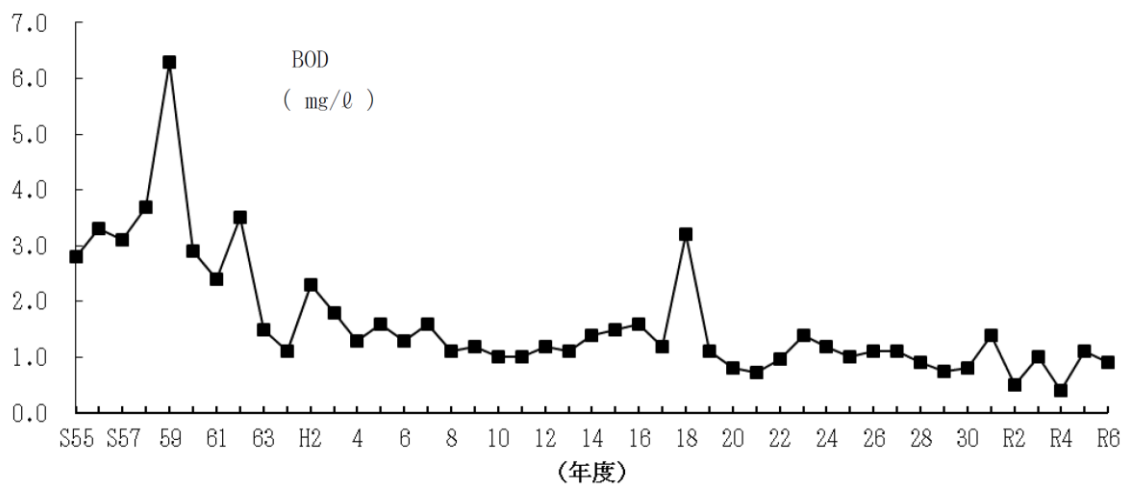


図 II-16 杉並区内乙女橋(神田川)における BOD の経年変化

出典：「令和 7 年度杉並区環境白書(資料編)」(杉並区環境部環境課, 2025)

表 II-9 河川の水質汚濁に係る環境基準 出典:「水質汚濁に係る環境基準」(環境庁, 1971)

類型	利用目的の 適応性	基準値				
		水素イオン 濃度 (pH)	生物化学的 酸素要求量 (BOD)	浮遊物質 量 (SS)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌群数
AA	水道1級/自然環境保全 及びA以下の欄に掲げる もの	6.5 以上 8.5 以下	1 mg/L 以下	25 mg/L 以下	7.5 mg/L 以上	50 MPN/ 100mL以下
A	水道2級/水産1級/水浴 及びB以下の欄に掲げる もの	6.5 以上 8.5 以下	2 mg/L 以下	25 mg/L 以下	7.5 mg/L 以上	1,000 MPN/ 100mL以下
B	水道3級/水産2級及びC 以下の欄に掲げるもの	6.5 以上 8.5 以下	3 mg/L 以下	25 mg/L 以下	5 mg/L 以上	5,000 MPN/ 100mL以下
C	水産3級/工業用水1級及 びD以下の欄に掲げるも の	6.5 以上 8.5 以下	5 mg/L 以下	50 mg/L 以下	5 mg/L 以上	—
D	工業用水2級/農業用水 及びEの欄に掲げるもの	6.5 以上 8.5 以下	8 mg/L 以下	100mg/l 以下	2 mg/L 以上	—
E	工業用水3級/環境保全	6.0 以上 8.5 以下	10 mg/L 以下	ごみ等の浮 遊が認めら れないこと	2 mg/L 以上	—

(注)

1. 基準値は日平均値

2. 利用目的の適用性

(1) 自然環境保全：自然探勝等の環境保全

(2) 水道1級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの

水道2級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの

水道3級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの

(3) 水産1級：ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用

水産2級：サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産3級の水産生物用

水産3級：コイ、フナ等、β-中腐水性水域の水産生物用

(4) 工業用水1級：沈殿等による通常の浄水操作を行うもの

工業用水2級：薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの

工業用水3級：特殊の浄水操作を行うもの

(5) 環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む）において不快感を感じない程度

### (3) 河川別の水質

杉並区では図 II-17 に示す区内の河川 5 ヶ所において、平成 4 (1992) 年より年 4 回 (5 月、9 月、11 月、1 月または 2 月)、BOD や DO 等 19 項目について水質調査が行われている。杉並区内 3 河川の BOD の推移を図 II-18 に示す。

BOD は、昭和 57～63 (1982～1988) 年は高い傾向にあるが、それ以降は概ね 3 mg/L 以下で安定する傾向にある。一方で 3 mg/L 以上の数値は、調査日の降雨の影響による合流式下水道の流入があったためと考えられる。

#### 1) 神田川

水質の環境基準の類型指定は C 類型であり、BOD の基準値は 5 mg/L 以下である。

乙女橋は、昭和 57～63 (1982～1988) 年においても 5 mg/L 以下であり適合している。

宮下橋は、昭和 57～63 (1982～1988) 年の期間は、環境基準に不適合であったが、平成元 (1989) 年以降概ね適合している。

#### 2) 善福寺川

水質の環境基準の類型指定はない。

井荻橋、堀之内橋共に概ね 2 mg/L で推移しており、A 類型相当である。

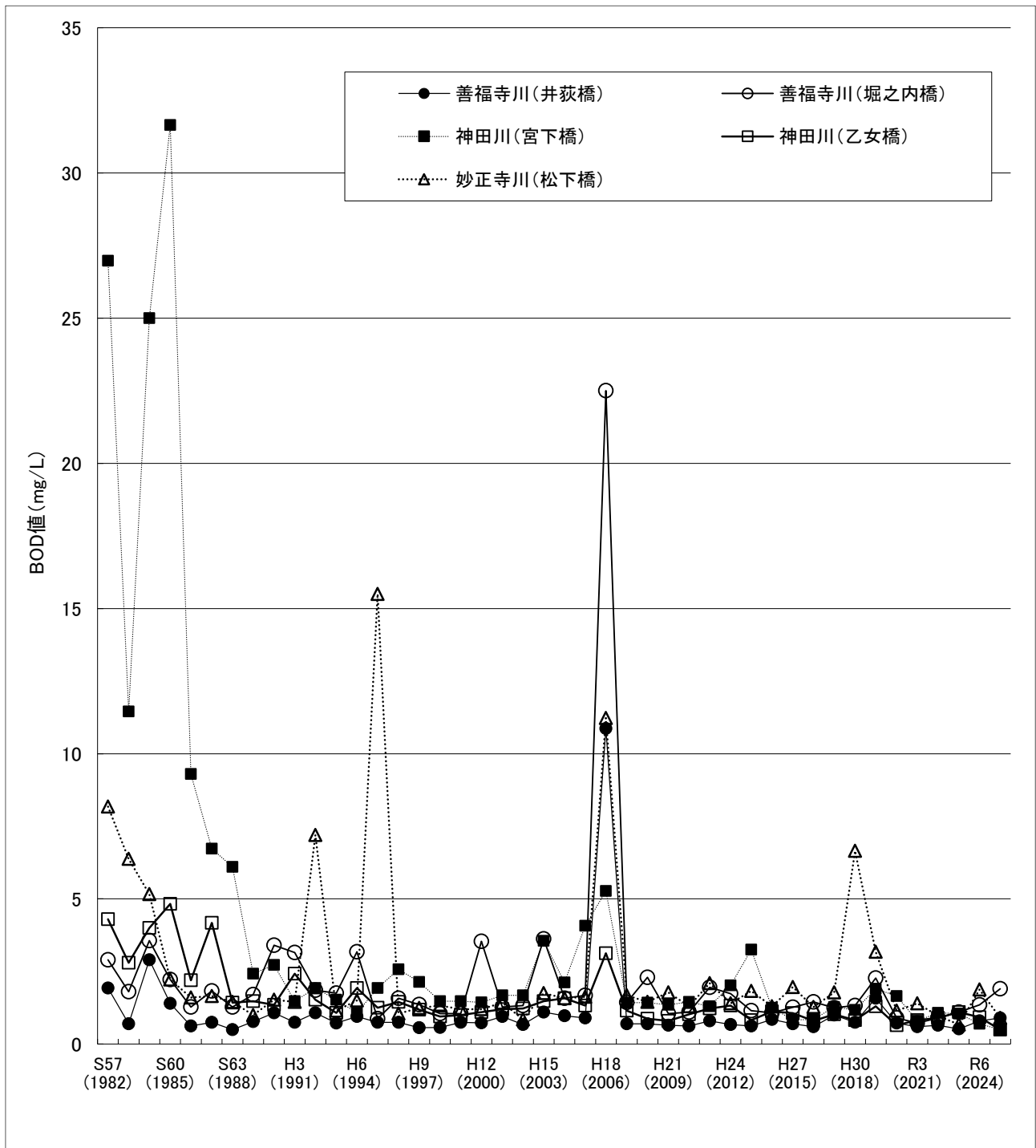
#### 3) 妙正寺川

水質の環境基準の類型指定は B 類型であり、BOD の基準値は 3 mg/L 以下である。

松下橋は、昭和 57～59 (1982～1984) 年の期間は、環境基準を不適合であったが、昭和 61 (1986) 年以降は概ね適合している。



図 II-17 水質調査の実施地点 出典:「令和 7 年度杉並区環境白書(資料編)」(杉並区環境部環境課, 2025)



※BODが急上昇しているのは、調査日が雨天時であり、合流式下水道からの未処理下水が河川に流入したためと考えられる。  
 ※BODの測定下限値は0.5 mg/Lである。

図 II-18 区内3河川の水質調査地点におけるBODの経年変化

「令和2年度～令和7年度杉並区環境白書（資料編）」（杉並区環境部環境課, 2020～2025）を基に作成

#### (4) 水質の水準

杉並区の水質調査結果を、その他市区町村における都内近隣河川の調査結果と比較した。調査地点を図II-19に示す。比較項目は、生活環境の保全に関する環境基準が定められている生物化学的酸素要求度(BOD)、水素イオン濃度(pH)、浮遊物質(SS)および溶存酸素量(DO)の4項目を環境基準値も参考にして比較した。使用データは、いずれも令和6年度の5・9・11・1月の午前中における測定の平均値である(杉並区環境部環境課, 2025、東京都環境局, 2024b)。

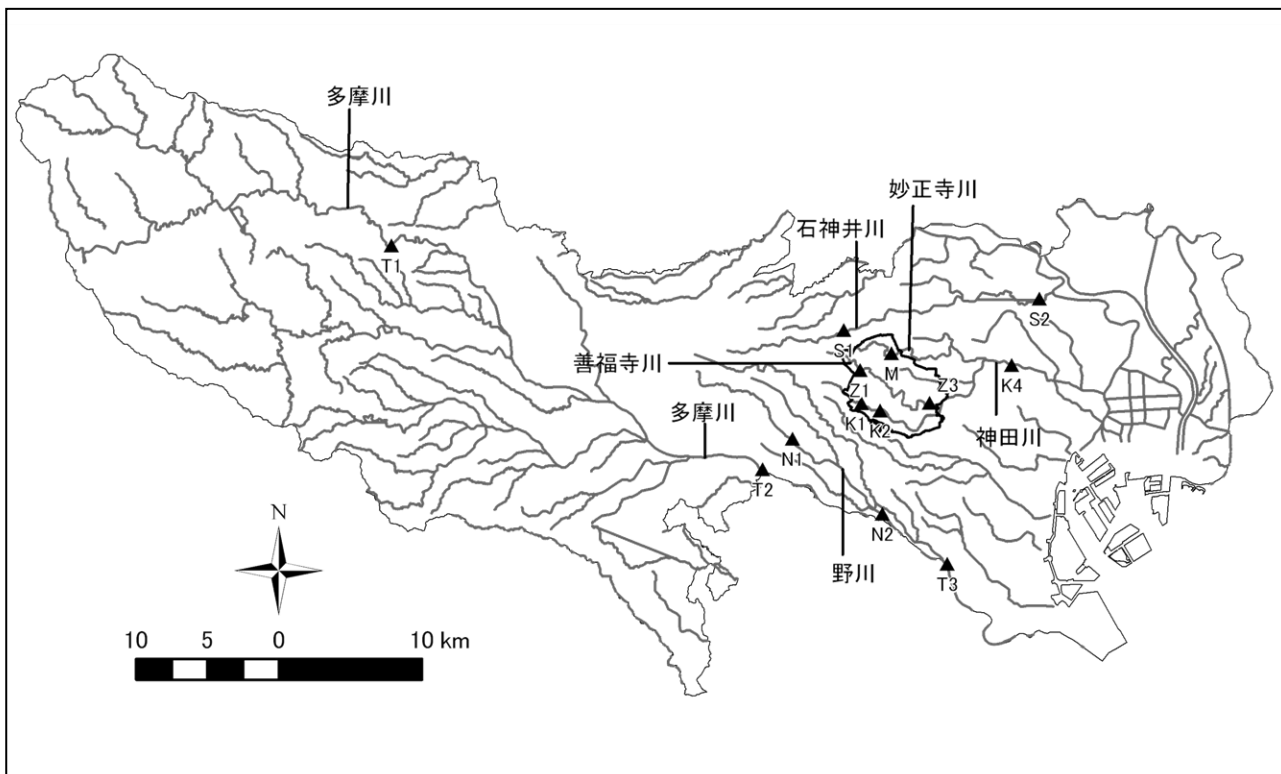


図 II-19 水質調査地点位置図

出典:「杉並区 河川の生物—第八次河川生物調査報告書—」(杉並区環境部環境課, 2021a)

1) 生物化学的酸素要求度 (BOD)

杉並区の河川は、いずれも B 類型の基準値に適合している。5 地点とも A 類型基準相当の測定値であった。都内の他河川と比べても概ね平均的であった(図 II-20)。

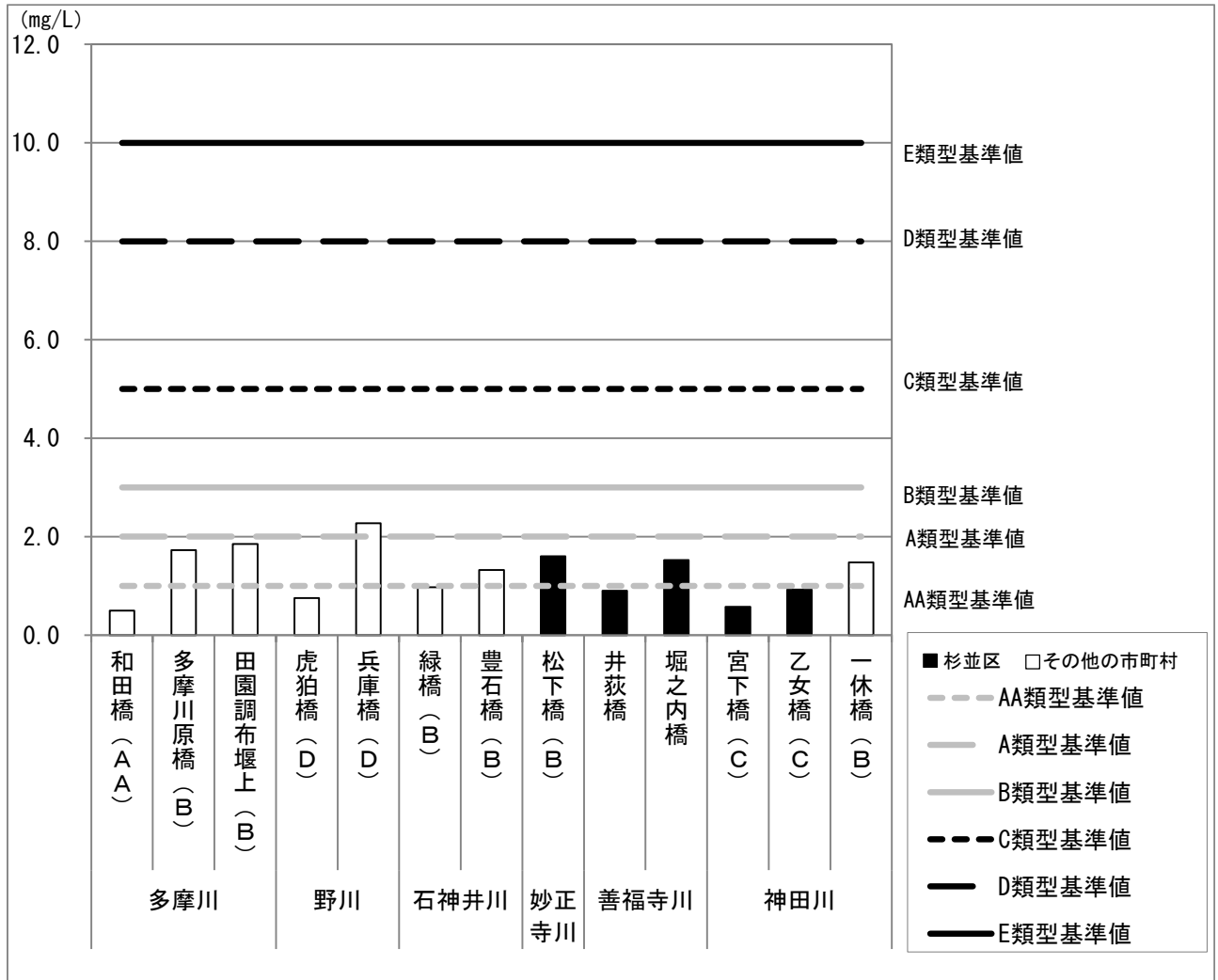


図 II-20 杉並区および周辺河川における BOD の測定値

「令和 7 年度杉並区環境白書(資料編)」(杉並区環境部環境課, 2025)、「令和 6 年度公共水域測定結果」(東京都環境局, 2024b) を基に作成

## 2) 水素イオン濃度 (pH)

杉並区の河川は、妙正寺川の松下橋を除き、AA～C 類型の基準値に適合している。妙正寺川は、水量が少ないため、生物や排水等の流入水の影響を受けやすいと考えられ、基準値よりアルカリ性を示した。都内の他河川と比較しても概ね同等と考えられる(図 II-21)。

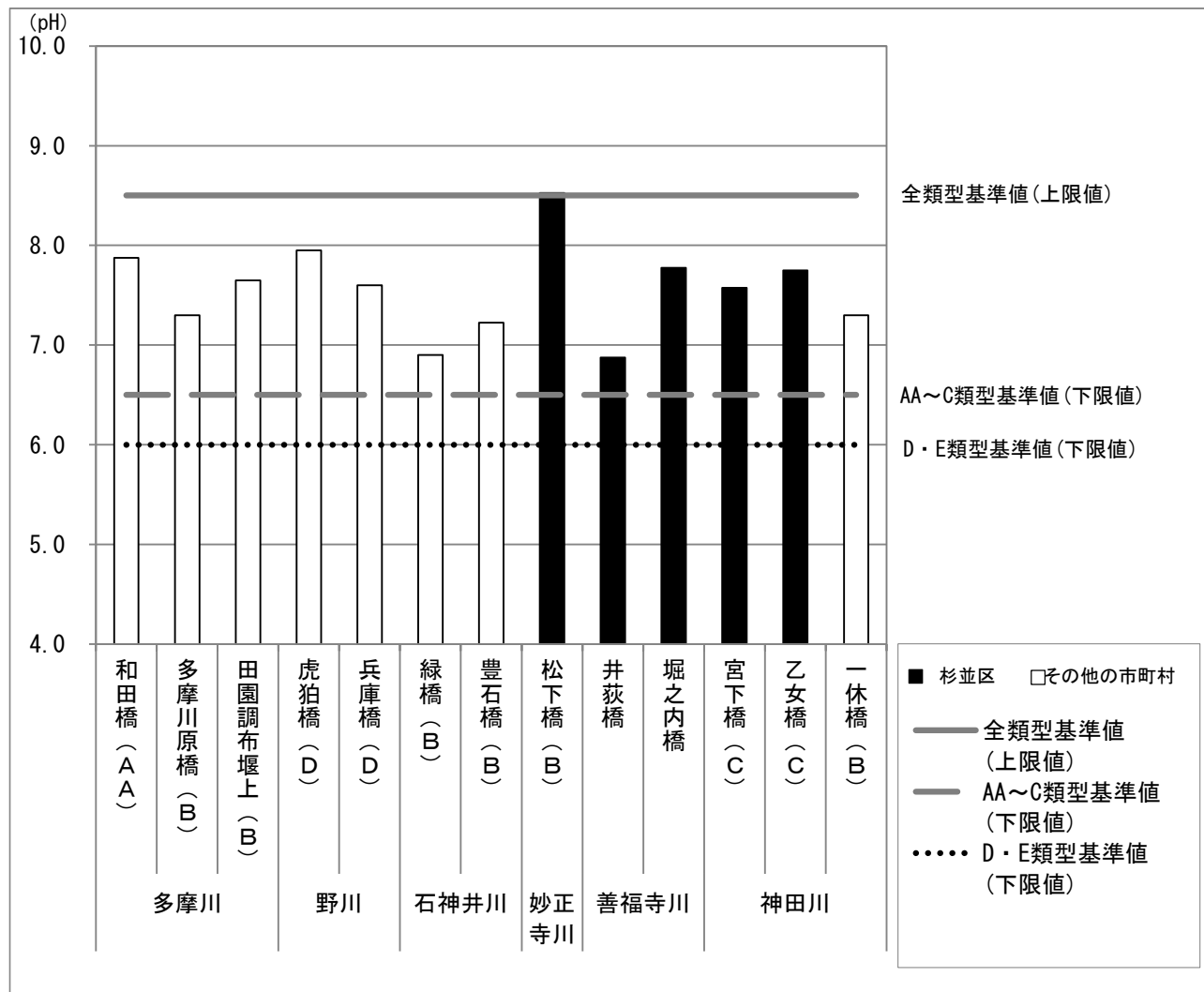


図 II-21 杉並区および周辺河川における pH の測定値

「令和7年度杉並区環境白書(資料編)」(杉並区環境部環境課, 2025)、「令和6年度公共用水域測定結果」(東京都環境局, 2024b)を基に作成

### 3) 浮遊物質 (SS)

杉並区の河川は、いずれのも B 類型以上の基準値に適合しており、都内の他河川と比較してもほぼ同じ程度と考えられる (図 II-22)。

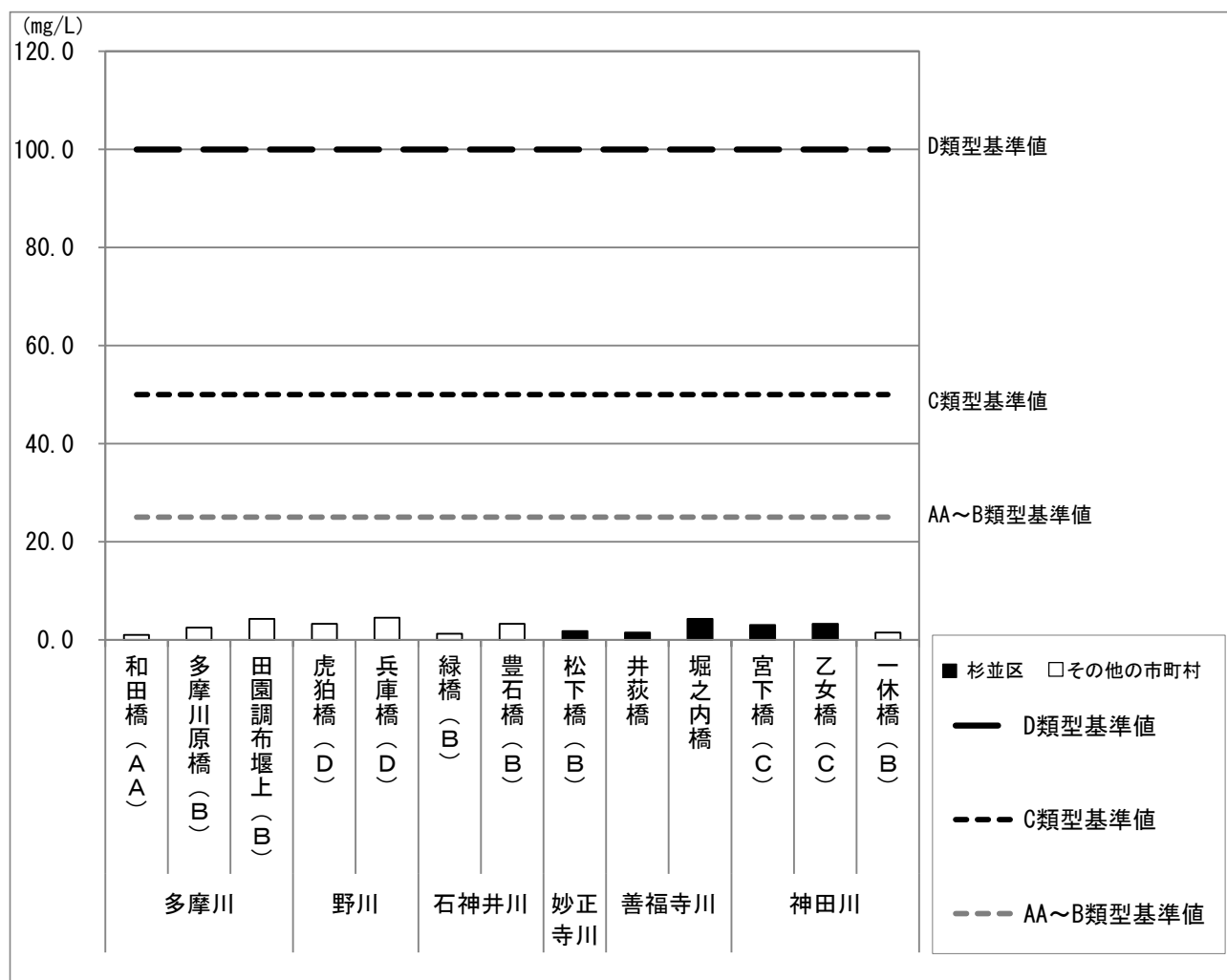


図 II-22 杉並区および周辺河川における SS の測定値

「令和 7 年度杉並区環境白書(資料編)」(杉並区環境部環境課, 2025)、「令和 6 年度公共水域測定結果」(東京都環境局, 2024b)を基に作成

#### 4) 溶存酸素量 (D0)

杉並区の河川は、いずれのものも AA・A 類型の基準値に適合しており、基準値よりも高い数値となっている。都内の他河川と比べると高い傾向を示した(図 II-23)。

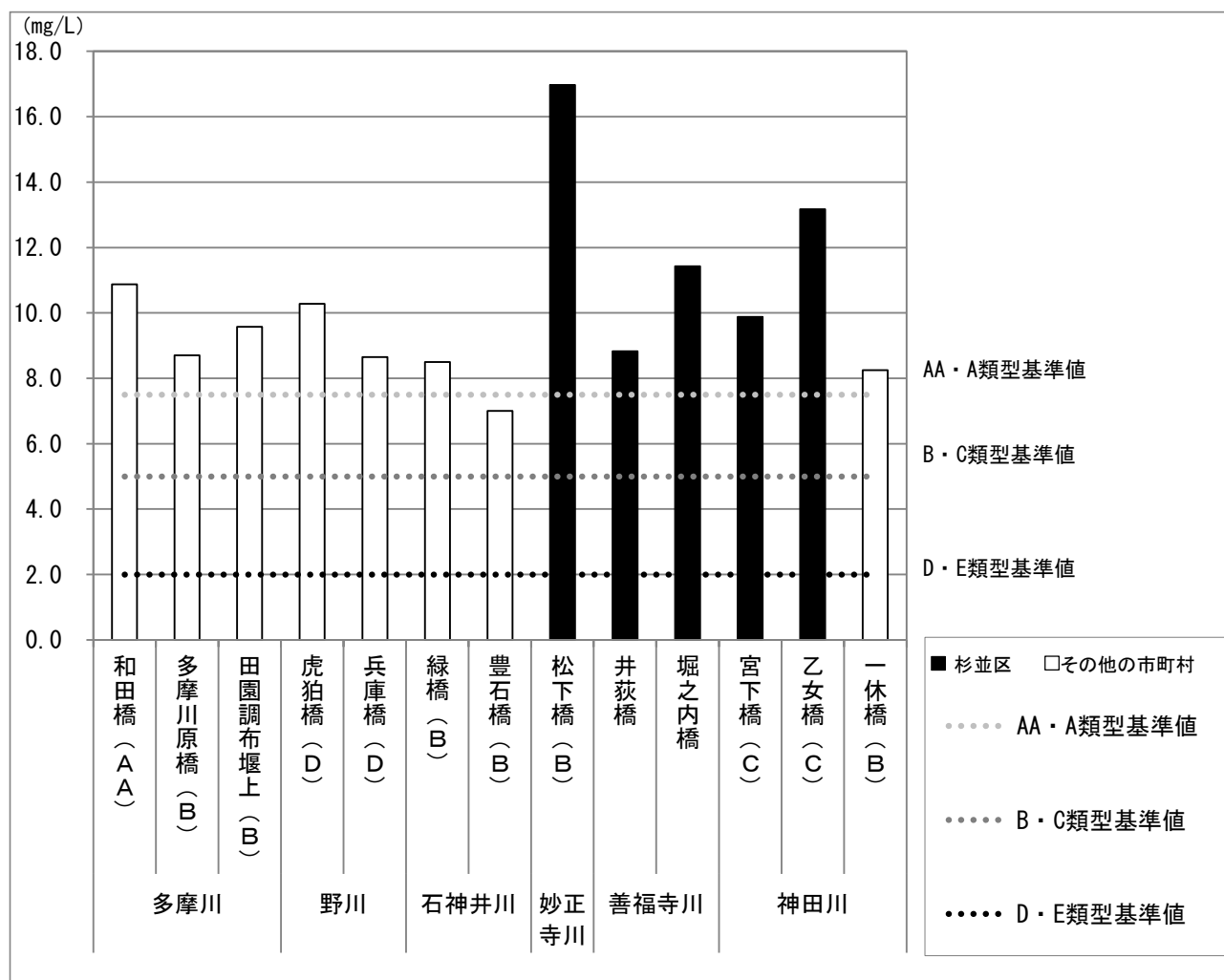


図 II-23 杉並区および周辺河川における D0 の測定値

「令和 7 年度杉並区環境白書(資料編)」(杉並区環境部環境課, 2025)、「令和 6 年度公共用水域測定結果」(東京都環境局, 2024b)を基に作成

### III 河川生物調査の結果

#### III-1 河川生物調査

##### 1. 現地調査の内容

###### (1) 現地調査時期

現地調査は、8月（一部の地点は9月頭に実施）及び10月の2回行った。底生動物、付着藻類、魚類、水草（沈水植物）の4項目について、8月調査は8月26～29日及び9月2日、10月調査は10月16～17、20～22日に実施した。地点別の調査日程を表 III-1 に示す。

表 III-1(1) 現地調査日程（河川生物調査 8月調査）

河川名	地点名	地点番号	実施日				
			8/26 (火)	8/27 (水)	8/28 (木)	8/29 (金)	9/2 (火)
妙正寺川	松下橋	M-1			●		
善福寺川	上池と下池の間	Z-1					●
	寺分橋	Z-2					●
	原寺分橋	Z-3					●
	井荻橋	Z-4				●	
	神明橋	Z-5				●	
	春日橋	Z-6				●	
	尾崎橋	Z-7		●			
	宮下橋	Z-8		●			
	和田堀橋	Z-9		●			
神田川	井の頭線車庫脇	K-1	●				
	錦橋	K-2	●				
	鎌倉橋	K-3	●				
	蔵下橋	K-4			●		
	方南第一橋	K-5			●		

表 III-1(2) 現地調査日程（河川生物調査 10月調査）

河川名	地点名	地点番号	実施日				
			10/16 (木)	10/17 (金)	10/20 (月)	10/21 (火)	10/22 (水)
妙正寺川	松下橋	M-1					●
善福寺川	上池と下池の間	Z-1					●
	寺分橋	Z-2					●
	原寺分橋	Z-3				●	
	井荻橋	Z-4				●	
	神明橋	Z-5				●	
	春日橋	Z-6			●		
	尾崎橋	Z-7			●		
	宮下橋	Z-8			●		
	和田堀橋	Z-9	●				
神田川	井の頭線車庫脇	K-1		●			
	錦橋	K-2		●			
	鎌倉橋	K-3		●			
	蔵下橋	K-4	●				
	方南第一橋	K-5	●				

## (2) 現地調査地点と項目

調査地点は、妙正寺川に1地点、善福寺川に9地点、神田川に5地点、合計で15地点を設定した。魚類および水草（沈水植物）については15地点すべてにおいて調査を行い、底生動物および付着藻類については10地点の調査とした。調査地点および調査項目を表 III-2 に、調査地点の位置を図 III-1 に示す。

表 III-2 調査項目および調査地点

河川名	地点名	地点番号	所在地	調査項目			
				底生動物	付着藻類	魚類	水草 (沈水植物)
妙正寺川	松下橋	M-1	下井草3丁目	●	●	●	●
善福寺川	上池と下池の間	Z-1	善福寺2丁目	●	●	●	●
	寺分橋	Z-2	善福寺1丁目	●	●	●	●
	原寺分橋	Z-3	西荻北4丁目			●	●
	井荻橋	Z-4	西荻北3丁目	●	●	●	●
	神明橋	Z-5	上荻2丁目			●	●
	春日橋	Z-6	荻窪2丁目	●	●	●	●
	尾崎橋	Z-7	成田東2丁目	●	●	●	●
	宮下橋	Z-8	大宮1丁目			●	●
	和田堀橋	Z-9	和田2丁目	●	●	●	●
神田川	井の頭線車庫脇	K-1	久我山2丁目	●	●	●	●
	錦橋	K-2	高井戸西1丁目			●	●
	鎌倉橋	K-3	浜田山1丁目	●	●	●	●
	蔵下橋	K-4	和泉2丁目			●	●
	方南第一橋	K-5	和泉4丁目	●	●	●	●
地点数				10	10	15	15



図 III-1 調査地点位置図

### (3) 現地調査方法および分析方法

#### 1) 底生動物

底生動物調査は、一辺 30cm のコドラートを用いた定量調査とランダム採集による定性調査を行った。

定量調査では、調査地点の代表的な瀬において、川底に 30cm×30cm の枠付きサーバーネットを置き、砂等とともにネット内に流し込んだ枠内の動物をサンプル瓶に入れ、約 10% のホルマリンで固定したものを試料とした。定量調査の試料は 1 地点につき 3 ヲ所から採取した（総採取面積：0.27m<sup>2</sup>）。固定した試料は、室内で実体顕微鏡および生物顕微鏡を用いて同定・計数を行った。

なお、過年度の定量調査のうち、第三次河川生物調査では、50cm×50cm のコドラートを 2 サンプル（総採取面積：0.5m<sup>2</sup>）、第四次および第五次河川生物調査では 30cm×30cm のコドラートを 3 サンプル（総採取面積：0.27m<sup>2</sup>）、第六次河川生物調査では 30cm×30cm のコドラートを 2 サンプル（総採取面積：0.18m<sup>2</sup>）採取しているが、サンプリング量についてはそれぞれ平均的な出現種類数を満たしているものと考え、数量を調整せずに比較を行った。

定性調査では、定量調査を行った以外の調査地点一帯のさまざまな環境から、D フレームネット（網目 0.5mm）、タモ網等を用いて、泥底のかくはんや水草の根元をすくう等をして、主として大型の底生動物類を採取した。採取した試料は現地でホルマリン固定して持ち帰り、実体顕微鏡および生物顕微鏡で同定・計数を行った。

#### 2) 付着藻類

付着藻類調査は、一辺 5cm のコドラートを用いた定量調査とそのコドラートの外側をサンプルとした定性調査を行った。また、現地で目視確認できる大型藻類の生育状況を記録した。

定量調査では、調査地点の代表的な場所において、石等の付着基盤を取り上げ、その表面に 5cm×5cm の枠をあて、枠内に付着している藻類をナイロンブラシでこすり落としてサンプル瓶に採集し、約 5% のホルマリンで固定したものを試料とした。定量調査の試料は 1 地点につき 2 個の付着基盤から採集した（総採集面積：50cm<sup>2</sup>）。

定性調査では、定量調査で採取した 2 個の付着基盤から、コドラートの外側に付着している藻類をこすり落とし、約 5% のホルマリンで固定したものを試料とした。

固定した試料は持ち帰り、室内で顕微鏡を用いて同定を行った。珪藻類は熱処理をした後、プリューラックスで封入したプレパラートを作成し、種を決定した。

### 3) 魚類

魚類調査では、調査地点周辺の魚類を投網および手網（タモ網等）を用いてできるだけ捕獲した。目視で確認できるコイ等については、目視観察も行い、個体数を記録した。捕獲した魚類は、地点ごとに同種 20 個体を上限として、全長・体長・湿重量を測定した後、放流した。現地での同定が難しい種等、一部の個体についてはホルマリンで固定して持ち帰った。捕獲方法ごとの努力量を表 III-3 に示す。

表 III-3 魚類の捕獲方法と努力量

捕獲方法	努力量
投網	10 投程度の捕獲を行った。 (ただし、善福寺川の中流部は魚類が非常に少ないため、 20 投程度の捕獲を実施した。)
タモ網	30 分程度を目安として調査を行った。

### 4) 水草（沈水植物）

水草（沈水植物）調査では、調査地点付近を踏査し、生育している沈水植物について、種類および群度を記録した。群度の判定基準を表 III-4 に示す。沈水植物の定義は、根茎が水底に固着し茎や葉などの植物体全体が水中に沈んで生育している植物とした。

表 III-4 水草（沈水植物）の群度の判定基準

群度	内容
++++	非常に多く、調査区内の河床の 50%以上に生育する。
+++	多いが、生育面積は調査区内の河床の 50%を超えない。
++	調査区内に群落が点在する。または、群生している。
+	単独に、あるいは数株が発育する。

## (4) 重要種の選定

表 III-5 に示す選定基準に該当した種を、重要種として選定した。

表 III-5 重要種の選定基準

No.	選定基準	カテゴリー	
1	「文化財保護法」 (昭和25年法律第214号) (最終改正:令和3年法律22号)	天然記念物	動物(生息地、繁殖地及び渡来地を含む。)、植物(自生地を含む。))等が我が国にとって学術上価値の高いもの(記念物)のうち重要なもの
		特別天然記念物	天然記念物のうち特に重要なもの
2	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成4年法律第75号) (最終改正:平成29年法律第51号)	国内希少野生動植物種	国内に生息・生育する絶滅のおそれのある野生生物のうち、人為の影響により存続に支障を来す事情が生じていると判断される種
		緊急指定種	国内希少野生動植物種及び国際希少野生動植物種以外の野生動植物で、環境大臣が種の保存を特に緊急に図る必要があると認めた種
3	【植物】 「第5次レッドリスト」 (令和7年3月18日 環境省)  【動物】 「レッドリスト2020」 (令和2年3月27日 環境省)  【海洋生物】 「海洋生物レッドリスト」 (平成29年3月21日 環境省)	絶滅(EX)	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
		野生絶滅(EW)	飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種
		絶滅危惧 I 類(CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種
		絶滅危惧 I A類(CR)	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
		絶滅危惧 I B類(EN)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
		絶滅危惧 II 類(VU)	I A類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
		準絶滅危惧(NT)	絶滅の危険が増大している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの
		情報不足(DD)	存続基盤が脆弱な種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの
4	※区部におけるカテゴリーを選定基準とした。	絶滅(EX)	評価するだけの情報が不足している種
		野生絶滅(EW)	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの
		絶滅危惧 I 類(CR+EN)	当該地域において、過去に生育・生息していたことが確認されており、飼育・栽培化を含めすでに絶滅したと考えられるもの
		絶滅危惧 I A類(CR)	当該地域において、過去に生育・生息していたことが確認されており、飼育・栽培化では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられるもの
		絶滅危惧 I B類(EN)	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
		絶滅危惧 II 類(VU)	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
		準絶滅危惧(NT)	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
		情報不足(DD)	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの
	留意種	現時点では絶滅のおそれはないと判断されるため、上記カテゴリーには該当しないものの、次の①～⑧の選定理由のいずれかに該当し、留意が必要と考えられるもの <選定理由> ①準絶滅危惧(NT)に準ずる (現時点では絶滅のおそれはないが、生息環境が減少していることから動向に留意する必要がある) ②過去の環境変化により、生息地が限定されていたり、孤立個体群がある ③人為的な環境配慮により個体群が維持されている ④外来種の影響に注意する必要がある ⑤生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている ⑥自然の回復状況をあらわしている ⑦良好な環境の指標となる ⑧タイプロカリティ(基準産地、模式産地)	

## (5) 外来種の選定

表 III-6 に示す法令等に基づく外来種については、留意すべき外来種として選定した。また、「侵入生物データベース (<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/>)」(国立研究開発法人 国立環境研究所) を参考に、最新の知見を加えて外来種を選定した。

表 III-6 留意すべき外来種の選定基準

No.	選定基準	カテゴリー	
1	「特定外来生物による生態系に係る被害の防止に関する法律」 (平成16年法律第78号) (最終改正:令和4年法律第42号)	特定外来生物	外来生物(海外起源の外来種)であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもの
		未判定外来生物	生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼす疑いがあるか、実態がよく分かっていない海外起源の外来生物
2	「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」 (平成27年3月26日 環境省)	定着予防外来種	<ul style="list-style-type: none"> <li>・侵入予防外来種:国内に未侵入の種</li> <li>・その他の定着予防外来種:侵入の情報はあるが、定着は確認されていない種</li> </ul>
		総合対策外来種	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急対策外来種:被害の深刻度に関する基準として①～④*のいずれかに該当することに加え、対策の実効性、実行可能性として⑤*に該当する種</li> <li>・重点対策外来種:被害の深刻度に関する基準として①～④*のいずれかに該当する種</li> <li>・その他の総合対策外来種</li> </ul>
		産業管理外来種	適切な管理が必要な産業上重要な外来種
3	【底生動物】 「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」の外来種リスト (最終更新:令和7年10月10日 国土交通省)	その他の国外外来種	おおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物(国外外来種) (上記の文献で記載された種を除く)

※生態系被害防止外来種リストの緊急対策外来種、重点対策外来種における対策の優先度の考え方

(被害の深刻度に関する基準)

- ①生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大
- ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い
- ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い
- ④人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対し甚大な被害を及ぼす

(対策の実効性、実行可能性)

- ⑤防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る

## (6) 調査時の状況

### 1) 調査実施状況

現地調査の実施状況を写真 III-1 に示す。

	
サーバーネットによる底生動物の定量採集	付着藻類の採集
	
投網による魚類採捕	手網（タモ網）による魚類採捕
	
水質測定状況	水深測定状況
	
透視度測定状況	河床材料確認状況

写真 III-1 調査実施状況

2) 地点概要

各調査地点の状況を写真 III-2 に示す。





地点名	8 月調査時	10 月調査時
<p>■M-1：松下橋 (妙正寺川)</p>	 <p data-bbox="603 712 687 745">上流側</p>  <p data-bbox="603 1122 687 1155">下流側</p>	 <p data-bbox="1128 712 1212 745">上流側</p>  <p data-bbox="1128 1122 1212 1155">下流側</p>

写真 III-2(1) 地点概況





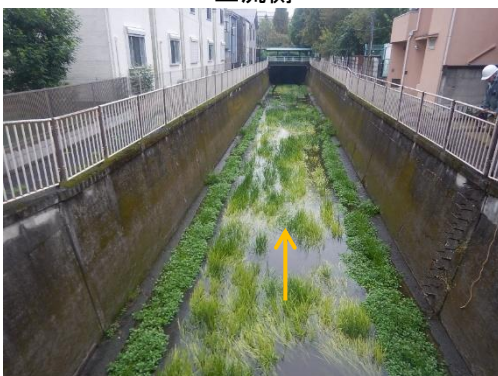
地点名	8月調査時	10月調査時
<p>■Z-1: 上池と下池の間 (善福寺川)</p>	 <p>上流側</p>  <p>下流側</p>	 <p>上流側</p>  <p>下流側</p>
<p>■Z-2: 寺分橋 (善福寺川)</p>	 <p>上流側</p>  <p>下流側</p>	 <p>上流側</p>  <p>下流側</p>

写真 III-2(2) 地点概況

地点名	8月調査時	10月調査時
■Z-3：原寺分橋 (善福寺川)	 <p data-bbox="612 577 692 607">上流側</p>  <p data-bbox="612 985 692 1014">下流側</p>	 <p data-bbox="1139 577 1219 607">上流側</p>  <p data-bbox="1139 985 1219 1014">下流側</p>
■Z-4：井荻橋 (善福寺川)	 <p data-bbox="612 1400 692 1429">上流側</p>  <p data-bbox="612 1807 692 1836">下流側</p>	 <p data-bbox="1139 1400 1219 1429">上流側</p>  <p data-bbox="1139 1807 1219 1836">下流側</p>

写真 III-2(3) 地点概況

地点名	8月調査時	10月調査時
■Z-5：神明橋 (善福寺川)	 <p data-bbox="612 573 692 607">上流側</p>  <p data-bbox="612 981 692 1014">下流側</p>	 <p data-bbox="1139 573 1219 607">上流側</p>  <p data-bbox="1139 981 1219 1014">下流側</p>
■Z-6：春日橋 (善福寺川)	 <p data-bbox="612 1395 692 1429">上流側</p>  <p data-bbox="612 1803 692 1836">下流側</p>	 <p data-bbox="1139 1395 1219 1429">上流側</p>  <p data-bbox="1139 1803 1219 1836">下流側</p>

写真 III-2(4) 地点概況






地点名	8月調査時	10月調査時
<p>■Z-7：尾崎橋 (善福寺川)</p>	 <p>上流側</p>  <p>下流側</p>	 <p>上流側</p>  <p>下流側</p>
<p>■Z-8：宮下橋 (善福寺川)</p>	 <p>上流側</p>  <p>下流側</p>	 <p>上流側</p>  <p>下流側</p>

写真 III-2(5) 地点概況

地点名	8月調査時	10月調査時
■Z-9：和田堀橋 (善福寺川)	 <p data-bbox="612 577 695 611">上流側</p>  <p data-bbox="612 985 695 1019">下流側</p>	 <p data-bbox="1139 577 1222 611">上流側</p>  <p data-bbox="1139 985 1222 1019">下流側</p>

写真 III-2(6) 地点概況









地点名	8月調査時	10月調査時
<p>■K-1：井の頭線 車庫脇 (神田川)</p>	 <p>上流側</p>  <p>下流側</p>	 <p>上流側</p>  <p>下流側</p>
<p>■K-2：錦橋 (神田川)</p>	 <p>上流側</p>  <p>下流側</p>	 <p>上流側</p>  <p>下流側</p>

写真 III-2(7) 地点概況

地点名	8月調査時	10月調査時
■K-3：鎌倉橋 (神田川)	 <p data-bbox="612 573 692 607">上流側</p>  <p data-bbox="612 983 692 1016">下流側</p>	 <p data-bbox="1139 573 1219 607">上流側</p>  <p data-bbox="1139 983 1219 1016">下流側</p>
■K-4：蔵下橋 (神田川)	 <p data-bbox="612 1397 692 1431">上流側</p>  <p data-bbox="612 1807 692 1841">下流側</p>	 <p data-bbox="1139 1397 1219 1431">上流側</p>  <p data-bbox="1139 1807 1219 1841">下流側</p>

写真 III-2(8) 地点概況




地点名	8月調査時	10月調査時
■K-5 : 方南第一橋 (神田川)	 <p data-bbox="612 577 692 609">上流側</p>  <p data-bbox="612 987 692 1019">下流側</p>	 <p data-bbox="1139 577 1219 609">上流側</p>  <p data-bbox="1139 987 1219 1019">下流側</p>

写真 III-2(9) 地点概況

### 3) 調査時の河川環境

各河川の環境を以下に示す。また、調査時の物理環境測定結果を表 III-7 に示す。

#### ■妙正寺川

妙正寺川の調査地点は松下橋 (M-1) の 1 地点である。本地点はコンクリート三面護岸で、水深が浅く流路幅が狭い水路であり、水草や水際植生はほとんどみられなかった。水量が少ないために水温の変化が最も大きく、8 月調査時は善福寺川および神田川を含めた全 15 調査地点の中で最も高い 33.3℃、10 月調査時は最も低い 14.7℃となった。

#### ■善福寺川

善福寺川の調査地点は 9 地点である。上池と下池の間 (Z-1) は、上流側が公園の池で下流側が木立に覆われた流路幅の狭い水路となっており、周囲が樹林に囲まれていることや、地盤高と水面までの高低差が少ないなど、他の地点と環境が異なっている。井荻橋 (Z-4) から春日橋 (Z-6) はコンクリート護岸であるが、河床に捨石が多くみられ、河床の凹凸やそこに堆積する土砂によってナガエミクリ等の抽水植物が多く生育している。和田堀橋 (Z-9) はコンクリート三面護岸であり、上流側に神田川・環状七号線地下調節池の取水口がある。

8 月の水温をみると、他の地点は 22.5℃～28.6℃であるのに対し、上池と下池の間 (Z-1) は 17.4℃と明らかに低いが、これは、平成 30 年に完成した遅野井川親水施設の整備工事により、井戸水を流すようになったためと考えられる (みどりのボランティア・杉並区都市整備部みどり公園課, 2018)。

#### ■神田川

神田川の調査地点は 5 地点であり、いずれもコンクリート護岸が施されている。井の頭線車庫脇 (K-1) では、河床材料は粗礫や小石が優占していた。上流側にはオオカナダモが繁茂しており、下流側にはナガエミクリが広く生育していた。錦橋 (K-2) は、低水路整備により蛇行や凹凸形状の水際がみられ、水際植生が繁茂していた。鎌倉橋 (K-3) は、橋付近の河床には蛇籠による床固めが施されている。河床材料は粗礫～小石が優占し、全体に水際植生がみられた。蔵下橋 (K-4) では、下流側に草本植生が繁茂する中州が形成されていた。方南第一橋 (K-5) の左岸側には神田川・環状七号線地下調節池の取水口がある。河床材料は細礫が優占しており、草本植生が生育する中州や寄州がみられた。

10 月調査時には、河川の各所で草刈りが行われていた影響で、植物片の漂着や濁りが生じていた。

表 III-7(1) 調査時の環境 (8月)

河川名	善福寺川										神田川					
	M-1	Z-1	Z-2	Z-3	Z-4	Z-5	Z-6	Z-7	Z-8	Z-9	K-1	K-2	K-3	K-4	K-5	
地点番号																
地点名	砂正寺川 松下橋	上池と 下池の間	寺分橋	原寺分橋	井荻橋	神明橋	春日橋	尾崎橋	宮下橋	和田堀橋	井の頭線 車庫脇	錦橋	鎌倉橋	蔵下橋	方南 第一橋	
調査日	8月28日	9月2日	9月2日	9月2日	8月29日	8月29日	8月29日	8月27日	8月27日	8月27日	8月26日	8月26日	8月26日	8月28日	8月28日	
調査時刻	14:50 5 16:00	14:50 5 16:45	11:05 5 13:40	9:10 5 10:40	14:10 5 15:55	12:30 5 13:40	9:20 5 11:25	14:30 5 16:40	12:20 5 13:45	9:00 5 11:05	9:00 5 11:50	13:00 5 15:20	15:10 5 17:10	10:40 5 11:55	8:55 5 10:00	13:30 5 14:00
時間(分)	70	115	155	90	105	70	125	130	85	125	170	140	120	75	95	
天候	曇り	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	曇り	曇り	
気温(℃)	32.1	33.2	33.5	32.9	31.5	31.2	30.0	33.9	33.8	31.5	29.9	32.8	31.8	28.9	29.1	
水温(℃)	33.3	17.4	27.1	25.1	24.4	25.6	22.5	28.6	27.5	26.8	22.4	25.6	27.9	26.3	26.9	
水深(cm)	4	2	15	70	25	65	18	30	40	55	42	70	30	35	10	
流速(m/s)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
電気伝導度 (mS/m)	35.0	16.6	34.6	36.0	30.6	28.2	25.4	28.6	29.0	28.3	22.3	24.1	27.8	31.1	31.2	
溶存酸素量 (mg/L)	12.02	5.18	7.93	7.15	9.02	18.37	12.54	10.80	9.56	9.12	9.68	13.55	11.67	8.84	5.40	
pH	9.53	7.95	6.59	6.94	6.76	7.37	7.50	8.14	7.48	7.64	6.94	7.30	8.51	7.77	7.62	
透明度(cm)	31	>100	45	57	>100	91	>100	78	63	93	85	33	38	>100	>100	
色相外観	褐色透明	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明	
臭気	草荻臭	無臭	微土臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	
河床材料*	R(一部SG)	SG	M	S	LG	SG	MG	SB	SB	SG	LG	MG	LG	SB	SG	
浮石/沈み石	沈み石	沈み石	不明	不明	沈み石	沈み石	沈み石	沈み石	沈み石	沈み石	浮石	浮石	沈み石	沈み石	沈み石	
備考	河岸の草刈り直後 植物片が大 量に浮遊			上流より わずかな 濁りが流入											2回に分けて 調査。環境 データは午 前中のもの	

\* 河床材料：岩盤又はコンクリート(R)、0.074mm以下泥(M)、0.074mm~2mm砂(S)、2~20mm細礫(SG)、20~50mm中礫(MG)、50~100mm粗礫(LG)、100~200mm小石(SB)、200~500mm中石(MB)、500以上大石(LB)

表 III-7(2) 調査時の環境 (10月)

河川名	善福寺川										神田川				
	M-1	Z-1	Z-2	Z-3	Z-4	Z-5	Z-6	Z-7	Z-8	Z-9	K-1	K-2	K-3	K-4	K-5
地点番号															
地点名	松下橋	上池と下池の間	寺分橋	原寺分橋	井荻橋	神明橋	春日橋	尾崎橋	宮下橋	和田堀橋	井の頭線車庫脇	錦橋	鎌倉橋	蔵下橋	方南第一橋
調査日	10月22日	10月22日	10月22日	10月21日	10月21日	10月21日	10月20日	10月20日	10月20日	10月16日	10月17日	10月17日	10月17日	10月16日	10月16日
調査時刻	13:35 5	10:40 5	8:10 5	13:25 5	10:00 5	8:07 5	13:20 5	9:54 5	7:56 5	10:26 5	13:37 5	11:00 5	8:05 5	13:29 5	8:14 5
時間(分)	14:30	12:15	10:10	14:45	11:45	9:20	15:10	11:45	9:14	11:55	15:05	12:30	9:45	14:45	9:50
時間(分)	55	95	120	80	105	73	110	111	78	89	88	90	100	76	96
天候	雨	曇り	雨	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	雨	雨	晴れ	晴れ	晴れ	曇り	小雨
気温(℃)	12.7	12.9	12.8	16.5	15.2	14.6	19.0	17.0	17.0	18.9	25.0	24.0	20.2	21.0	18.1
水温(℃)	14.7	15.9	16.8	18.0	17.7	17.1	18.6	17.8	18.0	18.9	19.0	19.3	18.4	19.1	18.5
水深(cm)	3	2	45	60	30	65	20	30	30	59	43	70	30	40	6
流速(m/s)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電気伝導度(mS/m)	21.7	15.9	32.2	29.5	25.6	23.6	24.0	23.8	28.5	24.3	20.9	21.7	24.5	24.5	25.8
溶存酸素量(mg/L)	13.10	5.88	8.25	8.78	8.54	8.13	11.46	8.74	7.21	9.99	9.05	10.00	9.10	9.35	6.30
pH	8.77	7.92	6.97	6.94	6.49	6.81	7.23	7.51	7.43	7.71	6.97	7.30	7.38	7.75	7.48
透明度(cm)	>100	>100	76	>100	>100	>100	95	83	89	72	65	80	73	31	86
色相外観	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明
臭気	微カビ臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	微下水臭
河床材料*	R(一部SG)	SG	M	SG	LG	SG	MG	SB	SB	SG	SB	MG	SB	SB	SG
浮石/沈み石	沈み石	沈み石	不明	沈み石	沈み石	沈み石	沈み石	沈み石	沈み石	沈み石	浮石	沈み石	沈み石	沈み石	沈み石
備考											上流の草刈りの影響で植物片の漂着多数	河岸の植生は刈取られていた	橋上流河岸植生は刈取られていた。オオカナダモの漂着多数	4~5名で水草の刈りをしており、濁りが生じていた	

\* 河床材料：岩盤又はコンクリート(R)、0.074mm以下 泥(M)、0.074mm~2mm 砂(S)、2~20mm 細礫(SG)、20~50mm 中礫(MG)、50~100mm 粗礫(LG)、100~200mm 小石(SB)、200~500mm 中石(MB)、500以上 大石(LB)

## 2. 現地調査の結果

生物の分類、種名等は原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和7年度版」（河川環境データベース, 令和7年11月）に従い、不足している種（植物の外来種、園芸品種など）については適宜追加を行った。ただし、付着藻類においては近年発行されたリストでは、分類が簡略化されて過年度のデータとの比較が困難なため、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度版」（河川環境データベース, 平成27年1月）を用いた。

合計種類数は、種の同定に至らなかった生物について、同じ分類群の種が確認された場合、1種として数えないこととした。

### (1) 底生動物

#### 1) 出現種とその特徴

##### ① 出現種の状況

底生動物の定量および定性調査を合わせた地点別の出現種類数を図 III-2 に、河川別の出現種を表 III-8 に、分類群別出現種類数を表 III-9 に示す。

8月と10月の2回の調査において、妙正寺川1地点、善福寺川6地点、神田川3地点、計10地点で実施した定量調査および定性調査により、合計11綱27目57科115種の底生動物が確認された。

8月と10月の2回の調査により、妙正寺川（1地点）で53種、善福寺川（6地点）で97種、神田川（3地点）で81種が確認された。8月と10月の調査を合わせた地点別の出現種数をみると、概ね50種台～60種台前半の地点が多かった。善福寺川の上池と下池の間（Z-1）は44種で、比較的少ない傾向がみられた。

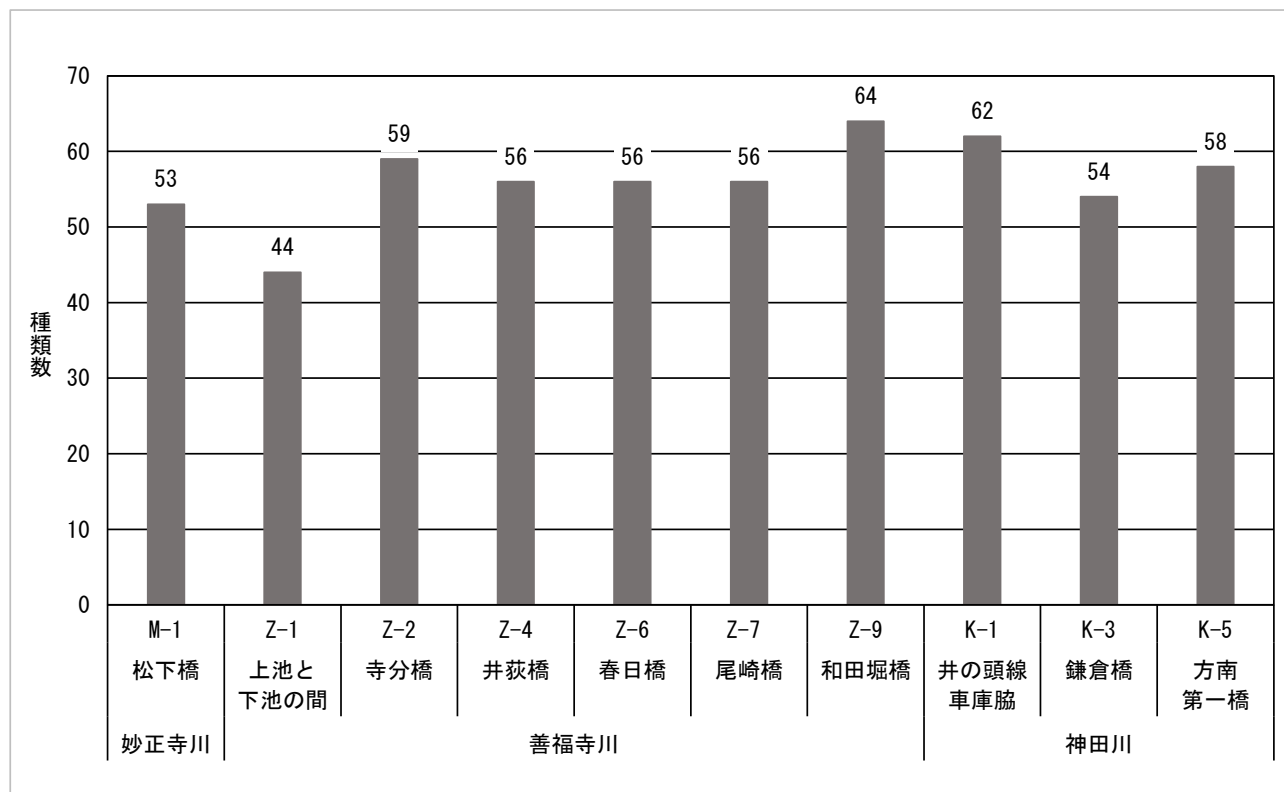


図 III-2 底生動物の地点別出現種類数（8月・10月の合計）

表 III-8(1) 底生動物の河川別出現種

No.	門	綱	目	科	種名		妙正寺川		善福寺川		神田川										
					和名	学名	8月	10月	8月	10月	8月	10月									
1	刺胞動物門	ヒドロ虫綱	無鞘目	ヒドラ科	ヒドラ科	Hydridae gen. sp.		○		○	○										
2	扁形動物門	有棒状体綱	三岐腸目	サンカクアタマズムシ科	アメリカツノウズムシ	<i>Girardia dorocephala</i>		○		○	○	○									
3					アメリカナミウズムシ	<i>Girardia tigrina</i>				○	○	○	○								
4					テムノケファエーラ目	ヤドリフタツノムシ科	ヤドリフタツノムシ科	Scutariellidae gen. sp.				○	○	○	○						
5					ハリヒモムシ目	マミズヒモムシ科	ミミズヒモムシ属	<i>Prostoma</i> sp.			○	○	○	○	○						
6	線形動物門	-	-	-	線形動物門	<b>Neematoda</b>		○	○	○	○	○									
7	軟体動物門	腹足綱	新生腹足目	タニシ科	ヒメタニシ	<i>Sinotia quadrata histrica</i>				○	○	○									
8					カワナナ種群	<i>Semisulcospira</i> spp.				○	○										
9					汎有肺目	モノアラガイ科	ヒメモノアラガイ	<i>Orientogalba ollula</i>		○	○										
10							コシダカヒメモノアラガイ	<i>Galba cf. truncatula</i>						○	○						
11							ハブタエモノアラガイ	<i>Pseudosuccinea columella</i>						○	○						
12							モノアラガイ属	<i>Radix</i> sp.		○	○	○	○	○	○	○					
13							サカマキガイ科	サカマキガイ	<i>Physa acuta</i>		○	○	○	○							
14							ヒロマキガイ科	ヒロマキミズマイマイ	<i>Menetus dilatatus</i>		○			○	○	○					
15					カワコザラガイ科	カワコザラガイ科	Ancylidae gen. sp.					○	○	○	○						
16					二枚貝綱	マルスダレガイ目	シジミ科	タイワンシジミ	<i>Corbicula fluminea</i>				○	○	○	○					
-								シジミ属	<i>Corbicula</i> sp.					*○	*○	*○	*○				
17								マメシジミ科	マメシジミ属	<i>Pisidium</i> sp.					○	○	○	○			
18								ドブシジミ科	ドブシジミ	<i>Sphaerium japonicum</i>					○						
19					環形動物門	ミミズ綱	ナガミミズ目	ナガミミズ科	ナガミミズ科	Haplotaxidae gen. sp.				○							
20									オヨギミミズ目	オヨギミミズ科	Lumbriculidae gen. sp.		○	○	○	○	○	○			
21									イトミミズ目	ミズミミズ科	エラオイミズミズ属	<i>Branchiodrilus</i> sp.					○		○		
22											エラミミズ	<i>Branchiura sowerbyi</i>					○	○	○	○	
23											ヤドリミズミズ属	<i>Chaetogaster</i> sp.					○	○		○	
24	ウチワミミズ属	<i>Dero</i> sp.		○							○	○	○	○	○	○					
25	ユリミミズ属	<i>Limnodrilus</i> sp.		○							○	○	○	○	○	○					
26	ミズミミズ属	<i>Nais</i> sp.		○							○	○	○	○	○	○					
27	トガリミズミズ属	<i>Pristina</i> sp.		○							○	○	○	○	○	○					
28	ヨゴレミズミズ	<i>Slavina appendiculata</i>												○							
29	テングミズミズ	<i>Sylaria fossularis</i>													○	○	○				
30	イトミミズ	<i>Tubifex tubifex</i>											○	○	○	○	○				
-	ミズミミズ科	<i>Naididae</i> gen. sp.		*○							*○	*○	*○	*○	*○	*○	*○				
31	ツリミミズ目	-	ツリミミズ目	<b>Lumbricida</b>											○	○	○				
32	ヒル綱	ヒルミミズ目	ヒルミミズ科	ヒルミミズ科							Branchiobdellidae gen. sp.				○	○	○	○			
33				物蛭目							ヒラタビル科	ハバヒロビル	<i>Alboglossiphonia lata</i>				○	○	○	○	
34												ヌマビル	<i>Helobdella stagnalis</i>					○	○	○	○
-												ヒラタビル科	<i>Glossiphoniidae</i> gen. sp.						*○	*○	
35				物無蛭目							イシビル科	シマイシビル	<i>Dina lineata</i>		○	○	○	○	○	○	
-												イシビル科	<i>Erpobdellidae</i> gen. sp.		*○	*○	*○	*○	*○	*○	*○
36												ナガレビル科	<i>Salifidae</i> gen. sp.		○	○	○	○	○	○	○
-	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-			
37	節足動物門	クモ綱	ダニ目	-					<b>Acarina</b>		○	○	○	○	○						
38	軟甲綱	ヨコエビ目	ハマトビムシ科	ニホンオカトビムシ					<i>Platorchestia japonica</i>						○	○					
39				マミズヨコエビ科					フロリダマミズヨコエビ	<i>Crangonyx floridanus</i>					○	○	○	○			
40				ワラジムシ目					ミズムシ (甲)	<i>Asellus hilgendorfi hilgendorfi</i>					○	○	○	○			
41				エビ目					ヌマエビ科	カワリヌマエビ属	<i>Neocaridina</i> sp.		○	○	○	○	○	○			
42										テナガエビ科	テナガエビ	<i>Macrobrachium nipponense</i>					○	○	○		
43										スズエビ	<i>Palaemon paucidens</i>						○	○	○		
44										アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>					○	○	○	○	
45										ヒメシロカゲロウ科	ヒメシロカゲロウ属	<i>Caenis</i> sp.		○	○	○	○	○	○		
46					マダラカゲロウ科	エラブタマダラカゲロウ	<i>Torleya japonica</i>			○	○	○	○	○	○						
47				コカゲロウ科	ミツオミジカオフトバコカゲロウ	ミツオミジカオフトバコカゲロウ	<i>Acentrella gnom</i>						○	○							
48						サホコカゲロウ	<i>Baetis sahoensis</i>					○	○	○	○						
49						フタモンコカゲロウ	<i>Baetis taiwanensis</i>					○	○	○	○						
50	シロハラコカゲロウ	<i>Baetis thermicus</i>							○	○	○	○									
51	ウスバコカゲロウ	<i>Centropilum rotundum</i>							○												
52	フタバカゲロウ属	<i>Cloeon</i> sp.				○	○	○	○	○	○	○									
53	ウスイロフトヒゲコカゲロウ	<i>Labiobaetis atrebatinus orientalis</i>				○	○	○	○	○	○	○									
54	ウデマガリコカゲロウ	<i>Tenuibaetis flexifemora</i>							○	○	○	○									
55	シロタニガワカゲロウ	<i>Ecdyonurus yoshidae</i>									○	○									
56	トンボ目	イトトンボ科	アジアイトトンボ			<i>Ischnura asiatica</i>						○	○								
57			アオモンイトトンボ	<i>Ischnura senegalensis</i>					○			○									
-			アオモンイトトンボ属	<i>Ischnura</i> sp.								*○									
58			クロイトトンボ属	<i>Paracercion</i> sp.								○									
-			イトトンボ科	<i>Coenagrionidae</i> gen. sp.		○	○	*○	○	*○	○	*○									
59			ヤンマ科	ギンヤンマ	ヤンマ科	<i>Anax parthenope julius</i>		○	○	○	○										
-					ヤンマ科	<i>Aeschnidae</i> gen. sp.		*○													
60			サナエトンボ科	ミヤマサナエ	サナエトンボ科	<i>Anisogomphus maacki</i>					○										
61					オナガサナエ	<i>Meligomphus viridicostus</i>							○	○							
62					コオニヤンマ	<i>Sieboldius albardae</i>						○	○	○							
63			オニヤンマ科	オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>						○	○	○								
64	トンボ科	シオカラトンボ	シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>		○	○	○	○	○	○										
65			オオシオカラトンボ	<i>Orthetrum melania melania</i>		○	○														
66			ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i>		○															
67			アカネ属	<i>Sympetrum</i> sp.		○	○														
-			トンボ科	<i>Libellulidae</i> gen. sp.		*○		*○													
68	カメムシ目	アメンボ科	アメンボ	<i>Aquarius paludum paludum</i>					○	○	○	○									
69			コセアカアメンボ	<i>Gerris gracilicornis</i>					○												
70			シマアメンボ	<i>Metrocoris histrio</i>						○	○										
-			アメンボ科	<i>Gerridae</i> gen. sp.					*○	*○	*○	*○									
71			ミズカメムシ科	ミズカメムシ科	<i>Mesovelidae</i> gen. sp.					○											
72			センブリ科	ネグロセンブリ	<i>Sialis japonica</i>							○	○								
73			アミメカゲロウ目	ミズカゲロウ科	<i>Sisyra nikkoana</i>					○		○	○								
74	トビケラ目	ムネカクトビケラ科	ムネカクトビケラ属	<i>Ecnomus</i> sp.						○	○	○									
75			シマトビケラ科	コガタシマトビケラ	<i>Cheumatopsyche brevilineata</i>					○	○	○									
76			ヒメトビケラ科	ヒメトビケラ属	<i>Hydroptila</i> sp.					○	○	○									
77			ニンギョウトビケラ科	ニンギョウトビケラ	<i>Goera japonica</i>					○	○	○									
78			カクツツトビケラ科	カクツツトビケラ属	<i>Lepidostoma</i> sp.					○											
79			ヒゲナガトビケラ科	アオヒゲナガトビケラ属	<i>Mystacides</i> sp.						○	○	○								

(次のページへ続く)

表 III-8(2) 底生動物の河川別出現種

No.	門	綱	目	科	種名		妙正寺川		善福寺川		神田川	
					和名	学名	8月	10月	8月	10月	8月	10月
80	(節足動物門)	(昆虫綱)	ハエ目	ヒメガガンボ科	ヒメガガンボ科	<i>Limoniidae gen. sp.</i>	○					
81				ガガンボ科	ガガンボ属	<i>Tipula sp.</i>			○		○	
82				チョウバエ科	チョウバエ科	<i>Psychodidae gen. sp.</i>	○	○	○	○		
83				ヌカカ科	ヌカカ科	<i>Ceratopogonidae gen. sp.</i>	○	○	○	○	○	○
84				ユスリカ科	ハダカユスリカ属	<i>Cardiocladius sp.</i>			○			
85					ユスリカ属	<i>Chironomus sp.</i>	○	○	○	○		
86					エダゲヒゲユスリカ属	<i>Cladotanytarsus sp.</i>	○	○	○	○	○	○
87					トラフユスリカ属	<i>Conchapelopia sp.</i>		○	○	○	○	○
88					コナユスリカ属	<i>Corynoneura sp.</i>			○	○	○	○
89					ツヤユスリカ属	<i>Cricotopus sp.</i>		○	○	○	○	○
90					カマガタユスリカ属	<i>Cryptochironomus sp.</i>		○	○	○	○	○
91					スジカマガタユスリカ属	<i>Demicyptichironomus sp.</i>		○				○
92					ホソミユスリカ属	<i>Dicrotendipes sp.</i>	○	○	○	○	○	○
93					テンマクエリユスリカ属	<i>Eukiefferiella sp.</i>			○	○		
94					セボリユスリカ属	<i>Glyptotendipes sp.</i>			○			
95					ボカシヌマユスリカ属	<i>Macropelopia sp.</i>			○	○		
96					ナガスネユスリカ属	<i>Micropsectra sp.</i>		○	○	○	○	○
97					トゲヤマユスリカ属	<i>Monodiamesa sp.</i>			○	○		
98					モンヌマユスリカ属	<i>Natarsia sp.</i>			○	○	○	○
99					エリユスリカ属	<i>Orthocladus sp.</i>		○	○	○	○	○
100					ケバコユスリカ属	<i>Paracladopelma sp.</i>				○		
101					ニセケバネエリユスリカ属	<i>Parametriocnemus sp.</i>			○		○	
102					カワリユスリカ属	<i>Paratendipes sp.</i>			○	○	○	○
103					ハモンユスリカ属	<i>Polydillum sp.</i>	○	○	○	○	○	○
104					ヒメエリユスリカ属	<i>Psectrocladius sp.</i>			○	○	○	○
105					ナガレツヤユスリカ属	<i>Rheocricotopus sp.</i>		○	○	○	○	○
106					ナガレユスリカ属	<i>Rheotanytarsus sp.</i>	○	○	○	○	○	○
107					カナムリケミゾユスリカ属	<i>Stempellinella sp.</i>	○	○	○	○	○	○
108					ヒゲユスリカ属	<i>Tanytarsus sp.</i>		○	○	○	○	○
-					ユスリカ科	<i>Chironomidae gen. sp.</i>	*○	*○	*○	*○	*○	*○
109				カ科	カ科	<i>Culcidae gen. sp.</i>						○
110				ホソカ科	ニッポンホソカ	<i>Dixa nipponica</i>			○	○		
-					ホソカ科	<i>Dixidae gen. sp.</i>			*○	*○		
111				ブユ科	ツノマユブユ属	<i>Eusimulium sp.</i>		○	○	○		
112					アシマダラブユ属	<i>Simulium sp.</i>			○	○		
113				アシナガバエ科	アシナガバエ科	<i>Dolichopodidae gen. sp.</i>	○					
114				ミギワバエ科	ミギワバエ科	<i>Ephydriidae gen. sp.</i>	○	○	○	○	○	○
-					ハエ目	<i>Diptera</i>	*○	*○	*○	*○		
115			コウチュウ目	ヒラタドロムシ科	クシヒゲマルヒラタドロムシ	<i>Eubrianax granicollis</i>						○
合計	7門	11綱	27目	57科	115種	種類数合計 (季節別)	33	47	90	85	75	69
						種類数合計 (河川別)	53		97			81

種名は令和7年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト(2025年11月27日)に準拠している。  
 -, \*: 種の同定に至らなかった生物について、同日、同科または同属の種が確認された場合、1種として数えないことを示す。

表 III-9(1) 底生動物の分類群別出現種類数 (8月)

網名/目名	妙正寺川		善福寺川					神田川			合計
	松下橋	上池と下池の間	寺分橋	井荻橋	春日橋	尾崎橋	和田堀橋	井の頭線車庫脇	鎌倉橋	方南第一橋	
	M-1	Z-1	Z-2	Z-4	Z-6	Z-7	Z-9	K-1	K-3	K-5	
ヒドロ虫綱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
有棒状体綱	0	2	1	2	2	3	3	2	3	2	3
有針綱	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	1
線形動物門の全綱	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1
腹足綱	4	2	4	5	5	4	5	2	4	3	9
二枚貝綱	0	0	3	1	1	1	2	2	2	2	3
ミミズ綱	5	3	4	6	5	7	10	4	5	7	11
ヒル綱	2	0	3	4	4	3	4	3	4	2	5
クモ綱	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1
軟甲綱	1	6	4	4	4	4	4	4	5	2	7
昆虫綱 (下記8目の合計)	20	25	21	26	25	24	23	37	26	24	69
カゲロウ目	3	3	3	7	6	7	3	8	5	5	11
トンボ目	6	1	3	3	3	1	1	4	4	2	12
カメムシ目	0	2	1	1	2	1	0	1	1	0	4
ヘビトンボ目	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
アミメカゲロウ目	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1
トビケラ目	0	3	2	2	2	3	3	4	1	3	6
ハエ目	11	16	12	13	12	12	15	19	14	13	33
コウチュウ目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
種類数合計	33	39	41	51	48	48	53	57	52	45	111

表 III-9(2) 底生動物の分類群別出現種類数 (10月)

網名/目名	妙正寺川		善福寺川					神田川			合計
	松下橋	上池と下池の間	寺分橋	井荻橋	春日橋	尾崎橋	和田堀橋	井の頭線車庫脇	鎌倉橋	方南第一橋	
	M-1	Z-1	Z-2	Z-4	Z-6	Z-7	Z-9	K-1	K-3	K-5	
ヒドロ虫綱	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
有棒状体綱	1	1	2	2	2	2	2	2	2	3	3
有針綱	1	0	1	1	1	0	0	0	1	0	1
線形動物門の全綱	1	0	1	1	1	1	1	1	1	0	1
腹足綱	3	2	4	4	4	3	3	4	2	3	9
二枚貝綱	0	0	2	0	1	1	2	2	2	2	2
ミミズ綱	7	3	7	6	7	8	5	5	6	9	12
ヒル綱	2	0	2	2	4	4	4	2	3	3	5
クモ綱	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1
軟甲綱	1	6	4	4	4	4	4	4	4	3	7
昆虫綱 (下記6目の合計)	29	22	26	20	21	26	29	26	19	29	56
カゲロウ目	6	4	6	5	6	5	7	6	5	8	10
トンボ目	5	1	3	1	1	1	3	1	3	2	8
カメムシ目	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	2
ヘビトンボ目	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
トビケラ目	0	1	2	2	2	3	2	4	0	3	5
ハエ目	18	15	14	12	11	16	16	13	10	15	30
種類数合計	47	34	49	41	46	51	51	47	41	53	98

② 地点別出現種の状況

a. 出現種類数

調査方法ごとの地点別確認種類数を図 III-3 に示す。

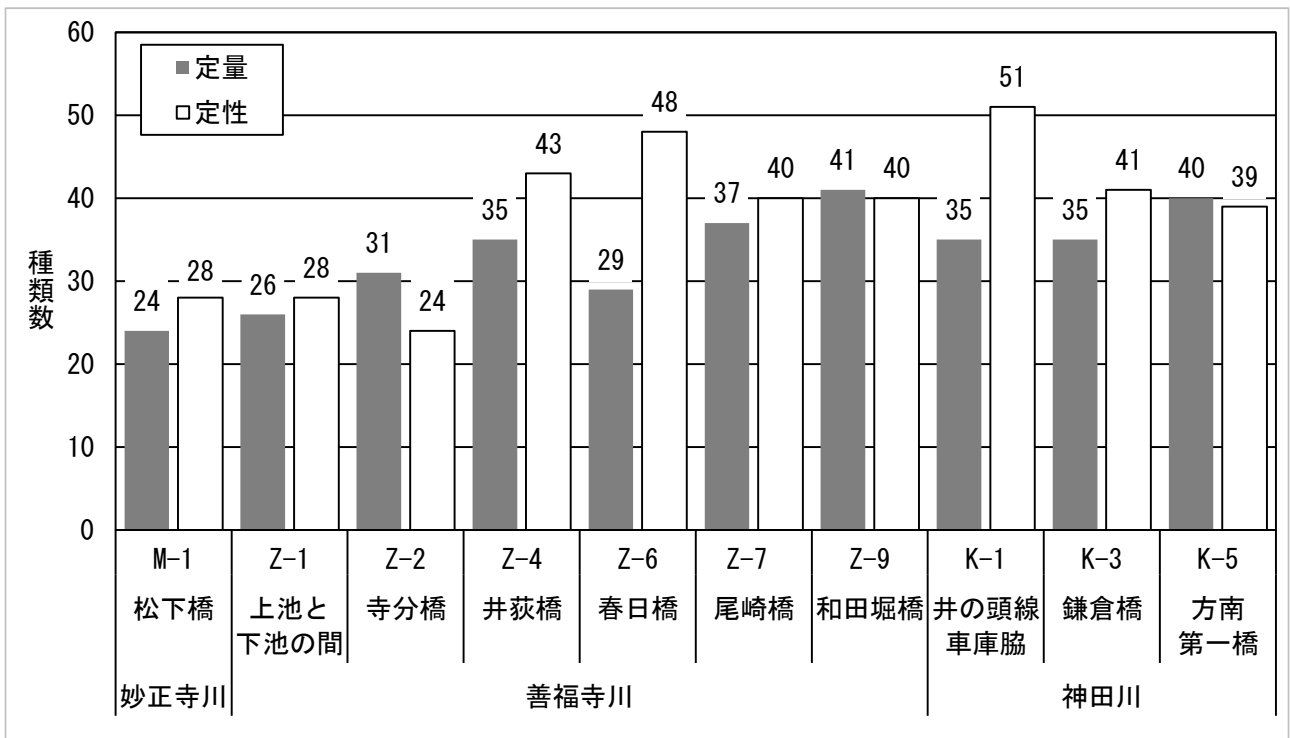


図 III-3(1) 地点別の出現種類数 (8月)

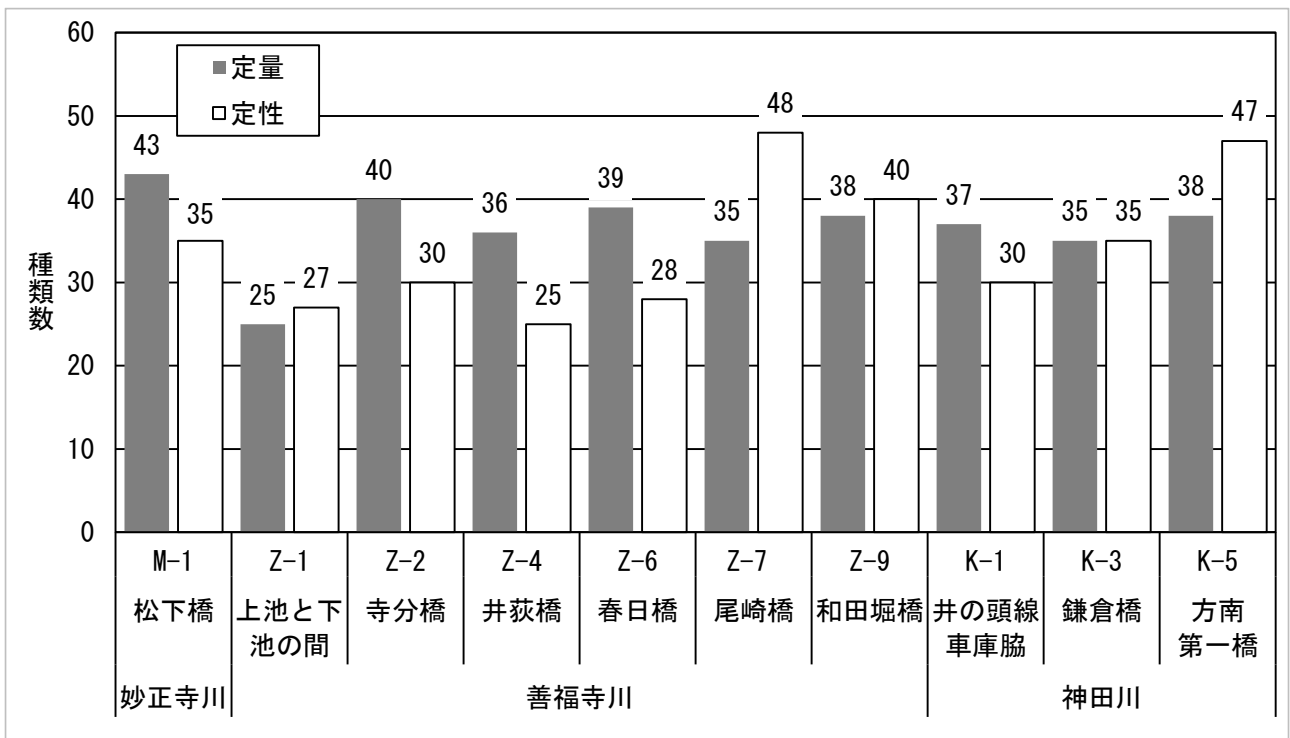


図 III-3(2) 地点別の出現種類数 (10月)

## b. 優占種

定量調査における地点別の優占種を表 III-10 および表 III-11 に示す。優占種は、各月・各地点における出現率（個体数%）が10%以上の種とした。

10 地点、2 回の定量調査における優占種は、アメリカツノウズムシ、モノアラガイ属、ヒロマキミズマイマイ、オヨギミズ科、エラミミズ、ヤドリミズミミズ属、ミズミミズ属、トガリミズミミズ属、ミズミミズ科、ダニ目、フロリダマミズヨコエビ、ミズムシ（甲）、カワリヌマエビ属、サホコカゲロウ、ウデマガリコカゲロウ、エダゲヒゲユスリカ属、ナガスネユスリカ属、カワリユスリカ属、ハモンユスリカ属、ナガレツヤユスリカ属、ナガレユスリカ属の 21 種が該当した。ユスリカ類等の汚い水でも生息できるとされる種が優占種となりやすかった。

水生ミズ類（ミズミズ科やオヨギミズ科など）の個体数が特に多く、8 月の妙法寺川の松下橋（M-1）では、トガリミズミミズ属が 57.5%と全個体の半数を超えていた。

第一次調査から第九次調査までの定量調査における優占種の経年変化を表 III-12 に示す。

妙正寺川の腹足綱の優占種は、第四次調査まではサカマキガイが優占種となるが多かったが、第五次調査以降はモノアラガイ科（モノアラガイ属を含む）が優占するようになっている。

善福寺川で優占種になることが多い種は、17 回中 13 回（76.5%）のシマイシビルであった。また、第四次調査以前には確認されていなかった外来種のフロリダマミズヨコエビおよびカワリヌマエビ属が、第六次調査以降、優占種となるが多くなってきている。

神田川で優占種になることが多い種は、17 回中 12 回（70.6%）のシマイシビルであった。また、第五次調査以前には確認されていなかった外来種のアメリカツノウズムシ、フロリダマミズヨコエビおよびカワリヌマエビ属が、第六次調査以降、優占種となるが多くなってきている。

表 III-10 定量調査における地点別優占種

No.	種名	水質指標性	妙正寺川		善福寺川												神田川				
			松下橋		上池と下池の間		寺分橋		井萩橋		春日橋		尾崎橋		和田堀橋		井の頭線車庫脇		鎌倉橋		方南第一橋
			M-1		Z-1		Z-2		Z-4		Z-6		Z-7		Z-9		K-1		K-3		K-5
			8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月
1	アメリカツノウズムシ	-																			
2	モノアラガイ属	-	●	●																	
3	ヒロマキミズマイマイ	-																			
4	オヨギミミズ科	-			●		●	●			●					●					
5	エラミミズ	IV					●														
6	ヤドリミズミミズ属	-		●																	
7	ミズミミズ属	-							●											●	
8	トガリミズミミズ属	-	●																		
9	ミズミミズ科	-		●			●	●	●				●		●			●		●	
10	ダニ目	-															●				
11	フロリダマミズヨコエビ	-								●		●									
12	ミズムシ(甲)	III			●	●					●	●				●					
13	カワリスマエビ属	-								●								●			
14	サホコカゲロウ	-										●									
15	ウデマガリコカゲロウ	-										●	●		●	●				●	
16	エダゲヒゲユスリカ属	IV																●	●	●	
17	ナガスネユスリカ属	IV														●	●				
18	カワリユスリカ属	IV			●	●															
19	ハモンユスリカ属	IV		●																	
20	ナガレツヤユスリカ属	IV											●								
21	ナガレユスリカ属	IV							●	●			●								

水質指標性 I : きれいな水、II : ややきれいな水、III : きたない水、IV : 大変きたない水、- : 指標性不明

表 III-11 定量調査における地点別の優占種の出現頻度

調査河川	調査地点	調査月	優占種(定量調査の個体数の占める割合が10%以上の種)							
			第1位		第2位		第3位		第4位	
			和名	出現頻度	和名	出現頻度	和名	出現頻度	和名	出現頻度
妙正寺川	松下橋 M-1	8月	トガリミズミミズ属	57.5%	モノアラガイ属	21.8%	-	-	-	-
		10月	モノアラガイ属	23.8%	ハモンユスリカ属	18.4%	ヤドリミズミミズ属	12.7%	ミズミミズ科	10.1%
善福寺川	上池と下池の間 Z-1	8月	カワリユスリカ属	31.1%	ミズムシ(甲)	20.9%	オヨギミミズ科	10.6%	-	-
		10月	カワリユスリカ属	31.9%	ミズムシ(甲)	11.0%	-	-	-	-
	寺分橋 Z-2	8月	ミズミミズ科	47.4%	オヨギミミズ科	16.2%	エラミミズ	14.0%	-	-
		10月	ミズミミズ科	27.5%	オヨギミミズ科	17.6%	-	-	-	-
	井萩橋 Z-4	8月	ミズミミズ科	29.1%	ナガレユスリカ属	20.8%	ミズミミズ属	12.3%	-	-
		10月	ナガレユスリカ属	40.4%	フロリダマミズヨコエビ	16.4%	カワリスマエビ属	10.1%	-	-
	春日橋 Z-6	8月	オヨギミミズ科	33.1%	ミズムシ(甲)	29.8%	-	-	-	-
		10月	サホコカゲロウ	22.0%	ウデマガリコカゲロウ	13.3%	ミズムシ(甲)	12.2%	フロリダマミズヨコエビ	10.4%
	尾崎橋 Z-7	8月	ナガレユスリカ属	20.7%	ウデマガリコカゲロウ	14.6%	ミズミミズ科	12.2%	-	-
		10月	ナガレツヤユスリカ属	25.1%	アメリカツノウズムシ	11.3%	-	-	-	-
和田堀橋 Z-9	8月	ミズミミズ科	21.7%	ウデマガリコカゲロウ	17.2%	-	-	-	-	
	10月	アメリカツノウズムシ	18.9%	ウデマガリコカゲロウ	14.7%	-	-	-	-	
神田川	井の頭線車庫脇 K-1	8月	ヒロマキミズマイマイ	19.3%	ミズムシ(甲)	17.3%	ナガスネユスリカ属	16.4%	-	-
		10月	ナガスネユスリカ属	22.7%	ダニ目	17.9%	-	-	-	-
	鎌倉橋 K-3	8月	ミズミミズ科	28.3%	カワリスマエビ属	15.9%	-	-	-	-
		10月	エダゲヒゲユスリカ属	12.8%	アメリカツノウズムシ	10.6%	-	-	-	-
	方南第一橋 K-5	8月	エダゲヒゲユスリカ属	24.3%	ミズミミズ科	12.1%	ウデマガリコカゲロウ	11.5%	ミズミミズ属	11.3%
		10月	ウデマガリコカゲロウ	29.4%	-	-	-	-	-	-



表 III-13(1) 底生動物の地点別出現状況 (8月)

No.	門	綱	目	科	種名	妙正寺川			善福寺川			神田川		
						松下橋	上池と下池の間	寺分橋	井袋橋	春日橋	尾崎橋	和田強橋	井の頭橋	鎌倉橋
1	刺胞動物門	ヒドロ虫綱	無鞘目	ヒドロ科	<i>Hydrula</i> gen. sp.	8/28	9/2	9/2	8/29	8/29	8/27	8/26	8/26	8/26
2	扁形動物門	有縁状態綱	三岐腸目	サンカクアタマウズムシ科	<i>Ameliora</i> sp.	M-1	Z-2	Z-4	Z-4	Z-6	Z-7	Z-9	K-3	K-5
3					<i>Ameliora</i> sp.									
4					<i>Ameliora</i> sp.									
5	環形動物門	有外綱	ハリヒモムシ目	マミズヒモムシ科	<i>Prorotula</i> sp.									
6	環形動物門				<i>Nematoda</i>									
7	軟体動物門	腹足綱	新生腹足目	カタニシ科	<i>Smotula quadrata</i> Iisrica									
8					<i>Smotula quadrata</i> Iisrica									
9					<i>Semanticospora</i> spp.									
10					<i>Orientogaba allua</i>									
11					<i>Galba cf. truncanila</i>									
12					<i>Pseudosuccinea columella</i>									
13					<i>Radix</i> sp.									
14					<i>Physa acuta</i>									
15					<i>Physa acuta</i>									
16					<i>Physa acuta</i>									
17					<i>Physa acuta</i>									
18					<i>Physa acuta</i>									
19	環形動物門	ミミズ綱	オヨギミミズ目	オヨギミミズ科	<i>Lumbricidae</i> gen. sp.									
20					<i>Lumbricidae</i> gen. sp.									
21					<i>Branchiobdella</i> sp.									
22					<i>Branchiobdella</i> sp.									
23					<i>Dero</i> sp.									
24					<i>Limnodrilus</i> sp.									
25					<i>Nais</i> sp.									
26					<i>Pristina</i> sp.									
27					<i>Stavina appendiculata</i>									
28					<i>Stavina appendiculata</i>									
29					<i>Stavina appendiculata</i>									
30					<i>Stavina appendiculata</i>									
31					<i>Stavina appendiculata</i>									
32					<i>Stavina appendiculata</i>									
33					<i>Stavina appendiculata</i>									
34					<i>Stavina appendiculata</i>									
35	節足動物門	クモ綱	ダニ目	ナガレヒル科	<i>Acarina</i>									
36					<i>Acarina</i>									
37					<i>Acarina</i>									
38					<i>Acarina</i>									
39					<i>Acarina</i>									
40					<i>Acarina</i>									
41					<i>Acarina</i>									
42					<i>Acarina</i>									
43					<i>Acarina</i>									
44					<i>Acarina</i>									
45					<i>Acarina</i>									
46					<i>Acarina</i>									
47					<i>Acarina</i>									
48					<i>Acarina</i>									
49					<i>Acarina</i>									
50					<i>Acarina</i>									
51					<i>Acarina</i>									
52					<i>Acarina</i>									
53					<i>Acarina</i>									

(次のページへ続く)

表 III-13(2) 底生動物の地点別出現状況 (8月)

No.	門	綱	目	科	種名	砂正寺川				善富寺川				神田川			
						松下橋	上池と下池の間	寺分橋	井萩橋	春日橋	尾崎橋	和田堤橋	井の頭線重原橋	鎌倉橋	方南第一橋		
54	(節足動物門)		トンボ目		<i>Ischnura asiatica</i>	8/28	9/2	9/2	8/29	8/27	8/26	8/26	8/28				
55					<i>Ischnura senegalensis</i>												
56					<i>Ischnura sp.</i>	2											
57					<i>Paracercion sp.</i>			1	2								
58					<i>Anax parthenope julius</i>												
59					<i>Aeschna</i> gen. sp.	2											
60					<i>Anisogomphus maacki</i>												
61					<i>Meligomphus varicosus</i>												
62					<i>Stobolius albae</i>				1								
63					<i>Anagaster sieboldii</i>	6											
64					<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>	2											
65					<i>Orthetrum melania melania</i>												
66					<i>Pantala flavescens</i>												
67					<i>Symphetrum sp.</i>												
68					<i>Libellula</i> gen. sp.	34		2									
69					<i>Anaxia paludum paludum</i>												
70					<i>Gerris gracilicornis</i>												
71					<i>Metacoris hisrio</i>												
72					<i>Gerris</i> gen. sp.												
73					<i>Mesoveliidae</i>												
74					<i>Sialis japonica</i>												
75					<i>Sayra nikoona</i>												
76					<i>Ecnemus sp.</i>												
77					<i>Chemmapysche brevitarsis</i>												
78					<i>Hydrophilus sp.</i>												
79					<i>Guera japonica</i>												
80					<i>Lepidostoma sp.</i>												
81					<i>Mystacides sp.</i>												
82					<i>Limonidae</i> gen. sp.												
83					<i>Utrilla sp.</i>	20											
84					<i>Psychodidae</i> gen. sp.	4											
85					<i>Ceratopogonidae</i> gen. sp.												
86					<i>Cardiodiidae</i> sp.												
87					<i>Chironomus</i> sp.	30											
88					<i>Cladotanytarsus</i> sp.	2											
89					<i>Conchapelopia</i> sp.												
90					<i>Corynoptera</i> sp.												
91					<i>Cricatopus</i> sp.												
92					<i>Cryptotritonema</i> sp.												
93					<i>Dicranodipus</i> sp.	8											
94					<i>Enkifferella</i> sp.												
95					<i>Glyptodipus</i> sp.												
96					<i>Macropelopia</i> sp.												
97					<i>Macropelopia</i> sp.												
98					<i>Manadamaea</i> sp.												
99					<i>Orthocladius</i> sp.												
100					<i>Natania</i> sp.												
101					<i>Orthocladius</i> sp.												
102					<i>Parametopia</i> sp.												
103					<i>Polypedium</i> sp.	200											
104					<i>Procladius</i> sp.												
105					<i>Rhectrocopus</i> sp.												
-					<i>Rhectrocopus</i> sp.												
-					<i>Rhectrocopus</i> sp.												
-					<i>Stommatocopus</i> sp.												
-					<i>Stommatocopus</i> sp.												
-					<i>Tanytarsus</i> sp.												
-					<i>Tanytarsus</i> sp.												
-					<i>Chironomidae</i> gen. sp.												

(次のページへ続く)

表 III-13 (3) 底生動物の地点別出現状況 (8月)

No.	門	綱	目	科	種名	妙正寺川			遊福寺川					神田川														
						松下橋	上池と 正池の間	寺分橋	井沢橋	春日橋	尾崎橋	和田尻橋	井の原線 車庫脇	鎌倉橋	方南第一橋													
					和名	学名	7-1	7-2	7-4	7-6	7-7	7-9	8-1	8-3	8-5													
106	(節足動物門)	(昆虫綱)	(ハエ目)	ホソカ科		<i>Dixa nipponica</i>	1																					
107						<i>Dixidae</i> gen. sp.	++																					
108				ブエ科		<i>Ensimulium</i> sp.	2			5		7																
109				アシナガハエ科		<i>Simulium</i> sp.				++		1																
110				ミギワハエ科		<i>Dolichopodidae</i> gen. sp.	+																					
111			コウチュウ目	ヒラタドコロムシ科		<i>Diptera</i>	4			++					1													
			25目	54科		<i>Enbitarax gravenhorstii</i>	24	28	28	28	31	24	35	43	29	48	37	40	41	40	35	51	35	41	40	39		
合	7門	10綱	25目	54科		種類数合計(地点・方法別)	2,298	483	483	1,765	1,765	1,765	5,736	5,736	2,309	2,309	2,172	2,208	2,208	2,208	6,076	6,076	1,839	1,839	3,623	3,623		
計						個体数合計(地点・方法別)	19,769	5,865	5,865	7,234	7,234	7,234	3,466	3,466	7,507	7,507	2,364	2,364	2,364	2,364	16,655	16,655	3,364	3,364	12,085	12,085	10,331	10,331
						種類数合計(地点別)	33	39	39	41	41	41	51	51	48	48	53	57	57	53	53	57	57	52	52	45	45	45
						種類数合計(河川別)	33	39	39	41	41	41	51	51	48	48	53	57	57	53	53	57	57	52	52	45	45	45

種名は令和7年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト(2025年11月27日)に準拠している。  
 定性調査の個体数 +: 1~2個体, ++: 3~10個体, +++: 11~25個体, ++++: 26個体以上  
 定量調査の個体数 ++: 1~2個体, +++: 3~10個体, ++++: 11~25個体, ++++: 26個体以上  
 -, 網掛けセル: 種の同定に至らなかった生物について, 空白, 同科または同属の種が確認された場合, 1種として数えないことを示す。

表 III-14(1) 底生動物の地点別出現状況 (10月)

No.	門	綱	目	科	和名	種名	妙正寺川				善福寺川				神田川			
							上池と下池の間	寺分橋	井萩橋	春日橋	尾崎橋	和田堀橋	井の頭線車庫脇	鎌倉橋	方南第一橋			
1	節足動物門	ヒドロ虫綱	無節目	ヒドロ科	ヒドロ科	Hydrula gen. sp.	M-1 10/22	Z-2 10/22	Z-2 10/22	Z-6 10/20	Z-7 10/20	Z-9 10/16	K-1 10/17	K-3 10/17	K-5 10/16			
2	節足動物門	有節目	三肢目	サンカクアタマワズムシ科	アメリカツノワズムシ	<i>Gerania abroncephala</i>	13 +	333 ++	5 +++	85 +++	181 +++	254 +++	127 +++	144 +++	192 +++			
3	節足動物門	有節目	テムノケフアーム目	ヤドリフタツノムシ科	ヤドリフタツノムシ	<i>Scutellaria nigra</i>		1	1	2	31 +++		4	4	4			
4	節足動物門	有節目	ハリヒモムシ目	マミズヒモムシ科	マミズヒモムシ	<i>Protoma sp.</i>		1	7 ++	3	1		1	1 ++	1			
5	節足動物門	有節目	新生履足目	ヒメナシ科	ヒメナシ	<i>Nematoda</i>	7	9	37	3	1		5	3				
6	節足動物門	有節目	新生履足目	カワニナ科	カワニナ	<i>Sinaita quadana kasrca</i>		10 +++	2 +++	6 +++	+++			4 ++				
7	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Sonakaspira sp.</i>												
8	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Orenogata dilata</i>												
9	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Galba cf. truncata</i>												
10	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Pseudosuccinea columella</i>												
11	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Radix sp.</i>	1794											
12	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Physa acuta</i>	27 +++											
13	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Menetus dilatatus</i>												
14	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Ancylus gen. sp.</i>												
15	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Corbicula fluminea</i>												
16	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Corbicula sp.</i>												
17	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Psidium sp.</i>												
18	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Limnodrilus sp.</i>												
19	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Lumbricidae gen. sp.</i>												
20	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Lumbricidae gen. sp.</i>												
21	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Branchiaria sp.</i>												
22	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Branchiaria sowerbyi</i>												
23	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Chaetogaster sp.</i>	959	222 +++	6 +++	17 +++	+++	7 +++	3 +	1	2			
24	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Dero sp.</i>												
25	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Limnodrilus sp.</i>												
26	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Nais sp.</i>												
27	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Pristina sp.</i>	632	4	30 +++	11 +++	58 +++	50 +++	2	43 +++	72 +++			
28	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Stylaria fossularis</i>												
29	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Stylaria tubifex</i>												
30	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Naididae gen. sp.</i>	760	29 +++	61 +++	75 +++	67 +++	77 +++	59	39 +++	113 +++			
31	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Lumbricidae</i>												
32	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Branchiobdella gen. sp.</i>												
33	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Alloglossophonia lata</i>												
34	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Helobdella stagnalis</i>												
35	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Glossiphoniidae gen. sp.</i>												
36	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Dina lineata</i>												
37	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Epiplatia gen. sp.</i>												
38	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Syllididae gen. sp.</i>	10	+++	2	27 +++	6 +	298	2	7 +++	10			
39	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Acantha</i>												
40	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Planorbestia japonica</i>												
41	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Cranogonyx floridanus</i>												
42	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Asellus hilgendorfi hilgendorfi</i>												
43	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Neocaridina sp.</i>	3	++	123 +++	17 +++	60 +++	12 +++	4	107 +++	73 +++			
44	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Macrobrachium nipponense</i>												
45	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Palaemon paticidens</i>												
46	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Procambarus clarkii</i>												
47	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Ctenis sp.</i>												
48	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Torleya japonica</i>												
49	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Acentrella gomoi</i>												
50	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Baetis salicinctus</i>	71	+++	16 +++	451 +++	5 +++	106 ++	11 +++	23 +++	17 +++			
51	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Baetis taeniocentrus</i>												
52	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Baetis thermicus</i>												
53	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Cloeon sp.</i>	197											
54	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Tanibaetis atrebatinus orientalis</i>												
55	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Tanibaetis flexilemora</i>												
56	節足動物門	有節目	汎有脚目	カワニナ科	カワニナ	<i>Ecdyonurus yoshidae</i>												

(次のページへ続く)

表 III-14(2) 底生動物の地点別出現状況 (10月)

No.	門	綱	目	科	種名	砂丘等川		藪福寺川		尾崎橋		和田堀橋		井の頭橋		神田川						
						種名	学名	種名	学名	種名	学名	種名	学名	種名	学名	種名	学名					
53	(節足動物門)	(昆虫綱)	トンボ目	イトトンボ科	<i>Paraceron</i> sp.	7	++															
54				イトトンボ科	<i>Cesnaigrionidae</i> gen. sp.	9	++++															
55				イトトンボ科	<i>Anax parthenope julius</i>																	
56				イトトンボ科	<i>Meligethes viridicinctus</i>																	
57				イトトンボ科	<i>Stenobothrus abaratae</i>																	
58				イトトンボ科	<i>Anotagaster seboldi</i>																	
59				イトトンボ科	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>	53	++++															
60				イトトンボ科	<i>Orthetrum melania melania</i>																	
61			カメムシ目	イトトンボ科	<i>Sympetrum</i> sp.																	
62				イトトンボ科	<i>Aquarius paludum paludum</i>																	
63				イトトンボ科	<i>Meaeraris hiarro</i>																	
64			トンボ目	イトトンボ科	<i>Ceridae</i> gen. sp.																	
65			トンボ目	イトトンボ科	<i>Statis japonica</i>																	
66			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
67			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
68			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
69			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
70			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
71			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
72			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
73			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
74			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
75			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
76			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
77			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
78			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
79			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
80			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
81			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
82			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
83			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
84			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
85			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
86			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
87			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
88			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
89			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
90			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
91			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
92			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
93			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
94			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
95			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
96			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
97			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
98			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
99			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
100			トンボ目	イトトンボ科	<i>Chironomus</i> sp.																	
合計	7門	10綱	25目	54科	種類数合計 (地点・方法別)	43	35	25	27	40	30	36	25	39	28	35	48	38	35	35	47	
					個体数合計 (地点/0.27m <sup>2</sup> )	7,526	-	301	-	1,215	-	2,048	-	1,605	-	4,412	-	1,363	-	1,363	-	2,034
					種類数合計 (地点別、定性+定量)	47	54	49	41	41	46	46	51	51	47	47	41	41	41	41	41	53
					個体数合計 (地点別、定性+定量)	47	54	49	41	41	46	46	51	51	47	47	41	41	41	41	41	53

種名は令和7年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト(2025年11月27日)に準拠している。  
 定性調査の個体数 +: 1~2個体, ++: 3~10個体, +++: 11~25個体, ++++: 26個体以上  
 網掛けセル: 種の同定に至らなかった生物について、同目、同科または同属の種が確認された場合、1種として数えないことを示す。

③ 重要種

地点別の重要種確認状況を表 III-15 および図 III-4 に示す。

重要種としては、テナガエビ、スジエビ、ネグロセンブリの合計3種が確認された。

テナガエビ及びスジエビは、いずれも善福寺川の上池と下池の間（Z-1）のみで確認された。

ネグロセンブリは神田川の井の頭線車庫脇（K-1）のみで確認された。

表 III-15 底生動物重要種確認地点

No.	種名	重要種		妙正寺川	善福寺川						神田川		
		環境省 RL	東京都 RDB	松下橋	上池と 下池の間	寺分橋	井荻橋	春日橋	尾崎橋	和田堀橋	井の頭線 車庫脇	鎌倉橋	方南 第一橋
				M-1	Z-1	Z-2	Z-4	Z-6	Z-7	Z-9	K-1	K-3	K-5
1	テナガエビ		留		●◆								
2	スジエビ		留		●◆								
3	ネグロセンブリ		VU							●◆			
	合計種数	0	3	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0

\*1 ●は8月調査、◆は10月調査での確認を示す。

\*2 重要種の選定基準は以下に示すとおりとした。

□天然記念物：「文化財保護法（昭和25年法律第214号 最終改正：令和3年法律22号）」で記載された種。

該当種なし

□種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年法律第75号 最終改正：平成29年法律第51号）」で指定された種。

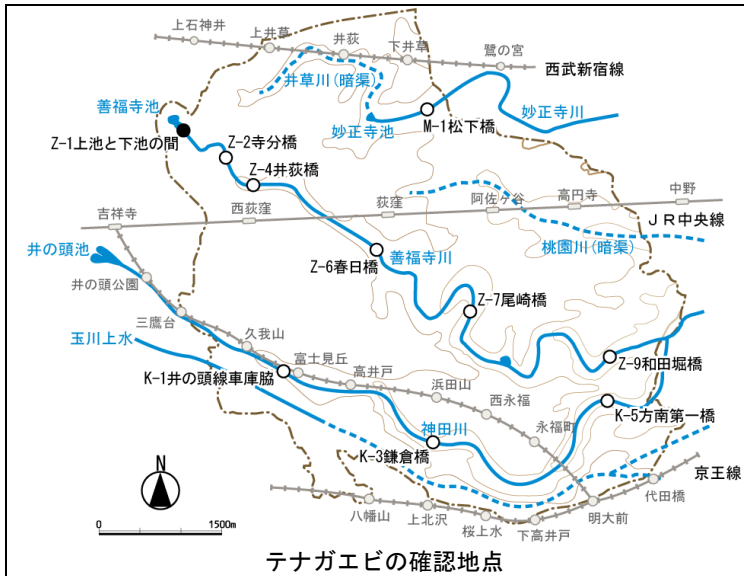
該当種なし

□環境省RL：「レッドリスト2020（令和2年3月27日 環境省）」または「海洋生物レッドリスト（平成29年3月21日 環境省）」で記載された種。

EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群

□東京都RDB：「東京都レッドデータブック（本土部）2023（令和5年3月 東京都）」で記載された種。

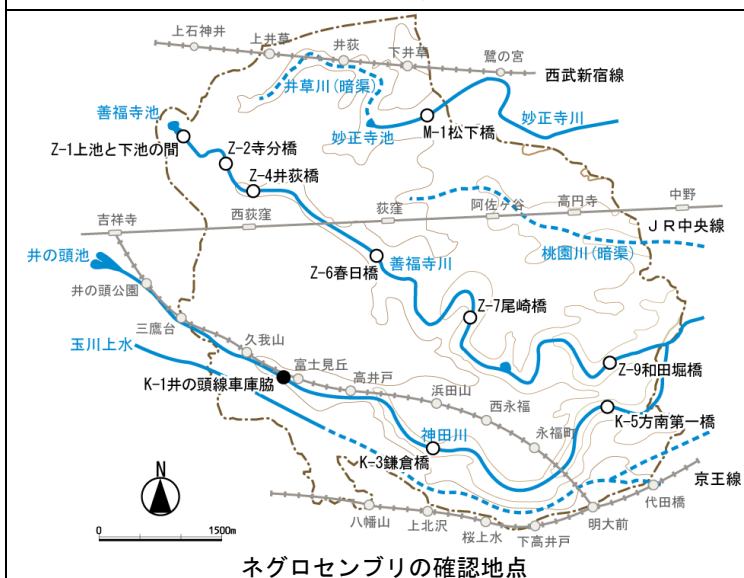
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 留：留意種



**テナガエビ**  
善福寺川 上池と下池の間 (Z-1) 10月



**スジエビ**  
善福寺川 上池と下池の間 (Z-1) 10月



**ネグロセンブリ**  
神田川 井の頭線車庫脇 (K-1) 10月

\*●は確認された地点、○は確認されなかった地点を示す。

図 III-4 底生動物の重要種の確認地点

#### ④ 外来種

地点別の外来種確認状況を表 III-16 および図 III-5 に示す。

外来種は合計 10 種が確認された。このうち「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」の掲載種として、ハブタエモノアラガイ（その他の総合対策外来種）、タイワンシジミ（その他の総合対策外来種）、フロリダマミズヨコエビ（その他の総合対策外来種）、アメリカザリガニ（緊急対策外来種）の 4 種が確認された。

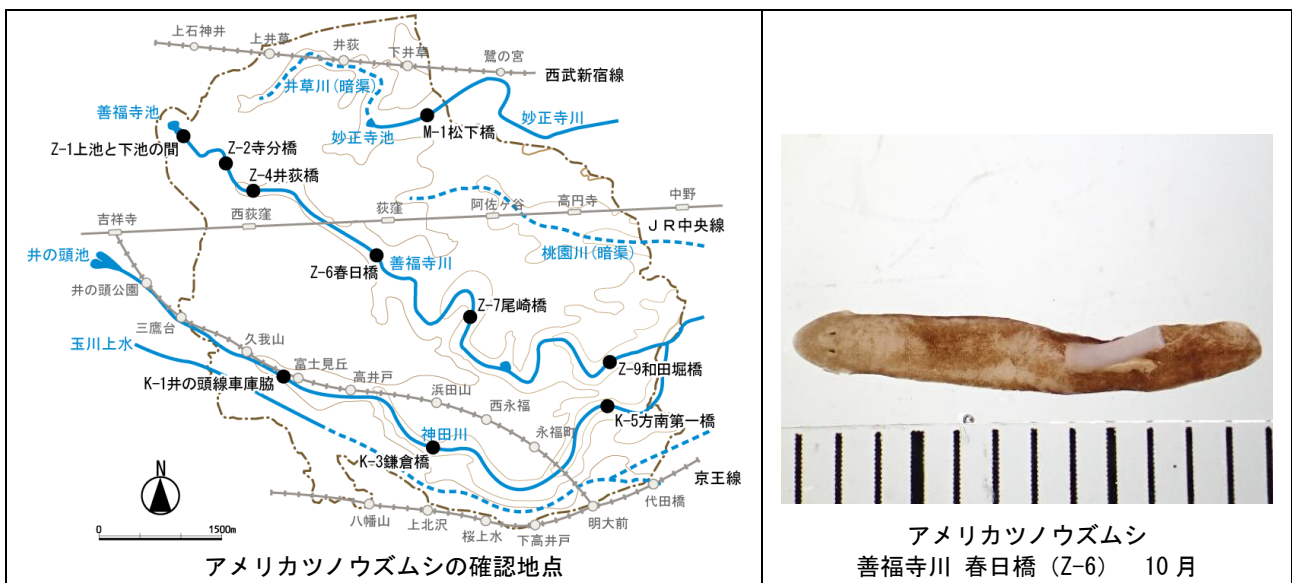
フロリダマミズヨコエビは善福寺川および神田川の全地点で確認された。近年全国的に確認されるようになった外来種であり、杉並区内の河川にも広く定着しているものと考えられる。

アメリカザリガニは善福寺川の全地点および神田川の 2 地点で確認された。

表 III-16 底生動物の外来種

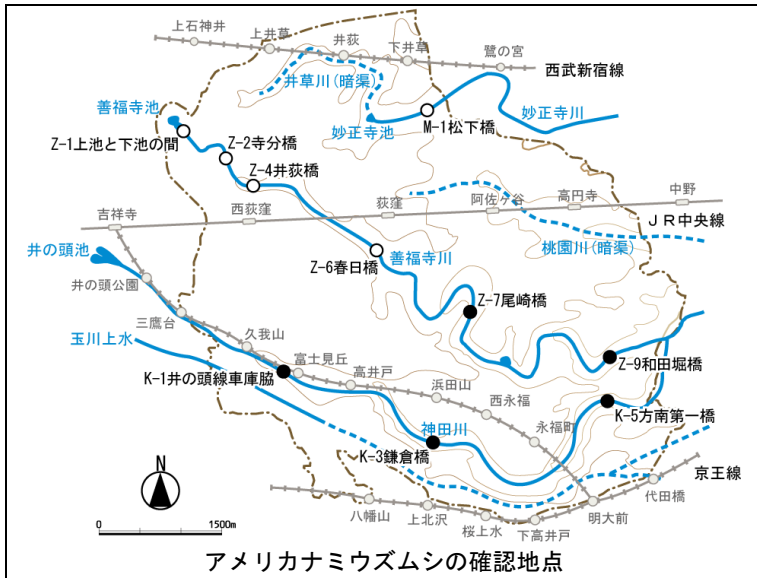
No.	種名	外来種選定基準			妙正寺川							善福寺川			神田川		
		特定外来	被害防止	水国L	妙正寺川		善福寺川		善福寺川			神田川		方南第一橋			
					M-1	Z-1	Z-2	Z-4	Z-6	Z-7	Z-9	K-1	K-3	K-5			
1	アメリカツノウズムシ			国外	◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆
2	アメリカナミウズムシ			国外						●	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆
3	コシダカヒメモノアラガイ			国外									◆◆	●		◆	
4	ハブタエモノアラガイ		総合(その他)	*		◆	◆	◆◆									
5	サカマキガイ			国外	◆◆		◆◆	◆◆	●			●					
6	ヒロマキミズマイマイ			国外	●		●	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆
7	タイワンシジミ		総合(その他)	*			●					◆◆	●	◆◆	◆◆	◆◆	
8	フロリダマミズヨコエビ		総合(その他)	*		◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆
9	カワリヌマエビ属 *2				◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆
10	アメリカザリガニ	条件付特定	緊急	*		◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	◆◆	●		
合計種数		1	4	9	4	5	8	7	6	6	8	8	8	8	8	7	

\*1 ●は8月調査、◆は10月調査での確認を示す。  
 \*2 以下の選定基準には該当しないものの、「侵入生物データベース（国立研究開発法人 国立環境研究所）」に掲載されているため、外来種と判断した。  
 \*3 外来種の選定基準は以下に示すとおりとした。  
 □特定外来：「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律施行令（平成17年政令第169号 最終改正：令和2年政令第281号）」で指定された種。  
 ・特定：特定外来生物  
 □被害防止：「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（平成27年3月26日 環境省）」で記載された種。  
 ・緊急：緊急対策外来種 ・その他（総合）：その他の総合対策外来種  
 □水国L：「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」の外来種リスト（最終更新：令和7年10月10日）に掲載された種。  
 ・国外：国外外来種 \*：上位のリストとカテゴリーが重複する種

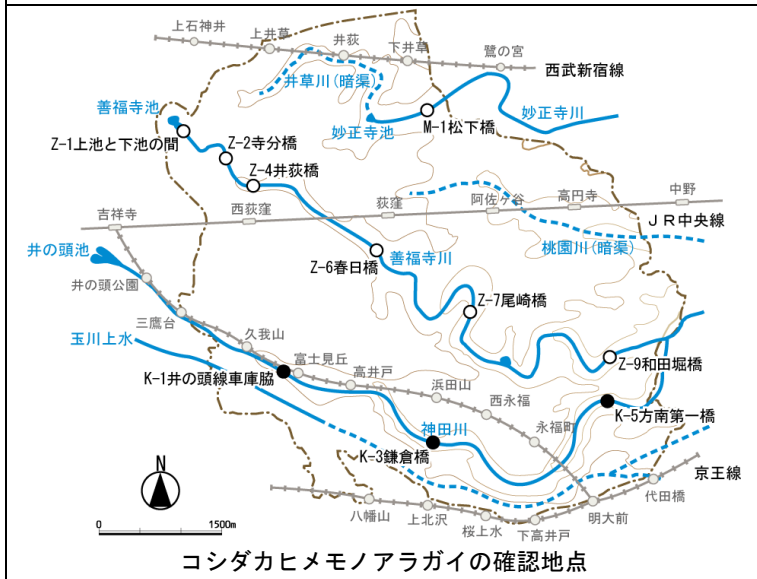


\*●は確認された地点、○は確認されなかった地点を示す。

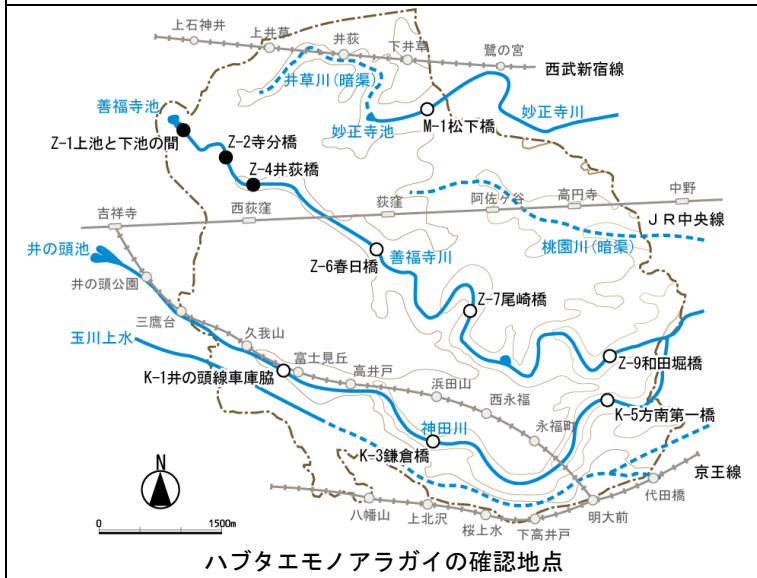
図 III-5(1) 底生動物の外来種の確認地点



アメリカナミウズムシ  
善福寺川 春日橋 (Z-6) 10月



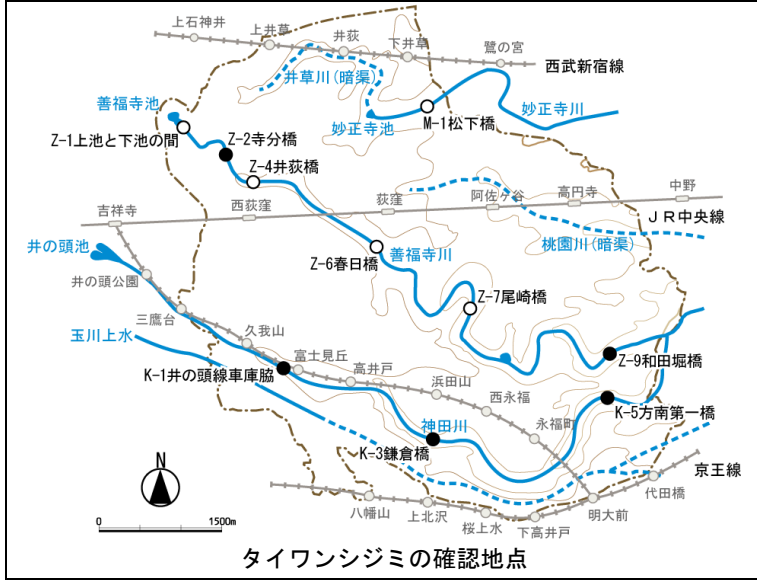
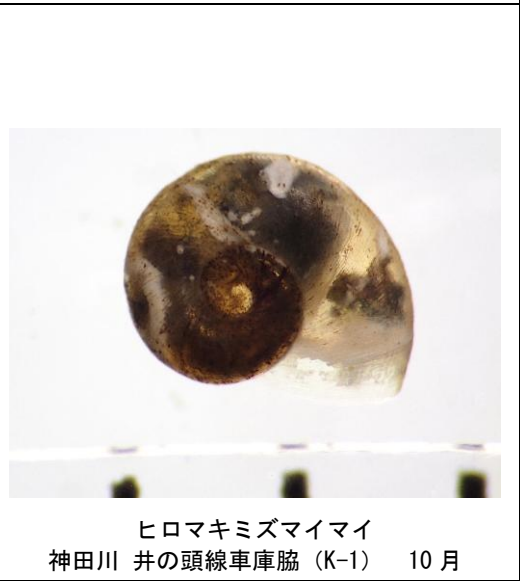
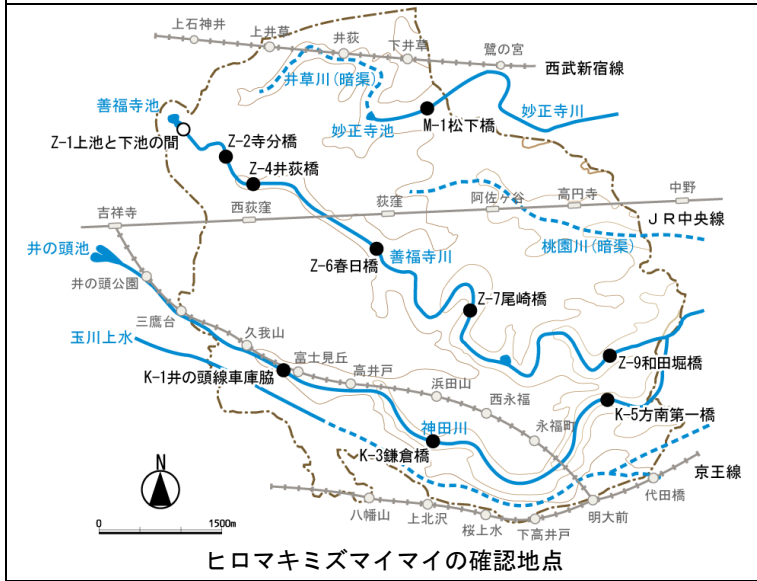
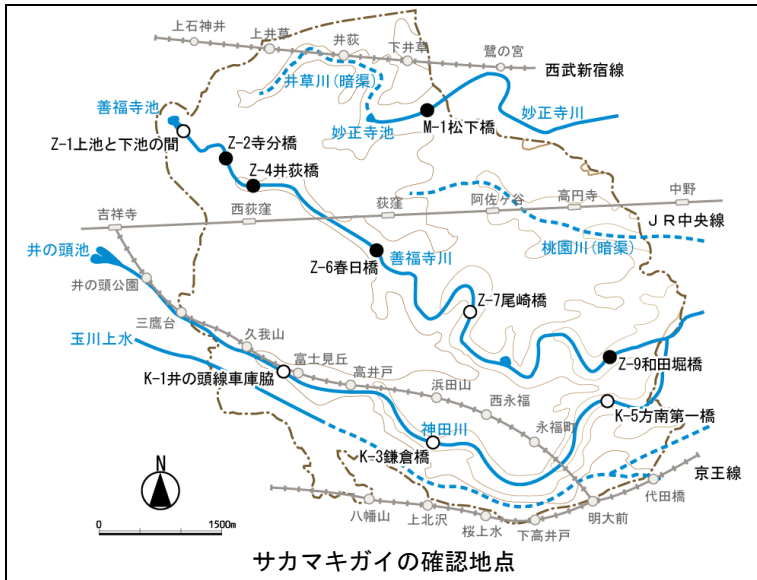
コシダカヒメモノアラガイ  
神田川 方南第一橋 (K-5) 10月



ハブタエモノアラガイ  
善福寺川 寺分橋 (Z-2) 10月

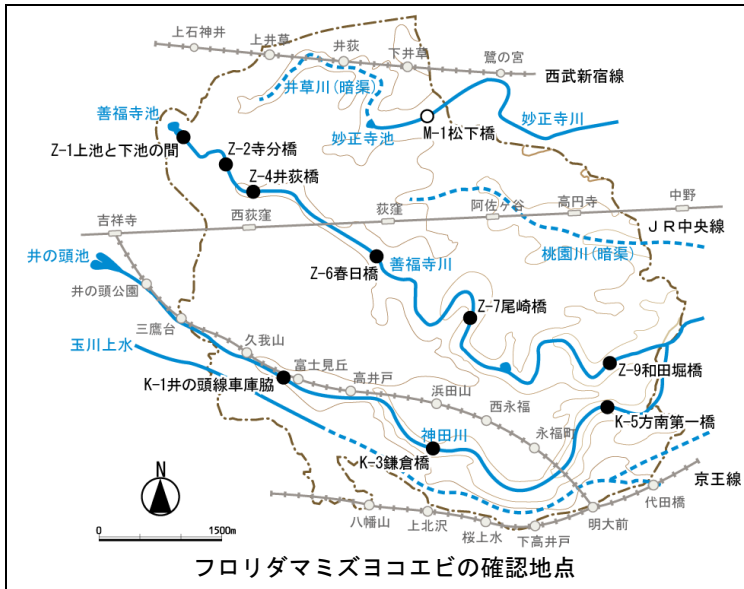
\*●は確認された地点、○は確認されなかった地点を示す。

図 III-5(2) 底生動物の外来種の確認地点

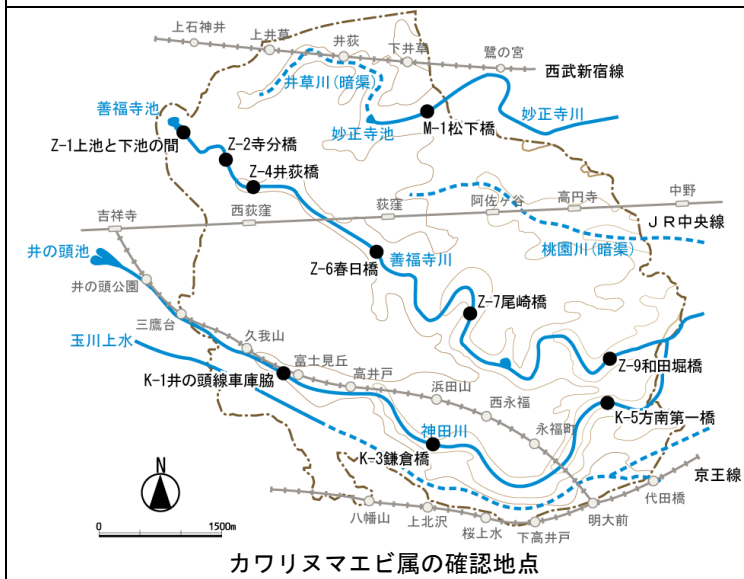


\*●は確認された地点、○は確認されなかった地点を示す。

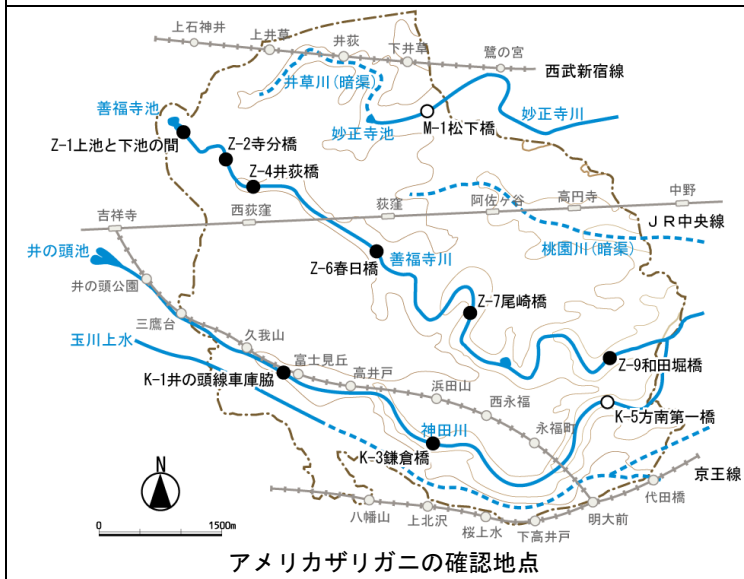
図 III-5 (3) 底生動物の外来種の確認地点



フロリダミズヨコエビ  
善福寺川 春日橋 (Z-6) 10月



カワリヌマエビ属  
善福寺川 春日橋 (Z-6) 10月



アメリカザリガニ  
神田川 井の頭線車庫脇 (K-1) 10月

\*●は確認された地点、○は確認されなかった地点を示す。

図 III-5(4) 底生動物の外来種の確認地点

## 2) 底生動物の指標生物による生物学的水質判定

第一次調査では、底生動物は水質判定を主題として行われており、当時日本全国で行われていた河川の底生動物は、有機汚濁の生物学的水質判定による評価が主流であった。そのため、初期の水質判定方法（環境庁水質保全局, 1985）と第九次調査で用いた簡易法（全国水生生物調査）とでは、指標生物の扱いが異なる。

また、同じ簡易法であっても改訂によって指標生物種の変更が度々行われた。近年の改訂では、ウズムシ類としていた指標生物がナミウズムシに限定され、アメリカツノウズムシやアメリカナミウズムシなどの外来種が指標生物から除外された。また、ヨコエビ類も追加されたが、外来種のフロリダマミズヨコエビは対象外となっている。表 III-17 に現行の簡易法による指標生物 29 種をまとめた。

杉並区の調査では、第一次（昭和 57 年度）および第二次（昭和 63 年度）は Beck・津田法、第三次（平成 6 年度）～第六次（平成 21 年度）は初期の簡易法、第七次（平成 27 年度）～第九次（令和 7 年度）は現行の簡易法を用いている。

表 III-17 全国水生生物調査の指標生物（現行） 「全国水生生物調査のページ」（環境省）を基に作成

水質階級	No.	指標生物
水質階級Ⅰ きれいな水	1	アミカ類
	2	ナミウズムシ
	3	カワゲラ類
	4	サワガニ
	5	ナガレトビケラ類
	6	ヒラタカゲロウ類
	7	ブユ類
	8	ヘビトンボ
	9	ヤマトビケラ類
	10	ヨコエビ類（フロリダマミズヨコエビを除く）
水質階級Ⅱ ややきれいな水	11	イシマキガイ（汽水）
	12	オオシマトビケラ
	13	カワニナ類
	14	ゲンジボタル
	15	コオニヤンマ
	16	コガタシマトビケラ類
	17	ヒラタドロムシ類
	18	ヤマトシジミ（汽水）
水質階級Ⅲ きたない水	19	イソコツブムシ類（汽水）
	20	タニシ類
	21	ニホンドロソコエビ（汽水）
	22	シマイシビル
	23	ミズカマキリ
	24	ミズムシ
水質階級Ⅳ とてもきたない水	25	アメリカザリガニ
	26	エラミミズ
	27	サカマキガイ
	28	ユスリカ類
	29	チョウバエ類

底生動物の定性調査結果と最新の指標種を用いて生物学的水質判定を行った結果を表 III-18 および表 III-19 に示す。

最新の簡易法では、確認された個体数の多い種を2種まで（ただし、同じ程度の個体数の場合は最大3種まで）●（2点）、少ない種を○（1点）として記録し、水質階級ごとの点数の合計を算出して、一番数値の大きいランクをその地点の水質判定結果とする。

のべ20地点（10地点×2回）の判定結果は、Ⅰ（きれいな水）が0地点、Ⅱ（ややきれいな水）が0地点、Ⅲ（きたない水）が6地点、Ⅳ（とてもきたない水）が14地点であり、ほとんどの地点が良好ではない水質と判定された。

表 III-18 底生動物の簡易法による生物学的水質判定結果（一覧）

河川名	地点名	地点番号	所在地	水質階級								
				8月				10月				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	
妙正寺川	松下橋	M-1	下井草3丁目				●					●
善福寺川	上池と下池の間	Z-1	善福寺2丁目				●					●
	寺分橋	Z-2	善福寺1丁目				●					●
	井荻橋	Z-4	西荻北3丁目				●					●
	春日橋	Z-6	荻窪2丁目			●					●	
	尾崎橋	Z-7	成田東2丁目				●					●
	和田堀橋	Z-9	和田2丁目				●					●
神田川	井の頭線車庫脇	K-1	久我山2丁目			●						●
	鎌倉橋	K-3	浜田山1丁目				●				●	
	方南第一橋	K-5	和泉4丁目			●					●	
合 計				0	0	3	7	0	0	3	7	

表 III-19 底生動物の簡易法による生物学的水質判定結果

水質階級	指標生物	妙正寺川		善福寺川										神田川								
		松下橋		上池と下池の間		寺分橋		井萩橋		春日橋		尾崎橋		和田堀橋		井の頭線車庫脇		鎌倉橋		方南第一橋		
		M-1		Z-1		Z-2		Z-4		Z-6		Z-7		Z-9		K-1		K-3		K-5		
		8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	
I	アミカ類																					
	ナミウズムシ																					
	カワゲラ類																					
	サワガニ																					
	ナガレトビケラ類																					
	ヒラタカゲロウ類													○			○					
	ブユ類		○	○	○				○	○	○			○	○	●						
	ヘビトンボ																					
	ヤマトビケラ類																					
	ヨコエビ類 (フロリダマミズヨコエビを除く)																					
II	イシマキガイ (汽水)																					
	オオシマトビケラ																					
	カワナナ類			○	○	○	○			○	○	○	○	○								
	ゲンジボタル																					
	コオニヤンマ							○						○			○					
	コガタシマトビケラ類			○		○		○	○	○	○	●	●	○	○	○	●	○				
ヒラタドロムシ類																					○	
ヤマトシジミ (汽水)																						
III	イソコツブムシ類 (汽水)																					
	タニシ類													○	○				○			
	ニホンドロソコエビ (汽水)																					
	シマイシビル	○	○			○	○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●
	ミズカマキリ																					
ミズムシ			●	●	○	○	●	●	●	●	○	○	●	○	●	○	●	○	●	●	○	○
IV	アメリカザリガニ			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	エラミミズ					●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	サカマキガイ	○	●			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ユスリカ類	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	チョウバエ類	●	○			○	○			○												
点数	I：きれいな水	0	1	1	1	0	0	0	1	1	1	0	1	2	2	0	1	0	0	0	0	
	II：ややきれいな水	0	0	2	1	2	1	2	1	2	2	3	3	2	2	1	2	2	0	1	0	
	III：きたない水	1	1	2	2	2	2	3	3	4	4	2	2	4	3	3	2	3	4	3	3	
	IV：大変きたない水	5	5	3	3	6	7	6	5	4	4	4	4	5	4	3	4	4	3	3	3	
	判定結果	IV	IV	IV	IV	IV	IV	IV	IV	IV	III	III	IV	IV	IV	IV	III	IV	IV	III	III	III

●：数の多い種 ○：出現した種 ●は2種まで (最大3種) ●は2点、○は1点  
 判定は最も数が多い階級をその地点の評価値とするが、数値が同じ場合は、よりきれいな方のランクとする。



シロタニガワカゲロウ(ヒラタカゲロウ類) (階級Ⅰ)  
神田川 井の頭線車庫脇(K-1) 10月



ツノマユブユ属(ブユ類) (階級Ⅰ)  
善福寺川 上池と下池の間(Z-1) 10月



カワニナ種群(カワニナ類) (階級Ⅱ)  
善福寺川 尾崎橋(Z-7) 10月



コガタシマトビケラ(コガタシマトビケラ類) (階級Ⅱ)  
神田川 井の頭線車庫脇(K-1) 10月



シマイシビル (階級Ⅲ)  
善福寺川 春日橋(Z-6) 10月



ミズムシ (階級Ⅲ)  
善福寺川 上池と下池の間(Z-1) 10月



エラミズ (階級Ⅳ)  
善福寺川 寺分橋(Z-2) 8月



カワリユスリカ属(ユスリカ類) (階級Ⅳ)  
善福寺川 上池と下池の間(Z-1) 10月

写真 III-3 水質判定の指標種となる底生動物

### 3) 既往調査との比較

河川別・分類群別の出現種類数の経年変化を表 III-20 に、河川別の出現種類数の経年変化を図 III-6 に示す。また、底生動物による生物学的水質判定結果の経年変化を表 III-21 に、経年確認種一覧を表 III-22 に示す。

全 9 回の調査で確認された底生動物の河川別種類数は、妙正寺川が 83 種、善福寺川が 129 種、神田川が 120 種であった。各河川とも経年的な確認種類数は増加傾向にある。

表 III-20 底生動物の河川別分類群別出現種類数の経年変化

門名	綱名/目名	妙正寺川									善福寺川									神田川								
		第一 次	第二 次	第三 次	第四 次	第五 次	第六 次	第七 次	第八 次	第九 次	第一 次	第二 次	第三 次	第四 次	第五 次	第六 次	第七 次	第八 次	第九 次	第一 次	第二 次	第三 次	第四 次	第五 次	第六 次	第七 次	第八 次	第九 次
海綿	普通海綿綱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
刺胞	ヒドロ虫綱	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
扁形	有棒状体綱	0	0	0	0	1	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	1	2	2	3	0	0	0	0	0	2	1	1
紐形	有針綱	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
動物	有針綱以外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
線形動物門		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	
軟体動物	腹足綱	0	2	2	2	2	4	3	2	4	4	4	4	3	5	6	5	7	7	4	3	4	2	3	4	3	3	
	二枚貝綱	0	1	1	1	1	0	1	0	1	0	2	1	3	2	2	2	3	3	0	1	3	2	2	2	2	2	
環形動物	ミミズ綱	1	1	2	2	3	2	1	4	7	3	1	3	3	5	4	5	9	12	1	1	3	1	6	3	2	7	
	ヒル綱	0	2	1	1	1	1	1	2	2	3	2	2	3	3	3	4	5	5	2	2	2	4	3	3	3	2	
節足動物門	クモ綱	0	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	
	軟甲綱	0	1	1	2	2	2	3	1	1	1	3	5	6	6	8	7	6	1	0	2	3	4	4	4	4	5	
	昆虫綱 (下記10目の合計)	1	3	4	8	11	16	19	15	34	4	2	9	8	12	29	40	39	57	2	3	5	8	12	28	35	34	
	カゲロウ目	0	1	0	1	3	6	5	1	8	1	1	1	1	3	6	7	6	9	0	1	1	2	3	4	7	7	
	トンボ目	0	0	2	1	1	1	3	3	6	0	0	0	2	3	1	4	4	6	0	0	0	1	2	1	4	4	
	カワゲラ目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
	カメムシ目	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	3	3	2	4	0	0	0	0	1	1	4	3	1	
	ヘビトンボ目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
	アミメカゲロウ目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
	トビケラ目	0	0	0	0	1	1	0	2	0	1	0	0	2	2	4	3	6	6	0	0	1	1	3	5	6	5	
	チョウ目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ハエ目	1	2	2	5	5	7	10	9	20	2	1	4	2	3	15	23	21	31	2	2	3	3	2	13	12	15	
	コウチュウ目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	
	種類数合計	2	10	11	16	22	28	28	29	53	17	11	24	25	36	52	68	73	97	10	10	19	20	37	48	52	56	
	種類数合計 (河川別)	83									129									120								

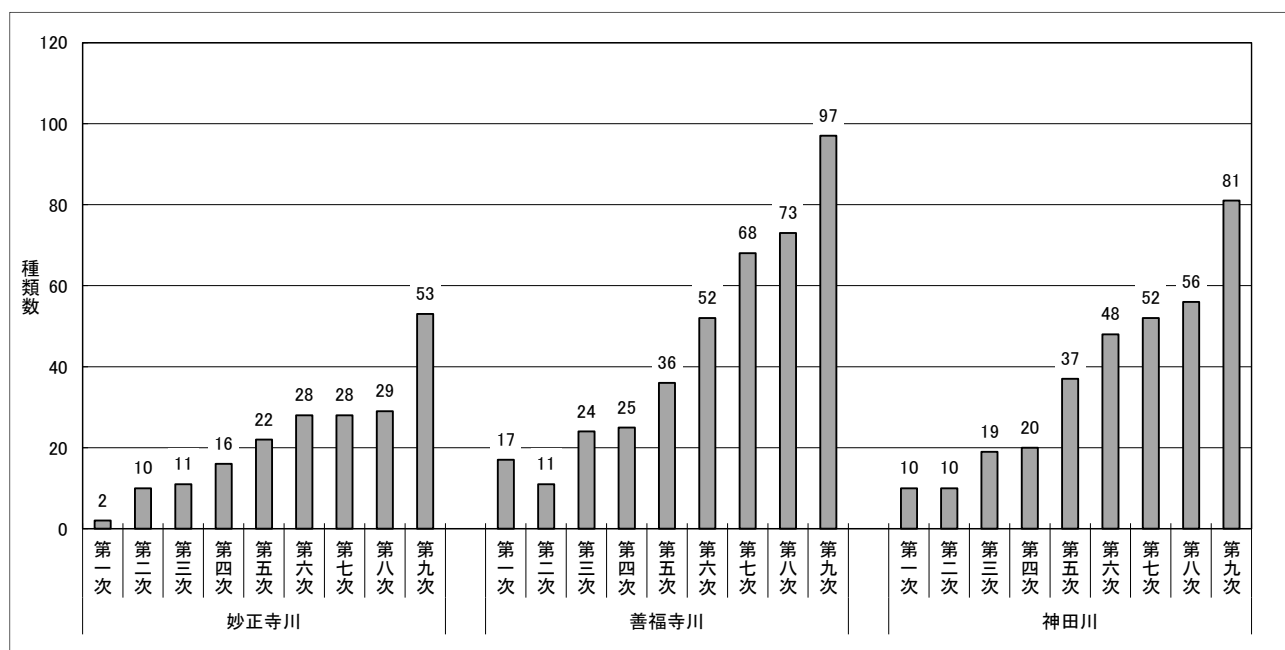


図 III-6 底生動物の出現種類数の経年変化

表 III-21(1) 底生動物による生物学的水質判定結果の経年変化

調査年度	判定方法	善福寺川															
		妙正寺川		上池と下池の間		寺分橋		原寺分橋		井荻橋		神明橋		春日橋		尾崎橋	
		M-1		Z-1		Z-2		Z-3		Z-4		Z-5		Z-6		Z-7	
第一次調査	Beck・津田法	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月
第二次調査	Beck・津田法	IV	IV	III	III	IV	IV	—	—	II	II	—	—	—	—	—	—
第三次調査	簡易法(初期)	—	II	—	IV	—	III	—	—	—	III	—	—	—	—	—	—
第四次調査	簡易法(初期)	III/IV	III/IV	IV	IV	IV	IV	—	—	III	III	—	—	—	—	—	—
第五次調査	簡易法(初期)	IV	III	IV	IV	IV	IV	—	—	III	III	—	—	—	—	—	—
第六次調査	簡易法(初期)	III	III	IV	IV	III/IV	III	—	—	III	III	—	—	—	—	—	—
第七次調査	簡易法(現行)	I	IV	IV	IV	IV	IV	II	IV	III	III	—	—	—	—	—	—
第八次調査	簡易法(現行)	III	III	I	III	IV	IV	—	—	IV	IV	—	—	—	—	—	—
第九次調査	簡易法(現行)	IV	IV	IV	IV	IV	IV	—	—	IV	IV	—	—	—	—	—	—

表 III-21(2) 底生動物による生物学的水質判定結果の経年変化

調査年度	判定方法	善福寺川													
		宮下橋		和田堀橋		井の頭線車庫脇		錦橋		鎌倉橋		蔵下橋		方南第一橋	
		Z-8		Z-9		K-1		K-2		K-3		K-4		K-5	
第一次調査	Beck・津田法	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月
第二次調査	Beck・津田法	—	—	III	III	IV	III	—	—	IV	III	—	—	—	—
第三次調査	簡易法(初期)	—	—	—	III	—	III	—	—	—	III	—	—	—	—
第四次調査	簡易法(初期)	—	—	III/IV	III	III/IV	III	—	—	III	III/IV	—	—	—	—
第五次調査	簡易法(初期)	—	—	III	III	III	III	—	—	I	III	—	—	—	—
第六次調査	簡易法(初期)	—	—	III	III	III	III	—	—	II	III	—	—	—	—
第七次調査	簡易法(現行)	—	—	II	III	I	I	—	—	I	I	—	—	—	—
第八次調査	簡易法(現行)	III	IV	IV	III	III	III	III	III	III	II	IV	III	—	—
第九次調査	簡易法(現行)	—	—	III	III	IV	IV	—	—	IV	III	—	—	—	—

水質指標性 I: きれいいな水、II: ややきれいいな水、III: きたない水、IV: 大変きたない水、—: 指標性不明













モノアラガイ属  
神田川 方南第一橋(K-5) 10月



ヤドリミズミズ属  
妙正寺川 松下橋(M-1) 10月



トガリミズミズ属  
妙正寺川 松下橋(M-1) 10月



サホコカゲロウ  
善福寺川 春日橋(Z-6) 10月



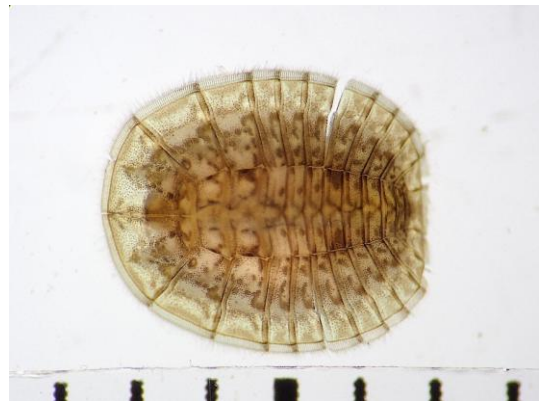
ウデマガリコカゲロウ  
神田川 方南第一橋(K-5) 10月



コオニヤンマ  
善福寺川 和田堀橋(Z-9) 10月



ヒメビケラ属  
善福寺川 尾崎橋(Z-7) 10月



クシゲマルヒラタドムシ  
神田川 方南第一橋(K-5) 10月

写真 III-4 その他の確認された底生動物

## (2) 付着藻類

### 1) 出現種とその特徴

#### ① 出現種の状況

付着藻類の分類群別種類数を表 III-23 に、河川別の出現種を表 III-24 に示す。

8月及び10月の2回の調査において、妙正寺川1地点、善福寺川6地点、神田川3地点、計10地点で実施した定量調査及び定性調査並びに目視確認により、藍藻綱9種、紅藻綱5種、珪藻綱86種、緑藻綱11種の合計112種が確認された。8月には藍藻綱7種、紅藻綱4種、褐藻綱1種、珪藻綱80種、緑藻綱11種の計103種、10月には藍藻綱7種、紅藻綱5種、褐藻綱1種、珪藻綱66種、緑藻綱9種の計88種が確認された。

河川別の確認種数は、調査地点が1地点の妙正寺川が28種、6地点の善福寺川が99種、3地点の神田川が89種で、源流地点からの河川距離が長い善福寺川及び神田川で種数が多く、距離が長い河川では環境状況の多様性が大きくなることを反映している。また、地点数が多いほど確認種数は多くなるのが一般的な傾向で、調査地点の少ない神田川の確認種数が善福寺川に類似しているのは、玉川上水を含めると神田川の距離は善福寺川より長く、より多様な環境となっているためだと考えられる。

表 III-23(1) 付着藻類の分類群別種類数 (8月)

分類群	妙正寺川		善福寺川					神田川			合計
	松下橋	上池と下池の間	寺分橋	井荻橋	春日橋	尾崎橋	和田堀橋	井の頭線車庫脇	鎌倉橋	方南第一橋	
	M-1	Z-1	Z-2	Z-4	Z-6	Z-7	Z-9	K-1	K-3	K-5	
藍藻綱	2	3	2	3	3	4	3	3	2	0	7
紅藻綱	0	0	3	2	2	3	2	2	0	0	4
褐藻綱	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
珪藻綱	12	10	21	37	40	45	48	47	34	34	80
緑藻綱	6	3	5	5	6	7	7	3	4	7	11
合計	20	16	31	47	52	59	60	55	40	41	103

表 III-23(2) 付着藻類の分類群別種類数 (10月)

分類群	妙正寺川		善福寺川					神田川			合計
	松下橋	上池と下池の間	寺分橋	井荻橋	春日橋	尾崎橋	和田堀橋	井の頭線車庫脇	鎌倉橋	方南第一橋	
	M-1	Z-1	Z-2	Z-4	Z-6	Z-7	Z-9	K-1	K-3	K-5	
藍藻綱	5	3	1	3	2	2	5	1	1	2	7
紅藻綱	1	0	2	4	3	3	2	3	2	1	5
褐藻綱	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1
珪藻綱	10	9	28	40	36	35	27	36	31	33	66
緑藻綱	5	1	3	4	5	7	5	4	4	6	9
合計	21	13	34	52	47	47	39	44	39	42	88

表 III-24(1) 付着藻類の河川別出現種類数

No.	綱	目	科	種名		浮遊 性種	妙正寺川		善福寺川		神田川			
				学名	和名		8月	10月	8月	10月	8月	10月		
1	藍藻綱	クロオコックス目	クロオコックス科	<i>Chroococcus</i> sp.	クロオコックス			○			○			
2				<i>Microcystis wesenbergii</i>	ミクロキスティス	●							○	
3			エントフィサリス科	<i>Entophysalis</i> sp.	エントフィサリス			○		○				
4		ネンジュモ目	ヒゲモ科	<i>Calothrix</i> sp.	ヒゲモ			○	○	○	○			
5				<i>Homoeothrix janthina</i>	ビロウドラソウ			○	○	○	○	○		
6			ユレモ科	<i>Lyngbya</i> spp.	カタサヤユレモ			○	○	○	○	○	○	
7				<i>Oscillatoria</i> sp.	ユレモ					○	○	○		
8				<i>Phormidium</i> sp.	サヤユレモ					○	○			
9				<i>Chamaesiphon</i> sp.	コンボウランソウ					○				
10		紅藻綱	オオイシソウ目	オオイシソウ科	<i>Compsopogon coeruleus</i>	オオイシソウ			◎	○	○	○	○	
11	アクロカエチウム目	オオジュイネラ科	<i>Audouinella</i> sp.	ベニイトモ				○	○	○	○			
12	カワモズク目	カワモズク科	<i>Batrachospermum japonicum</i>	ニホンカワモズク					◎					
13	チスジノリ目	チスジノリ科	<i>Nemalionopsis tortuosa</i>	オキチモズク				◎	◎					
14	ペニマダラ目	ペニマダラ科	<i>Hildenbrandia rivularis</i>	タンスイペニマダラ				○	◎			○		
15	褐藻綱	シオミドロ目	リトデルマ科	<i>Heribaudiella fluviatilis</i>	イズミシノカワ			◎	◎			◎		
16	珪藻綱	中心目	タラシオシラ科	<i>Cyclotella asterocostata</i>	タイコケイソウ	●						○	○	
17				<i>Cyclotella meneghiniana</i>	タイコケイソウ	●				○			○	
18				<i>Discostella stelligera</i>	ホシノタイコケイソウ	●						○		
19		メロシラ科	<i>Aulacoseira ambigua f.japonica</i>	スジタルケイソウ	●							○		
20			<i>Aulacoseira granulata</i>	スジタルケイソウ	●				○	○	○	○	○	
21			<i>Melosira undulata</i>	チャヅツケイソウ	●					○	○	○	○	
22			<i>Melosira varians</i>	チャヅツケイソウ				○		○	○	○	○	
23			<i>Pleurosigma laevis</i>	ジグザグオオメダケイソウ						○	○	○	○	
24			アナウルス科	<i>Hydrosera triquetra</i>	サンカクガサケイソウ					○	○	○	○	
25		羽状目	ディアトマ科	<i>Ctenophora pulchella</i>	ミバエハリケイソウ								○	
26	<i>Diatoma vulgare</i>			イタケイソウ									○	
27	<i>Fragilaria capitellata</i>		オビケイソウ						○				○	
28	<i>Fragilaria fasciculata</i>		オビケイソウ						○	○			○	
29	<i>Fragilaria rumpens</i>		オビケイソウ						○	○	○	○	○	
30	<i>Fragilaria vaucheriae</i>		オビケイソウ						○	○	○	○	○	
31	<i>Staurisira construens var. venter</i>		オビジュウジケイソウ					○	○			○	○	
32	<i>Tabellaria fenestrata</i>		ヌサガタケイソウ									○	○	
33	<i>Ulnaria pseudogailonii</i>		ハリケイソウ						○	○	○	○	○	
34	<i>Ulnaria ulna</i>		ハリケイソウ						○	○	○	○	○	
35	ユーノチア科	<i>Eunotia minor</i>	クシケイソウ					○	○	○	○	○		
36		<i>Eunotia monodon</i>	クシケイソウ					○	○	○	○	○		
37	ナビクラ科	<i>Amphipleura lindheimerii</i>	ケイソウモドキ					○	○	○	○	○		
38		<i>Amphora copulata</i>	ニセクチビルケイソウ					○	○	○	○	○		
39		<i>Amphora pediculus</i>	ニセクチビルケイソウ					○	○	○	○	○		
40		<i>Caloneis bacillum</i>	ニセフネケイソウ					○			○	○		
41		<i>Cymbella aspera</i>	クチビルケイソウ						○	○			○	
42		<i>Cymbella cistula</i>	クチビルケイソウ						○	○			○	
43		<i>Cymbella tumida</i>	クチビルケイソウ						○	○			○	
44		<i>Diploneis elliptica</i>	マユケイソウ						○				○	
45		<i>Encyonema minutum</i>	ハラミクチビルケイソウ						○	○	○	○	○	
46		<i>Gomphonema heterominita</i>	クサビフネケイソウ					○		○	○	○	○	
47	<i>Gomphonema acuminatum</i>	クサビケイソウ									○	○		
48	<i>Gomphonema augur</i>	クサビケイソウ						○			○	○		
49	<i>Gomphonema clavatum</i>	クサビケイソウ						○			○	○		
50	<i>Gomphonema gracile</i>	クサビケイソウ						○		○	○	○		
51	<i>Gomphonema inaequilongum</i>	クサビケイソウ					○	○	○	○	○	○		
52	<i>Gomphonema lagenula</i>	クサビケイソウ									○	○		
53	<i>Gomphonema parvulum</i>	クサビケイソウ					○	○	○	○	○	○		
54	<i>Gomphonema pseudoaugur</i>	クサビケイソウ					○				○	○		
55	<i>Gomphonema pseudosphaerophorum</i>	クサビケイソウ						○	○	○	○	○		
56	<i>Gomphonema truncatum</i>	クサビケイソウ						○			○	○		
57	<i>Gomphonema turris</i>	クサビケイソウ						○	○			○		
58	<i>Navicula cari</i>	フネケイソウ						○				○		
59	<i>Navicula confervacea</i>	フネケイソウ					○	○	○	○	○	○		
60	<i>Navicula cryptocephala</i>	フネケイソウ					○	○	○	○	○	○		
61	<i>Navicula cryptotenella</i>	フネケイソウ						○	○	○	○	○		
62	<i>Navicula decussis</i>	フネケイソウ							○			○		
63	<i>Navicula goeppertiana</i>	フネケイソウ						○	○	○	○	○		
64	<i>Navicula gregaria</i>	フネケイソウ						○	○	○	○	○		
65	<i>Navicula nipponica</i>	フネケイソウ						○	○	○	○	○		
66	<i>Navicula minima</i>	フネケイソウ					○	○	○	○	○	○		
67	<i>Navicula peregrina</i>	フネケイソウ									○	○		
68	<i>Navicula phyllepta</i>	フネケイソウ						○			○	○		
69	<i>Navicula rostellata</i>	フネケイソウ						○	○			○		
70	<i>Navicula schroeterii</i>	フネケイソウ						○			○	○		
71	<i>Navicula seminulum</i>	フネケイソウ						○	○	○	○	○		
72	<i>Navicula subminuscula</i>	フネケイソウ					○	○	○	○	○	○		
73	<i>Navicula suprinii</i>	フネケイソウ						○	○	○	○	○		
74	<i>Navicula trivialis</i>	フネケイソウ									○	○		
75	<i>Navicula veneta</i>	フネケイソウ					○	○	○	○	○	○		
76	<i>Pinnularia brauniana</i>	ハネケイソウ						○			○	○		
77	<i>Pinnularia gibba</i>	ハネケイソウ						○	○	○	○	○		
78	<i>Reimeria sinuata</i>	カイコマメケイソウ						○	○	○	○	○		
79	<i>Rhoicosphenia abbreviata</i>	マガリクサビケイソウ						○	○	○	○	○		
80	<i>Sellaphora japonica</i>	エリツキケイソウ					○				○	○		
81	<i>Sellaphora pupula</i>	エリツキケイソウ						○			○	○		
82	アクナンテス科	<i>Achnanthes hungarica</i>	マガリケイソウ									○	○	
83		<i>Achnanthes inflata</i>	マガリケイソウ									○	○	
84		<i>Achnanthes rostrata</i>	マガリケイソウ									○	○	
85		<i>Achnanthes rupestoides</i>	マガリケイソウ									○	○	
86		<i>Achnantheidium clevei</i>	ツメワカケイソウ						○	○	○	○	○	
87		<i>Achnantheidium delicatulum</i>	ツメワカケイソウ						○			○	○	
88		<i>Achnantheidium exiguum</i>	ツメワカケイソウ					○	○	○	○	○	○	
89		<i>Achnantheidium japonicum</i>	ツメワカケイソウ						○	○	○	○	○	
90		<i>Achnantheidium minutissimum</i>	ツメワカケイソウ					○	○	○	○	○	○	
91		<i>Achnantheidium saprophilum</i>	ツメワカケイソウ					○				○	○	
92	<i>Achnantheidium subhudsonis</i>	ツメワカケイソウ						○	○	○	○	○		
93	<i>Cocconeis placentula</i>	コバンケイソウ						○	○	○	○	○		
94	<i>Karayevia laterostrata</i>	ツブスジツメワカケイソウ						○	○	○	○	○		
95	<i>Planothidium frequentissimum</i>	フトスジツメワカケイソウ						○	○	○	○	○		
96	<i>Planothidium lanceolatum</i>	フトスジツメワカケイソウ						○	○	○	○	○		

(次のページへ続く)

表 III-24(2) 付着藻類の河川別出現種類数

No.	綱	目	科	種名		浮遊性種	妙正寺川		善福寺川		神田川				
				学名	和名		8月	10月	8月	10月	8月	10月			
97	珪藻綱	(羽状目)	ニッチア科	<i>Nitzschia amphibia</i>	ササノハケイソウ		○	○	○	○	○	○			
98				<i>Nitzschia fonticola</i>	ササノハケイソウ				○	○	○	○			
99				<i>Nitzschia inconspicua</i>	ササノハケイソウ				○	○	○	○			
100				<i>Nitzschia palea</i>	ササノハケイソウ					○	○		○		
101			スリレラ科	<i>Surirella angusta</i>	オオパンケイソウ				○						
102		緑藻綱	クロロコックム目	クロロコックム科	<i>Characium sp.</i>	カラキウム		○	○	○	○	○	○		
103						セネデスムス科	<i>Scenedesmus spp.</i>	イカダモ	●	○	○	○	○	○	○
104						アミミドロ科	<i>Pediastrum sp.</i>	クンショウモ	●					○	○
105				ヒビミドロ目	ヒビミドロ科	<i>Klebsormidium sp.</i>	クレブソルミディウム	●			○				
106				カエトフォラ目	カエトフォラ科	<i>Cloniophora sp.</i>	クロニオフォラ				○	○	○	○	
107						<i>Stigeoclonium sp.</i>	キヌミドロ					○			
-						<i>Chaetophoraceae gen. sp.(basal cell)</i>	カエトフォラ科 (基部細胞)					○	○	*○	*○
108			サヤミドロ目	サヤミドロ科	<i>Oedogonium spp.</i>	サヤミドロ		○	○	○	○	○	○		
109			ミドリゲ目	シオグサ科	<i>Chaetomorpha okamurai</i>	ミゾジュズモ				○	○		○		
110					<i>Cladophora glomerata</i>	カワシオグサ		◎	◎						
-					<i>Cladophora sp.</i>	シオグサ			*○	*○	○	○	○	○	
111					<i>Rhizoclonium sp.</i>	ネダシグサ			○			○	○	○	
112		ホシミドロ目			ホシミドロ科	<i>Spirogyra sp.</i>	アオミドロ				○	○	○	○	
合計	5綱	17目	28科	112種			20	21	88	77	75	62			
							種類数 (調査月別)								
							種類数 (2回の合計)		28	99	89				

種名は平成26年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト(2015年1月14日)に準拠している。  
 ○は定量・定性試料で確認された種類、◎は現地調査時の目視のみで確認した種類(標本の顕微鏡観察により確認)を示す。  
 -, \*: 種の同定に至らなかった生物について、同目、同科または同属の種が確認された場合、1種として数えないことを示す。

② 地点別出現種の状況

a. 出現種類数

各地点の出現種類数について、定量と定性の調査結果を図 III-7 に示す。

定量調査は石の上側の比較的均一な部分から、定性調査は表面以外の流速や光条件など微環境が異なる部分から採取するため、定量調査より定性調査の方が確認される種類が多い傾向が見られる。

定量調査の確認種類数は、妙正寺川では8月に11種に対して10月は14種であった。善福寺川では8月に8種～47種で、10月は11種～35種であった。神田川では8月に27種～34種で、10月は28種～31種であった。

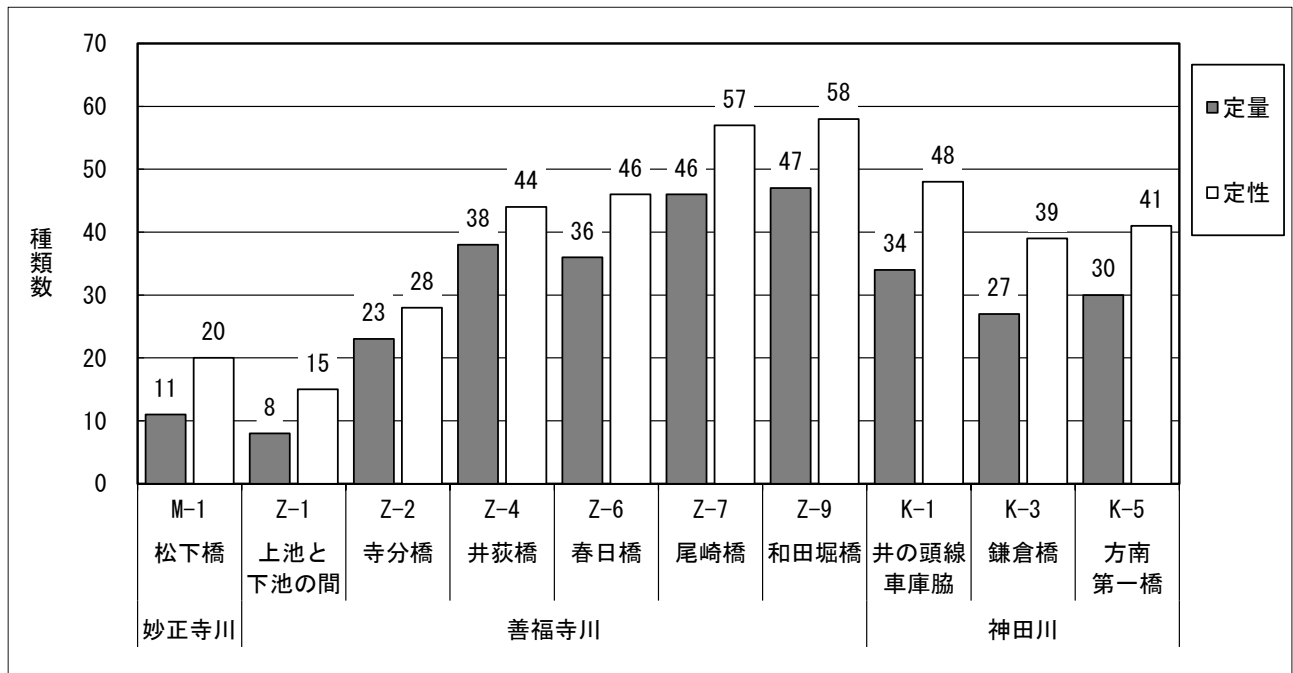


図 III-7(1) 付着藻類の地点別出現種類数(8月)

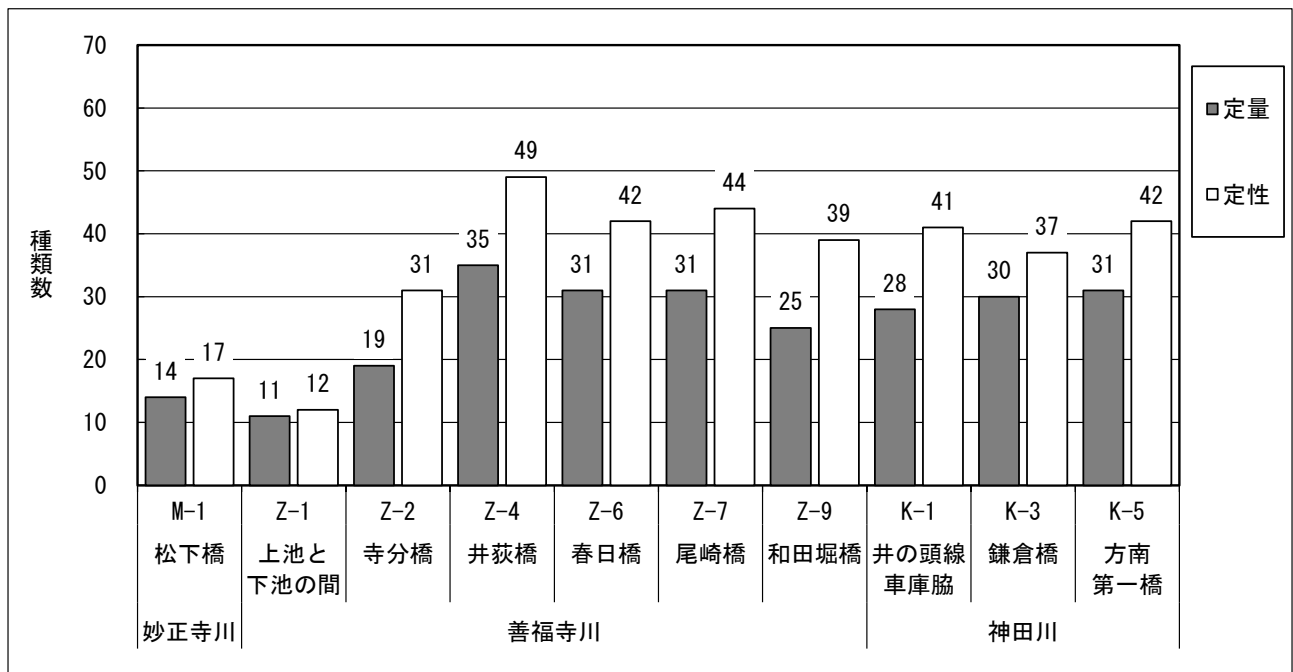


図 III-7(2) 付着藻類の地点別出現種類数(10月)

b. 優占種

付着藻類の地点別優占種を表 III-25 に示す。

最も多くの地点で出現頻度第1位の優占種になったのは、珪藻綱のフネケイソウ *minima* 種 (*Navicula minima*) で、善福寺川の中～下流及び神田川の地点において、8月と10月をあわせて6地点で優占種となった。それに次いで、同じく珪藻綱のチャヅツケイソウ *varians* 種 (*Melosira varians*) が善福寺川下流及び神田川の地点において、8月と10月をあわせて5地点で優占種となった。

藍藻綱のピロウドラソウ (*Homoeothrix janthina*) は、妙正寺川及び善福寺川の上流の地点において、8月と10月をあわせて4地点で優占種となった。特に善福寺川の上池と下池の間 (Z-1) では、両方の月においてピロウドラソウ (*H. janthina*) が95%以上を占めていた。ピロウドラソウ (*H. janthina*) は基質への付着力が強い糸状藍藻で、魚類等に食べられても残った根から再生することができるため、捕食者の多い環境の地点で優占していると考えられる。

フネケイソウ (*N. minima*) やチャヅツケイソウ (*M. varians*) は緩やかな流れで糸状群体を形成する種類で、このような種類が多くある地点で優占種になったのは、合流式下水道区域においてはわずかな降雨では河川に雨水はほとんど流入しないために、かく乱頻度が少なく、安定した流れが長く維持されるためである。また、両種は栄養性区分で富栄養種とされており、ある程度以上の降雨で下水道から河川に栄養分の多い有機物が流入し、河床に沈殿する環境となっていることを反映している。

それに対して、水質の良好な環境を好む紅藻綱のベニイトモ (*Audouinella* sp.) は、第八次調査では8月と10月の寺分橋 (Z-2) 及び8月の井荻橋 (Z-4) で優占していたが、第九次調査では優占種第1位になった地点は存在しなかった。

熱帯性のフネケイソウ *confervacea* 種 (*N. confervacea*) は、第六次調査と第七次調査において善福寺川と神田川の多くの地点で確認されていたが、優占種になることはなく、出現頻度は低い地点が多かった。第八次調査では8月と10月を合わせて3地点で優占種になり、第九次調査でも8月と10月を合わせて2地点で優占種になった。本種が増加した要因として、河川内の湧水の減少、あるいは河川に流入する下水の水温上昇により、河川の水温が過去に比べて高くなったことが考えられる。

表 III-25 付着藻類の地点別優占種 (出現頻度第1位～第3位)

河川名	調査地点	調査月	第1位		第2位		第3位	
			学名	出現頻度	学名	出現頻度	学名	出現頻度
妙正寺川	松下橋 M-1	8月	<i>Homoeothrix janthina</i>	46.9%	<i>Scenedesmus</i> spp.	26.3%	<i>Lyngbya</i> spp.	11.4%
		10月	<i>Scenedesmus</i> spp.	75.3%	<i>Homoeothrix janthina</i>	13.1%	<i>Achnanthydium minutissimum</i>	4.9%
善福寺川	上池と 下池の間 Z-1	8月	<i>Homoeothrix janthina</i>	98.7%	<i>Rhoicosphenia abbreviata</i>	0.5%	<i>Navicula minima</i>	0.3%
		10月	<i>Homoeothrix janthina</i>	96.5%	<i>Nitzschia inconspicua</i>	1.0%	<i>Navicula minima</i>	0.9%
	寺分橋 Z-2	8月	<i>Homoeothrix janthina</i>	51.9%	<i>Audouinella</i> sp.	26.0%	<i>Nitzschia inconspicua</i>	13.9%
		10月	<i>Nitzschia inconspicua</i>	43.7%	<i>Navicula seminulum</i>	26.6%	<i>Navicula minima</i>	17.1%
	井荻橋 Z-4	8月	<i>Navicula minima</i>	25.1%	<i>Stigeoclonium</i> sp.	18.5%	<i>Achnanthydium saprophilum</i>	15.1%
		10月	<i>Navicula minima</i>	30.0%	<i>Achnanthydium subhudsonis</i>	24.9%	<i>Audouinella</i> sp.	12.0%
	春日橋 Z-6	8月	<i>Navicula minima</i>	31.6%	<i>Navicula confervacea</i>	11.4%	<i>Achnanthydium japonicum</i>	7.6%
		10月	<i>Navicula confervacea</i>	21.8%	<i>Melosira varians</i>	13.3%	<i>Navicula seminulum</i>	12.3%
	尾崎橋 Z-7	8月	<i>Navicula confervacea</i>	12.6%	<i>Scenedesmus</i> spp.	11.6%	<i>Navicula minima</i>	11.1%
		10月	<i>Navicula minima</i>	10.0%	<i>Homoeothrix janthina</i>	9.1%	<i>Karayevia laterostrata</i>	8.6%
	和田堀橋 Z-9	8月	<i>Melosira varians</i>	24.5%	<i>Stigeoclonium</i> sp.	11.3%	<i>Navicula minima</i>	8.2%
		10月	<i>Entophysalis</i> sp.	18.5%	<i>Navicula minima</i>	10.7%	<i>Audouinella</i> sp.	9.7%
神田川	井の頭線 車庫脇 K-1	8月	<i>Melosira varians</i>	35.4%	<i>Staurisira construens</i> var. <i>venter</i>	32.3%	<i>Navicula minima</i>	5.5%
		10月	<i>Navicula minima</i>	13.3%	<i>Amphora pediculus</i>	10.5%	<i>Audouinella</i> sp.	8.0%
	鎌倉橋 Z-3	8月	<i>Melosira varians</i>	47.6%	<i>Staurisira construens</i> var. <i>venter</i>	16.5%	Chaetophoraceae gen. sp. (basal cell)	14.9%
		10月	<i>Melosira varians</i>	34.4%	<i>Amphora pediculus</i>	18.8%	<i>Nitzschia amphibia</i>	6.5%
	方南 第一橋 Z-5	8月	<i>Navicula minima</i>	17.5%	<i>Fragilaria vaucheriae</i>	13.0%	<i>Melosira varians</i>	12.7%
		10月	<i>Melosira varians</i>	25.9%	<i>Nitzschia amphibia</i>	16.6%	<i>Navicula confervacea</i>	13.1%

藍藻綱
  紅藻綱
  珪藻綱
  緑藻綱

### c. 現存量および沈殿量

地点別の現存量を図 III-8 に、沈殿量を図 III-9 に、地点別の出現状況を表 III-26 及び表 III-27 に示す。

地点別の藻類現存量は、妙正寺川では 8 月に約 2,100 細胞/mm<sup>2</sup>に対して 10 月は約 2,799 細胞/mm<sup>2</sup>であった。善福寺川では 8 月に約 2,270 細胞/mm<sup>2</sup>～39,000 細胞/mm<sup>2</sup>で、10 月は約 1,029 細胞/mm<sup>2</sup>～13,100 細胞/mm<sup>2</sup>であった。神田川では 8 月に約 2,422 細胞/mm<sup>2</sup>～9,328 細胞/mm<sup>2</sup>で、10 月は約 3,612 細胞/mm<sup>2</sup>～6,168 細胞/mm<sup>2</sup>であった。全地点の平均値は、8 月は約 9,690 細胞/mm<sup>2</sup>で、10 月は約 5,367 細胞/mm<sup>2</sup>であった。

定量試料の容積を示す沈殿量は、妙正寺川では 8 月に 3.2 mL/50cm<sup>2</sup>に対して 10 月は 0.8 mL/50cm<sup>2</sup>であった。善福寺川では 8 月に 0.5 mL/50cm<sup>2</sup>～6.2 mL/50cm<sup>2</sup>で、10 月は 0.9 mL/50cm<sup>2</sup>～37.2 mL/50cm<sup>2</sup>であった。神田川では 8 月に 1.8 mL/50cm<sup>2</sup>～4.4 mL/50cm<sup>2</sup>で、10 月は 2.6 mL/50cm<sup>2</sup>～21.2 mL/50cm<sup>2</sup>であった。全地点の平均値は 8 月に 3.1 mL/50cm<sup>2</sup>で、10 月は 9.5 mL/50cm<sup>2</sup>であった。

他の都市河川の事例では、水質が汚濁していた時期に藻類現存量と沈殿量はともに多かったが、水質の回復により減少し、2000 年代中途に藻類現存量は 32,000 細胞/mm<sup>2</sup>程度、沈殿量は 5 mL/50cm<sup>2</sup>程度になったことが示されている（福嶋, 2007）。それに比べ、本調査の藻類現存量の平均値は小さいが、沈殿量の平均値は大きく、河床に蓄積された有機物などが多いことが認められる。降雨時に合流式下水道に雨水が流入して流量が多くなると、下水道を流れる水とともに有機物などが河川に流れ込み、有機物などの一部は河床に蓄積する。降雨時に河川に蓄積された有機物などが、沈殿物量の多さに関係していると考えられる。

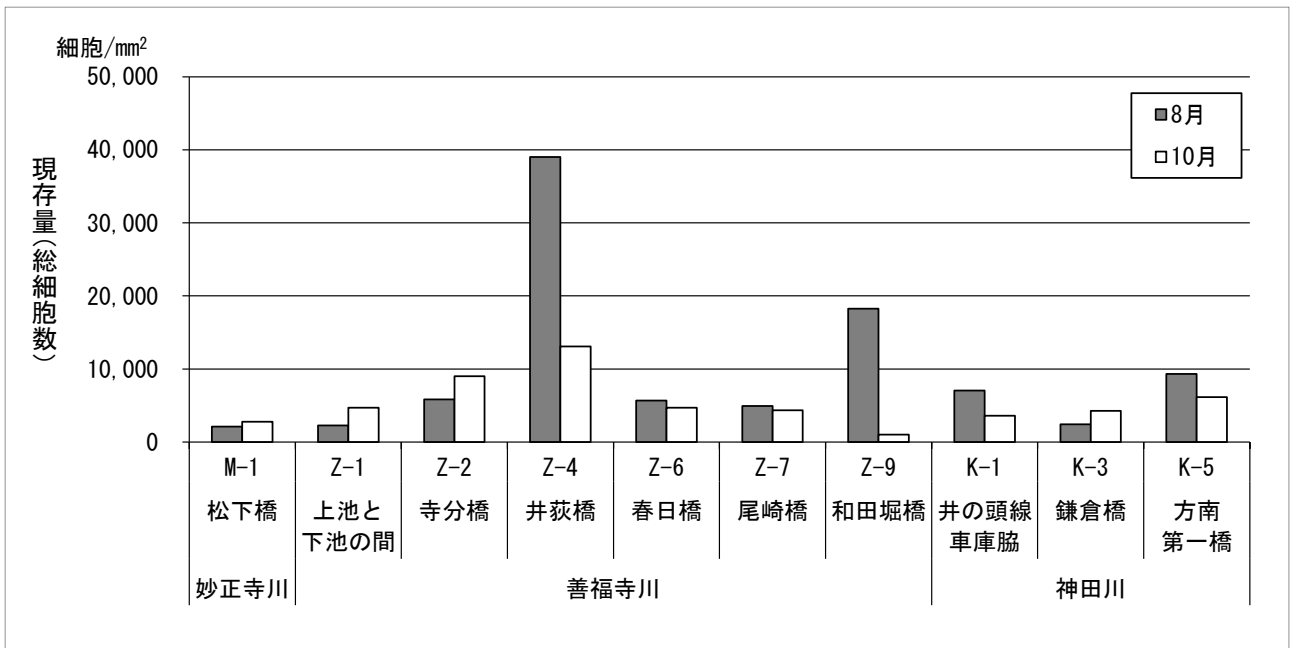


図 III-8 付着藻類の地点別現存量

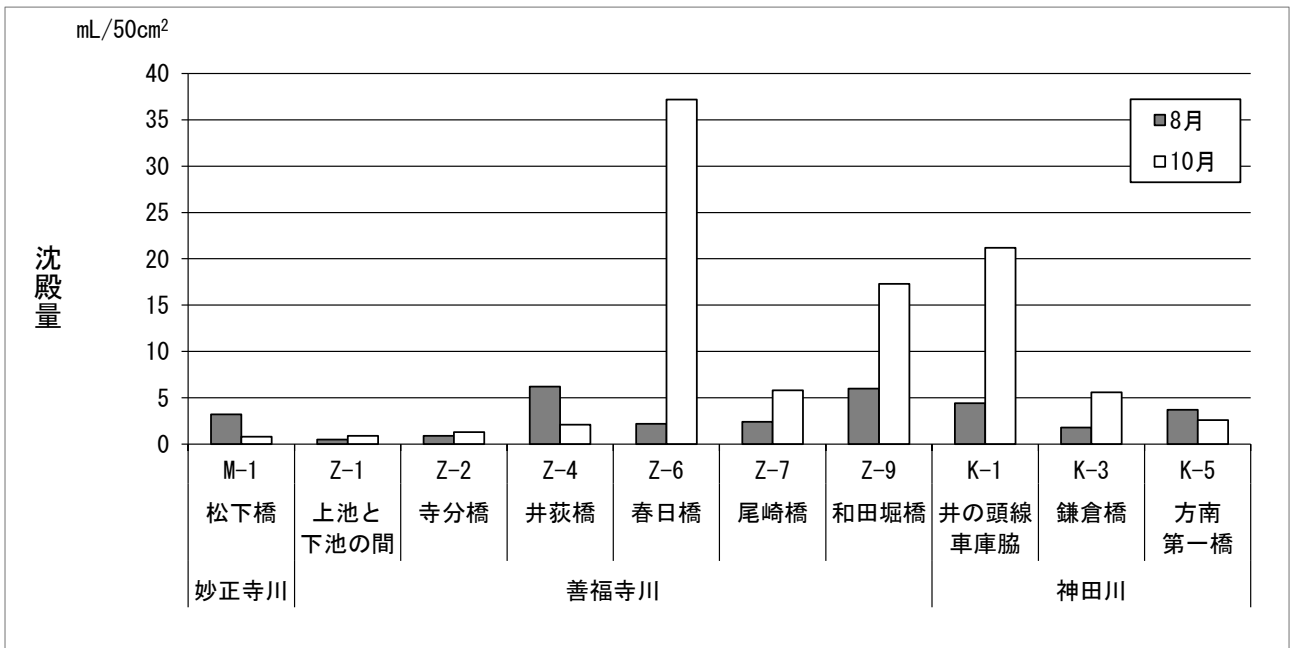


図 III-9 付着藻類の地点別沈殿量

表 III-26(1) 附着藻類の地点別出現状況 (8月)

No.	綱	目	科	学名	種名	砂正寺川		善福寺川		和田規橋		井の頭線 車庫脇		鎌倉橋		方南第一橋	
						上池と 下池の間	寺分橋	井原橋	春日橋	尾崎橋	和田規橋	井の頭線 車庫脇	鎌倉橋	方南第一橋			
						Z-1	Z-2	Z-4	Z-6	Z-7	Z-9	K-1	K-3	K-5			
						8/28	9/2	8/29	8/29	8/27	8/27	8/26	8/26	8/28			
						定量	定性	定量	定性	定量	定性	定量	定性	定量	定性	定量	定性
1	藍藻綱	クロオコクカス目	クロオコクカス科	<i>Chroococcus</i> sp.	クロオコクカス												
2		ネンジュモ目	ヒゲモ科	<i>Calothrix</i> sp. (*F)	ヒゲモ												
3				<i>Rhomosolenia lanthina</i> (*F)	ビロウドランソウ												
4				<i>Lyngbya</i> sp. (*F)	カタサヤユレモ	984	3	960		48	1,392						
5				<i>Oscillatoria</i> sp. (*F)	ユレモ	240		576			8				4		
6				<i>Phormidium</i> sp. (*F)	オヤユレモ				36	66					8		
7		カマエシフオン目	カマエシフオン科	<i>Chamaesiphon</i> sp.	コンボウランソウ						60						
8	紅藻綱	オオオイソ目	オオオイソ科	<i>Compsopogon coeruleus</i>	オオオイソウ			1,200			120						
9		アクロカエチウム目	オオジュエネラ科	<i>Audouinella</i> sp.	ベニトモ		1,520	3,264	126	264							
10		チスジノリ目	チスジノリ科	<i>Nemalionopsis tortuosa</i>	オキチモズク												
11		ベニマダラ目	ベニマダラ科	<i>Hildenbrandia rivularis</i>	タンスイベニマダラ					120							
12	緑藻綱	シオミドロ目	リトアルマ科	<i>Heribaudella flavivittis</i>	イズミイソノカワ												
13		中心目	タラシソウ科	<i>Cycloella asterocostata</i>	タイコケイソウ				6	3	8				4		16
14				<i>Cycloella meneghiniana</i>	タイコケイソウ												
15				<i>Discostella stelligera</i>	ホシノタイコケイソウ												
16				<i>Aulacosira ambigua</i> f. <i>japonica</i>	スジタルケイソウ												
17				<i>Aulacosira granulata</i>	スジタルケイソウ												
18				<i>Melosira undulata</i>	チャソツケイソウ												
19				<i>Melosira varians</i>	チャソツケイソウ												
20				<i>Pleurosigma laevis</i>	シヨウガサオメダマケイソウ	2		8	390	162	4,464			1,152		1,154	
21				<i>Hydrosera triquetra</i>	サンカクオボネケイソウ						68			2			
22				<i>Fragilaria capicollata</i>	オビケイソウ						24						
23				<i>Fragilaria fasciculata</i>	オビケイソウ						72						
24				<i>Fragilaria rumpfsii</i>	オビケイソウ				12								
25				<i>Fragilaria vancouveriae</i>	オビケイソウ		1	4	18								
26				<i>Staurastrum conspersum</i> var. <i>venetum</i>	オビジュウジケイソウ						768			352		8	1,216
27				<i>Tabellaria fenestrata</i>	ヌボクダケイソウ						12			2,272		400	864
28				<i>Ulnaria pseudogaltonii</i>	ハリケイソウ					4	60				16		20
29				<i>Ulnaria ulna</i>	ハリケイソウ					36	672				4		24
30				<i>Eunotia minor</i>	クシケイソウ					4				24			
31	ユローノチヤ科			<i>Eunotia monodon</i>	クシケイソウ									32			
32	ナビカラ科			<i>Amphipleura lindheimeri</i>	ケイソウモドキ												
33				<i>Amphipleura copulata</i>	ニセクサビケイソウ												
34				<i>Amphipleura pediculus</i>	ニセクサビケイソウ												
35				<i>Caloneis bacillum</i>	ニセクサビケイソウ	3	1	12	48	30	228			72	4	4	112
36				<i>Cymbella aspera</i>	クサビケイソウ		1	4		3				4			4
37				<i>Cymbella cistula</i>	クサビケイソウ												
38				<i>Cymbella tumida</i>	クサビケイソウ						8						
39				<i>Diploneis elliptica</i>	クサビケイソウ												
40				<i>Encyonema minutum</i>	ハラミクサビケイソウ												
41				<i>Gomphonema heteromnium</i>	クサビケイソウ												
42				<i>Gomphonema acuminatum</i>	クサビケイソウ												
43				<i>Gomphonema atgaur</i>	クサビケイソウ												
44				<i>Gomphonema clavatum</i>	クサビケイソウ						144						
45				<i>Gomphonema gracile</i>	クサビケイソウ						432						
46				<i>Gomphonema inaequalitangum</i>	クサビケイソウ		1	288	12	3				16			
47				<i>Gomphonema lagenula</i>	クサビケイソウ					120							
48				<i>Gomphonema parvulum</i>	クサビケイソウ	6	3	2,112	240	360	1,488			48			4
49				<i>Gomphonema pseudounguis</i>	クサビケイソウ					36	720						
50				<i>Gomphonema pseudophaeosporum</i>	クサビケイソウ					6	96						4
51				<i>Gomphonema truncatum</i>	クサビケイソウ												
52				<i>Gomphonema turris</i>	クサビケイソウ												
53				<i>Navicula cari</i>	フネケイソウ												
54				<i>Navicula confervacea</i>	フネケイソウ	8		456	648	624	2,906			320		32	1,184
55				<i>Navicula cryptocephala</i>	フネケイソウ			12	36	54	132			40		4	64

(次のページへ続く)

表 III-26(2) 附着藻類の地点別出現状況 (8月)

No.	綱	目	科	学名	種名	砂正寺川		善福寺川		尾崎橋		井の頭線 車庫脇		神田川	
						上池と 下池の間	寺分橋	井伏橋	春日橋	尾崎橋	和規橋	井の頭線 車庫脇	鎌倉橋	方南第一橋	
						Z-1	Z-2	Z-4	Z-6	Z-7	Z-9	K-1	K-3	K-5	
						9/2	9/2	8/29	8/29	8/27	8/27	8/26	8/26	8/28	
						定性	定量	定性	定量	定性	定量	定性	定量	定性	
56	(柱藻綱)	(羽状目)	(ナベクワ科)	<i>Navicula cryptotenella</i>	フネケイソウ										
57				<i>Navicula goeppertiana</i>	フネケイソウ										
58				<i>Navicula gregaria</i>	フネケイソウ										
59				<i>Navicula minima</i>	フネケイソウ	○	360	○	1,800	○	552	○	152	○	
60				<i>Navicula peregrina</i>	フネケイソウ										
61				<i>Navicula phlyptea</i>	フネケイソウ										
62				<i>Navicula rostellata</i>	フネケイソウ										
63				<i>Navicula schroeteri</i>	フネケイソウ										
64				<i>Navicula seminata</i>	フネケイソウ										
65				<i>Navicula subminuscule</i>	フネケイソウ										
66				<i>Navicula supracili</i>	フネケイソウ										
67				<i>Navicula rivialis</i>	フネケイソウ										
68				<i>Navicula veneta</i>	フネケイソウ	○	2	○	18	○	18	○	24	○	
69				<i>Pinnularia bracteata</i>	フネケイソウ										
70				<i>Reimeria sinuata</i>	フネケイソウ										
71				<i>Rhoicosphenia abbreviata</i>	マダリクサケイソウ										
72				<i>Sellaphora globa</i>	マダリクサケイソウ	○									
73				<i>Sellaphora japonica</i>	マダリクサケイソウ										
74				<i>Sellaphora pupula</i>	マダリクサケイソウ										
75				<i>Achnanthes rostrata</i>	マダリクサケイソウ										
76				<i>Achnanthes rapeseoides</i>	マダリクサケイソウ	○	1	○	24	○	12	○	8	○	
77				<i>Achnantheidum clevei</i>	マダリクサケイソウ										
78				<i>Achnantheidum delicatum</i>	マダリクサケイソウ										
79				<i>Achnantheidum exiguum</i>	マダリクサケイソウ										
80				<i>Achnantheidum japonicum</i>	マダリクサケイソウ										
81				<i>Achnantheidum minutissimum</i>	マダリクサケイソウ										
82				<i>Achnantheidum saporibulum</i>	マダリクサケイソウ										
83				<i>Achnantheidum subadsortis</i>	マダリクサケイソウ										
84				<i>Cocconeis placentula</i>	マダリクサケイソウ										
85				<i>Karyvevia laterostrata</i>	マダリクサケイソウ										
86				<i>Planorbidium frequensissimum</i>	マダリクサケイソウ										
87				<i>Planorbidium lanceolatum</i>	マダリクサケイソウ										
88				<i>Nitzschia amphibia</i>	マダリクサケイソウ	○	48	○	528	○	162	○	288	○	
89				<i>Nitzschia fonticola</i>	マダリクサケイソウ										
90				<i>Nitzschia inconspicua</i>	マダリクサケイソウ										
91				<i>Nitzschia palea</i>	マダリクサケイソウ										
92				<i>Surrella angusta</i>	マダリクサケイソウ										
93	緑藻綱	クロコククム目	クロコククム科	<i>Characium</i> sp.	カラキエ										
94				<i>Scenedesmus</i> spp.	イカダモ	●	552	○	288	○	576	○	96	○	
95				<i>Pediastrum</i> sp.	クンシヨウモ	●									
96				<i>Klabornidium</i> sp.	クレブソルミディウム										
97				<i>Cladophora</i> sp.	クロニオオホラ										
98				<i>Chaetophoraceae</i> gen. sp. (basal cell)	キヌミドリ										
99				<i>Oedogonium</i> spp.	カエトオホラ科 (基部細胞)										
100				<i>Chaetomorpha okamurai</i>	カエトオホラ										
101				<i>Cladophora glomerata</i>	カエトオホラ										
102				<i>Rhizoclonium</i> sp.	シオグサ										
103				<i>Spirogyra</i> sp.	ネダシグサ										
					アオミドロ										
					アオミドロ科										
					ホシミドロ科										
					アオミドロ目										
					ホシミドロ目										
					28科										
					16目										
					5綱										
合計					103種										
					種別数	11	20	8	15	23	28	38	44	36	46
					総種数	20	31	16	31	47	50	59	60	55	60
					総細胞数 (cell/50mm <sup>2</sup> )	2,100	5,855	2,270	5,693	4,954	18,244	7,042	2,422	9,328	3,7
					沈降量 (μl/50cm <sup>2</sup> )	3.2	0.9	0.5	6.2	2.2	6.0	4.4	1.8	3.7	41

種名は平成26年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト (2015年1月14日) に準拠している。  
 各種の細胞数 (学名の後ろに (中)) と記載された種は糸状体数) を計数し、総細胞数は細胞数と糸状体数の合計を示す。  
 一、\* : 種の同定に至らなかった生物について、同目、同科または同属の種が確認された場合、1種として数えないことを示す。

表 III-27(1) 附着藻類の地点別出現状況 (10月)

No.	綱	目	科	種名	妙正寺川		善福寺川		和田堤橋		井の頭線 東區船		神田川	
					上池と 下池の間	寺分橋	井登橋	春日橋	尾崎橋	和田堤橋	井の頭線 東區船	鎌倉橋	方南第一橋	
				学名	和名	Z-1 10/22	Z-2 10/22	Z-4 10/21	Z-6 10/20	Z-7 10/20	Z-9 10/16	K-1 10/17	K-3 10/17	K-5 10/16
1	藍藻綱	クロオコックス目	クロオコックス科	<i>Chroococcus</i> sp.	クロオコックス	16								
2				<i>Microcystis wesenbergii</i> (*F)	マイクロキキスチス						190			
3				<i>Enophysalis</i> sp.	エントフィサリス	52								
4		ネンジュモ目	ヒゲモ科	<i>Catoloxis</i> sp. (*F)	ヒゲモ					6				
5				<i>Homoedoxis lantima</i> (*F)	ヒロウドラソウ	388	512	672		396	15			
6			ユレモ科	<i>Lyngbya</i> spp. (*F)	カタヤユレモ			88					8	4
7				<i>Phormidium</i> sp. (*F)	ホヤユレモ				12					
8	紅藻綱	オオイシソウ目	オオイシソウ科	<i>Compsoagon coeruleus</i>	オオイシソウ									
9		アケカエチウム目	オオジュエネ科	<i>Audouinella</i> sp.	ベニイトモ		456	1,572	92	288	100	290		
10		カワモズ目	カワモズ科	<i>Batrachospermum japonicum</i>	ニホソカワモズク									
11		チヌジノ目	チヌジノ科	<i>Nematopsis toruosa</i>	オキチモズク								88	
12		ペニマダ目	ペニマダ科	<i>Hildenbrandia rivularis</i>	タンズイニマダ									
13	褐藻綱	リトゲルマ目	リトゲルマ科	<i>Heribaudella fluvialis</i>	イズミイシノカワ									
14	珪藻綱	シオミドロ目	タラシソウ科	<i>Cyclotella asterocostata</i>	タイコケイソウ							16	24	
15		中心目	メロシラ科	<i>Aulacoseira granulata</i>	スズタルケイソウ							4		
16				<i>Melosira undulata</i>	チャツツケイソウ							280	1,464	1,600
17				<i>Melosira varians</i>	チャツツケイソウ			20	624	318	75		2	2
18				<i>Pleurosigma lacinis</i>	ジツツケイソウ									
19			アナウルス科	<i>Hydrosera triquetra</i>	サンカクツツケイソウ									
20		羽状目	ディアトマ科	<i>Ctenophora pulchella</i>	ミンハハケイソウ				3	2	5			
21				<i>Diatoma vulgare</i>	イタケイソウ							4		
22				<i>Fragilaria capitellata</i>	オビケイソウ									
23				<i>Fragilaria fasciculata</i>	オビケイソウ									
24				<i>Fragilaria rumpens</i>	オビケイソウ			6			5		104	16
25				<i>Fragilaria vaucheriae</i>	オビケイソウ								120	176
26				<i>Stauroneis concinna</i> var. <i>veneta</i>	オビジュエウジケイソウ	5	2	24	24				96	456
27				<i>Tabellaria fenestrata</i>	スサツツケイソウ									
28				<i>Ulnaria ulna</i>	ハリケイソウ									
29			ユーノチアア科	<i>Ulnaria minor</i>	カシケイソウ									
30				<i>Einoeta monodon</i>	クシケイソウ		1	1	12	18	8	280	112	28
31				<i>Amphipleura lindheimeri</i>	ケイソウモドキ			48	48	6	4	130	56	4
32			ナビカラ科	<i>Amphora pediculus</i>	ニセクサケイソウ									
33				<i>Caloneis bacillum</i>	ニセフネケイソウ								800	120
34				<i>Cymbella aspera</i>	クサケイソウ									
35				<i>Cymbella cistula</i>	クサケイソウ									
36				<i>Cymbella tumida</i>	クサケイソウ									
37				<i>Encyonema tumidum</i>	ハラミクサケイソウ									
38				<i>Encyonema minutum</i>	クサケイソウ									
39				<i>Gomphonema heteromphala</i>	クサケイソウ	1				24				
40				<i>Gomphonema gracile</i>	クサケイソウ									
41				<i>Gomphonema inaequilongum</i>	クサケイソウ	4		16		72	5	4		
42				<i>Gomphonema parvulum</i>	クサケイソウ		8	152	216	336	50		24	88
43				<i>Gomphonema pseudosphaerophorum</i>	クサケイソウ									
44				<i>Gomphonema turris</i>	クサケイソウ					6				
45				<i>Navicula confervacea</i>	フネケイソウ			52	1,020	306	16		144	808
46				<i>Navicula cryptocephala</i>	フネケイソウ	1		4	24		5			32
47				<i>Navicula cryptotenella</i>	フネケイソウ			64	48	48	50	10	16	
48				<i>Navicula decussis</i>	フネケイソウ				24					
49				<i>Navicula goeppertiana</i>	フネケイソウ			4						
50				<i>Navicula gregaria</i>	フネケイソウ									
51				<i>Navicula minima</i>	フネケイソウ			3,936	288	432	110	480	160	192
52				<i>Navicula nipponica</i>	フネケイソウ				6					
53				<i>Navicula rostellata</i>	フネケイソウ									
54				<i>Navicula seminulum</i>	フネケイソウ			2,400	768				24	4
55				<i>Navicula suprinti</i>	フネケイソウ						30		24	8

(次のページへ続く)

表 III-27(2) 附着藻類の地点別出現状況 (10月)

No.	綱	目	科	種名	学名	砂正寺川			警福寺川			神田川												
						浮遊性	種	定量	定性	定量	定性	定量	定性	定量	定性	定量	定性							
56	(珪藻綱)	(羽状目)	(ナベクラ科)	<i>Nanictula veneta</i>	フネケイソウ	1																		
57				<i>Pinnularia gibba</i>	ハネケイソウ																			
58				<i>Reimeria sinuata</i>	カイコメケイソウ																			
59				<i>Rhicosphenia abbreviata</i>	マガリクサビケイソウ		16	○																
60				<i>Sellaphora japonica</i>	エリツキケイソウ																			
61				<i>Sellaphora papula</i>	エリツキケイソウ																			
62				アケナシテラス科	<i>Achnanthes hungarica</i>	マガリケイソウ																		
63					<i>Achnanthes inflata</i>	マガリケイソウ	1																	
64					<i>Achnanthes rostrata</i>	マガリケイソウ	16																	
65					<i>Achnanthes rupestrides</i>	マガリケイソウ																		
66					<i>Achnantheium elevat</i>	ツメワカレケイソウ																		
67					<i>Achnantheium exiguum</i>	ツメワカレケイソウ	2																	
68					<i>Achnantheidium japonicum</i>	ツメワカレケイソウ		16	○															
69					<i>Achnantheidium minutissimum</i>	ツメワカレケイソウ	136	○																
70					<i>Achnantheidium sappophilum</i>	ツメワカレケイソウ																		
71					<i>Achnantheidium subhidukonis</i>	ツメワカレケイソウ	2																	
72				<i>Cocconeis placenticula</i>	コバシケイソウ																			
73				<i>Karavevia laterostrata</i>	ツブスジツメワカレケイソウ																			
74				<i>Planorbidium frequentissimum</i>	ツブスジツメワカレケイソウ																			
75				<i>Planorbidium lanceolatum</i>	アトスジツメワカレケイソウ																			
76	ニッチア科	<i>Nitzschia amphibia</i>	ササノハケイソウ	4	○																			
77		<i>Nitzschia fonticola</i>	ササノハケイソウ																					
78		<i>Nitzschia inconspicua</i>	ササノハケイソウ		48	○																		
79		<i>Nitzschia palea</i>	ササノハケイソウ																					
80		クロコウツクム科	<i>Charactium sp.</i>				3,936	○																
81		セネデムス科	<i>Scenedesmus spp.</i>				8	○																
82		アミミドロ科	<i>Pediastrum sp.</i>																					
83		カエトフオラ科	<i>Cladophora sp.</i>																					
84		カエトフオラ目	<i>Chaetopteriaceae gen. sp. (basal cell)</i>		90	○																		
85		サヤミドロ目	<i>Oedogonium spp.</i>		7	○																		
86	ミドリゲ目	<i>Chaetomorpha okamurai</i>																						
87		<i>Chaetomorpha glomerata</i>																						
88	ホシミドロ目	<i>Cladophora sp.</i>																						
		<i>Rhizoclonium sp.</i>																						
		<i>Spirogyra sp.</i>																						
合計	5綱	15目	25科	88種	種類数	14	17	11	12	19	31	35	49	31	42	25	39	28	41	30	37	31	42	
				総細胞数	総細胞数 (cell/s/mm <sup>2</sup> )	2,799	-	13	-	33	-	49	-	44	-	45	-	39	-	43	-	38	-	42
				沈澱量	沈澱量 (mL/50cm <sup>2</sup> )	0.8	-	0.9	-	1.3	-	2.1	-	37.2	-	5.8	-	17.3	-	21.2	-	5.6	-	2.6

種名は平成26年(原河川本辺)の国勢調査のための生物リスト(2015年1月14日)に準拠している。  
 各種の細胞数(学名の後ろに(株)と記載された種は糸状体数)を記載し、総細胞数は細胞数と糸状体数の合計を示す。  
 \*, \*: 種の同定に至らなかった生物について、同目、同科または同属の種が確認された場合、1種として数えないことを示す。

#### d. 群落組成

各地点の分類群別の細胞数を表 III-28 に、群落構成を図 III-10 および図 III-11 に示す。

##### ■妙正寺川

妙正寺川の松下橋 (M-1) では、8月に藍藻類が約 60%と高い比率を示し、10月には藍藻類が減少し、緑藻類が約 80%と高い比率を示した。

8月は梅雨時期の出水によって適度に流速のある場所に生育するピロウドランソウ (*Homoeothrix janthina*) が優占したと考えられるが、10月には水温の低下と流況安定によって8月に多かった藍藻類が減少し、代わりに緑藻類が優占するように変化した。

##### ■善福寺川

井荻橋 (Z-4) より下流の善福寺川では、全体的に珪藻類の割合が高い傾向にある。

上池と下池の間 (Z-1) は8月と10月ともに藍藻類が95%以上の高い比率を示した。ピロウドランソウ (*H. janthina*) がそのほとんどを占める。ピロウドランソウ (*H. janthina*) は基質への付着力が強い糸状藍藻で、魚類等に食べられても残った根から再生することができるため、捕食者の多い環境の地点でも生育することができ、汚濁耐性も高い種である。

寺分橋 (Z-2) は8月には藍藻類と紅藻類が優占していたが、10月は下流の地点と同じく珪藻類が優占するようになった。先述のピロウドランソウ (*H. janthina*) に加え、耐陰性で貧汚濁域に生育する紅藻類のベニイトモ (*Audouinella* sp.) が多く確認されており、紅藻類が好む湧水が多いことや、護岸が高いことで河道が暗く、比較的暗い環境でも生育できる紅藻類の生育に適した環境であることも要因と考えられる。どちらも夏季に優占する傾向がある種のため、10月には珪藻類が優占するようになったと考えられる。

##### ■神田川

神田川では、8月、10月とも全体的に珪藻類の割合が高い傾向にある。

表 III-28 分類群別の細胞数

項目	調査月	妙正寺川		善福寺川					神田川		
		松下橋 M-1	上池と 下池の間 Z-1	寺分橋 Z-2	井荻橋 Z-4	春日橋 Z-6	尾崎橋 Z-7	和田堀橋 Z-9	井の頭線 車庫脇 K-1	鎌倉橋 K-3	方南 第一橋 K-5
藍藻類	8月	1,224	2,244	3,043	1,540	36	117	1,460	80	12	0
	10月	436	4,536	512	760	12	402	205	0	8	4
紅藻類	8月	0	0	1,520	4,464	126	384	120	60	0	0
	10月	0	0	456	1,572	92	288	100	290	88	0
珪藻類	8月	66	26	1,221	25,476	4,919	3,640	14,520	6,806	2,018	8,224
	10月	154	126	7,958	10,716	4,349	3,126	603	3,072	3,882	5,822
緑藻類	8月	810	0	71	7,520	612	813	2,144	96	392	1,104
	10月	2,209	30	80	52	228	516	121	250	272	342
合計(8月)		2,100	2,270	5,855	39,000	5,693	4,954	18,244	7,042	2,422	9,328
合計(10月)		2,799	4,692	9,006	13,100	4,681	4,332	1,029	3,612	4,250	6,168

(単位: cells/mm<sup>2</sup>)

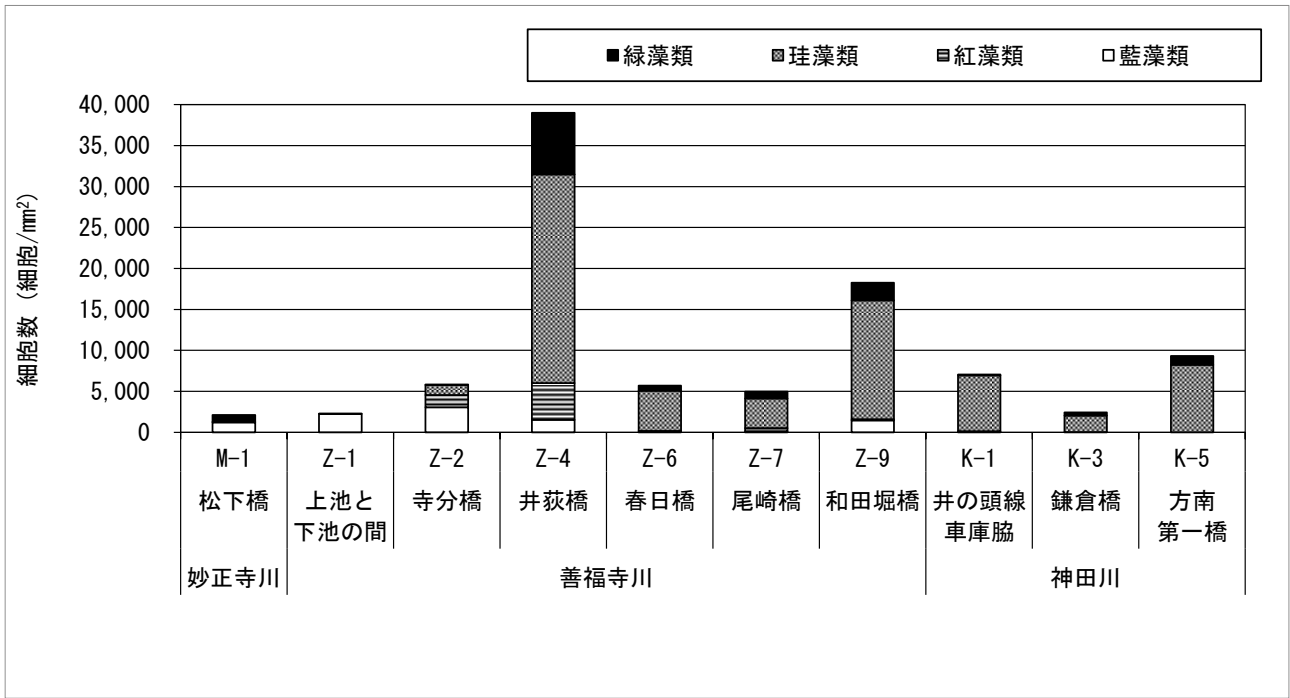


図 III-10(1) 付着藻類の群落構成 (細胞数) (8月)

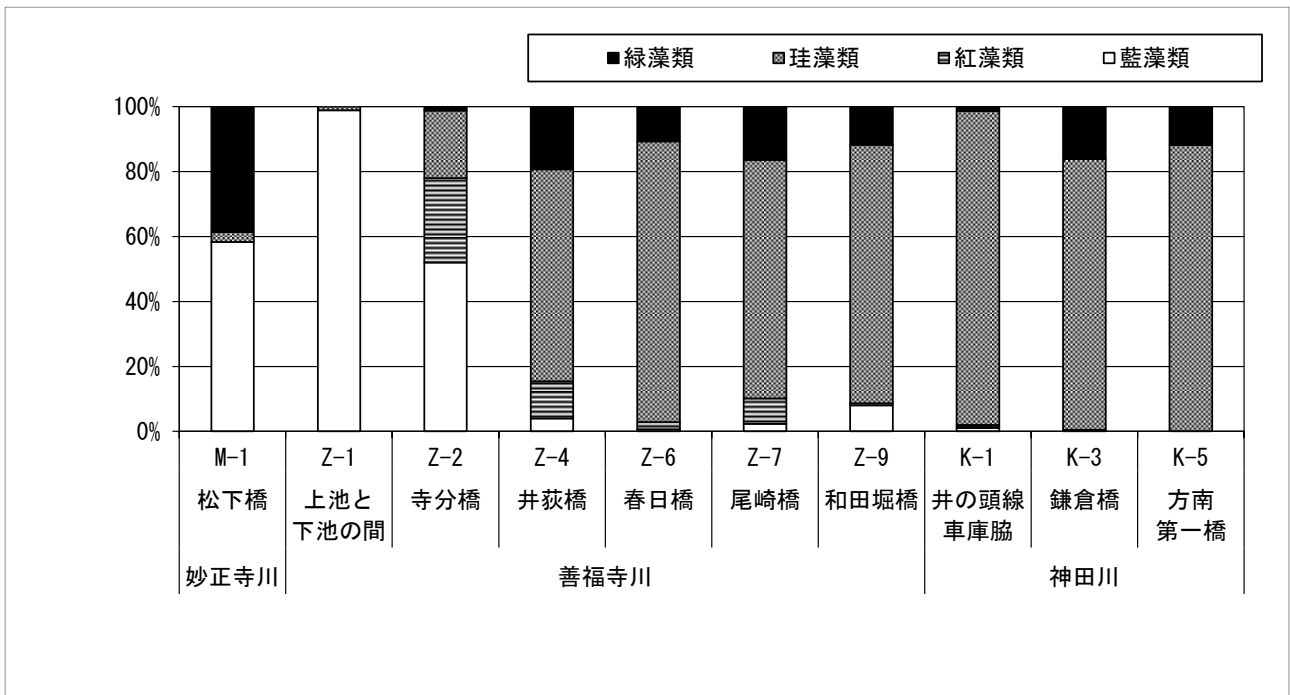


図 III-10(2) 付着藻類の群落構成 (構成比) (8月)

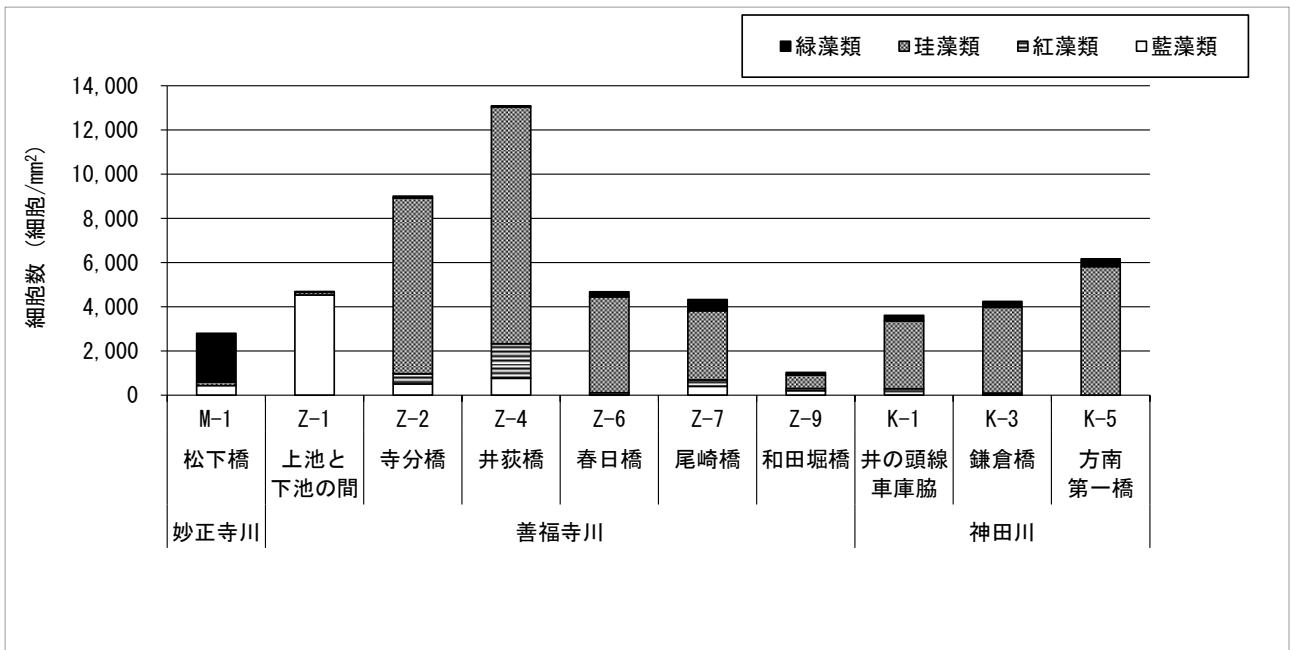


図 III-11(1) 付着藻類の群落構成 (細胞数) (10月)

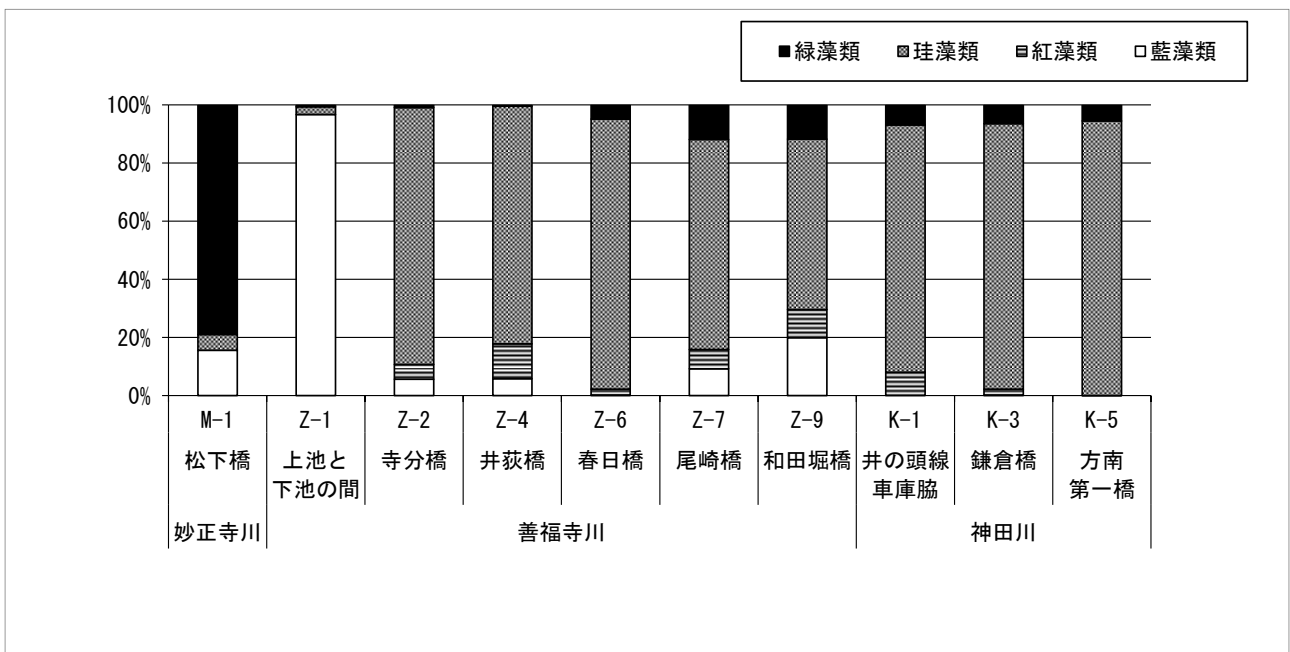


図 III-11(2) 付着藻類の群落構成 (構成比) (10月)

③ 重要種

付着藻類の重要種の確認地点を表 III-29 に示す。

重要種としては、紅藻綱のオオイシソウ (*Compsopogon coeruleus*)、ニホンカワモズク (*Batrachospermum japonicum*)、オキチモズク (*Nemalionopsis tortuosa*)、タンスイベニマダラ (*Hildenbrandia rivularis*)、褐藻綱のイズミイシノカワ (*Heribaudiella fluviatilis*) の合計5種が確認された。

オキチモズク (*N. tortuosa*) は第八次調査まで確認されたことがなく、第九次調査で初めて確認された。また、第七次調査ではチャイロカワモズク (*Batrachospermum arcuatum*) が確認されていたが、第八次～第九次調査では確認されなかった。

ニホンカワモズク (*B. japonicum*) は、近年の研究でカワモズク (*B. gelatinosum*) の異名同種 (シノニム) である説が支持されており、「東京都レッドデータブック 2023 (本土版)」及び環境省の「第5次レッドリスト (植物・藻類)」では、ニホンカワモズクはカワモズクの異名とされている。

第九次調査で確認された重要種の生育には湧水が重要な要素であり、善福寺川と神田川は関東ローム層より下の武蔵野礫層<sup>れきそう</sup>まで掘り込まれ、湧水が多いことが、重要種が広く生育している背景となっている。

表 III-29 付着藻類重要種確認地点

No.	種名	重要種		妙正寺川							善福寺川			神田川		
		環境省 RL	東京都 RDB	松下橋	上池と 下池の間	寺分橋	井荻橋	春日橋	尾崎橋	和田堀橋	井の頭線 車庫脇	鎌倉橋	方南 第一橋			
				M-1	Z-1	Z-2	Z-4	Z-6	Z-7	Z-9	K-1	K-3	K-5			
1	オオイシソウ	NT	DD	◇		○	●◆	○◇	●◆	●◆	●◆			◆		
2	ニホンカワモズク *4	(NT)	(VU)				◇									
3	オキチモズク	EN	DD			○◇										
4	タンスイベニマダラ	DD	NT				◇	◇	●◇		◇	◆				
5	イズミイシノカワ	NT	DD				◇	○◇				◇				
合計種数		5	5	1	0	2	4	3	2	1	2	2	1			

\*1 ●, ◆は定量・定性調査の試料による確認、○, ◇は目視のみでの確認を示す。  
 \*2 ●, ○は8月調査での、◆, ◇は10月調査での確認を示す。  
 \*3 重要種の選定基準は以下に示すとおりとした。  
 □天然記念物：「文化財保護法（昭和25年法律第214号 最終改正：令和3年法律22号）」で記載された種。  
 該当種なし  
 □種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年法律第75号 最終改正：平成29年法律第51号）」で指定された種。  
 該当種なし  
 □環境省RL：「第5次レッドリスト（植物・菌類）（令和7年3月18日 環境省）」で記載された種。  
 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群  
 □東京都RDB：「東京都レッドデータブック（本土部）2023（令和5年3月 東京都）」で記載された種。  
 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 留：留意種  
 \*4 ニホンカワモズクは、近年の研究でカワモズクの異名同種（シノニム）である説が支持されており、環境省RL及び東京RDBではカワモズクと同一視されている。そのため、各基準の重要種選定ランクはカワモズクのもの表記した。

## ■オオイシソウ

オオイシソウは、淡水域から汽水域にかけて生育する比較的大型の紅藻類で、糸状群体を形成する。紅藻類だが、体色は青緑色をしている。無性生殖のみが知られているなど原始的な特徴を示す

松下橋 (M-1)、寺分橋 (Z-2)、井荻橋 (Z-4)、春日橋 (Z-6)、尾崎橋 (Z-7)、和田堀橋 (Z-9)、井の頭線車庫脇 (K-1)、方南第一橋 (K-5) の合計 8 地点で確認された。

第九次調査と第八次調査の確認状況を比較すると、第九次調査では鎌倉橋 (K-3) の 1 地点で確認されなかった。

## ■ニホンカワモズク

ニホンカワモズクは、淡水性の紅藻類で、褐色の粘性の塊状群体を形成し、大きな石の上などで観察される。湧水口や湧水の池など水温変化の少ない場所で見られる。

井荻橋 (Z-4) の 1 地点でのみ 10 月に目視で確認された。

第九次調査と第八次調査の確認状況を比較すると、第九次調査では井の頭線車庫脇 (K-1) で確認されなかった。

## ■オキチモズク

オキチモズクは、淡水産紅藻で、湧水に由来する汚染のない水流を好み、浅い水流中の石の上に着生する。西日本にのみ生育が知られていたが、2013 年に東京都立川市で発見された (林・田中, 2015)。立川市の生育地が人工的な水路であることから、国内移入種である可能性が指摘されている。東京都 RDB では情報不足 (DD) として扱い、今後の調査を待って判定するとしている。

寺分橋 (Z-2) の 1 地点でのみ 8 月及び 10 月に目視で確認された。

第九次調査が初確認の種である。

## ■タンスイベニマダラ

タンスイベニマダラは、淡水性の紅藻類で、河床の石やコンクリート上にへばりつくように赤色のパッチ状群体を形成する。湧水や水質の清涼な河川・水路で見られる。

井荻橋 (Z-4)、春日橋 (Z-6)、尾崎橋 (Z-7)、井の頭線車庫脇 (K-1)、鎌倉橋 (K-3) の計 5 地点で確認された。妙正寺川では確認されなかった。

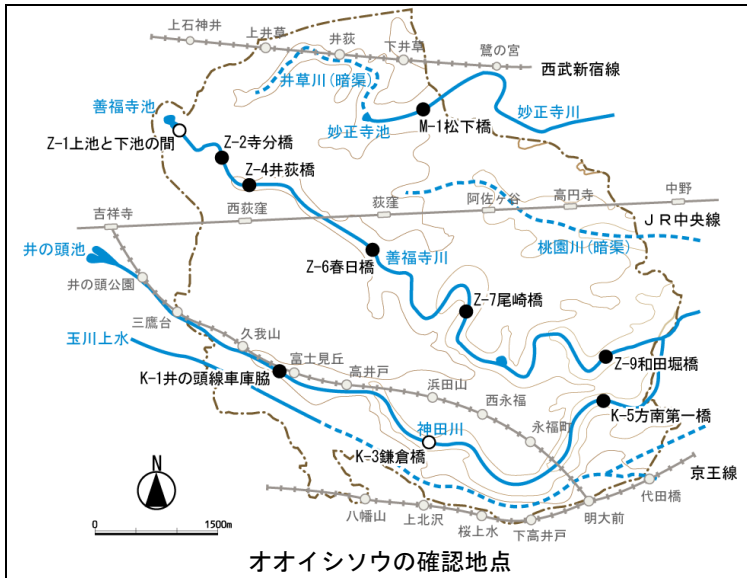
第九次調査と第八次調査の確認状況を比較すると、第九次調査では松下橋 (M-1)、寺分橋 (Z-2) の合計 2 地点で確認されなかったが、井の頭線車庫脇 (K-1) では初めて確認された。第八次調査と第九次調査での確認状況の相違は、流れの停滞や有機物などの蓄積が年によって異なり、生育に影響を及ぼしているためだと考えられる。

## ■イズミイシノカワ

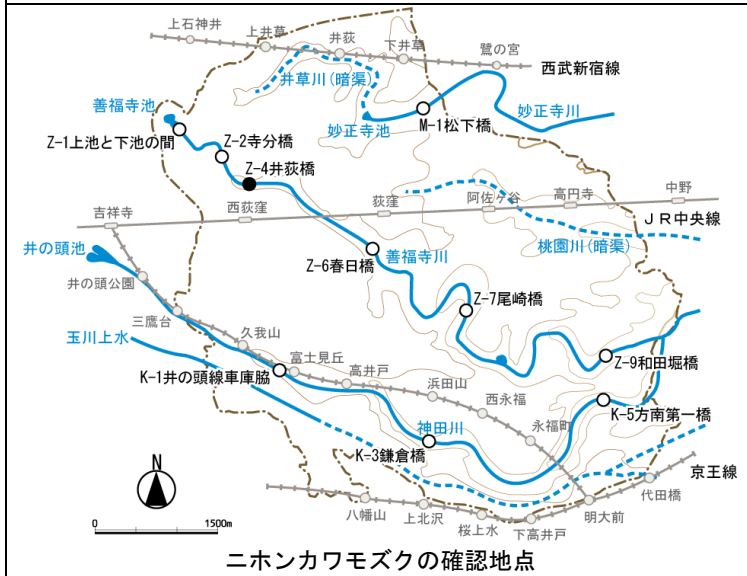
イズミイシノカワは、日本で唯一の淡水生褐藻類で、河床の石やコンクリート上にへばりつくように褐色のパッチ状群体を形成する。タンスイベニマダラと同所的に生育することが多い。

井荻橋 (Z-4)、春日橋 (Z-6)、鎌倉橋 (K-3) の計 3 地点で確認された。妙正寺川では、確認されなかった。いずれも目視のみの確認であり、定性試料からは確認されなかった。

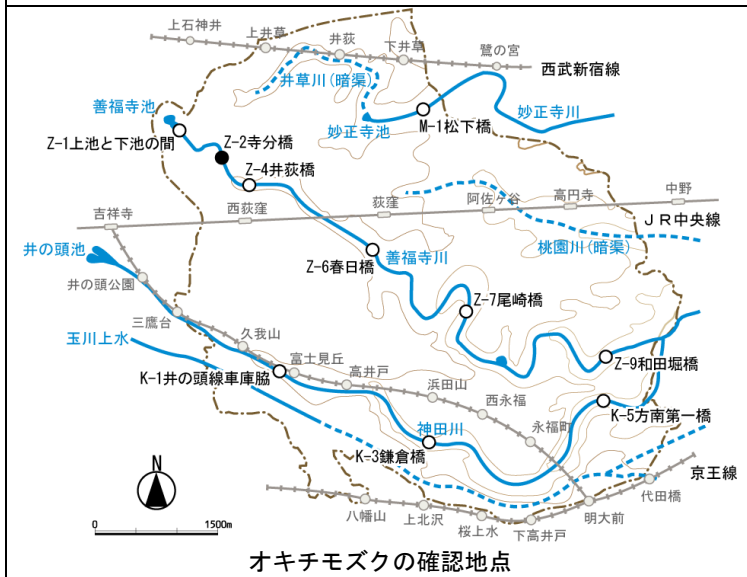
第八次調査では鎌倉橋 (K-3) のみの確認であったが、第九次調査で更に 2 地点で新たに確認された。



オオイシソウ  
善福寺川 尾崎橋 (Z-7) 8月



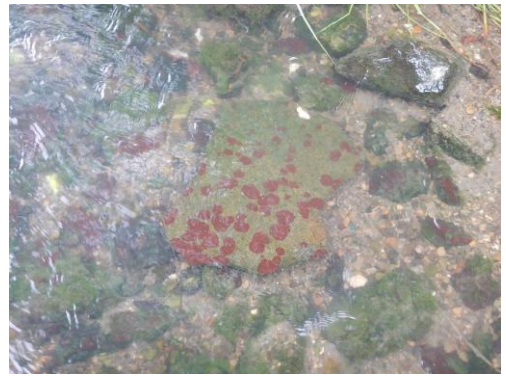
ニホンカワモズク  
善福寺川 井荻橋 (Z-4) 10月



オキチモズク  
善福寺川 寺分橋 (Z-2) 10月

\*●は確認された地点、○は確認されなかった地点を示す。

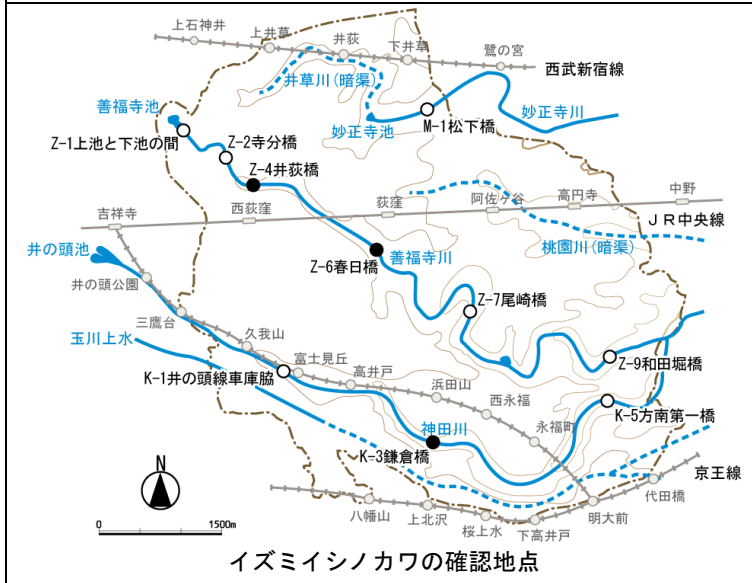
図 III-12(1) 付着藻類の重要種の確認地点



タンスイベニマダラ生育環境  
善福寺川 尾崎橋 (Z-7) 10月



タンスイベニマダラ  
善福寺川 尾崎橋 (Z-7) 8月



イズミシノカワ  
神田川 鎌倉橋 (K-3) 10月

\*●は確認された地点、○は確認されなかった地点を示す。

図 III-12(2) 付着藻類の重要種の確認地点

④ 外来種

付着藻類の外来種については、第九次調査では確認されなかった。

## 2) 珪藻の有機汚濁指数 (DAIpo) による水質判定

付着藻類のなかで珪藻類は、水質との関係がよく検討され、多くの種類が水質の指標として利用されている。そこで、ここでは珪藻を用いた有機汚濁指数 (DAIpo) (渡辺 他, 1988) により、水質判定を実施した。なお、珪藻の指標性については最も多くの種類の指標性についてまとめられた『淡水珪藻生態図鑑』(渡辺, 2005) の情報を採用した。

有機汚濁指数 (DAIpo) による水質判定結果を表 III-30 に、地点別月別の結果を表 III-31 に示す。

妙正寺川の松下橋 (M-1) における DAIpo 値は、8 月及び 10 月ともに 0 であり、「強腐水性水域」と判定された。

善福寺川の寺分橋 (Z-2) を除く調査地点では、8 月及び 10 月のいずれの場所も「貧腐水性水域」または「 $\beta$  中腐水性水域」と判定され、良好な水質が保たれていた。一方、10 月の寺分橋 (Z-2) の DAIpo 値は 1 であり、「強腐水性水域」と判定された。

神田川の井の頭線車庫脇 (K-1) 及び鎌倉橋 (K-3) は、8 月及び 10 月ともに「貧腐水性水域」と判定され、良好な水質が保たれていた。下流の方南第一橋 (K-5) は 8 月に「 $\beta$  中腐水性水域」、10 月に「 $\alpha$  中腐水性水域」と判定され、上流に比べて水質が汚れていた。

表 III-30 付着藻類の有機汚濁指数 (DAIpo) による水質判定結果

調査河川	調査地点		調査時期				平均
			8月		10月		
			DAIpo	判定結果	DAIpo	判定結果	
妙正寺川	松下橋	M-1	0	IV	0	IV	IV
善福寺川	上池と下池の間	Z-1	100	I	95	I	I
	寺分橋	Z-2	92	I	1	IV	II
	井荻橋	Z-4	37	II	76	I	I
	春日橋	Z-6	55	I	37	II	II
	尾崎橋	Z-7	39	II	70	I	I
	和田堀橋	Z-9	41	II	81	I	I
神田川	井の頭線車庫脇	K-1	63	I	70	I	I
	鎌倉橋	K-3	57	I	73	I	I
	方南第一橋	K-5	42	II	25	III	II

有機汚濁指数 (DAIpo) : 指数が大きいほど水質がきれいなことを示す。

0~15 : 強腐水性水域 (IV)

15~30 :  $\alpha$  中腐水性水域 (III)

30~50 :  $\beta$  中腐水性水域 (II)

50~100 : 貧腐水性水域 (I)

表 III-31(1) 付着珪藻類指標性区分と有機汚濁指数 (DAIpo) -8月-

No.	学名	汚濁耐性 (DAIpo)	妙正寺川		善福寺川					神田川		
			松下橋	上池と下池の間	寺分橋	井萩橋	春日橋	尾崎橋	和田堀橋	井の頭線車庫脇	鎌倉橋	方南第一橋
			M-1 8/28	Z-1 9/2	Z-2 9/2	Z-4 8/29	Z-6 8/29	Z-7 8/27	Z-9 8/27	K-1 8/26	K-3 8/26	K-5 8/28
1	<i>Fragilaria capitellata</i>	○								12		
2	<i>Fragilaria vaucheriae</i>	○			1	4	18		768	352	8	1,216
3	<i>Eunotia minor</i>	○				4	18			24		
4	<i>Eunotia monodon</i>	○								32		
5	<i>Amphora pediculus</i>	○		3	1	12	48	30	228	72	4	112
6	<i>Cymbella cistula</i>	○								2		
7	<i>Cymbella tumida</i>	○							8			
8	<i>Gomphonema clavatum</i>	○							144			
9	<i>Gomphonema truncatum</i>	○					2					
10	<i>Navicula cryptotenella</i>	○			1	420	108	156	228			
11	<i>Reimeria sinuata</i>	○							24			
12	<i>Rhoicosphenia abbreviata</i>	○		12								
13	<i>Sellaphora japonica</i>	○				4	3	3				
14	<i>Achnanthes rupestoides</i>	○		1	1	24		12		8		
15	<i>Achnanthydium clevei</i>	○			1		84	72	72		24	56
16	<i>Achnanthydium delicatulum</i>	○							4			
17	<i>Achnanthydium japonicum</i>	○			24	720	432	288		64	16	48
18	<i>Achnanthydium subhudsonis</i>	○				2,880	288	102	528		24	144
19	<i>Karayevia laterostrata</i>	○					30	9	24	32	24	
20	<i>Planothidium frequentissimum</i>	○			2	36	30	66	48	48	40	16
21	<i>Planothidium lanceolatum</i>	○			3	156	42	30	48	112		112
22	<i>Cyclotella meneghiniana</i>	●					6	3	8			16
23	<i>Pleurosira laevis</i>	●							68		2	
24	<i>Gomphonema pseudoaugur</i>	●				432	24	36	720			
25	<i>Navicula confervacea</i>	●	8			456	648	624	1,296	320	32	1,184
26	<i>Navicula goeppertiana</i>	●					3		156	4		
27	<i>Navicula seminulum</i>	●				48	72	48	144		16	240
28	<i>Achnanthydium exiguum</i>	●						156	60	48		16
29	<i>Achnanthydium saprophilum</i>	●				5,904		42	96			
30	<i>Nitzschia amphibia</i>	●	48		2	528	162	288	480	72	56	928
31	<i>Nitzschia palea</i>	●			1			12	60			
指標珪藻類合計			56	16	37	11,628	2,018	1,977	5,224	1,190	246	4,088
好清水性種○ (%) : A			0.0	100.0	91.9	36.6	54.7	38.8	40.9	62.7	56.9	41.7
好汚濁性種● (%) : B			100.0	0.0	8.1	63.4	45.3	61.2	59.1	37.3	43.1	58.3
DAIpo			0	100	92	37	55	39	41	63	57	42
水質階級 (DAIpoによる)			ps	os	os	βms	os	βms	βms	os	os	βms

水質指標性：渡辺仁治（編著）淡水珪藻生態図鑑、内田老鶴圃（2005）  
好清水性種○  
好汚濁性種●

DAIpo 値 = 50 + 1/2 (A - B)  
0以上～15未満：強腐水性 (ps)  
15以上～30未満：α 中腐水性 (αms)  
30以上～50未満：β 中腐水性 (βms)  
50以上～100：貧腐水性 (os)

表 III-31 (2) 附着珪藻類指標性区分と有機汚濁指数 (DAIpo) -10月-

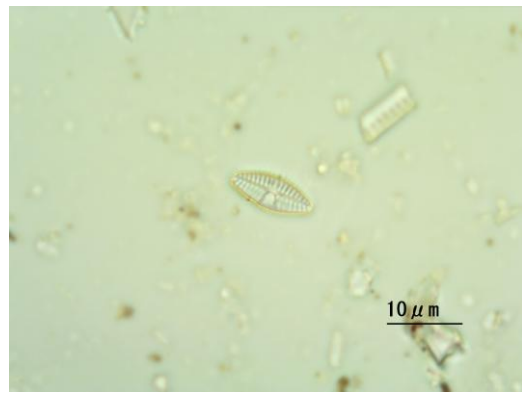
No.	学名	汚濁耐性 (DAIpo)	妙正寺川		善福寺川					神田川			
			松下橋	上池と下池の間	寺分橋	井萩橋	春日橋	尾崎橋	和田堀橋	井の頭線車庫脇	鎌倉橋	方南第一橋	
			M-1 10/22	Z-1 10/22	Z-2 10/22	Z-4 10/21	Z-6 10/20	Z-7 10/20	Z-9 10/16	K-1 10/17	K-3 10/17	K-5 10/16	
1	<i>Ctenophora pulchella</i>	○									4		
2	<i>Fragilaria vaucheriae</i>	○			2	24	24				130	120	176
3	<i>Eunotia minor</i>	○				48	48		4		20		
4	<i>Eunotia monodon</i>	○				8							
5	<i>Amphora pediculus</i>	○		2	2	4	12	84	30	380	800	120	
6	<i>Navicula cryptotenella</i>	○				64	48	48	50	10	16		
7	<i>Navicula nipponica</i>	○					6						
8	<i>Rhoicosphenia abbreviata</i>	○		16		12		192					
9	<i>Sellaphora japonica</i>	○				2	12			4			
10	<i>Achnanthes inflata</i>	○			1	1							
11	<i>Achnanthes rupestroides</i>	○								40	8		
12	<i>Achnantheidium clevei</i>	○									32	48	
13	<i>Achnantheidium japonicum</i>	○		16		1,056	96	48	20	140	64	64	
14	<i>Achnantheidium subhudsonis</i>	○		2		3,264	144	288	50	280	96	128	
15	<i>Karayevia laterostrata</i>	○					264	372	20	40	16	16	
16	<i>Planothidium frequentissimum</i>	○				8	72	36	30	60	16	48	
17	<i>Planothidium lanceolatum</i>	○			24	176	360	120		80	56	32	
18	<i>Pleurosira laevis</i>	●									2	2	
19	<i>Navicula confervacea</i>	●				52	1,020	306	16		144	808	
20	<i>Navicula goeppertiana</i>	●				4							
21	<i>Navicula seminulum</i>	●			2,400	768	576				24		
22	<i>Achnantheidium exiguum</i>	●	2			4		60		220	16	24	
23	<i>Achnantheidium saprophilum</i>	●				576				120		32	
24	<i>Nitzschia amphibia</i>	●	4		4	44	192	120	30	160	272	1,024	
25	<i>Nitzschia palea</i>	●		2	4		48	24				56	
指標珪藻類合計			6	38	2,437	6,115	2,922	1,702	246	1,688	1,682	2,578	
好清水性種○ (%) : A			0.0	94.7	1.2	76.3	37.2	70.0	81.3	70.4	72.8	24.5	
好汚濁性種● (%) : B			100.0	5.3	98.8	23.7	62.8	30.0	18.7	29.6	27.2	75.5	
DAIpo			0	95	1	76	37	70	81	70	73	25	
水質階級 (DAIpoによる)			ps	os	ps	os	βms	os	os	os	os	αms	

水質指標性：渡辺仁治（編著）淡水珪藻生態図鑑、内田老鶴圃（2005）  
好清水性種○  
好汚濁性種●

DAIpo 値 =  $50 + 1/2 (A - B)$   
0以上～15未満：強腐水性 (ps)  
15以上～30未満：α中腐水性 (αms)  
30以上～50未満：β中腐水性 (βms)  
50以上～100：貧腐水性 (os)



*Navicula cryptotenella*  
フネケイソウの仲間(好清水性種)



*Planothidium frequentissimum*  
フトスジツメワカレケイソウの仲間(好清水性種)



*Amphora pediculus*  
ニセクチビルケイソウの仲間(好清水性種)



*Fragilaria vaucheriae*  
オビケイソウの仲間(好清水性種)



*Achnantheidium exiguum*  
ツメワカレケイソウの仲間(好汚濁性種)



*Gomphonema pseudoaugur*  
クサビケイソウの仲間(好汚濁性種)



*Nitzschia amphibia*  
ササハケイソウの仲間(好汚濁性種)



*Navicula confervacea*  
フネケイソウの仲間(好汚濁性種)

写真 III-5 有機汚濁指数 (DAI<sub>po</sub>) の指標となる付着藻類

### 3) 既往調査との比較

第一次から第九次までの出現種類数の経年変化を図 III-13 に、河川別出現種類数を表 III-32 に示す。地点別出現種類数の経年変化を図 III-14 に示す。また、有機汚濁指数 (DAI<sub>po</sub>) の変化を表 III-33 および図 III-15 に示す。

河川別の出現種類数は、第三次調査から第四次調査の間で大きく増加し、その後は横ばい傾向にある。第四次調査以降と第九次調査を比較すると、妙正寺川の出現種類数は最も少なく、善福寺川及び神田川では、2 番目に少なかった。出現種類数が最も少ない第六次調査では、善福寺川における付着藻類の調査地点が 4 地点と少なかったことや、その年の台風 9 号や台風 18 号などによる洪水の影響で河床がかく乱されていたことが要因と考えられる。

地点別有機汚濁指数 (DAI<sub>po</sub>) の経年変化をみると、神田川では第六次調査以降は水質が改善している傾向がみられる。

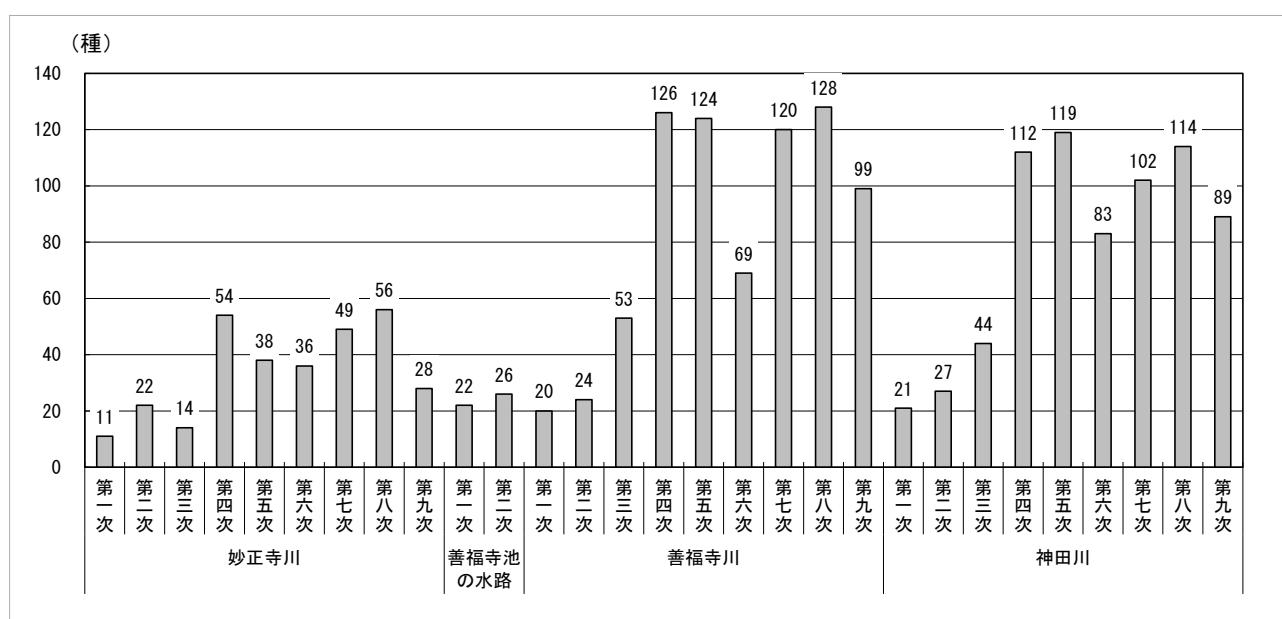


図 III-13 付着藻類の河川別出現種類数の経年変化

表 III-32 付着藻類の河川別出現種類数の経年変化

河川	第一次	第二次	第三次	第四次	第五次	第六次	第七次	第八次	第九次
妙正寺川	11	22	14	54	38	36	49	56	28
善福寺池の水路	22	26	—	—	—	—	—	—	—
善福寺川	20	24	53	126	124	69	120	128	99
神田川	21	27	44	112	119	83	102	114	89



50-100 : 貧腐水性水域 ( I )  
 35-49 :  $\beta$ -中腐水性水域 ( II )  
 20-34 :  $\alpha$ -中腐水性水域 ( III )  
 0-19 : 強腐水性水域 ( IV )

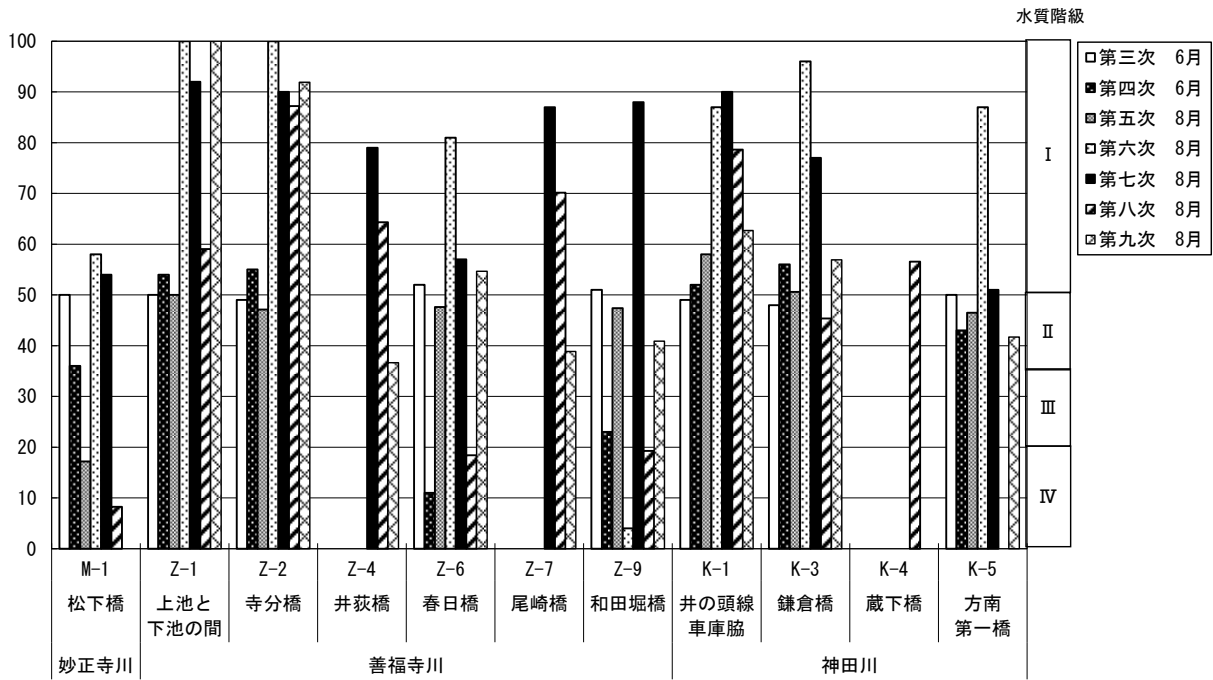


図 III-15(1) 地点別有機汚濁指数 (DAI<sub>po</sub>) の経年変化 (6月および8月)

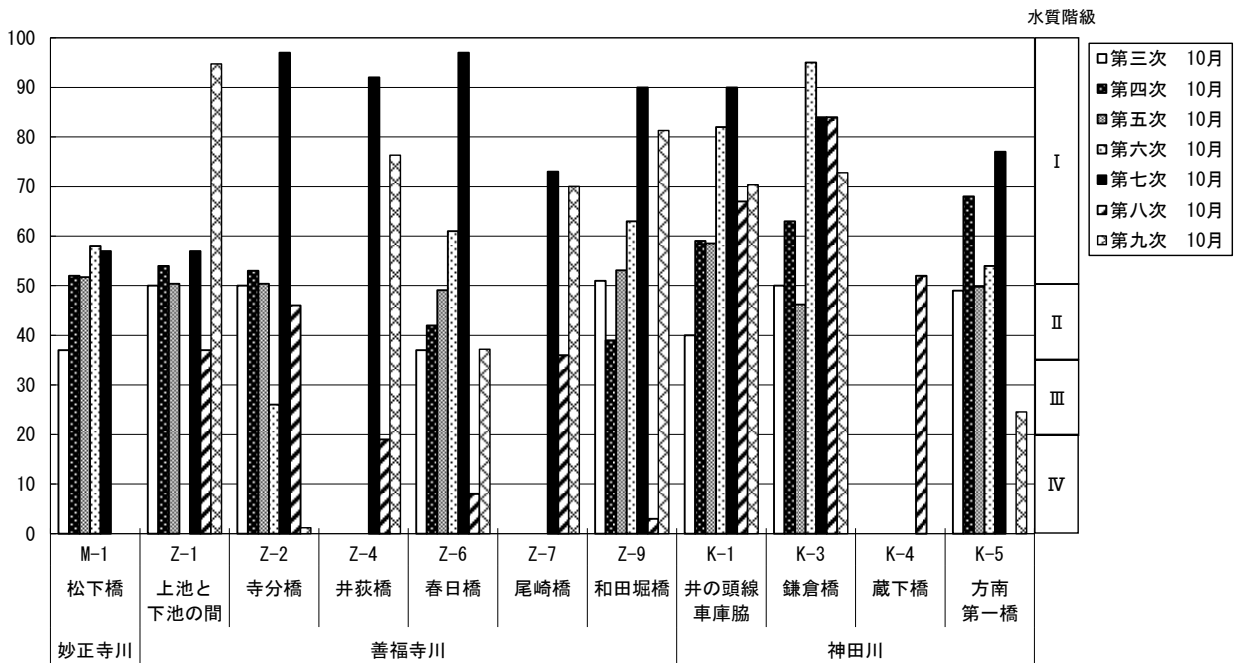
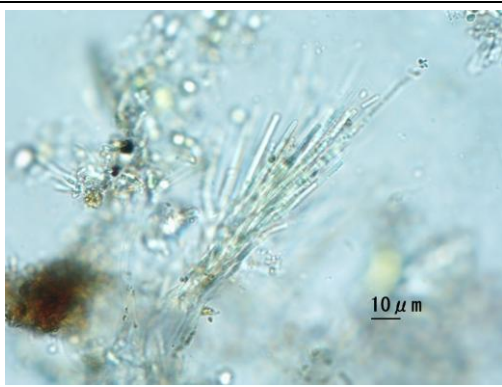


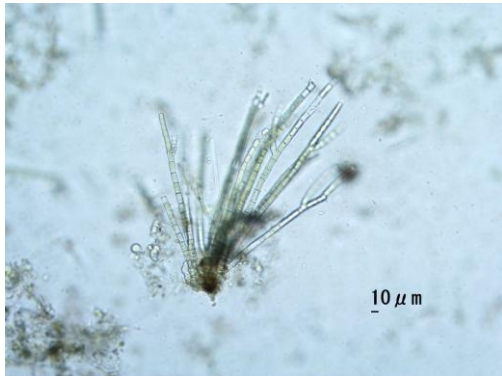
図 III-15(2) 地点別有機汚濁指数 (DAI<sub>po</sub>) の経年変化 (10月)



*Homoeothrix janthina*  
ピロウドラソウ



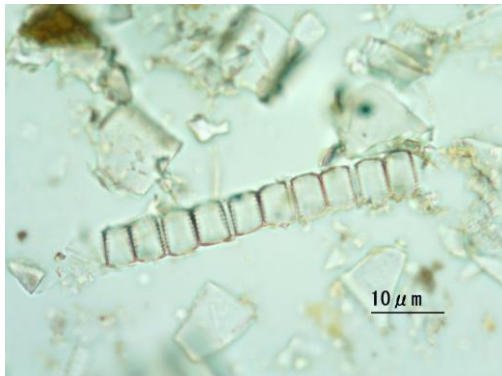
*Lyngbya* sp.  
カタサヤユレモ



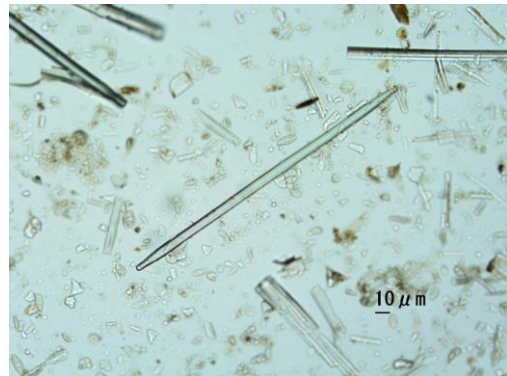
*Audouinella* sp.  
ベニイトモ



*Melosira varians*  
チャツツケイソウの仲間



*Staurosira construens* var. *venter*  
オビジュウジケイソウの仲間



*Ulnaria pseudogailonii*  
ハリケイソウの仲間

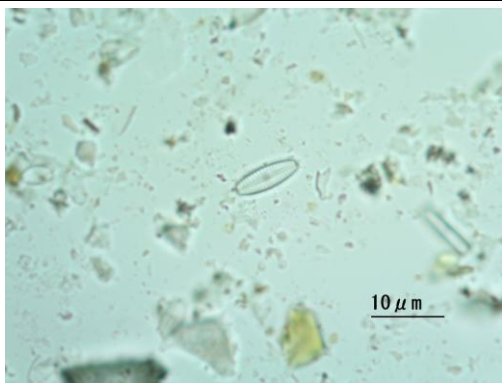


*Gomphonema parvulum*  
クサビケイソウの仲間



*Navicula minima*  
フネケイソウの仲間

写真 III-6(1) 確認された付着藻類



*Navicula seminulum*  
フネケイソウの仲間



*Rhoicosphenia abbreviate*  
マガリクサビケイソウの仲間



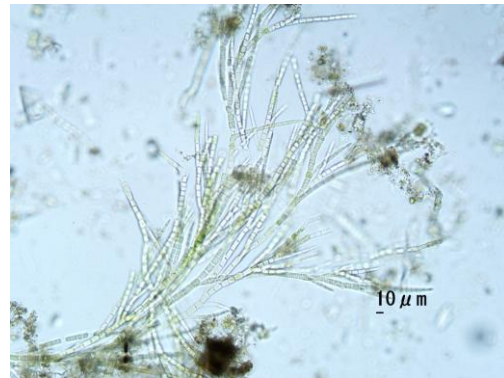
*Cocconeis placentula*  
コバンケイソウの仲間



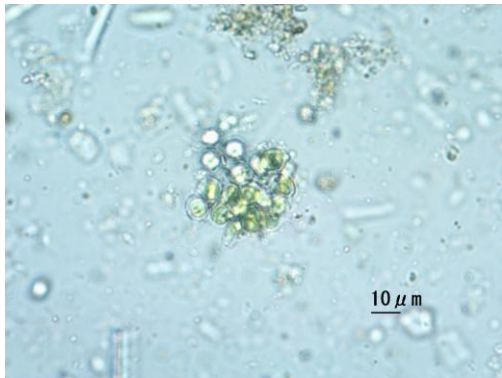
*Karayevia laterostrata*  
ツブスジツメワカレケイソウの仲間



*Scenedesmus* spp.  
イカダモ



*Stigeoclonium* sp.  
キヌミドロ



Chaetophoraceae gen. sp. (basal cell)  
カエトフォラ科(基部細胞)



*Oedogonium* spp.  
サヤマドロ

写真 III-6(2) 確認された付着藻類

### (3) 魚類

#### 1) 出現種とその特徴

##### ① 出現種の状況

魚類の河川別出現種を表 III-34 に示す。

8月及び10月の2回の調査において、妙正寺川1地点、善福寺川9地点、神田川5地点、計15地点で実施した調査により、合計3目6科16種の魚類が確認された。

河川別に見ると、妙正寺川では、10月にドジョウ1種が確認されたのみであった。善福寺川では、8月に13種、10月に14種の合計16種が確認された。ゲンゴロウブナ、ツチフキ、ブルーギル、トウヨシノボリ類、ウキゴリの計5種は善福寺川のみで確認された。神田川では、8月に10種、10月に10種の合計11種が確認された。

表 III-34 魚類の河川別出現種

No.	目名	科名	種名	学名	妙正寺川		善福寺川		神田川	
					8月	10月	8月	10月	8月	10月
1	コイ目	コイ科	コイ (型不明)	<i>Cyprinus carpio</i>			○	◎	○	◎
-			コイ (改良品種・ヒゴイ) *1	<i>Cyprinus carpio</i>				*◎		
-			コイ (改良品種・錦鯉) *1	<i>Cyprinus carpio</i>					*◎	*◎
2			ゲンゴロウブナ	<i>Carassius cuvieri</i>			○			
3			ギンブナ	<i>Carassius sp.</i>			○		○	
4			オイカワ	<i>Opsariichthys platypus</i>			○	○	○	○
5			カワムツ	<i>Candidia temminckii</i>			○	○	○	○
6			モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>			○	○	○	○
7			タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>			○	○	○	○
8			カマツカ*2	<i>Pseudogobio esocinus</i>			○	○	○	○
9		ツチフキ	<i>Abbottina rivularis</i>			○	○			
10		ドジョウ科	ドジョウ (中国大陸系統) *3	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>		○	○	○	○	
11	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>				○		○
-			メダカ属*4	<i>Oryzias sp.</i>						*○
12	スズキ目	サンフィッシュ科	ブルーギル	<i>Lepomis macrochirus macrochirus</i>			○	○		
13		ドンコ科	ドンコ	<i>Odontobutis obscura</i>				○	○	○
14		ハゼ科	カワヨシノボリ	<i>Rhinogobius flumineus</i>				○	○	○
15			トウヨシノボリ類	<i>Rhinogobius sp. OR unidentified</i>			○	○		
16			ウキゴリ	<i>Gymnogobius urotaenia</i>				○		
	3目	6科	16種	種類数 (調査月別)	0	1	13	14	10	10
				種類数 (2回の合計)	1		16		11	

\*1 コイは改良品種も含めて1種として扱う。改良品種のヒゴイ及び錦鯉は種数として数えない。

\*2 東京都にはスナゴカマツカ *Pseudogobio polystictus* (在来種) とカマツカ *Pseudogobio esocinus* (国内外来種) の2種が確認されており、置き換わりや交雑が広く生じているとされる。今回採集された個体は形態的にカマツカと同定されたが、交雑個体の可能性もある。

\*3 東京都ではキタドジョウ、ドジョウ、ドジョウ (中国大陸系統)、カラドジョウが確認されており、後2者は国外外来種である。今回採集された個体は形態的にドジョウ (中国大陸系統) と同定されたが、交雑個体の可能性もある。

\*4 種の識別形質が未発達な仔稚魚のため、メダカ属とした。ミナミメダカと重複する可能性があるため種数として数えない。

\*5 ○は捕獲確認、◎は目視確認のみを示す。

② 地点別出現種の状況

a. 出現種類数

地点別の出現種および個体数を表 III-35 に示す。

個体数が最も多かった地点は、方南第一橋 (K-5) で 225 個体 (目視除く) であり、次いで寺分橋 (Z-2) が 206 個体、宮下橋 (Z-8) が 136 個体 (目視除く) であった。個体数が最も少なかった地点は、神明橋 (Z-5) で 3 個体であり、次いで松下橋 (M-1) が 5 個体、蔵下橋 (K-4) が 36 個体 (目視除く) であった。

確認種類数が最も多かった地点は、鎌倉橋 (K-3) で 9 種確認された。最も少なかった地点は、松下橋 (M-1) でドジョウの 1 種のみであった。

表 III-35(1) 魚類の地点別出現種・個体数

No.	目名	科名	種名	妙正寺川				善福寺川											
				松下橋		上池と下池の間		寺分橋		原寺分橋		井萩橋		神明橋		春日橋		尾崎橋	
				M-1	Z-1	Z-2	Z-3	Z-4	Z-5	Z-6	Z-7								
8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月				
1	コイ目	コイ科	コイ (型不明)		(2)				(24)										
-			コイ (改良品種・ヒゴイ) *1		(1)														
-			コイ (改良品種・錦鯉) *1																
2			ゲンゴロウブナ		3														
3			ギンブナ			7													
4			オイカワ			22	31	51	18	1	3			1	8	9	50		
5			カワムツ			19	9	1	1	3	16								
6			モツゴ		17	7	41	2	4	3	1				1	17	1		
7			タモロコ			54	20	14	3	12	2	2		94	2	28	1		
8			カマツカ *2					2	2	3	1								
9			ツチフキ																
10		ドジョウ科	ドジョウ (中国大陸系統) *3		5				1					2	1	1			
11	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ			1													
-			メダカ属 *4																
12	スズキ目	サンフィッシュ科	ブルーギル		24	23													
13		ドンコ科	ドンコ					1		1									
14		ハゼ科	カワヨシノボリ					2	1		1								
15			トウヨシノボリ類		11	2													
16			ウキゴリ			2													
個体数 (月別)				0	5	55	35(3)	143	63	71(24)	26	23	26	3	0	97	12	55	52
個体数 (2回の合計)				5		90(3)		206		97(24)		49		3		109		107	
種数 (月別)				0	1	4	6	5	5	7	6	5	6	2	0	3	4	4	3
種数 (2回の合計)				1		7		6		8		6		2		4		4	

表 III-35(2) 魚類の地点別出現種・個体数

No.	目名	科名	種名	善福寺川				神田川									
				宮下橋		和田堀橋		井の頭線車庫脇		錦橋		鎌倉橋		蔵下橋		方南第一橋	
				Z-8	Z-9	K-1	K-2	K-3	K-4	K-5							
8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月				
1	コイ目	コイ科	コイ (型不明)	(1)	(12)	1		(13)	(11)	(5)	(12)	(4)	(3)	3		1(9)	(11)
-			コイ (改良品種・ヒゴイ) *1														
-			コイ (改良品種・錦鯉) *1					(1)	(1)								
2			ゲンゴロウブナ														
3			ギンブナ									2					
4			オイカワ	6		8				3	2			5	7	10	174
5			カワムツ							4	1	(1)					
6			モツゴ	26	68	4	6	6	9	12	15	5	4	2	3	2	3
7			タモロコ	28		5	7			23	2	3	1	5	1	9	
8			カマツカ *2							1	1	2					1
9			ツチフキ	7	1	1											
10		ドジョウ科	ドジョウ (中国大陸系統) *3			3	6							1	2	2	1
11	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ							1							
-			メダカ属 *4														2
12	スズキ目	サンフィッシュ科	ブルーギル														
13		ドンコ科	ドンコ					1		2	1						
14		ハゼ科	カワヨシノボリ					22	17	13	16	11	18	3	4	20	
15			トウヨシノボリ類														
16			ウキゴリ														
個体数 (月別)				67(1)	69(12)	14	27	29(13)	26(11)	25(6)	61(13)	28(4)	28(3)	15(1)	21	36(9)	190(11)
個体数 (2回の合計)				136(13)		41		55(24)		86(19)		56(7)		36(1)		225(20)	
種数 (月別)				5	3	5	4	4	3	3	8	9	6	7	5	6	7
種数 (2回の合計)				5		6		4		8		9		7		8	

\*1 コイはまとめて1種として扱うため、改良品種のヒゴイ及び錦鯉は種数として数えない。  
 \*2 東京都ではスナゴカマツカ *Pseudogobio polystictus* (在来種) とカマツカ *Pseudogobio esocinus* (国内外来種) の2種が確認されており、置き換わりや交雑が広く生じているとされる。今回採集された個体は形態的にカマツカと同定されたが、交雑個体の可能性もある。  
 \*3 東京都ではキタドジョウ、ドジョウ、ドジョウ (中国大陸系統)、カラドジョウが確認されており、後2者は国外外来種である。今回採集された個体は形態的にドジョウ (中国大陸系統) と同定されたが、交雑個体の可能性もある。  
 \*4 種の識別形質が未発達な仔稚魚のため、メダカ属とした。  
 \*5 () 内の数値は目視確認の個体数を示す。

b. 優占種

地点別に捕獲された個体数の上位5種を優占種として、表 III-36 に示す。

3 河川の合計で見ると、上位からオイカワ、タモロコ、モツゴ、カワヨシノボリ、カワムツが優占種となった。月別では、8月はタモロコ、モツゴ、オイカワ、カワヨシノボリ、カワムツが優占種となり、10月はオイカワ、モツゴ、タモロコ、カワヨシノボリ、カワムツが優占種となった。

河川別にみると、善福寺川では、上位からタモロコ、オイカワ、モツゴ、カワムツ、ブルーギルが優占しており、神田川では、上位からオイカワ、カワヨシノボリ、モツゴ、タモロコ、ドジョウが優占していた。妙正寺川ではドジョウのみが確認された。

表 III-36 魚類の確認個体数

No.	種名	3河川の合計			妙正寺川			善福寺川			神田川		
		8月	10月	合計	8月	10月	合計	8月	10月	合計	8月	10月	合計
1	オイカワ	107	302	409				90	118	208	17	184	201
2	タモロコ	241	75	316				237	35	272	4	40	44
3	モツゴ	137	122	259				110	88	198	27	34	61
4	カワヨシノボリ	71	57	128				2	2	4	69	55	124
5	カワムツ	27	27	54				23	26	49	4	1	5
6	ブルーギル	24	23	47				24	23	47			
7	ドジョウ (中国大陸系統) *1	10	15	24		5	5	7	7	13	3	3	6
8	トウヨシノボリ類	11	2	13				11	2	13			
9	カマツカ *2	6	7	13				5	3	8	1	4	5
10	ギンブナ	9		9				7		7	2		2
11	ツチフキ	8	1	9				8	1	9			
12	ドンコ	2	4	6					2	2	2	2	4
13	コイ (型不明)	5		5				1		1	4		4
14	ゲンゴロウブナ	3		3				3		3			
15	ウキゴリ		2	2					2	2			
16	ミナミメダカ		2	2					1	1		1	1
-	メダカ属 *3		2	2								2	2
個体数合計		661	641	1301	0	5	5	528	310	837	133	326	459
種類数合計		14	14	17	0	1	1	13	13	16	10	9	11

: 優占種 (上位5種)

\*1 東京都ではキタドジョウ、ドジョウ、ドジョウ (中国大陸系統)、カラドジョウが確認されており、後2者は国外外来種である。今回採集された個体は形態的にドジョウ (中国大陸系統) と同定されたが、交雑個体の可能性もある。

\*2 東京都ではスナゴカマツカ *Pseudogobio polystictus* (在来種) とカマツカ *Pseudogobio esocinus* (国内外来種) の2種が確認されており、置き換わりや交雑が広く生じているとされる。今回採集された個体は形態的にカマツカと同定されたが、交雑個体の可能性もある。

\*3 種の識別形質が未発達な仔稚魚のため、メダカ属とした。ミナミメダカと重複する可能性があるため種数として数えない。

### ③ 重要種

地点別の重要種確認状況を表 III-37 および図 III-16 に示す。

重要種としては、ギンブナ、オイカワ、ドジョウ、ミナミメダカ、トウヨシノボリ（本種の分類は混迷を極めており、種の定義があやふやなため、本調査の記録では“トウヨシノボリ類”としている。）、ウキゴリの合計6種が確認された。ただし、このうちドジョウについては、中国大陸由来の外来系統または外来系統と在来系統の交雑個体である可能性が高い。

表 III-37(1) 魚類重要種の確認地点

No.	種名	重要種選定基準		善福寺川										
		環境省 RL	東京都 RDB	妙正寺川										
				松下橋 M-1	上池と 下池の間 Z-1	寺分橋 Z-2	原寺分橋 Z-3	井荻橋 Z-4	神明橋 Z-5	春日橋 Z-6	尾崎橋 Z-7	宮下橋 Z-8	和田堀橋 Z-9	
1	ギンブナ		DD			●								
2	オイカワ		DD			●		●			●		●	●
3	ドジョウ	NT	CR	●			●				●	●		●
4	ミナミメダカ	VU	CR		●									
5	トウヨシノボリ (トウヨシノボリ類)		VU		●									
6	ウキゴリ		NT		●									
合計種数		2	6	1	3	2	2	1	0	2	2	1	2	

表 III-37(2) 魚類重要種の確認地点

No.	種名	重要種選定基準		神田川				
		環境省 RL	東京都 RDB	井の頭線 車庫脇				
				K-1	錦橋 K-2	鎌倉橋 K-3	蔵下橋 K-4	方南 第一橋 K-5
1	ギンブナ		DD			●		
2	オイカワ		DD		●	●	●	●
3	ドジョウ	NT	CR				●	●
4	ミナミメダカ	VU	CR		●			
5	トウヨシノボリ (トウヨシノボリ類)		VU					
6	ウキゴリ		NT					
合計種数		2	6	0	2	2	2	2

\* 重要種の選定基準は以下に示すとおりとした。

□天然記念物：「文化財保護法（昭和25年法律第214号 最終改正：令和3年法律22号）」で記載された種。

該当種なし

□種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年法律第75号 最終改正：平成29年法律第51号）」で指定された種。

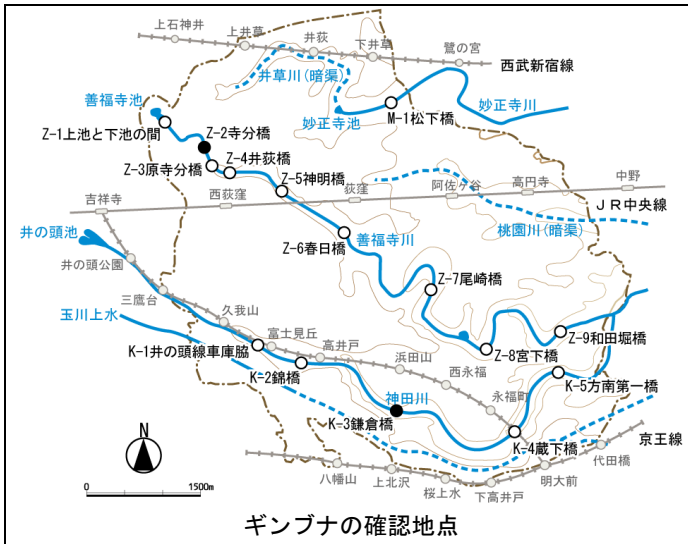
該当種なし

□環境省RL：「レッドリスト2020（令和2年3月27日 環境省）」または「海洋生物レッドリスト（平成29年3月21日 環境省）」で記載された種。

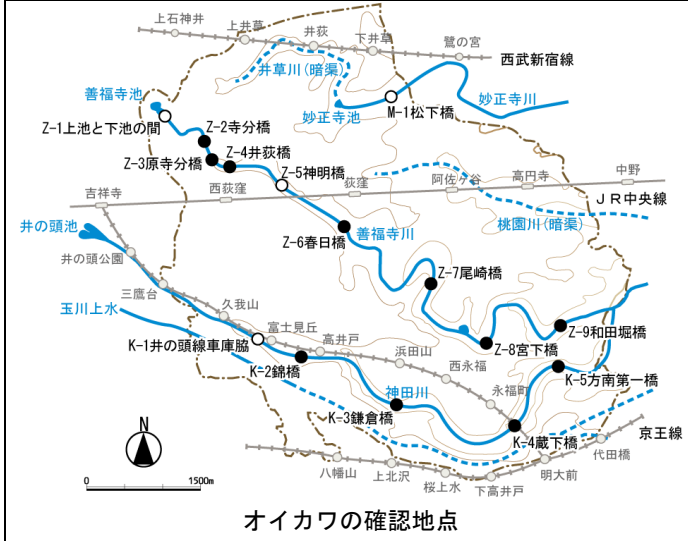
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群

□東京都RDB：「東京都レッドデータブック（本土部）2023（令和5年3月 東京都）」で記載された種。

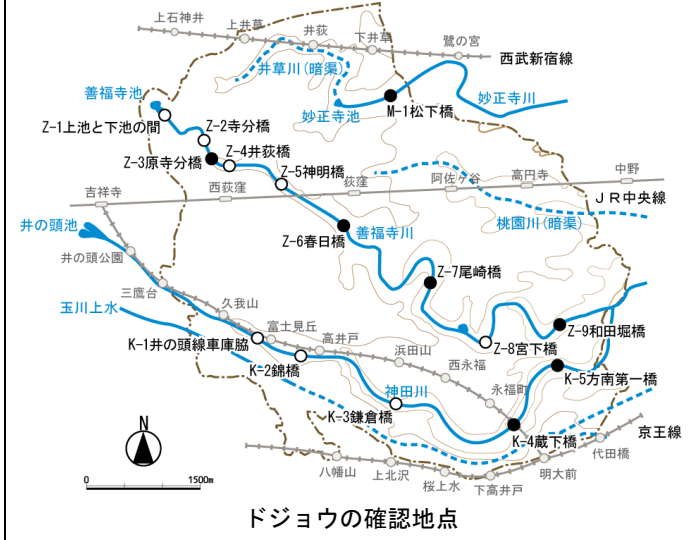
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 留：留意種



**ギンブナ**  
神田川 鎌倉橋 (K-3) 8月



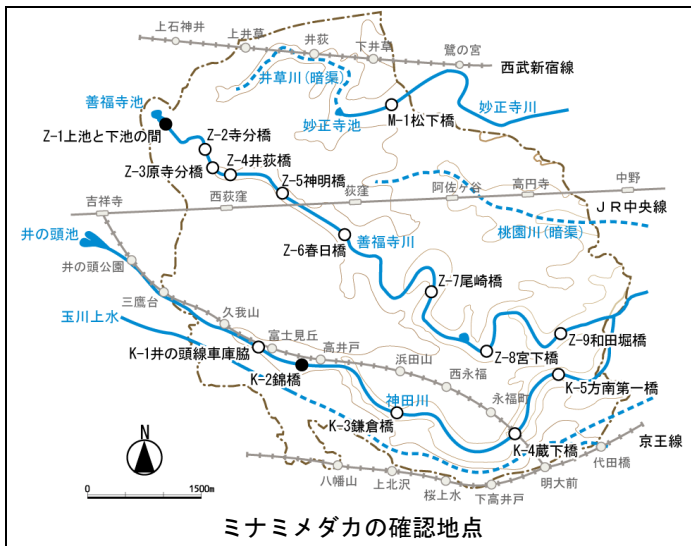
**オイカワ**  
善福寺川 尾崎橋 (Z-7) 8月



**ドジョウ**  
神田川 方南第一橋 (K-5) 8月

\*●は確認された地点、○は確認されなかった地点を示す。

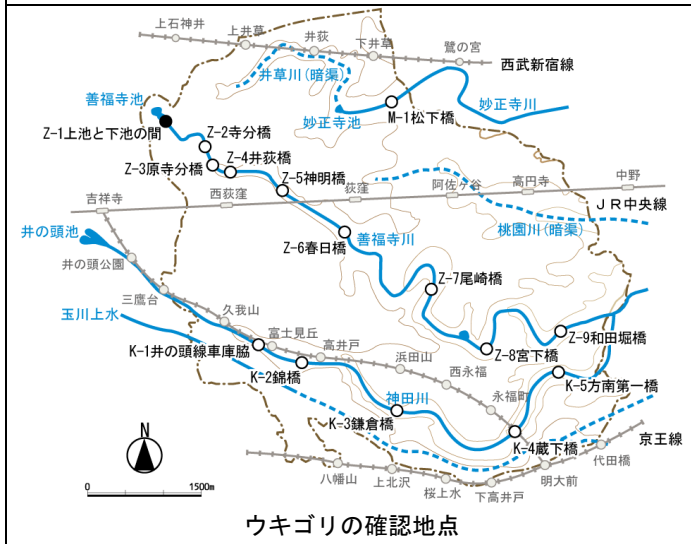
図 III-16(1) 魚類の重要種の確認地点



ミナミメダカ  
神田川 錦橋 (K-2) 10月



トウヨシノボリ類 (標本)  
善福寺川 上池と下池の間 (Z-1)  
上: 8月、下: 10月



ウキゴリ  
善福寺川 上池と下池の間 (Z-1) 10月

\*●は確認された地点、○は確認されなかった地点を示す。

図 III-16(2) 魚類の重要種の確認地点

#### ④ 外来種

地点別の外来種確認状況を表 III-38 および図 III-17 に示す。

外来種としては、合計4種が確認された。このうち留意すべき外来種として、ブルーギル（特定外来生物、緊急対策外来種）が確認された。

ゲンゴロウブナは国内外来種であり、本来は琵琶湖及びその接続河川にのみ生息する。上池と下池の間（Z-1）で確認された。

カワムツは国内外来種であり、本来は西日本（概ね能登半島及び天竜川流域以西）に生息する。善福寺川の3地点（Z-2～Z-4）、神田川の2地点（K-3～K-4）で確認された。

ツチフキは第九次調査で初めて確認された国内外来種であり、本来は近畿以西に生息する。善福寺川の宮下橋（Z-8）及び和田堀橋（Z-9）で確認された。

ブルーギルは上池と下池の間（Z-1）で確認された。

表 III-38(1) 魚類の外来種

No.	和名	外来種選定基準			善福寺川									
		特定外来	被害防止	国内外来	松下橋	上池と下池の間	寺分橋	原寺分橋	井萩橋	神明橋	春日橋	尾崎橋	宮下橋	和田堀橋
					M-1	Z-1	Z-2	Z-3	Z-4	Z-5	Z-6	Z-7	Z-8	Z-9
1	ゲンゴロウブナ			国内		●								
2	カワムツ			国内			●	●	●					
3	ツチフキ			国内								●	●	
4	ブルーギル	特定	緊急			●								
合計種数		1	1	3	0	2	1	1	1	0	0	0	1	1

表 III-38(2) 魚類の外来種

No.	和名	外来種選定基準			神田川				
		特定外来	被害防止	国内外来	井の頭線車庫脇	錦橋	鎌倉橋	蔵下橋	方南第一橋
					K-1	K-2	K-3	K-4	K-5
1	ゲンゴロウブナ			国内					
2	カワムツ			国内			●	●	
3	ツチフキ			国内					
4	ブルーギル	特定	緊急						
合計種数		1	1	3	0	0	1	1	0

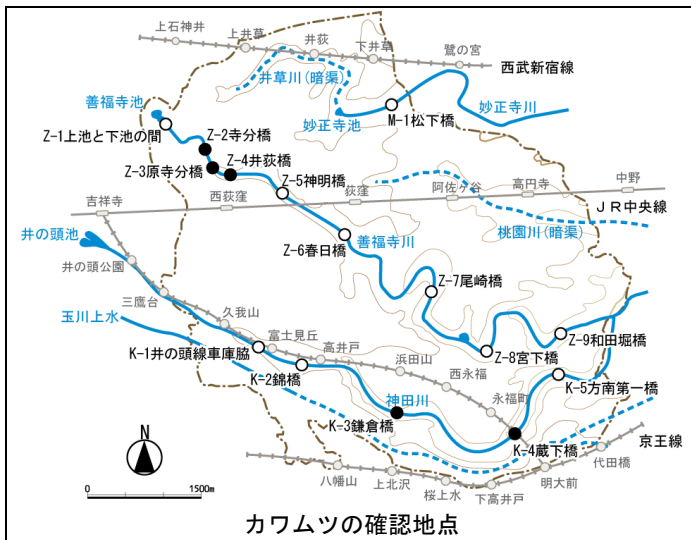
- \* 外来種の選定基準は以下に示すとおりとした。  
 特定外来：「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（平成16年法律第78号 最終改正：令和4年法律第42号）」で指定された種。  
 特定：特定外来生物  
 被害防止：「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（平成27年3月26日 環境省）」で記載された種。  
 緊急：緊急対策外来種 ・その他（総合）：その他の総合対策外来種  
 国内外来：「侵入生物データベース（国立研究開発法人 国立環境研究所）」により明らかに国内外来種と判断された種。  
 国内：国内外来種



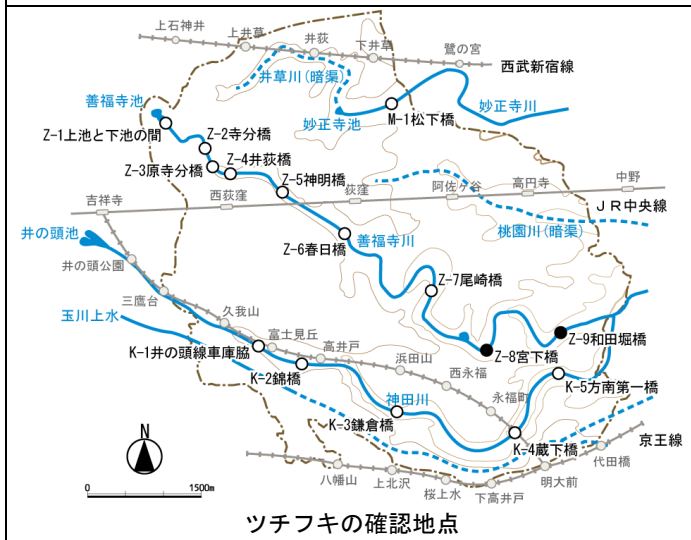
ゲンゴロウブナ  
善福寺川 上池と下池の間（Z-1） 8月

\*●は確認された地点、○は確認されなかった地点を示す。

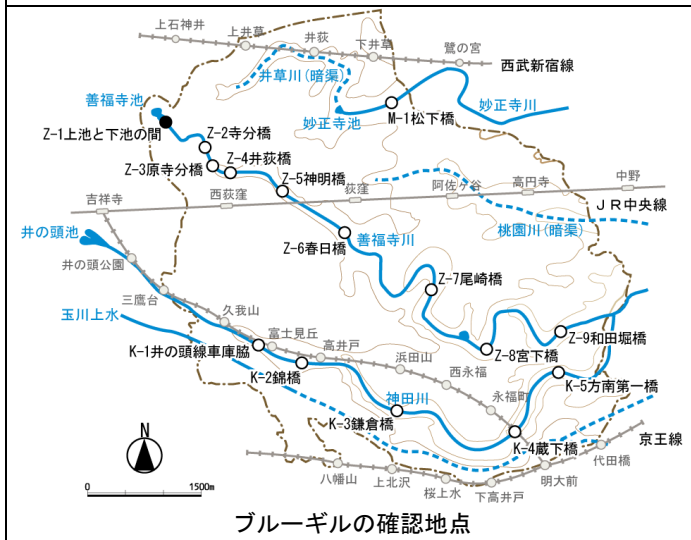
図 III-17(1) 魚類の外来種の確認地点



**カワムツ**  
神田川 鎌倉橋 (K-3) 8月



**ツチフキ**  
善福寺川 宮下橋 (Z-8) 8月



**ブルーギル**  
善福寺川 上池と下池の間 (Z-1) 8月

\*●は確認された地点、○は確認されなかった地点を示す。

図 III-17(2) 魚類の外来種の確認地点



表 III-40 魚類の優占種の経年変化

河川	種名	第一次	第二次	第三次		第四次		第五次		第六次		第七次		第八次		第九次	
		10月	10月	6月	10月	6月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月	8月	10月
妙正寺川	ドジョウ				●		●		●		●	●	●	●	●	●	●
	グッピー													○			
善福寺川	ギンブナ	●	○	○	○				○								
	オイカワ											●	●			○	●
	カワムツ											○	○			○	○
	ヌマムツ				○	●		○	○	○	●						
	モツゴ	○	●	○		○	○	○	●	○	○			○	●	○	○
	タモロコ							●	○		○	○	○	●	○	●	○
	ニゴイ											○	○				
	ドジョウ	○	○	●	●	○	●	○	○	○	○				○		
	ドンコ													○	○		
	ブルーギル													○		○	○
	カワヨシノボリ																
	トウヨシノボリ類	○	○	●	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	
	神田川	コイ *1									●	●	○			○	○
オイカワ				○	●			○	○	○	○	●	●	●	○	○	●
カワムツ												○	○	○	○		
モツゴ		●	○	○	○	●	●	○	○	○	○			○	○	○	○
タモロコ			○	●	○	○	○	●	●	○	○	○			○	○	
カマツカ																○	
ドジョウ												○	○				
ドンコ														○			
カワヨシノボリ														○	●	●	○
トウヨシノボリ類		○	●	○	○		○	○									

[凡例] ●：第1優占種（最も多く捕獲された種）

○：第2～第5優占種

\*1 コイ（飼育型）、コイ（改良品種型）、コイ（型不明）等をまとめてコイとした。

表 III-41 魚類の地点別個体数の経年変化

調査回	妙正寺川										善福寺川					神田川				
	松下橋	上池と下池の間	寺分橋	原寺分橋	井荻橋	神明橋	春日橋	尾崎橋	宮下橋	和田堀橋	井の頭線車庫脇	錦橋	鎌倉橋	蔵下橋	方南第一橋					
	M-1	Z-1	Z-2	Z-3	Z-4	Z-5	Z-6	Z-7	Z-8	Z-9	K-1	K-2	K-3	K-4	K-5					
第一次	0	—	—	24	—	20	6	58	30	44	23	91	58	52	42					
第二次	0	—	—	17	—	0	4	1	14	9	89	42	22	14	17					
第三次	6	13	70	20	9	5	16	27	11	44	12	69	23	10	28					
第四次	3	60	83	21	1	16	22	63	33	43	17	30	55	18	45					
第五次	2	89	175	4	0	3	5	6	4	19	30	51	68	59	88					
第六次	3	285	172	—	—	3	31	—	3	22	105	65	23	—	79					
第七次	23	64	591	123	19	4	16	10	9	45	56	77	49	56	82					
第八次	8	148	233	47	23	9	10	4	9	42	148	96	103	139	42					
第九次	5	90	206	97	49	3	109	107	136	41	55	86	56	36	225					

—：調査なし

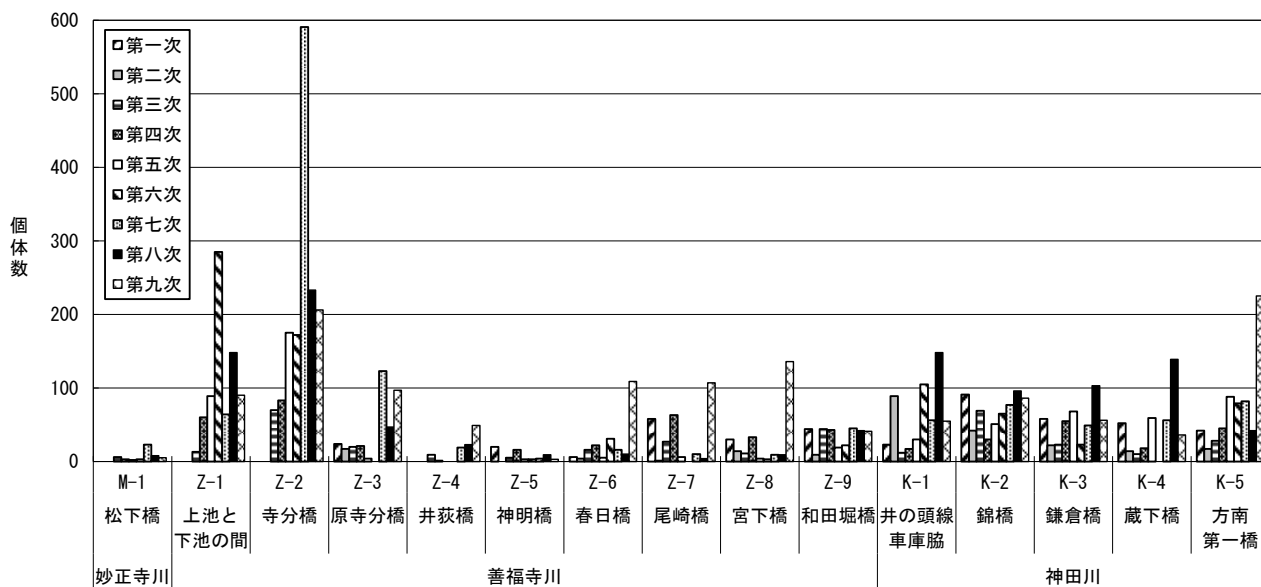


図 III-18 魚類の地点別確認個体数の経年変化

表 III-42 魚類の地点別種類数の経年変化

調査回	妙正寺川		善福寺川									神田川				
	松下橋	上池と下池の間	寺分橋	原寺分橋	井荻橋	神明橋	春日橋	尾崎橋	宮下橋	和田堀橋	井の頭線車庫脇	錦橋	鎌倉橋	蔵下橋	方南第一橋	
	M-1	Z-1	Z-2	Z-3	Z-4	Z-5	Z-6	Z-7	Z-8	Z-9	K-1	K-2	K-3	K-4	K-5	
第一次	—	—	—	3	—	—	5	7	5	3	2	5	4	4	4	
第二次	0	—	—	5	—	2	2	2	6	2	5	6	5	4	2	
第三次	0	2	6	7	2	3	3	3	3	6	5	9	4	4	5	
第四次	1	6	5	4	2	1	2	2	2	7	4	4	4	4	3	
第五次	1	6	7	3	0	3	2	2	1	2	6	7	8	6	8	
第六次	1	5	6	—	—	1	6	—	2	5	5	6	3	—	7	
第七次	1	5	8	8	5	2	3	8	4	2	7	8	6	8	7	
第八次	2	6	10	6	5	2	2	1	3	6	9	10	9	11	10	
第九次	1	7	6	8	6	2	4	4	5	6	4	8	9	7	8	

—：調査なし

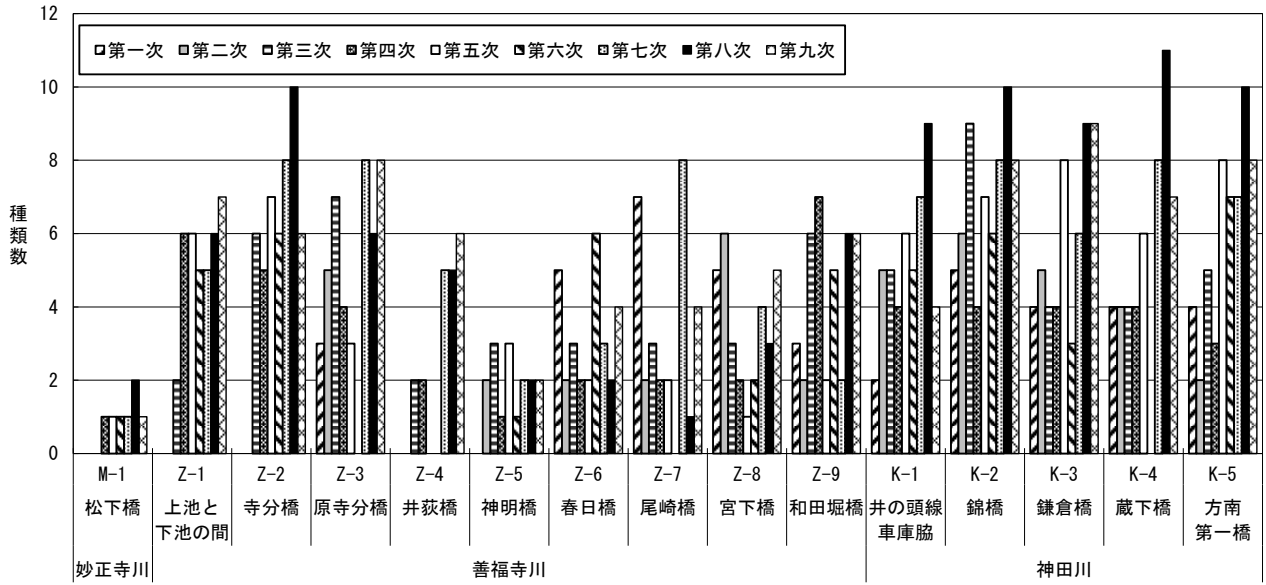


図 III-19 魚類の地点別種類数の経年変化



コイ  
善福寺川 和田堀橋(Z-9) 8月



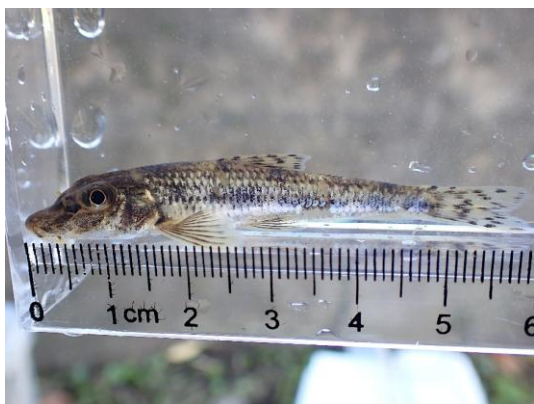
コイ(改良品種・錦鯉)  
神田川 錦橋(K-2) 8月



モツゴ  
神田川 鎌倉橋(K-3) 10月



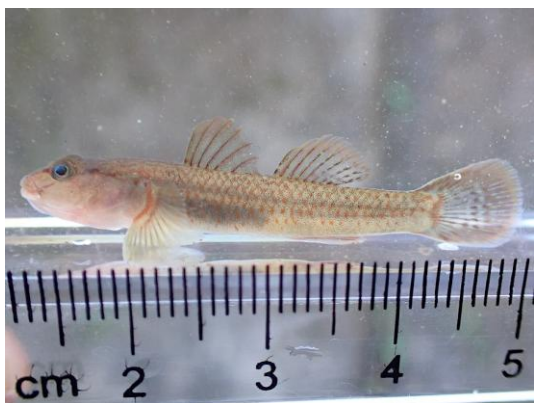
タモロコ  
神田川 鎌倉橋(K-3) 8月



カマツカ  
神田川 鎌倉橋(K-3) 10月



ドンコ  
神田川 錦橋(K-2) 10月



カワヨシノボリ  
神田川 鎌倉橋(K-3) 10月

写真 III-7 その他の確認された魚類

#### (4) 水草（沈水植物）

##### 1) 出現種とその特徴

##### ① 出現種の状況

水草（沈水植物）の河川別出現種を表 III-43 に示す。

8月及び10月の2回の調査において、妙正寺川1地点、善福寺川9地点、神田川5地点、計15地点で実施した調査により、合計4目5科6種の水草（沈水植物）が確認された。

ナガエミクリは抽水植物に分類されるが、沈水状態でも生育するため、本項で取り扱った。

善福寺川では5種、神田川では3種が確認された。妙正寺川では水草（沈水植物）は確認されなかった。

表 III-43 水草（沈水植物）の河川別出現種

No.	目名	科名	種名	学名	妙正寺川		善福寺川		神田川	
					8月	10月	8月	10月	8月	10月
1	オモダカ目	トチカガミ科	オオカナダモ	<i>Egeria densa</i>			○	○	○	○
2		ヒルムシロ科	エビモ	<i>Potamogeton crispus</i>			○			
3			アイノコイトモ	<i>Potamogeton x orientalis</i>					○	○
4	イネ目	ガマ科	ナガエミクリ	<i>Sparganium japonicum</i>			○	○	○	○
5	マツモ目	マツモ科	マツモ	<i>Ceratophyllum demersum</i>			○	○		
6	ユキノシタ目	アリノトウグサ科	オオフサモ	<i>Myriophyllum aquaticum</i>			○	○		
	4目	5科	6種	種類数（調査月別）	0	0	5	4	3	3
				種類数（2回の合計）	0		5		3	

##### ② 地点別出現種の状況

地点別の出現種および生育状況について、表 III-44 に示した。

地点別の確認種数は多くて計3種であった。8月の善福寺川の中流部（Z-4～Z-6）の3地点及び10月の春日橋（Z-6）では、オオカナダモ、ナガエミクリ、オオフサモの3種が確認された。8月の寺分橋（Z-2）では、エビモ、ナガエミクリ、マツモの3種が確認された。

オオカナダモ及びナガエミクリは生育数が多く、群度++++（調査範囲内の河床の50%以上に生育する）の地点が複数確認された。エビモ及びマツモの生育数は少なく、寺分橋（Z-2）において群度+（単独に、あるいは数株が生育する）が確認されるのみであった。

表 III-44(1) 水草（沈水植物）の地点別出現種および生育状況（8月）

No.	科名	種名	妙正寺川		善福寺川							
			M-1	Z-1	Z-2	Z-3	Z-4	Z-5	Z-6	Z-7	Z-8	Z-9
			松下橋	上池と下池の間	寺分橋	原寺分橋	井荻橋	神明橋	春日橋	尾崎橋	宮下橋	和田堀橋
1	トチカガミ科	オオカナダモ	8/28	9/2	9/2	9/2	8/29	8/29	8/29	8/27	8/27	8/27
2	ヒルムシロ科	エビモ			+		+	+	++	+	+++	
3		アイノコイトモ										
4	ガマ科	ナガエミクリ			++++	+++	+++	++++	++++	+		
5	マツモ科	マツモ			+							
6	アリノトウグサ科	オオフサモ					+++	+	+		+	
計	5科	6種	0種	0種	3種	1種	3種	3種	3種	2種	2種	1種

表 III-44(2) 水草（沈水植物）の地点別出現種および生育状況（8月）

No.	科名	種名	神田川				
			K-1	K-2	K-3	K-4	K-5
			井の頭線 車庫脇	錦橋	鎌倉橋	蔵下橋	方南 第一橋
1	トチカガミ科	オオカナダモ	8/26	8/26	8/26	8/28	8/28
2	ヒルムシロ科	エビモ	++++	++++	++++	+++	++
3		アイノコイトモ			+++	++++	+++
4	ガマ科	ナガエミクリ	+++	+			
5	マツモ科	マツモ					
6	アリノトウグサ科	オオフサモ					
計	5科	6種	2種	2種	2種	2種	2種

\* 群度の凡例は以下のとおりである。  
 +++++ : 非常に多く、調査範囲内の河床の50%以上に生育する。  
 +++ : 多いが、生育面積は調査範囲内の河床の50%を超えない。  
 ++ : 調査範囲内に群落が点在する。または群生している。  
 + : 単独に、あるいは数株が生育する。

表 III-44(3) 水草（沈水植物）の地点別出現種および生育状況（10月）

No.	科名	種名	妙正寺川		善福寺川							
			M-1	Z-1	Z-2	Z-3	Z-4	Z-5	Z-6	Z-7	Z-8	Z-9
			松下橋	上池と下池の間	寺分橋	原寺分橋	井荻橋	神明橋	春日橋	尾崎橋	宮下橋	和田堀橋
1	トチカガミ科	オオカナダモ	10/22	10/22	10/22	10/21	10/21	10/21	10/20	10/20	10/20	10/16
2	ヒルムシロ科	アイノコイトモ							++	++		+++
3	ガマ科	ナガエミクリ			++++	+++	+++	++++	+++	+		
4	マツモ科	マツモ			+							
5	アリノトウグサ科	オオフサモ					+++	+	+		+	
計	5科	5種	0種	0種	2種	1種	2種	2種	3種	2種	1種	1種

表 III-44(4) 水草（沈水植物）の地点別出現種および生育状況（10月）

No.	科名	種名	神田川				
			K-1	K-2	K-3	K-4	K-5
			井の頭線 車庫脇	錦橋	鎌倉橋	蔵下橋	方南 第一橋
1	トチカガミ科	オオカナダモ	10/17	10/17	10/17	10/16	10/16
2	ヒルムシロ科	アイノコイトモ	++	+++	+++	++	+
3	ガマ科	ナガエミクリ	+++	++			
4	マツモ科	マツモ					
5	アリノトウグサ科	オオフサモ					
計	5科	5種	2種	2種	2種	2種	2種

\* 群度の凡例は以下のとおりである。  
 +++++ : 非常に多く、調査範囲内の河床の50%以上に生育する。  
 +++ : 多いが、生育面積は調査範囲内の河床の50%を超えない。  
 ++ : 調査範囲内に群落が点在する。または群生している。  
 + : 単独に、あるいは数株が生育する。

### ③ 重要種

地点別の重要種確認状況を表 III-45 および図 III-20 に示す。

重要種としては、エビモ、ナガエミクリ、マツモの計3種が確認された。

エビモ及びマツモは、善福寺川の寺分橋（Z-2）に少数が生育していた。

ナガエミクリは、善福寺川の中流部（Z-2～Z-6）及び神田川の最上流地点（K-1）における生育数が多かった。

表 III-45(1) 水草（沈水植物）重要種の確認地点

No.	種名	重要種選定基準		善福寺川									
		環境省 RL	東京都 RDB	M-1	Z-1	Z-2	Z-3	Z-4	Z-5	Z-6	Z-7	Z-8	Z-9
				松下橋	上池と 下池の間	寺分橋	原寺分橋	井荻橋	神明橋	春日橋	尾崎橋	宮下橋	和田堀橋
1	エビモ	-	CR			○							
2	ナガエミクリ	NT	VU			●	●	●	●	●	○		
3	マツモ	-	EN			○							
合計種数		1	3	0	0	3	1	1	1	1	1	0	0

表 III-45(2) 水草（沈水植物）重要種の確認地点

No.	種名	重要種選定基準		神田川				
		環境省 RL	東京都 RDB	K-1	K-2	K-3	K-4	K-5
				井の頭線 車庫脇	錦橋	鎌倉橋	蔵下橋	方南 第一橋
1	エビモ	-	CR					
2	ナガエミクリ	NT	VU	●	○			
3	マツモ	-	EN					
合計種数		1	3	1	1	0	0	0

\*1 ●は生育数が多いこと（群度++++または+++）、○は生育数が少ないこと（群度++または+）を示す。

\*2 重要種の選定基準は以下に示すとおりとした。

□天然記念物：「文化財保護法（昭和25年法律第214号 最終改正：令和3年法律22号）」で記載された種。

該当種なし

□種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年法律第75号 最終改正：平成29年法律第51号）」で指定された種。

該当種なし

□環境省RL：「第5次レッドリスト（植物・菌類）（令和7年3月18日 環境省）」で記載された種。

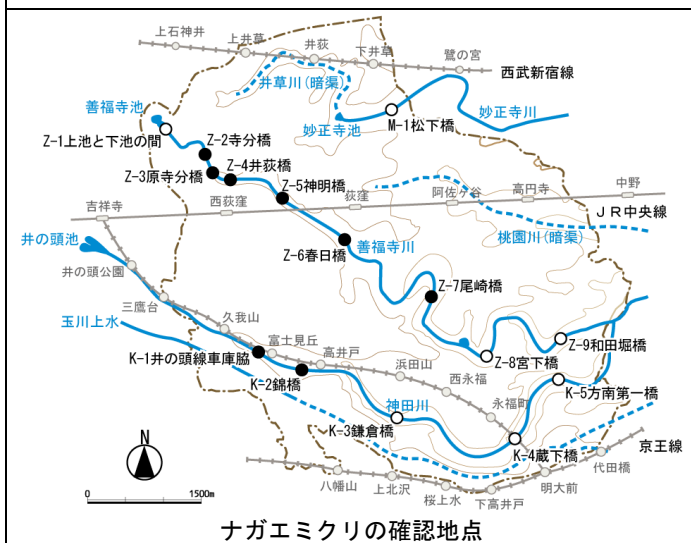
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群

□東京都RDB：「東京都レッドデータブック（本土部）2023（令和5年3月 東京都）」で記載された種。

EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 留：留意種



**エビモ**  
善福寺川 寺分橋 (Z-2) 8月



**ナガエミクリ**  
神田川 井の頭線車庫脇 (K-1) 8月



**マツモ**  
善福寺川 寺分橋 (Z-2) 8月

\*●は確認された地点、○は確認されなかった地点を示す。

図 III-20 水草（沈水植物）の重要種の確認地点

#### ④ 外来種

地点別の外来種確認状況を表 III-46 および図 III-21 に示す。

留意すべき外来種として、オオカナダモ及びオオフサモの計 2 種が確認された。

オオカナダモは、善福寺川の井荻橋 (Z-4) より下流の 6 地点および神田川の全 5 地点で確認され、神田川で生育数が多い傾向にあった。

オオフサモは、善福寺川中流部の 3 地点 (Z-4~Z-6) 及び宮下橋 (Z-8) で確認され、特に井荻橋 (Z-4) における生育数が多かった。

表 III-46(1) 水草 (沈水植物) の外来種の確認地点

No.	種名	外来種 選定基準		善福寺川									
		特定 外来	被害 防止	M-1	Z-1	Z-2	Z-3	Z-4	Z-5	Z-6	Z-7	Z-8	Z-9
				松下橋	上池と 下池の間	寺分橋	原寺分橋	井荻橋	神明橋	春日橋	尾崎橋	宮下橋	和田堀橋
1	オオカナダモ		重点					○	○	○	○	○	●
2	オオフサモ	特定	緊急					●	○	○		○	
計	合計種数			0	0	0	0	2	2	2	1	2	1

表 III-46(2) 水草 (沈水植物) の外来種の確認地点

No.	種名	外来種 選定基準		神田川				
		特定 外来	被害 防止	K-1	K-2	K-3	K-4	K-5
				井の頭線 車庫脇	錦橋	鎌倉橋	蔵下橋	方南 第一橋
1	オオカナダモ		重点	●	●	●	●	○
2	オオフサモ	特定	緊急					
計	合計種数			1	1	1	1	1

\*1 ●は生育数が多いこと (群度++++または+++)、○は生育数が少ないこと (群度++または+) を示す。

\*2 外来種の選定基準は以下に示すとおりとした。

- 特定外来: 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律 (平成16年法律第78号 最終改正: 令和4年法律第42号)」で指定
  - ・ 特定: 特定外来生物
- 被害防止: 「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト (平成27年3月26日 環境省)」で記載された種。
  - ・ 緊急: 緊急対策外来種
  - ・ 重点: 重点対策外来種
  - ・ その他 (総合): その他の総合対策外来種



オオカナダモ  
神田川 井の頭線車庫脇 (K-1) 8月



オオカナダモ生育状況  
神田川 井の頭線車庫脇 (K-1) 8月



オオフサモ  
善福寺川 宮下橋 (Z-8) 8月



オオフサモ生育状況  
善福寺川 井荻橋 (Z-4) 8月

\*●は確認された地点、○は確認されなかった地点を示す。

図 III-21 水草（沈水植物）の留意すべき外来種の確認地点

## 2) 水草による水質判定

表 III-47 に示すとおり、水草の生育と水質にはある程度のある関係があることが知られている。代表的な種類として以下のものがあげられる。

- ・比較きれいな水域に生育する種：セキショウモ、オランダガラシ
- ・中間的な水域に生育する種：コカナダモ、エビモ
- ・かなり汚れた水域に生育する種：ヤナギモ、オオカナダモ

ただし、いずれの種においても水質汚濁に対する耐性にはある程度の幅があるため、東京都と横浜市における指標の評価が異なるものになっているが、既往調査と同様に東京都の指標を用いた。以下に、第九次調査で確認された水草（沈水植物）について、河川ごとに水質との関係を考察した。

なお、ナガエミクリについては、第七次調査に倣い「β中腐水性水域」から「α中腐水性水域」を指標するとみなした。

### ■ 妙正寺川

妙正寺川では水草（沈水植物）は確認されず、第九次調査の結果からは水質判定が困難である。

### ■ 善福寺川

善福寺川では、評価指標に含まれている植物のうち「β中腐水性水域」から「α中腐水性水域」に該当するオオカナダモとエビモが確認された。特にオオカナダモは、井荻橋（Z-4）より下流の広範囲に生育していた。一方、湧水のある水路等に見られるナガエミクリも計6地点（Z-2～Z-6、Z-9）で確認された。これらのことから、「β中腐水性水域」から「α中腐水性水域」に相当すると考えられる。

### ■ 神田川

オオカナダモが全地点で確認された。また上流部ではナガエミクリが、井の頭線車庫脇（K-1）で群生していたほか、錦橋（K-2）でも確認された。これらのことから、全体として「β中腐水性水域」から「α中腐水性水域」に相当するものと考えられる。

表 III-47 水草と水の汚れ

確認された河川	水質階級指標生物	I 貧腐水性水域	II β中腐水性水域	III α中腐水性水域	IV 強腐水性水域	生育場所
	セキショウモ	← - - -	- - - - -	- - - - -		流れがあり底が砂泥
	オランダガラシ	← - - -	- - - - -	- - - - -		冷水、湧水
	コカナダモ		← - - - -	- - - - -		流れが弱く、底が砂泥
善	エビモ		← - - - -	- - - - -		流れが弱く、底が砂泥
善・神	オオカナダモ		← - - - -	- - - - -		流れが弱く、底が砂泥
	ヤナギモ		← - - -	- - - - -	- - - - -	流れが速いところにも生育

【凡例】 妙：妙正寺川 善：善福寺川 神：神田川

「東京における自然の保護と回復の施策に関する事業報告書」（東京都環境保全局，1985）を一部改変

### 3) 既往調査との比較

第三次調査から第九次調査までの水草（沈水植物）の経年確認状況を表 III-48 に示す。

オオカナダモは、善福寺川および神田川の多くの地点で経年的に確認されている。善福寺川では、第六次調査以前は上流部でも確認されていたが、第七次調査以降は井荻橋（Z-4）より下流でしか確認されておらず、生育数は減少傾向にある。

ナガエミクリは、善福寺川および神田川において第三次調査から経年的に確認されており、確認地点数や生育数は増加傾向にある。

オオフサモは、経年的に善福寺川のみで確認されており、第五次調査において井荻橋（Z-4）で初めて確認された。井荻橋（Z-4）では、生育数が増加傾向にある。

エビモは、第六次調査を最後に確認が途絶えていたが、第九次調査において寺分橋（Z-2）で確認された。第六次調査以前に寺分橋（Z-2）で個体は確認されておらず、同じく寺分橋（Z-2）で初めてマツモが確認された。どちらも 2023 年度に実施された「杉並区自然環境調査（第 8 次）」（杉並区環境部環境課, 2025b）において善福寺公園内で確認されており、公園内の池から流れ出た個体が生育していると考えられる。

表 III-48(1) 水草（沈水植物）の経年確認状況（8月）

No.	科名	和名	調査回	善福寺川										神田川					
				妙正寺川	下池と上池の間		寺分橋	原寺分橋	井荻橋	神明橋	春日橋	尾崎橋	宮下橋	和田堀橋	車庫脇頭線	錦橋	鎌倉橋	蔵下橋	第一南橋
				M-1	Z-1	Z-2	Z-3	Z-4	Z-5	Z-6	Z-7	Z-8	Z-9	K-1	K-2	K-3	K-4	K-5	
1	トチカガミ科	オオカナダモ	第三次		1		1	4	4	3	3	3	3	3	2	2	3		
			第四次				+++	+++	++++	+++	++++	++	++	+++	+++	++	++		
			第五次				+++	+++	++	+++	++	++	++	+	+++	+++	++		
			第六次			+			+++	++		++	+	++++	+++	+++	+++		
			第七次					++++	+	+	++	++	+++	+++	+++	++	++++	+++	
			第八次					++	+	+	+	++	+++	++++	+++	++	++++	++	
2	ヒルムシロ科	エビモ	第三次				2	2					2			2			
			第四次							+	+			+					
			第五次									++		+					
			第六次									++							
			第七次																
			第八次																
3		アイノコイトモ	第三次				3	3	2	2	2	4				2			
			第四次				+	+++	++	+	+	+++	+	++	++	+++			
			第五次									+	+		++	++			
			第六次												++	++			
			第七次										++		+++	++	++		
			第八次										+++		+++	+++	+		
4	ガマ科	ナガエミクリ	第三次										3						
			第四次					++											
			第五次											+++					
			第六次						++				++						
			第七次	+		++	++	+++	++++	++++	+		+++	+	+				
			第八次			+++	+++	+++	++++	++++		+	+++	+	+				
-		ミクリ属	第三次																
			第四次	+									+++	++	+				
			第五次							++				+	+				
			第六次							++		+		+					
			第七次																
			第八次																
5	マツモ科	マツモ	第三次																
			第四次																
			第五次																
			第六次																
			第七次																
			第八次																
6	アリノトウグサ科	オオフサモ	第三次																
			第四次																
			第五次					+											
			第六次						+	+									
			第七次					++++	+	+									
			第八次					+++	+	+									
計	5科	6種		1種	1種	4種	2種	5種	5種	5種	3種	4種	4種	3種	3種	3種			

■ 未調査

第三次調査の記録

- 5：調査区内にカーペット状に一面に生育しているもの
- 4：大きな斑状、またはカーペット状のあちこちに穴が開いているような状態のもの
- 3：小群の斑状のもの
- 2：小群をなしているもの
- 1：単独で生えているもの

第四次～第九次調査の記録

- ++++：非常に多く、調査区内の河床の50%以上に生育する
- +++：多いが、生育面積は調査区内の河床の50%を越えない
- ++：調査区内に群落が点在する、または群生している
- +

表 III-48(2) 水草（沈水植物）の出現種類数の経年確認状況（10月）

No.	科名	和名	調査回	善福寺川										神田川						
				妙正寺川																
				松下橋	下池の間	上池の間	寺分橋	原寺分橋	井荻橋	神明橋	春日橋	尾崎橋	宮下橋	和田堀橋	車庫の脇	井の頭線	錦橋	鎌倉橋	蔵下橋	第一南橋
M-1	Z-1	Z-2	Z-3	Z-4	Z-5	Z-6	Z-7	Z-8	Z-9	K-1	K-2	K-3	K-4	K-5						
1	トチカガミ科	オオカナダモ	第三次				1	4	3	4	3	3	3	3	2	3	2	3		
			第四次				+++	+++	+++	+++	++++	+	++	+	+++	+++	++			
			第五次						++	+++	++	+	++	+	++	+	++	++		
			第六次			+			+++	++		++	+	++++	+++	+++				
			第七次						++++	+++	+	++	++	+++	+++	++++	++	++++	+++	
			第八次						++	+	+	++	+	+++	+++	++++	++	++++	++	
			第九次									++	++	+++	++	+++	+++	++	+	
			第三次								1	1	2	1						1
			第四次						+			+								
第五次																				
第六次										++										
第七次																				
第八次																				
第九次																				
3	アイノコイトモ	第三次					3	3	3			2	4	2		2	2	3		
		第四次							++	++		+	+++	+	+	++	+++	++		
		第五次														+++				
		第六次														++		+		
		第七次											+++			+++	+++	+		
		第八次											+++			+++	+++	+		
		第九次														+++	+++	+++		
		第三次						2						4	2					
		第四次						++												
第五次												+++								
第六次								++				++								
第七次				+	++	++	+++	+++	+++	+		+++	++							
第八次				+++	+++	+++	++++	+++	+++			+++	++							
第九次				++++	+++	+++	++++	+++	+++	+		+++	++							
-	ミクリ属	第三次																		
		第四次	+										+++	++	+					
		第五次							+	++					+					
		第六次								++		+			+					
		第七次																		
		第八次																		
		第九次																		
		第三次																		
		第四次																		
第五次																				
第六次																				
第七次																				
第八次																				
第九次				+																
5	アリノトウグサ科	オオフサモ	第三次																	
			第四次																	
			第五次																	
			第六次								+	+								
			第七次							++	+	+								
			第八次							+++	+	+								
			第九次							+++	+	+		+						
			計	5科	6種		1種	0種	3種	2種	5種	5種	5種	3種	5種	2種	3種	3種	2種	3種

■ 未調査

第三次調査の記録

- 5：調査区内にカーペット状に一面に生育しているもの
- 4：大きな斑状、またはカーペット状のあちこちに穴が開いているような状態のもの
- 3：小群の斑状のもの
- 2：小群をなしているもの
- 1：単独で生えているもの

第四次～第九次調査の記録

- ++++：非常に多く、調査区内の河床の50%以上に生育する
- +++：多いが、生育面積は調査区内の河床の50%を越えない
- ++：調査区内に群落が点在する、または群生している
- +

## (5) 重要な生物の経年確認状況

第一次調査から第九次調査まで計 9 回行われた河川生物調査により確認された生物について、P. 39 の表 III-5 に示した選定基準に従ってその重要性を検討した。希少性が高く重要な生物に該当した種は、底生動物 8 種、付着藻類 6 種、魚類 10 種、水草（沈水植物）3 種の合計 27 種であった。これらの種について過年度からの確認状況を表 III-49 に示す。

表 III-49 (1) 重要な生物の確認状況

分類群	種名	確認状況	重要種選定基準		第一次	第二次	第三次	第四次	第五次	第六次	第七次	第八次	第九次
			環境省 RL	東京都 RDB	昭和 57年	昭和 63年	平成 6年	平成 12年	平成 16年	平成 21年	平成 27年	令和 2年	令和 7年
底生動物	モノアラガイ	第一次調査は善福寺川及び神田川で、第三次調査は3河川全てで、第四次調査は妙正寺川で確認された。第八次調査では神田川で確認された。形態の酷似した外来種が複数存在し、近年の記録のほとんどは外来種であると言われている。第九次調査でも確認されたが、先述の外来種との区別が不可能であるため、“モノアラガイ属”と記録した。	NT	CR+EN	●		●	●				●	
	ヒラマキミズマイマイ	第一次調査において神田川で確認された。第七次調査では善福寺川及び神田川において確認されたが、第八次調査以降は確認されていない。	DD	DD	●						●		
	テナガエビ	第三次調査以降、善福寺川で確認されている。第九次調査においても善福寺川の上池と下池の間（Z-1）で確認された。	-	留意			●	●	●	●	●	●	●
	スジエビ	第四次調査以降、善福寺川で確認されている。第九次調査においても善福寺川の上池と下池の間（Z-1）で確認された。第四次調査のみ妙正寺川でも確認された。	-	留意				●	●	●	●	●	●
	モクスガニ	第七次調査で初めて善福寺川の春日橋（Z-6）で確認され、第八次調査では和田堀橋（Z-9）で確認された。第九次調査では確認されなかった。	-	留意							●	●	
	ハグロトンボ	第四次調査及び第七次調査では善福寺川と神田川で確認されたが、第八次調査以降は確認されていない。	-	VU				●			●		
	ネグロセンブリ	第八次～第九次調査において神田川の井の頭線車庫脇（K-1）のみで確認された。	-	VU								●	●
	ヘイケボタル	第三次調査において善福寺川で確認されたが、その後確認されていない。	-	CR			●						
付着藻類	オオイシソウ	第四次調査において善福寺川と神田川で、第五次調査では善福寺川で、第六次～第九次調査では3河川全てで確認された。	NT	DD				●	●	●	●	●	●
	チャイロカワモズク	第七次調査で初めて善福寺川と神田川で確認されたが、それ以降は確認されていない。	NT	DD							●		
	ニホンカワモズク （現カワモズク）	第七次～第八次調査において善福寺川及び神田川で確認された。第九次調査では善福寺川の井荻橋（Z-4）のみで確認された。近年の研究により、カワモズクと同一種と見なされるようになった。重要種選定基準のランクはカワモズクのもの。	(NT)	(VU)							●	●	●
	オキチモズク	第九次調査において善福寺川の寺分橋（Z-2）で初めて確認された。近年東京でも確認されるようになったが、国内移入種である可能性が指摘されている。	EN	DD									●
	タンスイベニマダラ	第七次～第九次調査において善福寺川と神田川で確認された。第八次調査では妙正寺川でも確認された。	DD	NT							●	●	●
	イズミイシノカワ	第八次調査で初めて神田川の鎌倉橋（K-3）で確認された。第九次調査では更に善福寺川の井荻橋（Z-4）と春日橋（Z-6）でも確認された。	NT	DD								●	●

(次のページへ続く)

表 III-49(2) 重要な生物の確認状況

分類群	種名	確認状況	重要種選定基準		第一次	第二次	第三次	第四次	第五次	第六次	第七次	第八次	第九次
			環境省 RL	東京都 RDB	昭和 57年	昭和 63年	平成 6年	平成 12年	平成 16年	平成 21年	平成 27年	令和 2年	令和 7年
魚類	キンブナ	第一次～第三次調査に善福寺川または神田川で確認されていたものの、第四次調査以降今回の調査を含めて確認されていない。	VU	CR	●	●	●						
	ギンブナ	第一次～第三次及び第八次～第九次調査で確認された。	-	DD	●	●	●					●	●
	オイカワ	第三次調査以降、善福寺川及び神田川で確認されている。各河川の優占種の一つである。	-	DD			●	●	●	●	●	●	●
	ニゴイ	第五次調査において神田川で、第六次及び第七次調査では善福寺川で確認された。第八次調査では善福寺川及び神田川で確認された。第九次調査では確認されなかった。	-	NT					●	●	●	●	
	ドジョウ	妙正寺川では第三次調査から、善福寺川及び神田川では第一次調査から確認されている。種としては同種だが、中国大陸由来の外來系統のドジョウが全国で分布を広げている。第九次調査で確認した個体も外來系統または外來系統と在來系統との交雑個体であった。	NT	CR	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	ギバチ	第四次調査において善福寺川で確認されたのみである。	VU	VU				●					
	ミナミメダカ	第二次、第四次～第六次調査で善福寺川または神田川で確認された。第七次調査及び第八次調査では確認されなかったが、第九次調査で再び両河川で確認された。	VU	CR		●		●	●	●			●
	ヌマチチブ	第四次調査において善福寺川で、第六次～第七次調査では神田川で確認されたが、第八次調査以降は確認されていない。	-	留意				●		●	●		
	トウヨシノボリ (トウヨシノボリ類)	第一次調査から善福寺川及び神田川で確認されているが、近年のDNA解析による研究でトウヨシノボリ類は見た目がそっくりな複数の種が存在することが判明しており、評価がしがたい。	-	VU	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	ウキゴリ	第三次、第六次、第七次、第九次調査の善福寺川で確認されており、数は少ないが生息していると考えられる。	-	NT			●		●	●			●
水草	エビモ	第三次～第六次調査において善福寺川で、第三次調査において神田川で確認されているが、第七次～第八次調査では確認されなかった。第九次調査で再び善福寺川で確認された。	-	CR	-	-	●	●	●	●			●
	ナガエミクリ	第三次調査以降、善福寺川及び神田川で度々確認されている。第七次調査のみ妙正寺川でも確認された。	NT	VU	-	-	●	●	●	●	●	●	●
	マツモ	第九次調査において善福寺川の寺分橋 (Z-2) で初めて確認された。	-	EN	-	-							●

\* 重要種の選定基準は以下に示すとおりとした。  
 天然記念物：「文化財保護法（昭和25年法律第214号 最終改正：令和3年法律22号）」で記載された種。  
 該当種なし  
 種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年法律第75号 最終改正：平成29年法律第51号）」で指定された種。  
 該当種なし  
 環境省RL：植物の場合は「第5次レッドリスト（植物・菌類）（令和7年3月18日 環境省）」で記載された種。  
 動物の場合は「レッドリスト2020（令和2年3月27日 環境省）」で記載された種。  
 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足  
 LP：絶滅のおそれのある地域個体群  
 東京都RDB：「東京都レッドデータブック（本土部）2023（令和5年3月 東京都）」で記載された種。  
 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 留：留意種

## III-2 河川環境調査 -善福寺川における植物相調査-

### 1. 現地調査の内容

#### (1) 現地調査の時期

現地調査は令和7年9月29日～10月29日に実施した。



図 III-22 河川の断面模式図

#### (2) 現地調査の方法

善福寺川を水源の善福寺公園上池から終端の神田川合流点まで踏査し、確認した植物種を橋間ごとに記録した。調査は図 III-22 に示す河川区域（概ね転落防止柵の内側）を対象に実施した。

#### (3) 調査地の現況

第五次調査以降、杉並区内の河川について、その構造や隣接する側道および周辺環境などにより河川環境区分を行なっている。図 III-23 に善福寺川の環境区間区分、図 III-24 に環境区間ごとの特徴を示す。

善福寺川は、Z1～Z7の7つの環境区間に区分されている。護岸の形状は、上・中流部のZ1～Z4では底面が平坦な形状で側面が直立した護岸であるのに対して、中・下流部のZ5～Z6では底面の中央が階段状に窪み、側面が傾斜した護岸であり、最下流部のZ7では底面の中央が窪み、側面が直立した護岸となっている。側道の幅員は、上・中流部のZ1～Z4では狭い場所が多いのに対して、中・下流部や最下流部のZ5～Z7ではほとんどが広がっている。側道の植生は、上・中流部のZ2～Z4では非常に少なく、中・下流部のZ5～Z6ではほとんどが高木や低木の植栽があり、最下流部のZ7ではやや少なくなる。周辺環境は、上・中流部のZ1～Z4では戸建て住宅や集合住宅であるのに対して、中・下流部のZ5～Z6ではほとんどが大規模な公園や緑道となっており、最下流部のZ7は公共施設や住宅となっている。

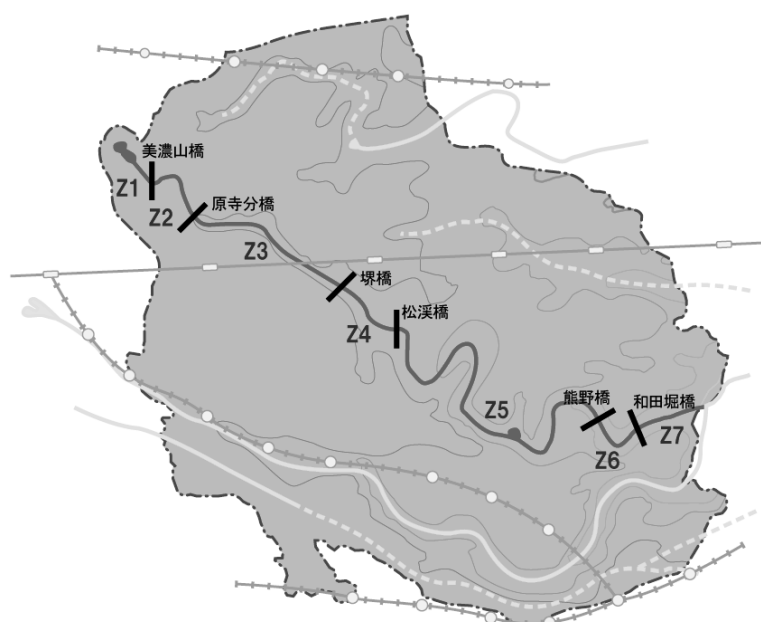


図 III-23 善福寺川の環境区間区分

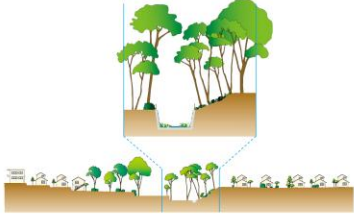

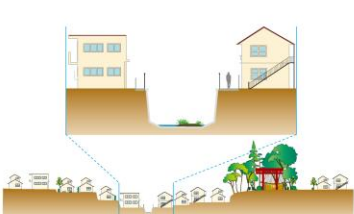



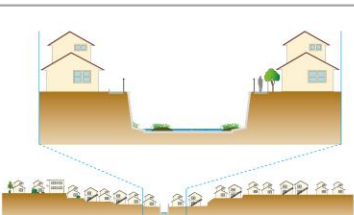

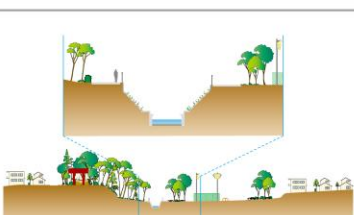

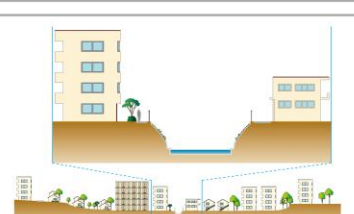

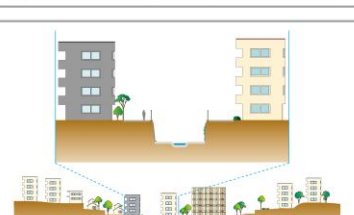

<p>Z1</p> 		<ul style="list-style-type: none"> <li>・善福寺公園の善福寺池の周辺で、兩岸とも高木を中心とした緑が多くなっている。</li> <li>・河川内にも湿生植物が多く生えている。</li> <li>・河川の周辺は、庭のある住宅などになっている。</li> </ul>
<p>Z2</p> 		<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川内には、湿生植物が多く生えている。</li> <li>・側道には、緑はほとんどない。</li> <li>・河川の周辺は、小中学校や住宅などになっている。</li> </ul>
<p>Z3</p> 		<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川内には、ところどころに湿生植物や水草が見られる。</li> <li>・側道には、緑はほとんどない。</li> <li>・河川の周辺は、緑のある団地や戸建て住宅などがある。</li> </ul>
<p>Z4</p> 		<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川が湾曲して砂州や淵が形成され、湿生植物が多く見られる。</li> <li>・側道は場所によって並木がある。</li> <li>・河川の周辺は、団地、公園、庭のある住宅などになっている。</li> </ul>
<p>Z5</p> 		<ul style="list-style-type: none"> <li>・善福寺川緑地や和田堀公園などの広い緑地がある区域である。</li> <li>・側道にも樹木が多く植栽されている。</li> <li>・河川内には、水草が多く生えている。</li> <li>・石積みの護岸は、傾斜がほかよりも緩やかで草が生えている。</li> </ul>
<p>Z6</p> 		<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川内は底がコンクリートで覆われて植物がほとんど見られないが、石積みの護岸には草が生えている。</li> <li>・河川の周辺は、団地や庭のある住宅などになっている。</li> </ul>
<p>Z7</p> 		<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川の幅が狭く、河川内は底がコンクリートで覆われているが、ところどころ植物が生えることができる穴のある構造になっている。</li> <li>・河川内には湿生植物などが少し生えている。</li> <li>・河川の周辺には、団地などの大きな建物が目立つ。</li> </ul>

図 III-24 善福寺川の環境区間ごとの特徴表

## 2. 現地調査の結果

### (1) 出現種とその分布

#### 1) 出現種の状況

植物相調査の結果、善福寺川において、110科 386種が確認された（表 III-50）。

在来種が 241 種で約 62%であり、国内外来種は 15 種の約 4%、国外外来種は 128 種で約 33%であった（図 III-25）。

また、確認種の生育由来を区分した（図 III-26）。植栽は、河川沿いや公園、植栽枡などに人為的に植えられた種とした。帰化・逸出は、野外で勝手に生育するようになった外来種や植栽・栽培（家庭観賞用含む）された植物のうち、植栽箇所以外での生育が確認された種とした。その結果、植栽は 48 種、帰化・逸出は 129 種であった。

表 III-50 確認種の分類群別内訳

分類群		科数	種数		
シダ植物		10	15		
種子植物	裸子植物	3	8		
	被子植物	下記に属さない被子植物	6	10	
		単子葉類	16	85	
		真正双子葉類	下記に属さない真正双子葉類	6	14
			バラ上群	29	110
キク上群	40	144			
合計		110	386		

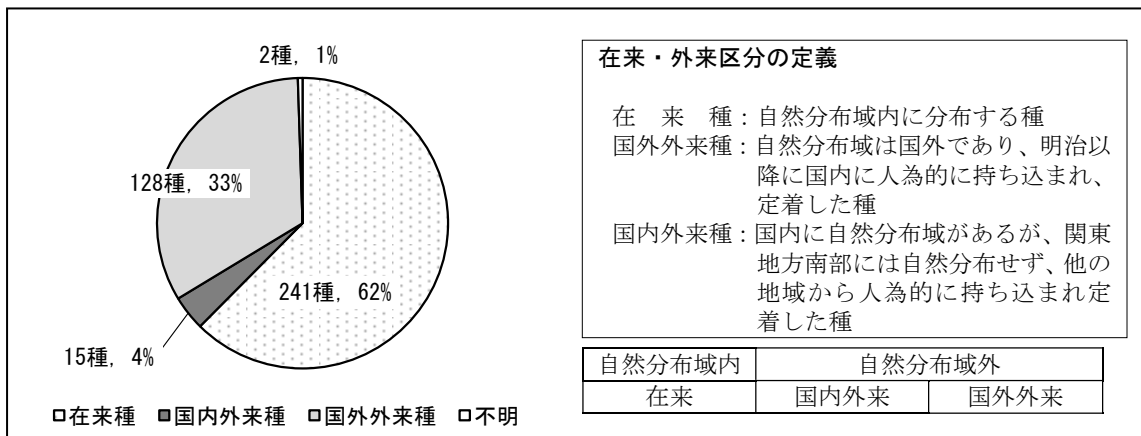


図 III-25 在来・外来区分の構成

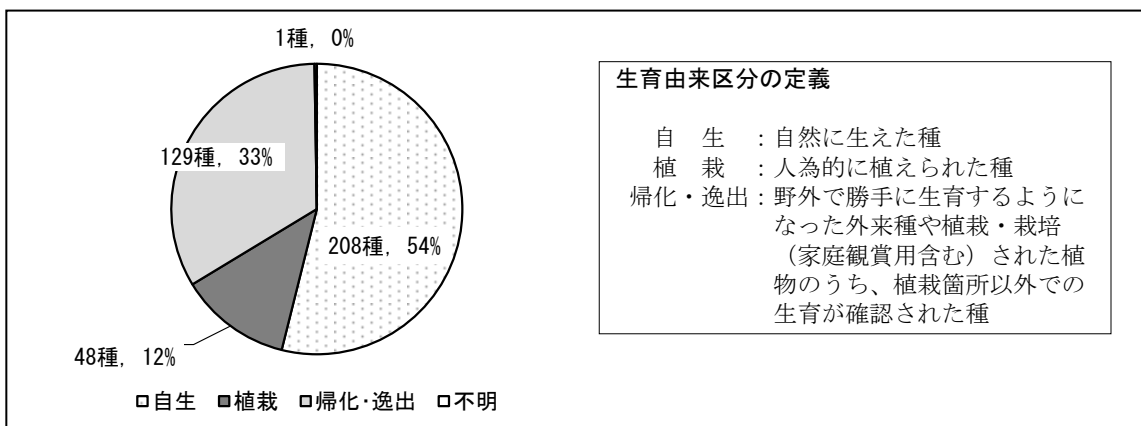


図 III-26 生育由来区分の構成

## 2) 植物種の分布状況

確認された種を主に生育する環境でA～Gの7つに区分（表 III-51）した。人里（草地・路傍）に生育する種が最も多く、191種であった。住宅地に隣接していることや、護岸の傾斜が緩やかな区間があることが、多くの種が生育できる環境であると考えられる。確認種のうち水辺に生育する種（E～Gの合計）は、62種であった。

生育環境区分ごとの確認種数を、善福寺川の橋間区間（計72区間）ごとに示した（図 III-27）。橋間区間の中では、善福寺公園上池及び下池での確認種数が比較的多かった。善福寺公園内には樹林及び樹林内を流れる水路があり、多様な環境があることによって、樹林地や林縁で見られる種が多く確認されたためと考えられる（図 III-27）。上池と下池を合わせた確認種数は226種であった。

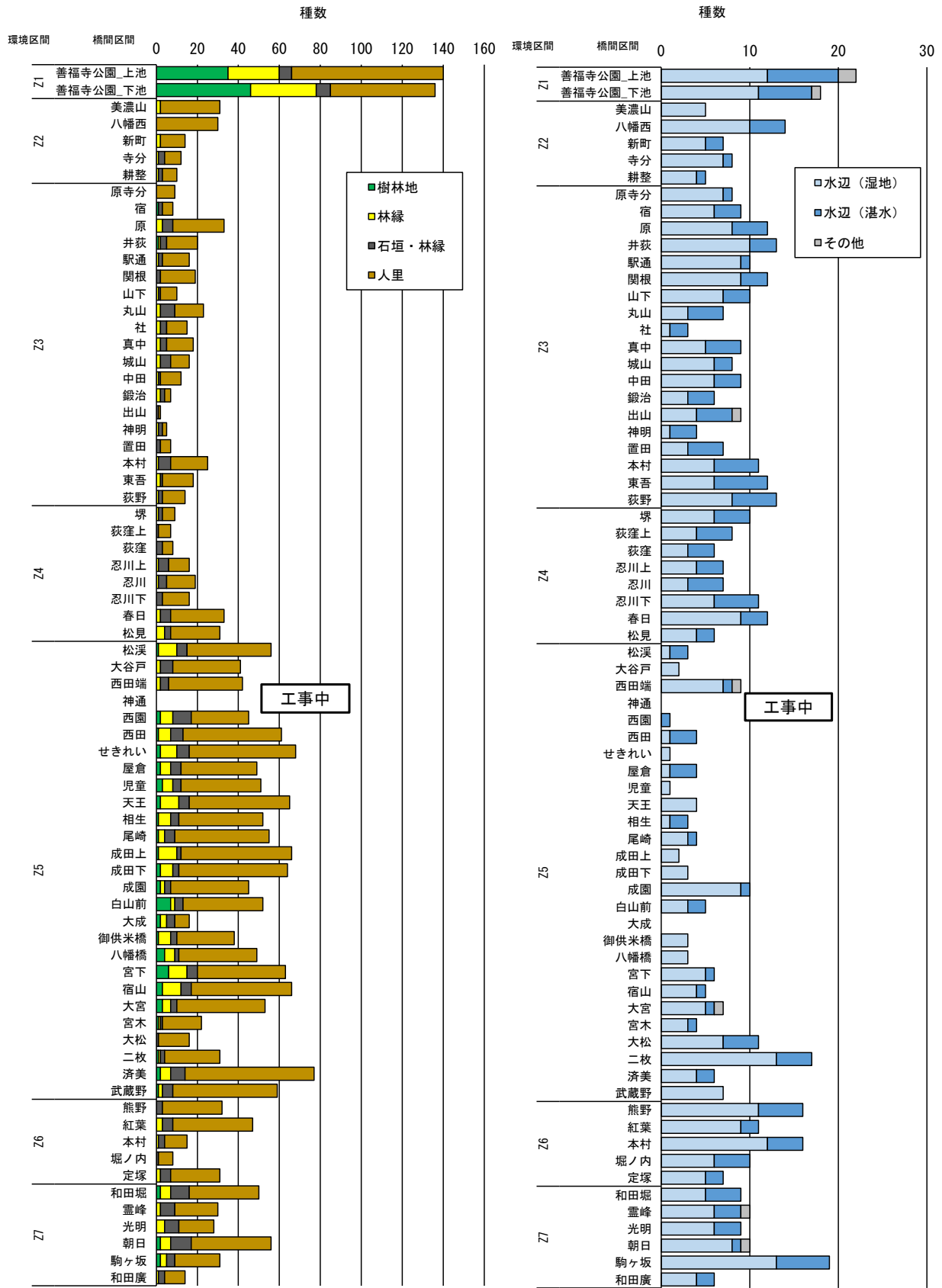
水辺で確認される植物は、ほぼ全ての調査区域で確認された（大成橋及び工事中で調査できなかった神通橋を除く）。これは、河床の底質が砂泥であることや水路内に砂州がみられ、水路内に多様な環境が形成されているためと考えられる。

環境区間（Z1～Z7）で比較すると、松溪橋から武蔵野橋までのZ5で最も多くの238種類が確認された。区間延長が最も長いことに加えて、和田堀公園の樹林地等に隣接していることで、隣接する樹林由来の植物種の進入定着が多いことによるものと考えられる。

こうした地域別の植物の出現傾向と環境との対応は、過年度調査でも同様に確認されており、大きな変化は見られなかった。

表 III-51 生育環境区分とその環境条件

生育環境区分		環境条件	種数	
A	樹林地	照葉樹林や夏緑広葉樹二次林に生育する種	61種	
B	林縁	林縁に生育する種	53種	
C	石垣・林縁	民家や法面の石垣等に生育する種、 林縁や樹林内にもみられる種	19種	
D	人里（草地・路傍）	刈り取り草地や畑・路傍に生育する種	191種	
E	水辺	湿地	水田や畦畔、湿地などの水辺に生育する種	42種
F		湛水	池沼や河川の水際または水中に生育する種	17種
G	その他	上記の生育環境区分に該当しない種	3種	
合計			386種	



※橋間区間は、上流側の橋の名称を示す。

図 III-27 区間ごとの植物の出現種数

表 III-52(1) 植物の区間別出現種

No.	科名	種名		生育環境 区分 *1	在来/外来	生育由来	確認された区間							
		和名	学名				Z1	Z2	Z3	Z4	Z5	Z6	Z7	
1	イワヒバ科	イヌカタヒバ	<i>Selaginella moellendorffii</i>	C	国内外来	帰化・逸出						●		●
2	トクサ科	スギナ	<i>Equisetum arvense</i>	D	在来	自生	●					●		
3	ハナヤスリ科	オオハナワラビ	<i>Botrychium japonicum</i>	A	在来	自生	●							
4	カニクサ科	カニクサ	<i>Lygodium japonicum</i> var. <i>japonicum</i>	D	在来	自生	●		●	●	●	●	●	●
5	イノモトソウ科	ホウライシダ	<i>Adiantum capillus-veneris</i>	C	国内外来	帰化・逸出						●	●	●
6		オオバノイノモトソウ	<i>Pteris cretica</i>	C	在来	自生	●							
7		イノモトソウ	<i>Pteris multifida</i>	C	在来	自生	●	●	●	●	●	●	●	●
8	チャセンシダ科	トラノオシダ	<i>Asplenium incisum</i>	C	在来	自生		●						
9	ヒメシダ科	ミドリヒメワラビ	<i>Macrothelypteris viridifrons</i>	B	在来	自生	●					●		
10		ヒメシダ	<i>Thelypteris palustris</i>	E	在来	自生	●							
11	メシダ科	イヌワラビ	<i>Anisocampium niponicum</i>	B	在来	自生	●		●	●	●			●
12	オシダ科	オニヤブソテツ	<i>Cyrtomium falcatum</i>	C	在来	自生	●	●	●			●	●	●
13		ヤブソテツ	<i>Cyrtomium fortunei</i> var. <i>fortunei</i>	C	在来	自生	●					●		
14		ベニシダ	<i>Dryopteris erythrosora</i>	A	在来	自生	●							
15	ウラボシ科	ノキシノブ (広義)	<i>Lepisorus thunbergianus</i>	C	在来	自生			●	●	●	●	●	●
16	イチョウ科	イチョウ	<i>Ginkgo biloba</i>	A・G	国外外来	植栽	●							
17	マツ科	ヒマラヤスギ	<i>Cedrus deodara</i>	A・G	国外外来	植栽						●		
18		クロマツ	<i>Pinus thunbergii</i>	A・G	在来	植栽	●							
19	ヒノキ科	ヒノキ	<i>Chamaecyparis obtusa</i>	A	在来	植栽	●							
20		サワラ	<i>Chamaecyparis pisifera</i>	A	在来	植栽	●							
21		スギ	<i>Cryptomeria japonica</i> var. <i>japonica</i>	A	在来	植栽	●							
22		メタセコイア	<i>Metasequoia glyptostroboides</i>	A・G	在来	植栽	●							
23		ヌマスギ	<i>Taxodium distichum</i>	A・G	国外外来	植栽	●							
24	スイレン科	スイレン	<i>Nymphaea</i> cvs.	F	国外外来	植栽	●							
25	マツブサ科	サネカズラ	<i>Kadsura japonica</i>	B	在来	自生	●							
26	センリョウ科	センリョウ	<i>Sarcandra glabra</i>	A	在来	植栽	●							
27	ドクダミ科	ドクダミ	<i>Houttuynia cordata</i>	B	在来	自生	●	●	●	●	●	●	●	●
28		ハンゲショウ	<i>Saururus chinensis</i>	E	在来	植栽	●							
29	モクレン科	ユリノキ	<i>Liriodendron tulipifera</i>	A	国外外来	植栽	●					●		
30		コブシ	<i>Magnolia kobus</i>	A	在来	植栽	●							
31		ホオノキ	<i>Magnolia obovata</i>	A	在来	自生	●							
32	クスノキ科	クスノキ	<i>Cinnamomum camphora</i>	A・G	国内外来	植栽	●					●		
33		ヤブニッケイ	<i>Cinnamomum yabunikkei</i>	A	在来	自生	●							
34	ショウブ科	セキショウ	<i>Acorus gramineus</i> var. <i>gramineus</i>	E	在来	自生	●							
35	トチカガミ科	オオカナダモ	<i>Egeria densa</i>	F	国外外来	帰化・逸出	●		●	●	●	●	●	●
36	ヒルムシロ科	アイノコイトモ	<i>Potamogeton x orientalis</i>	F	在来	自生								●
37	ヤマノイモ科	ヤマノイモ	<i>Dioscorea japonica</i>	B	在来	自生	●							
38		オニドコロ	<i>Dioscorea tokoro</i>	D	在来	自生						●		
39	アヤメ科	キショウブ	<i>Iris pseudacorus</i>	F	国外外来	帰化・逸出	●			●				
40	ワスレナグサ科	ヤブカンゾウ	<i>Hemerocallis fulva</i> var. <i>kwanso</i>	D	在来	自生	●							
41	ヒガンバナ科	ノビル	<i>Allium macrostemon</i>	D	在来	自生	●				●	●		
42		ニラ	<i>Allium tuberosum</i>	D	国外外来	帰化・逸出						●	●	
43		シロバナマンジュシヤゲ	<i>Lycoris x albiflora</i>	D	国外外来	植栽						●		
44		ヒガンバナ	<i>Lycoris radiata</i>	D	国外外来	植栽	●							
45		ハタケニラ	<i>Nothoscordum gracile</i>	D	国外外来	帰化・逸出						●		

表 III-52(2) 植物の区間別出現種

No.	科名	種名		生育環境 区分 *1	在来/外来	生育由来	確認された区間						
		和名	学名				Z1	Z2	Z3	Z4	Z5	Z6	Z7
46	(ヒガンバナ科)	タマスダレ	<i>Zephyranthes candida</i>	D	国外外来	帰化・逸出					●		
47	クサスギカズラ科	ツルボ	<i>Barnardia japonica</i>	D	在来	自生					●		
48		ヤブラン	<i>Liriope muscari</i>	A	在来	自生	●						
49		ノシラン	<i>Ophiopogon jaburan</i>	B	国内外来	植栽	●						
50		ジャノヒゲ	<i>Ophiopogon japonicus</i>	A	在来	自生	●						
51		ナガバジャノヒゲ	<i>Ophiopogon japonicus</i> var. <i>umbrosus</i>	A	在来	自生	●						
52	ヤシ科	シュロ	<i>Trachycarpus fortunei</i>	A	国外外来	帰化・逸出	●						
53	ツユクサ科	マルバツユクサ	<i>Commelina benghalensis</i>	D	国外外来	帰化・逸出					●	●	
54		ツユクサ	<i>Commelina communis</i>	D	在来	自生	●		●	●	●	●	●
55		イボクサ	<i>Murdannia keisak</i>	E	在来	自生						●	
56		ヤブミョウガ	<i>Pollia japonica</i>	B	在来	自生	●						
57		ムラサキツユクサ	<i>Tradescantia ohiensis</i>	D	国外外来	帰化・逸出						●	
58	ミズアオイ科	ホテイアオイ	<i>Eichhornia crassipes</i>	F	国外外来	帰化・逸出		●	●	●			
59		コナギ	<i>Monochoria vaginalis</i>	E	在来	自生					●		
60	ショウガ科	ミョウガ	<i>Zingiber mioga</i>	B	在来	帰化・逸出			●				
61	ガマ科	ナガエミクリ	<i>Sparganium japonicum</i>	F	在来	自生		●	●	●	●		●
62		ヒメガマ	<i>Typha domingensis</i>	F	在来	自生	●				●		
63		ガマ	<i>Typha latifolia</i>	F	在来	自生	●		●	●	●	●	●
64		コガマ	<i>Typha orientalis</i>	F	在来	自生	●					●	●
65	イグサ科	イグサ	<i>Juncus decipiens</i>	E	在来	自生	●						
66	カヤツリグサ科	ナキリスゲ	<i>Carex lenta</i>	B	在来	自生	●						
67		チャガヤツリ	<i>Cyperus amuricus</i>	D	在来	自生					●		
68		ヒメクグ	<i>Cyperus brevifolius</i> var. <i>leiolepis</i>	D・E	在来	自生	●				●		
69		クグガヤツリ	<i>Cyperus compressus</i>	D・E	在来	自生						●	
70		タマガヤツリ	<i>Cyperus difformis</i>	E	在来	自生		●	●		●	●	●
71		メリケンガヤツリ	<i>Cyperus eragrostis</i>	E	国外外来	帰化・逸出	●	●	●	●	●	●	●
72		コゴメガヤツリ	<i>Cyperus iria</i>	D	在来	自生		●	●		●	●	●
73		カヤツリグサ	<i>Cyperus microiria</i>	D	在来	自生		●		●	●		●
74		イガガヤツリ	<i>Cyperus polystachyos</i>	E	在来	自生							●
75		マツバイ	<i>Eleocharis acicularis</i> var. <i>longiseta</i>	E	在来	自生							●
76		ホタルイ	<i>Schoenoplectiella hotarui</i>	E	在来	自生	●						
77		イネ科	メリケンカルカヤ	<i>Andropogon virginicus</i>	D	国外外来	帰化・逸出	●	●			●	●
78	トダシバ		<i>Arundinella hirta</i>	D	在来	自生					●		
79	ジュズダマ		<i>Coix lacryma-jobi</i>	E	国外外来	帰化・逸出	●		●		●	●	
80	ギョウギシバ		<i>Cynodon dactylon</i>	D	在来	自生					●		●
81	ハマスゲ		<i>Cyperus rotundus</i>	D	在来	自生					●		
82	メヒシバ		<i>Digitaria ciliaris</i>	D	在来	自生	●	●	●	●	●	●	●
83	コメヒシバ		<i>Digitaria radicata</i>	D	在来	自生	●				●		
84	アキメヒシバ		<i>Digitaria violascens</i>	D	在来	自生	●				●		
85	イヌビエ		<i>Echinochloa crus-galli</i>	E	在来	自生	●	●	●	●	●	●	●
86	タイヌビエ		<i>Echinochloa oryzicola</i>	E	在来	自生			●	●	●	●	
87	オヒシバ		<i>Eleusine indica</i>	D	在来	自生	●	●	●	●	●	●	●
88	カモジグサ		<i>Elymus tsukushiensis</i> var. <i>transiens</i>	D	在来	自生	●				●	●	●
89	カゼクサ		<i>Eragrostis ferruginea</i>	D	在来	自生	●				●		
90	チガヤ		<i>Imperata cylindrica</i> var. <i>koenigii</i>	D	在来	自生	●				●	●	

表 III-52(3) 植物の区間別出現種

No.	科名	種名		生育環境 区分 *1	在来/外来	生育由来	確認された区間										
		和名	学名				Z1	Z2	Z3	Z4	Z5	Z6	Z7				
91	(イネ科)	コゴメイ	<i>Juncus polyanthemus</i>	E	国外外来	帰化・逸出										●	
92		ササガヤ	<i>Leptatherum japonicum</i>	D・E	在来	自生	●										
93		アシボン	<i>Microstegium vimineum</i>	D・E	在来	自生	●									●	
94		ヒメアシボン	<i>Microstegium vimineum</i> f. <i>willdenowianum</i>	D・E	在来	自生	●										
95		オギ	<i>Miscanthus sacchariflorus</i>	E	在来	自生			●	●							
96		ススキ	<i>Miscanthus sinensis</i>	D	在来	自生	●		●				●				
97		コチヂミザサ	<i>Oplismenus undulatifolius</i> var. <i>japonicus</i>	B	在来	自生	●									●	
98		ヌカキビ	<i>Panicum bisulcatum</i>	E	在来	自生		●	●						●		●
99		オオクサキビ	<i>Panicum dichotomiflorum</i>	E	国外外来	帰化・逸出			●	●			●	●	●		●
100		シマスズメノヒエ	<i>Paspalum dilatatum</i>	D	国外外来	帰化・逸出		●	●	●			●	●	●		●
101		キシウスズメノヒエ	<i>Paspalum distichum</i>	E	国外外来	帰化・逸出									●		
102		チカラシバ	<i>Pennisetum alopecuroides</i>	D	在来	自生	●									●	●
103		クサヨシ	<i>Phalaris arundinacea</i>	F	在来	自生			●	●			●	●	●		●
104		ヨシ	<i>Phragmites australis</i>	F	在来	自生	●	●									●
105		ツルヨシ	<i>Phragmites japonica</i>	E	在来	自生		●							●	●	
106		アズマネザサ	<i>Pleoblastus chino</i>	B	在来	自生	●								●		
107		ヤダケ	<i>Pseudosasa japonica</i>	A	国外外来	植栽									●		
108		クマザサ	<i>Sasa veitchii</i>	A	在来	植栽	●										
109	イヌアワ	<i>Setaria chondrachne</i>	B	在来	自生	●											
110	アキノエノコログサ	<i>Setaria faberi</i>	D	在来	自生		●	●	●			●	●				
111	コツブキンエノコロ	<i>Setaria pallidifusca</i>	D	在来	自生										●		
112	キンエノコロ	<i>Setaria pumilla</i>	D	在来	自生										●		
113	エノコログサ	<i>Setaria viridis</i> var. <i>minor</i>	D	在来	自生	●	●	●	●			●	●	●		●	
114	ムラサキエノコロ	<i>Setaria viridis</i> var. <i>minor</i> f. <i>miseria</i>	D	在来	自生										●		
115	セイバンモロコシ	<i>Sorghum proproinquum</i>	D	国外外来	帰化・逸出									●	●	●	
116	ナギナタガヤ	<i>Vulpia myuros</i> var. <i>myuros</i>	D	国外外来	帰化・逸出	●											
117	マコモ	<i>Zizania latifolia</i>	F	在来	自生	●	●	●	●								
118	シバ	<i>Zoysia japonica</i>	D	在来	植栽	●									●		
119	マツモ科	マツモ	<i>Ceratophyllum demersum</i>	F	在来	自生	●										
120	ケシ科	ムラサキケマン	<i>Corydalis incisa</i>	D	在来	自生									●		
121	アケビ科	ゴヨウアケビ	<i>Akebia x pentaphylla</i> var. <i>pentaphylla</i>	A・B	在来	自生	●										
122		アケビ	<i>Akebia quinata</i>	A・B	在来	自生	●										
123		ミツバアケビ	<i>Akebia trifoliata</i> ssp. <i>trifoliata</i>	A・B	在来	自生	●										
124		ムベ	<i>Stauntonia hexaphylla</i>	A・B	在来	帰化・逸出	●										
125	ツツラフジ科	アオツツラフジ	<i>Cocculus trilobus</i>	B	在来	自生									●		
126	メギ科	ヒイラギナンテン	<i>Berberis japonica</i>	A・G	国内外来	帰化・逸出	●										
127		ホソバヒイラギナンテン	<i>Mahonia fortunei</i>	A・G	国内外来	帰化・逸出	●										
128		ナンテン	<i>Nandina domestica</i>	A	国外外来	帰化・逸出	●										
129	キンポウゲ科	センニンソウ	<i>Clematis terniflora</i>	B	在来	自生	●										
130		ケキツネノボタン	<i>Ranunculus cantoniensis</i>	E	在来	自生	●		●								
131		ヒメウズ	<i>Semiaquilegia adoxoides</i>	B	在来	自生										●	
132		アキカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>hypoleucum</i>	D・A	在来	自生	●										
133	マンサク科	トサミズキ	<i>Corylopsis spicata</i>	A	国内外来	植栽	●										
134	ベンケイソウ科	コダカラベンケイ	<i>Kalanchoe daigremontiana</i>	C	国外外来	帰化・逸出									●	●	
135		コモチマンネングサ	<i>Sedum bulbiferum</i>	D	在来	自生	●										

表 III-52(4) 植物の区間別出現種

No.	科名	種名		生育環境 区分 *1	在来/外来	生育由来	確認された区間						
		和名	学名				Z1	Z2	Z3	Z4	Z5	Z6	Z7
136	(ベンケイソウ科)	オカタイトゴメ	<i>Sedum japonicum</i> <i>ssp. oryzifolium</i> var. <i>pumilum</i>	C	国外外来	帰化・逸出					●		
137		ツルマンネングサ	<i>Sedum sarmentosum</i>	C	国外外来	帰化・逸出					●	●	●
138	アリノトウグサ科	オオフサモ	<i>Myriophyllum aquaticum</i>	F	国外外来	帰化・逸出			●	●	●	●	
139	ブドウ科	ノブドウ	<i>Ampelopsis glandulosa</i> var. <i>heterophylla</i>	B	在来	自生	●						
140		ヤブカラシ	<i>Cayratia japonica</i>	B	在来	自生	●		●		●		●
141		ツタ	<i>Parthenocissus tricuspidata</i>	C	在来	自生	●	●			●	●	●
142		エビヅル	<i>Vitis ficifolia</i>	B	在来	自生					●		●
143	マメ科	ヤブマメ	<i>Amphicarpaea edgeworthii</i>	B	在来	自生	●						
144		アレチヌスビトハギ	<i>Desmodium paniculatum</i>	D	国外外来	帰化・逸出	●						
145		ヌスビトハギ	<i>Hylodesmum podocarpum</i> <i>ssp. oxyphyllum</i> var. <i>japonicum</i>	B	在来	自生	●						
146		クズ	<i>Pueraria lobata</i> <i>ssp. lobata</i>	B	在来	自生	●				●		●
147		ハリエンジュ	<i>Robinia pseudoacacia</i>	B	国外外来	帰化・逸出	●						
148		エンジュ	<i>Syphonolobium japonicum</i>	D・G	国外外来	植栽	●				●		
149		シロツメクサ	<i>Trifolium repens</i>	D	国外外来	帰化・逸出	●				●		
150		フジ	<i>Wisteria floribunda</i>	B	在来	自生					●		
151		スズメノエンドウ	<i>Vicia hirsuta</i>	D	在来	自生					●		
152		ヤハズエンドウ	<i>Vicia sativa</i> <i>ssp. nigra</i>	D	在来	自生	●				●		
153	ニレ科	アキニレ	<i>Ulmus parvifolia</i>	C	国内外来	帰化・逸出	●				●	●	●
154		ケヤキ	<i>Zelkova serrata</i>	A	在来	自生	●				●		●
155	アサ科	ムクノキ	<i>Aphananthe aspera</i>	A	在来	自生	●				●		
156		エノキ	<i>Celtis sinensis</i>	A	在来	自生	●				●		●
157		カナムグラ	<i>Humulus scandens</i>	D	在来	自生	●				●		●
158	クワ科	ヒメコウゾ	<i>Broussonetia monoica</i>	B	在来	自生		●	●		●	●	
159		カジノキ	<i>Broussonetia papyrifera</i>	B	在来	自生	●						
160		クワクサ	<i>Fatoua villosa</i>	D	在来	自生	●		●		●		
161		イチジク	<i>Ficus carica</i>	C	国外外来	帰化・逸出			●	●	●		
162		イヌビワ	<i>Ficus erecta</i> var. <i>erecta</i>	B	在来	自生	●			●	●		
163		ホソバイヌビワ	<i>Ficus erecta</i> var. <i>erecta</i> f. <i>sieboldii</i>	B	在来	自生	●			●			●
164		マグワ	<i>Morus alba</i>	D	国外外来	帰化・逸出	●		●		●		●
165		ヤマグワ	<i>Morus australis</i>	B	在来	自生	●		●	●	●	●	
166	イラクサ科	ヤブマオ	<i>Boehmeria japonica</i> var. <i>longispica</i>	D	在来	自生	●	●	●		●		●
167		カラムシ	<i>Boehmeria nivea</i> var. <i>concolor</i>	D・B	在来	自生	●			●	●	●	
168		メヤブマオ	<i>Boehmeria platanifolia</i>	D・B	在来	自生	●						
169		ウワバミソウ	<i>Elatostema involucreatum</i>	A	在来	自生	●						
170	カベイラクサ	<i>Parietaria judaica</i>	D	国外外来	帰化・逸出					●			
171	バラ科	キンミズヒキ	<i>Agrimonia pilosa</i> var. <i>japonica</i>	B・A	在来	自生	●						
172		シダレザクラ	<i>Cerasus itosakura</i> 'Pendula'	A	在来	植栽	●						
173		サトザクラ	<i>Cerasus Sato-zakura</i>	A	国内外来	植栽	●						
174		ヤマブキ	<i>Kerria japonica</i>	B・A	在来	植栽	●						
175		ヘビイチゴ	<i>Potentilla hebiichigo</i>	D	在来	自生	●		●				
176		ヤブヘビイチゴ	<i>Potentilla indica</i>	D	在来	自生					●		
177		ウメ	<i>Prunus mume</i>	D・G	国外外来	植栽	●						
178		タチバナモドキ	<i>Pyracantha angustifolia</i>	D	国外外来	帰化・逸出					●		
179		ノイバラ	<i>Rosa multiflora</i> var. <i>multiflora</i>	B	在来	自生	●						
180		クサイチゴ	<i>Rubus hirsutus</i>	B	在来	自生	●						

表 III-52(5) 植物の区間別出現種

No.	科名	種名		生育環境 区分 *1	在来/外来	生育由来	確認された区間						
		和名	学名				Z1	Z2	Z3	Z4	Z5	Z6	Z7
181	(バラ科)	ナワシロイチゴ	<i>Rubus parvifolius</i>	B	在来	自生					●		●
182		エビガライチゴ	<i>Rubus phoenicolasius</i>	B	在来	植栽	●						
183		シモツケ	<i>Spiraea japonica</i> var. <i>japonica</i>	G	在来	植栽	●						
184		ユキヤナギ	<i>Spiraea thunbergii</i>	G	在来	帰化・逸出	●		●		●		●
185	ブナ科	クヌギ	<i>Quercus acutissima</i>	A	在来	自生	●						
186		シラカン	<i>Quercus myrsinifolia</i>	A	在来	自生	●						
187		ウバメガシ	<i>Quercus phillyreoides</i>	B・G	在来	植栽	●						
188		コナラ	<i>Quercus serrata</i> ssp. <i>serrata</i> var. <i>serrata</i>	A	在来	植栽	●						
189	クルミ科	オニグルミ	<i>Juglans mandshurica</i> var. <i>sachalinensis</i>	B	在来	自生	●						
190		カンボウフウ	<i>Pterocarya stenoptera</i>	D	国外外来	帰化・逸出					●		
191	カバノキ科	ハンノキ	<i>Alnus japonica</i>	E	在来	自生	●						
192	ウリ科	スイカ	<i>Citrullus lanatus</i>	D	国外外来	帰化・逸出			●		●	●	●
193		セイヨウカボチャ	<i>Cucurbita maxima</i>	D	国外外来	帰化・逸出			●	●	●		●
194		アレチウリ	<i>Sicyos angulatus</i>	D	国外外来	帰化・逸出					●		
195		カラスウリ	<i>Trichosanthes cucumeroides</i>	B	在来	自生	●				●		
196		キカラスウリ	<i>Trichosanthes kirilowii</i> var. <i>japonica</i>	B	在来	自生					●		●
197		ニシキギ科	ツルウメモドキ	<i>Celastrus orbiculatus</i> var. <i>orbiculatus</i>	B	在来	自生	●				●	
198	マユミ		<i>Euonymus sieboldianus</i>	A	在来	自生	●						
199	カタバミ科	イモカタバミ	<i>Oxalis articulata</i>	D	国外外来	帰化・逸出	●				●	●	●
200		カタバミ	<i>Oxalis corniculata</i>	D	在来	自生	●	●	●		●	●	●
201		アカカタバミ	<i>Oxalis corniculata</i> f. <i>rubrifolia</i>	D	在来	自生					●		●
202		ウスアカカタバミ	<i>Oxalis corniculata</i> f. <i>atrorubra</i>	D	在来	自生					●		
203		ムラサキカタバミ	<i>Oxalis corymbosa</i>	D	国外外来	自生	●	●	●	●	●		●
204		オッタチカタバミ	<i>Oxalis dillenii</i>	C	国外外来	帰化・逸出	●		●	●	●	●	●
205	トウダイグサ科	エノキグサ	<i>Acalypha australis</i>	D	在来	自生	●	●	●	●	●	●	●
206		コニシキソウ	<i>Euphorbia maculata</i>	D	国外外来	帰化・逸出				●	●		
207		オオニシキソウ	<i>Euphorbia nutans</i>	D	国外外来	帰化・逸出			●		●		
208		ハイニシキソウ	<i>Euphorbia prostrata</i>	D	国外外来	帰化・逸出					●		
209		アレチニシキソウ	<i>Euphorbia</i> sp.	D	国外外来	帰化・逸出				●	●		●
210		アカメガシワ	<i>Mallotus japonicus</i>	B	在来	自生	●				●	●	●
211	コミカンソウ科	コミカンソウ	<i>Phyllanthus lepidocarpus</i>	D	在来	自生		●	●	●	●	●	
212		ナガエコミカンソウ	<i>Phyllanthus tenellus</i>	D	国外外来	帰化・逸出		●	●	●	●	●	●
213	ヤナギ科	シダレヤナギ	<i>Salix babylonica</i>	E・G	国外外来	植栽	●						
214		マルバヤナギ	<i>Salix chaenomeloides</i>	E	在来	自生	●		●		●		●
215		ジャヤナギ	<i>Salix eriocarpa</i>	E	在来	自生							●
216		イヌコリヤナギ	<i>Salix integra</i>	E	在来	自生	●						
217		カワヤナギ	<i>Salix miyabeana</i> ssp. <i>gymnolepis</i>	E	在来	自生					●	●	●
218	スミレ科	アメリカスミレサイシン	<i>Viola sororia</i>	D	国外外来	帰化・逸出					●		
219		ツボスミレ	<i>Viola verecunda</i> var. <i>verecunda</i>	E	在来	自生			●				
220		スミレ属sp.	<i>Viola</i> sp.	D	不明	不明		●		●	●	●	●
221	オトギリソウ科	ビヨウヤナギ	<i>Hypericum monogynum</i>	D・G	国外外来	帰化・逸出					●	●	
222		キンシバイ	<i>Hypericum patulum</i>	D・G	国外外来	帰化・逸出	●						●
223	フウロソウ科	アメリカフウロ	<i>Geranium carolinianum</i>	D	国外外来	帰化・逸出			●		●		
224		ゲンノショウコ	<i>Geranium thunbergii</i>	D	在来	自生	●		●				
225	ミソハギ科	サルスベリ	<i>Lagerstroemia indica</i>	D	国外外来	帰化・逸出					●		

表 III-52(6) 植物の区間別出現種

No.	科名	種名		生育環境 区分 *1	在来/外来	生育由来	確認された区間						
		和名	学名				Z1	Z2	Z3	Z4	Z5	Z6	Z7
226	アカバナ科	メマツヨイグサ	<i>Oenothera biennis</i>	D	国外外来	帰化・逸出					●		
227		エウグショウ	<i>Oenothera rosea</i>	D	国外外来	帰化・逸出		●	●	●	●	●	●
228	ムクロジ科	トウカエデ	<i>Acer buergerianum</i>	D	国外外来	帰化・逸出	●				●		
229		イロハモミジ	<i>Acer palmatum</i>	A	在来	自生	●						
230		トチノキ	<i>Aesculus turbinata</i>	A・G	在来	植栽					●		
231	ミカン科	サンショウ	<i>Zanthoxylum piperitum</i>	B	在来	自生	●						
232	センダン科	センダン	<i>Melia azedarach</i>	D	国内外来	帰化・逸出	●			●	●		
233	アオイ科	カラスノゴマ	<i>Corchoropsis crenata</i>	D	在来	自生	●						
234		アオギリ	<i>Firmiana simplex</i>	A・G	国内外来	植栽							●
235		フヨウ	<i>Hibiscus mutabilis</i>	D	国外外来	帰化・逸出	●	●			●		
236		エノキアオイ	<i>Malvastrum coromandelianum</i>	D	国外外来	帰化・逸出					●		
237	アブラナ科	カラシナ	<i>Brassica juncea</i>	D	国外外来	帰化・逸出			●		●	●	●
238		ジャニンジン	<i>Cardamine impatiens</i>	D	在来	自生						●	
239		タネツケバナ	<i>Cardamine occulta</i>	D	在来	自生		●	●	●	●	●	●
240		オランダガラシ	<i>Nasturtium officinale</i>	E	国外外来	帰化・逸出		●	●	●		●	●
241		イヌガラシ	<i>Rorippa indica</i>	D	在来	自生		●	●	●	●	●	●
242		スカシタゴボウ	<i>Rorippa palustris</i>	E	在来	自生			●				
243	タデ科	イタドリ	<i>Fallopia japonica</i> var. <i>japonica</i>	D	在来	自生					●		●
244		ヒメツルソバ	<i>Persicaria capitata</i>	C	国外外来	帰化・逸出			●	●	●	●	●
245		ツルソバ	<i>Persicaria chinensis</i>	D	国内外来	帰化・逸出						●	●
246		ミズヒキ	<i>Persicaria filiformis</i>	B	在来	自生	●				●		
247		ヤナギタデ	<i>Persicaria hydropiper</i>	E	在来	自生	●			●			
248		シロバナサクラタデ	<i>Persicaria japonica</i> var. <i>japonica</i>	E	在来	植栽	●						
249		サナエタデ	<i>Persicaria lapathifolia</i> var. <i>incana</i>	D	在来	自生					●		
250		オオイヌタデ	<i>Persicaria lapathifolia</i> var. <i>lapathifolia</i>	E	在来	自生		●	●	●	●	●	●
251		イヌタデ	<i>Persicaria longiseta</i>	D	在来	自生	●	●	●	●	●	●	●
252		ボントクタデ	<i>Persicaria pubescens</i>	E	在来	自生	●						
253		ミチヤナギ	<i>Polygonum aviculare</i> ssp. <i>aviculare</i>	D	在来	自生	●						
254		スイバ	<i>Rumex acetosa</i>	D	在来	自生	●	●	●		●	●	●
255		アレチギンギシ	<i>Rumex conglomeratus</i>	D	国外外来	帰化・逸出	●	●	●	●	●	●	●
256		ナガバギンギシ	<i>Rumex crispus</i>	D	国外外来	帰化・逸出		●	●	●	●	●	●
257	ギンギシ	<i>Rumex japonicus</i>	D	在来	自生					●	●	●	
258	エゾノギンギシ	<i>Rumex obtusifolius</i>	D	国外外来	帰化・逸出		●	●	●	●	●		
259	ナデシコ科	オランダミミナグサ	<i>Cerastium glomeratum</i>	D	国外外来	帰化・逸出		●		●	●		●
260		ウシハコベ	<i>Stellaria aquatica</i>	D	在来	自生	●			●	●	●	●
261		コハコベ	<i>Stellaria media</i>	D	国外外来	帰化・逸出	●				●	●	●
262	ヒユ科	ヒナタイノコヅチ	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>tomentosa</i>	D	在来	自生	●	●	●		●	●	●
263		イヌビユ	<i>Amaranthus blitum</i>	D	在来	帰化・逸出			●	●	●	●	
264		ホソアオゲイトウ	<i>Amaranthus hybridus</i>	D	国外外来	帰化・逸出					●		
265		ホナガアオゲイトウ	<i>Amaranthus powellii</i>	D	国外外来	帰化・逸出		●			●	●	●
266		ホナガイヌビユ	<i>Amaranthus viridis</i>	D	国外外来	帰化・逸出			●		●		
267		コアカザ	<i>Chenopodium ficifolium</i>	D	国外外来	帰化・逸出					●		
268		アリタソウ	<i>Dysphania ambrosioides</i>	D	国外外来	帰化・逸出					●		●
269		ゴウシュウアリタソウ	<i>Dysphania pumilio</i>	D	国外外来	帰化・逸出						●	
270		ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ	<i>Phytolacca americana</i>	D・B	国外外来	帰化・逸出		●		●		

表 III-52(7) 植物の区間別出現種

No.	科名	種名		生育環境 区分 *1	在来/外来	生育由来	確認された区間						
		和名	学名				Z1	Z2	Z3	Z4	Z5	Z6	Z7
271	オシロイバナ科	オシロイバナ	<i>Mirabilis jalapa</i>	D	国外外来	帰化・逸出	●			●	●		●
272	ザクロソウ科	ザクロソウ	<i>Trigastrotheca stricta</i>	D	在来	自生	●						
273	ハゼラン科	ハゼラン	<i>Talinum paniculatum</i>	D・C	国外外来	帰化・逸出		●	●	●	●	●	●
274	スベリヒユ科	スベリヒユ	<i>Portulaca oleracea</i>	D	在来	自生		●			●	●	
275	ミズキ科	ミズキ	<i>Cornus controversa</i> var. <i>controversa</i>	A	在来	自生	●						
276	アジサイ科	マルバウツギ	<i>Deutzia scabra</i> var. <i>scabra</i>	B	在来	自生	●						
277		アジサイ	<i>Hortensia macrophylla</i> f. <i>macrophylla</i>	D・G	在来	植栽	●				●		●
278	サカキ科	ヒサカキ	<i>Eurya japonica</i>	A	在来	自生	●				●		
279	カキノキ科	カキノキ	<i>Diospyros kaki</i> var. <i>kaki</i>	A・D	国外外来	帰化・逸出	●				●		
280	サクランソウ科	マンリョウ	<i>Ardisia crenata</i>	A	在来	自生	●						
281		コナスビ	<i>Lysimachia japonica</i>	D	在来	自生					●		
282	ツバキ科	ヤブツバキ	<i>Camellia japonica</i>	A	在来	自生					●		
283	エゴノキ科	ハクウンボク	<i>Styrax obassia</i>	A・G	在来	植栽	●						
284	マタタビ科	キウイフルーツ	<i>Actinidia deliciosa</i>	B	国外外来	帰化・逸出			●	●	●	●	●
285	ツツジ科	ドウダンツツジ	<i>Enkianthus perulatus</i>	A・G	在来	植栽					●		
286		サツキ	<i>Rhododendron indicum</i>	G	在来	植栽	●						
287		オオムラサキツツジ	<i>Rhododendron x pulchrum</i> 'Oomurasaki'	A・G	国内外来	植栽	●				●		
288	アオキ科	アオキ	<i>Aucuba japonica</i> var. <i>japonica</i>	A	在来	自生	●						
289	アカネ科	ヒメヨツバノムグラ	<i>Galium gracilens</i>	D	在来	自生							
290		ヤエムグラ	<i>Galium spurium</i> var. <i>echinospermon</i>	D	在来	自生	●				●		
291		ヘクソカズラ	<i>Paederia foetida</i>	D・B	在来	自生	●				●		●
292	キョウチクトウ科	ニチニチソウ	<i>Catharanthus roseus</i>	B	国外外来	帰化・逸出					●		
293		ガガイモ	<i>Metaplexis japonica</i>	D	在来	自生	●				●		
294		キョウチクトウ	<i>Nerium oleander</i> var. <i>indicum</i>	D・G	国外外来	植栽	●						
295	ヒルガオ科	コヒルガオ	<i>Calystegia hederacea</i>	D	在来	自生					●		●
296		ヒルガオ	<i>Calystegia pubescens</i>	D	在来	自生					●		
297		マルバルコウ	<i>Ipomoea coccinea</i>	D	国外外来	帰化・逸出					●		
298		アメリカアサガオ	<i>Ipomoea hederacea</i>	D	国外外来	帰化・逸出						●	
299		マルバアメリカアサガオ	<i>Ipomoea hederacea</i> var. <i>integriscula</i>	D	国外外来	帰化・逸出			●		●	●	
300		マメアサガオ	<i>Ipomoea lacunosa</i>	D	国外外来	帰化・逸出					●	●	
301		アサガオ	<i>Ipomoea nil</i>	D	国外外来	帰化・逸出					●		
302	ナス科	クコ	<i>Lycium chinense</i>	B	在来	自生					●		
303		トマト	<i>Lycopersicon esculentum</i>	D	国外外来	帰化・逸出	●	●	●	●	●	●	●
304		ヒロハフウリンホオズキ	<i>Physalis angulata</i>	D	国外外来	帰化・逸出		●	●	●	●	●	●
305		ワルナスビ	<i>Solanum carolinense</i>	D	国外外来	帰化・逸出					●		
306		ヒヨドリジョウゴ	<i>Solanum lyratum</i>	D	在来	自生	●				●		
307		オオイヌホオズキ	<i>Solanum nigrescens</i>	D	国外外来	帰化・逸出	●	●	●	●	●		●
308		タマサンゴ	<i>Solanum pseudocapsicum</i>	D	国外外来	帰化・逸出					●		
309		ムラサキ科	ヒレハリソウ	<i>Symphytum officinale</i>	D	国外外来	帰化・逸出	●					
310	キュウリグサ		<i>Trigonotis peduncularis</i>	D	在来	自生	●	●			●		
311	モクセイ科	シナレンギョウ	<i>Forsythia viridissima</i> var. <i>viridissima</i>	D・G	国外外来	植栽	●						
312		ネズミモチ	<i>Ligustrum japonicum</i> var. <i>japonicum</i>	A	在来	自生	●						
313		トウネズミモチ	<i>Ligustrum lucidum</i>	A	国外外来	帰化・逸出	●				●		●
314		イボタノキ	<i>Ligustrum obtusifolium</i> ssp. <i>obtusifolium</i>	B	在来	自生	●						
315		ヒイラギモクセイ	<i>Osmanthus x fortunei</i>	D・G	国外外来	植栽	●						

表 III-52(8) 植物の区間別出現種

No.	科名	種名		生育環境 区分 *1	在来/外来	生育由来	確認された区間							
		和名	学名				Z1	Z2	Z3	Z4	Z5	Z6	Z7	
316	(モクセイ科)	ヒイラギ	<i>Osmanthus heterophyllus</i>	A	在来	自生	●							
317	オオバコ科	ツタバウンラン	<i>Cymbalaria muralis</i>	C	国外外来	帰化・逸出			●	●	●	●	●	●
318		オオバコ	<i>Plantago asiatica</i> var. <i>asiatica</i>	D	在来	自生	●	●			●			
319		ヘラオオバコ	<i>Plantago lanceolata</i>	D	国外外来	帰化・逸出					●			
320		オオカワヂシャ	<i>Veronica anagallis-aquatica</i>	E	国外外来	帰化・逸出		●	●	●	●	●	●	●
321		オオイヌノフグリ	<i>Veronica persica</i>	D	国外外来	帰化・逸出		●			●			
322	アゼナ科	タケトアゼナ	<i>Lindernia dubia</i> ssp. <i>dubia</i>	E	国外外来	帰化・逸出		●	●	●	●	●	●	●
323		アゼナ	<i>Lindernia procumbens</i>	E	在来	自生					●	●		
324	シソ科	コムラサキ	<i>Callicarpa dichotoma</i>	E・D	在来	帰化・逸出	●		●	●	●			●
325		シロミノコムラサキ	<i>Callicarpa dichotoma</i> f. <i>albifructa</i>	E・D	在来	帰化・逸出								●
326		ムラサキシキブ	<i>Callicarpa japonica</i> var. <i>japonica</i>	B・A	在来	自生	●							
327		トウバナ	<i>Clinopodium gracile</i>	D	在来	自生	●							
328		イヌトウバナ	<i>Clinopodium micranthum</i> var. <i>micranthum</i>	D	在来	自生					●			
329		ヒメオドリコソウ	<i>Lamium purpureum</i>	D	国外外来	帰化・逸出	●		●		●			
330		ブルーサルビア	<i>Salvia farinacea</i>	D	国外外来	帰化・逸出	●				●			
331		コバノタツナミ	<i>Scutellaria indica</i> var. <i>parvifolia</i>	D	国内外来	帰化・逸出					●			●
332		カリガネソウ	<i>Tripura divaricata</i>	A・B	在来	植栽	●							
333			マルバハッカ	<i>Mentha suaveolens</i>	D	国外外来	帰化・逸出					●		
334	サギゴケ科	トキワハゼ	<i>Mazus pumilus</i>	D	在来	自生		●	●				●	
335	ハエドクソウ科	ハビコリハコベ	<i>Glossostigma elatinooides</i>	F	国外外来	帰化・逸出			●	●	●	●	●	
336	キリ科	キリ	<i>Paulownia tomentosa</i>	D・G	国外外来	帰化・逸出			●					
337	キツネノマゴ科	キツネノマゴ	<i>Justicia procumbens</i> var. <i>procumbens</i>	D	在来	自生	●				●			
338		ヤナギバルイラソウ	<i>Ruellia simplex</i>	D	国外外来	帰化・逸出				●				
339	ノウゼンカズラ科	ノウゼンカズラ	<i>Campsis grandiflora</i>	D	国外外来	帰化・逸出	●							
340	モチノキ科	イヌツゲ	<i>Ilex crenata</i> var. <i>crenata</i>	A	在来	植栽	●							
341		クロガネモチ	<i>Ilex rotunda</i>	B・A	在来	帰化・逸出					●			
342	キキョウ科	ホタルブクロ	<i>Campanula punctata</i> var. <i>punctata</i>	B	在来	自生					●			
343	ミツガシワ科	ミツガシワ	<i>Menyanthes trifoliata</i>	F	在来	植栽	●							
344		アサザ	<i>Nymphoides peltata</i>	F	在来	植栽	●							
345	キク科	ヨモギ	<i>Artemisia indica</i> var. <i>maximowiczii</i>	D	在来	自生	●	●		●	●	●	●	
346		ユウガギク	<i>Aster iinumae</i>	D	在来	自生					●			
347		カントウヨメナ	<i>Aster yomena</i> var. <i>dentatus</i>	D	在来	自生	●				●	●	●	
348		アメリカセンダングサ	<i>Bidens frondosa</i>	E	国外外来	帰化・逸出	●	●	●	●	●	●	●	
349		コシロノセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>minor</i>	D	国外外来	帰化・逸出				●	●			
350		コセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>pilosa</i>	D	国外外来	帰化・逸出	●	●	●	●	●	●	●	
351		ヤブタバコ	<i>Carpesium abrotanoides</i>	A	在来	自生	●							
352			トキンソウ	<i>Centipeda minima</i>	D	在来	自生			●				
353			タイアザミ	<i>Cirsium comosum</i>	D	在来	自生	●						
354			ゼンブクジアザミ	<i>Cirsium verum</i>	D	在来	植栽	●						
355		キバナコスモス	<i>Cosmos sulphureus</i>	D	国外外来	帰化・逸出				●	●			
356		ヤクシソウ	<i>Crepidiastrum denticulatum</i>	B	在来	自生	●							
357		アメリカタカサブロウ	<i>Eclipta alba</i>	E	国外外来	帰化・逸出		●	●	●	●	●		
358		ダンドボロギク	<i>Erechtites hieracifolius</i> var. <i>hieracifolius</i>	D	国外外来	帰化・逸出					●	●		
359		ヒメジョオン	<i>Erigeron annuus</i>	D	国外外来	帰化・逸出		●	●		●	●	●	
360		ヒメムカシヨモギ	<i>Erigeron canadensis</i>	D	国外外来	帰化・逸出				●	●	●	●	

表 III-52(9) 植物の区間別出現種

No.	科名	種名		生育環境 区分 *1	在来/外来	生育由来	確認された区間						
		和名	学名				Z1	Z2	Z3	Z4	Z5	Z6	Z7
361	(キク科)	ペラペラヨメナ	<i>Erigeron karvinskianus</i>	C	国外外来	帰化・逸出			●	●	●		●
362		ハルジオン	<i>Erigeron philadelphicus</i>	D	国外外来	帰化・逸出	●	●	●		●		●
363		オオアレチノギク	<i>Erigeron sumatrensis</i>	D	国外外来	帰化・逸出			●	●	●	●	●
364		ツワブキ	<i>Farfugium japonicum</i> var. <i>japonicum</i>	B	在来	植栽	●						
365		ハキダメギク	<i>Galinsoga quadriradiata</i>	D	国外外来	帰化・逸出	●	●	●	●	●	●	●
366		ウラジロチチコグサ	<i>Gamochaeta coarctata</i>	D	国外外来	帰化・逸出			●		●		●
367		アキノノゲン	<i>Lactuca indica</i> var. <i>indica</i>	D	在来	自生					●	●	
368		フキ	<i>Petasites japonicus</i> var. <i>japonicus</i>	D	在来	自生	●						
369		ハハコグサ	<i>Pseudognaphalium affine</i>	D	在来	自生			●				
370		ノボロギク	<i>Senecio vulgaris</i>	D	国外外来	帰化・逸出		●					
371		セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i>	D	国外外来	帰化・逸出	●			●	●		●
372		オニノゲン	<i>Sonchus asper</i>	D	国外外来	帰化・逸出	●		●		●		●
373		ノゲン	<i>Sonchus oleraceus</i>	D	在来	自生	●	●	●	●	●	●	●
374		ヒロハホウキギク	<i>Symphytichum subulatum</i> var. <i>squamatum</i>	D	国外外来	帰化・逸出	●		●		●		●
375		セイヨウタンポポ	<i>Taraxacum officinale</i>	D	国外外来	帰化・逸出	●	●	●	●	●		●
376		オニタビラコ (広義)	<i>Youngia japonica</i>	D	在来	自生	●	●	●	●	●	●	●
377	ウコギ科	ヤツデ	<i>Fatsia japonica</i> var. <i>japonica</i>	A	在来	自生	●		●				
378		キヅタ	<i>Hedera rhombea</i>	C	在来	自生	●				●		●
379		チドメグサ	<i>Hydrocotyle sibthorpioides</i>	D	在来	自生			●		●	●	
380	セリ科	アシタバ	<i>Angelica keiskei</i>	D	国内外来	帰化・逸出	●						
381		ミツバ	<i>Cryptotaenia japonica</i>	D	在来	自生	●						
382		セリ	<i>Oenanthe javanica</i> ssp. <i>javanica</i>	E	在来	自生	●	●	●		●	●	
383		ヤブジラミ属 sp.	<i>Torilis</i> sp.	D	不明	自生	●				●		
384	ガマズミ科	ニワトコ	<i>Sambucus racemosa</i> ssp. <i>sieboldiana</i> var. <i>sieboldiana</i>	A	在来	自生	●		●		●		
385		ガマズミ	<i>Viburnum dilatatum</i>	A	在来	自生	●						
386	スイカズラ科	スイカズラ	<i>Lonicera japonica</i>	B	在来	自生	●				●		
合計	110科	386種					226	67	104	81	238	101	122

\*1 生育環境区分の凡例は以下のとおり。

A:樹林地 B:林縁 C:石垣・林縁 D:人里(草地・路傍) E:水辺(湿地) F:水辺(湛水) G:その他

## (2) 重要種・外来種

善福寺川で確認された重要な種を表 III-53 に示す。善福寺川の河川区域全体で 11 科 13 種の重要種が確認された。ただし、その多くは植栽等によって人為的に植えられたものであり、在来種かつ自生と考えられる重要種はナガエミクリ、マツモ、ハンノキ、ジャヤナギの計 4 種であった。

善福寺川の水源に位置する善福寺公園では、数多くの重要種が植栽されている。域外保全を目的として植栽された経緯を持つ種もあるが、全てが域外保全を目的としたかどうかは記録が定かではない。イヌカタヒバ及びトサミズキの 2 種については、本来は関東地方で生育しないため、国内外来種の扱いとした。

表 III-53 善福寺川で確認された植物の重要種

No.	科名	種名	学名	重要種選定基準		在来外来	生育由来
				環境省 RL	東京都 RDB		
1	イワヒバ科	イヌカタヒバ	<i>Selaginella moellendorffii</i>	VU		国内外来	帰化・逸出
2	ドクダミ科	ハンゲショウ	<i>Saururus chinensis</i>		EN	在来	植栽
3	ガマ科	ナガエミクリ	<i>Sparganium japonicum</i>	NT	VU	在来	自生
4	マツモ科	マツモ	<i>Ceratophyllum demersum</i>		EN	在来	自生
5	マンサク科	トサミズキ	<i>Corylopsis spicata</i>	NT		国内外来	植栽
6	バラ科	エビガライチゴ	<i>Rubus phoenicolasius</i>		CR	在来	植栽
7	カバノキ科	ハンノキ	<i>Alnus japonica</i>		VU	在来	自生
8	ヤナギ科	ジャヤナギ	<i>Salix eriocarpa</i>		NT	在来	自生
9	タデ科	シロバナサクラタデ	<i>Persicaria japonica var. japonica</i>		NT	在来	植栽
10	シソ科	コムラサキ	<i>Callicarpa dichotoma</i>		CR	在来	帰化・逸出
11		カリガネソウ	<i>Tripura divaricata</i>		EW	在来	植栽
12	ミツガシワ科	ミツガシワ	<i>Menyanthes trifoliata</i>		CR	在来	植栽
13		アサザ	<i>Nymphoides peltata</i>	NT	EN	在来	植栽
合計	11科	13種	合計	4種	11種		

\* 重要種の選定基準は以下に示すとおりとした。

□天然記念物：「文化財保護法（昭和25年法律第214号 最終改正：令和3年法律22号）」で記載された種。

該当種なし

□種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年法律第75号 最終改正：平成29年法律第51号）」で指定された種。

該当種なし

□環境省RL：「第5次レッドリスト（植物・菌類）（令和7年3月18日 環境省）」で記載された種。

EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群

□東京都RDB：「東京都レッドデータブック（本土部）2023（令和5年3月 東京都）」で記載された種。

EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 留：留意種

※区部におけるカテゴリーを選定基準とした。

### ■イヌカタヒバ

Z5 の大谷戸橋、Z7 の和田堀橋の 2 地点で確認された。いずれもコンクリートの隙間から生育していた。本来の自生地は沖縄などの南方系の植物であり、周辺の住宅から逸出したものと思われる。

### ■ハンゲショウ

Z1 の善福寺公園下池のやや湿った半陰地で確認された。第八次調査でも同様の場所で確認されており、第七次～第八次調査の間に植栽されたものである。

### ■ナガエミクリ

ナガエミクリは 72 地点中の 44 地点で確認された。最も上流の確認地点は Z2 の八幡西橋で、最も下流の確認地点は Z7 の和田廣橋（神田川合流部）であった。確認範囲は広いが、株数は下流域よりも上流域が比較的多かった。Z1 及び Z6 区間では確認されなかった。

#### ■マツモ

Z1の善福寺公園下池の1地点で確認された。

#### ■トサミズキ

Z1の善福寺公園上池の1地点で確認された。植栽枿に植えられており、公園が植栽したものと考えられる。和名のとおり、本来の自生地は土佐（高知県）周辺である。

#### ■エビガライチゴ

Z1の善福寺公園下池の1地点で確認された。東京女子大学から移植されたものと言われている。

#### ■ハンノキ

Z1の善福寺公園上池の畔で2個体確認された。

#### ■ジャヤナギ

Z7の駒ヶ坂橋の1地点で確認された。

#### ■シロバナサクラタデ

Z1の善福寺公園上池の水際に、数株の開花個体が確認された。第八次調査でも確認されており、植栽であると考えられる。

#### ■コムラサキ

コムラサキは72地点中の12地点で確認された。本種はムラサキシキブの名で広く栽培・流通しており、逸出個体が非常に多い。本調査で確認された個体が自生のものである可能性は低い。

#### ■カリガネソウ

Z1の善福寺公園上池の1地点で確認された。植栽枿に植えられており、公園が植栽したものと考えられる。

#### ■ミツガシワ

Z1の善福寺公園上池の水際に、数株が確認された。須田孫七氏が系統保存していた石神井公園産の個体が移植されたものと言われている。

#### ■アサザ

Z1の善福寺公園上池の水面の広範囲で確認した。葛飾区水元公園のごんばち池が都内唯一の自生地とされ、当該地に生育する株は2022年頃に荻窪小学校のビオトープから移植されたものである。

#### （ゼンブクジアザミ）

Z1の善福寺公園上池の1地点で確認された。本種はレッドリスト等に記載された重要種ではないが、2021年6月に新種発表された善福寺の名を冠する種であるため、本項で取り扱った。

本種は東京女子大学構内とそこから移植された善福寺公園にのみ分布が知られている狭分布種である（門田・三浦, 2021）。



ハンゲショウ  
善福寺川(Z1 善福寺公園 下池)



カリガネソウ  
善福寺川(Z1 善福寺公園 上池)



ナガエミクリ  
善福寺川(Z5 宿山橋付近)



マツモ  
善福寺川(Z1 善福寺公園 下池)



アサザ  
善福寺川(Z1 善福寺公園 上池)



シロバナサクラタデ  
善福寺川(Z1 善福寺公園 上池)



ゼンブクジアザミ  
善福寺川(Z1 善福寺公園 上池)

写真 III-8 確認された植物の重要種の生育状況

外来種は国内・国外合わせて143種確認されたが、「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」（平成27年3月26日、環境省）に掲載されている留意すべき外来種は31種であった。このうち28種が総合対策外来種、3種が産業管理外来種であった。特定外来生物に指定されている種はオオフサモ、アレチウリ、オオカワヂシャの3種であった（表 III-54）。

表 III-54 善福寺川で確認された植物の留意すべき外来種

No.	科名	種名	学名	留意すべき外来種選定基準	
				特定外来	被害防止
1	トチカガミ科	オオカナダモ	<i>Egeria densa</i>		総合(重点)
2	アヤメ科	キショウブ	<i>Iris pseudacorus</i>		総合(重点)
3	ミズアオイ科	ホテイアオイ	<i>Eichhornia crassipes</i>		総合(重点)
4	カヤツリグサ科	メリケンガヤツリ	<i>Cyperus eragrostis</i>		総合(重点)
5	イネ科	メリケンカルカヤ	<i>Andropogon virginicus</i>		総合(その他)
6		コゴメイ	<i>Juncus polyanthemus</i>		総合(重点)
7		オオクサキビ	<i>Panicum dichotomiflorum</i>		総合(その他)
8		シマスズメノヒエ	<i>Paspalum dilatatum</i>		総合(その他)
9		キシユウスズメノヒエ	<i>Paspalum distichum</i>		総合(その他)
10		セイバンモロコシ	<i>Sorghum propinquum</i>		総合(その他)
11		ナギナタガヤ	<i>Vulpia myuros var. myuros</i>		産業
12	メギ科	ヒイラギナンテン	<i>Berberis japonica</i>		総合(その他)
13	アリノトウグサ科	オオフサモ	<i>Myriophyllum aquaticum</i>	特定	総合(緊急)
14	マメ科	アレチヌスビトハギ	<i>Desmodium paniculatum</i>		総合(その他)
15		ハリエンジュ	<i>Robinia pseudoacacia</i>		産業
16	ウリ科	アレチウリ	<i>Sicyos angulatus</i>	特定	総合(緊急)
17	アオイ科	フヨウ	<i>Hibiscus mutabilis</i>		総合(その他)
18	アブラナ科	カラシナ	<i>Brassica juncea</i>		総合(その他)
19		オランダガラシ	<i>Nasturtium officinale</i>		総合(重点)
20	タデ科	ヒメツルソバ	<i>Persicaria capitata</i>		総合(その他)
21		ナガバギシギシ	<i>Rumex crispus</i>		総合(その他)
22		エゾノギシギシ	<i>Rumex obtusifolius</i>		総合(その他)
23	マタタビ科	キウイフルーツ	<i>Actinidia deliciosa</i>		産業
24	モクセイ科	トウネズミモチ	<i>Ligustrum lucidum</i>		総合(重点)
25	オオバコ科	オオカワヂシャ	<i>Veronica anagallis-aquatica</i>	特定	総合(緊急)
26	ハエドクソウ科	ハビコリハコベ	<i>Glossostigma elatinoides</i>		総合(重点)
27	キツネノマゴ科	ヤナギバルイラソウ	<i>Ruellia simplex</i>		総合(その他)
28	キク科	アメリカセンダングサ	<i>Bidens frondosa</i>		総合(その他)
29		ヒメジョオン	<i>Erigeron annuus</i>		総合(その他)
30		ペラペラヨメナ	<i>Erigeron karvinskianus</i>		総合(その他)
31		セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i>		総合(重点)
合計	18科	31種		3種	31種

\* 留意すべき外来種の選定基準は以下に示すとおりとした。

□特定外来：「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律

（平成16年法律第78号 最終改正：令和4年法律第42号）」で指定された種。

・特定：特定外来生物

□被害防止：「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（平成27年3月26日 環境省）」に記載された種。

・総合(重点)：重点対策外来種 ・総合(緊急)：緊急対策外来種 ・総合(その他)：その他の総合対策外来種

・産業：適切な管理が必要な産業上重要な外来種



オオカナダモ  
善福寺川(Z5 二枚橋付近)



ホテアオイ  
善福寺川(Z4 忍川下橋付近)



メリケンガヤツリ  
善福寺川(Z4 忍川下橋付近)



セイバンモロコシ  
善福寺川(Z5 八幡橋付近)



オオフサモ  
善福寺川(Z5 西園橋付近)



アレチウリ  
善福寺川(Z5 宿山橋付近)



ハビコリハコベ  
善福寺川(Z7 朝日橋付近)



ヤナギバルライソウ  
善福寺川(Z4 松見橋付近)

写真 III-9 確認された植物の外来種の生育状況

## IV今後の課題と提言

### 1. 河川生物調査によって見えてきた課題

神田川流域は、昔から水害の多い地域であり、大雨のたびに洪水が発生していたが、近代の河川改修によって1,000棟以上の浸水被害は平成17年9月の集中豪雨を最後に発生していない。今後は近年頻発する局地的集中豪雨（ゲリラ豪雨）にも耐えられるように、1時間あたり75mm規模の降雨に対応可能な河川改修が予定されている。

神田川、善福寺川、妙正寺川の杉並三川では、河川周辺の市街地化による湧水が減少し、昭和後期まで水質汚濁が進んでいたものの、近年は出水時を除き良好な水質が保たれている。

河川生物調査で確認された種を見ると、底生動物のエラミミズやユスリカ類等の好汚濁性の生物種が多数確認された一方で、付着藻類のタンスイベニマダラや底生動物のブユ類などの好清水性の生物種も確認された。このことは、市街地から流入する生活排水の影響を受けながらも湧水等によって供給されるきれいな水が、好清水性の生物種の生息・生育を可能にしていると考えられる。湧水と生活排水の両方が川に流れていることによって、結果的に好汚濁性の生物も好清水性の生物も生息・生育できる生物多様性の豊かな空間が形成されている。

重要種に着目すると、生息・生育環境の湧水を必要とした重要種が多い。神田川及び善福寺川の多くの地点で確認されたナガエミクリは、湧水泉や湧水を水源とする水路、溜め池などに生育する抽水植物であり、都市河川で通常見られるような種ではない。こうした生物種が確認されたことは、杉並三川が都市河川でありながら、数多くの湧水が生じる特別な河川であることを表している。そのため、湧水量の低下という杉並三川を取り巻く問題は、重要種の生息・生育環境に非常に大きな影響を与える課題として考えられる。

外来種に注目すると、底生動物10種、魚類4種、植物143種（うち沈水植物2種）が確認された。一般的に河川という環境は出水による攪乱が生じやすいため、外来種が在来種の生息・生育環境に入り込み、定着しやすい傾向にある。特に侵略性の強い特定外来生物は、アメリカザリガニ、ブルーギル、オオフサモ、アレチウリ、オオカワヂシャの計5種が該当した。

防災機能を損なわずに、かつての自然豊かであった杉並三川の生物相まで回復・復元させることを目標として、調査結果等を踏まえて河川環境保全に関する提言を行った。改善の方向性としては、単なる現状復帰ではなく、生態系の連続性や多様性を重視した保全、適切な管理、区民等の参画による継続的な取り組みを重視した。次項に維持管理、構造改善、普及啓発に係る対応の考え方についてとりまとめた。

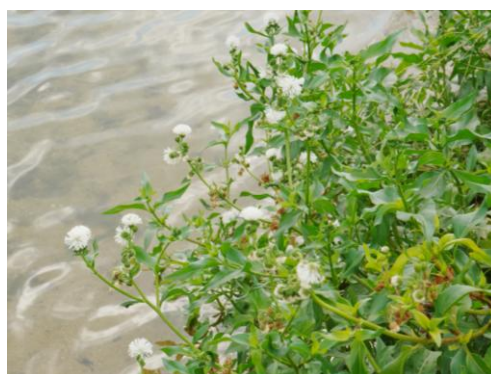
## 2. 杉並区の河川環境保全にむけて

### (1) 河川の維持管理

河川の維持管理として、清掃、除草、浚渫、樹木の剪定等が行われているが、基本的に防災の観点で行われるものである。生物環境の観点から考えた維持管理の留意事項は、除草作業において外来植物の取り扱いに注意することである。

通常の除草では、草刈機等で地上部を刈り取るのみであり、個体は直ちに再生する。個体を完全に除去するには根から引っっこ抜く必要がある。また、外来植物のうち特定外来生物に指定されている種は極めて高い再生能力を持つことが知られている。例えば、まだ杉並区内では定着が確認されていないが、関東地方の各地で確認されているミズヒマワリ (*Gymnocoronis spilanthoides*) は、小さな茎や葉の断片からでも再生が可能であり、草刈りがかえって外来植物の分布拡大を手助けすることに繋がる懸念がある。河川内に生えた植物を除草する際にはその種類について注意すべきである。

また、外来植物であれば全て除去するのが良いということではないので、注意が必要である。例えば既に善福寺川の広い範囲で確認されている水草のオオカナダモやオオフサモは、在来の魚類や底生動物の隠れ場所として利用されている可能性がある。この場合、オオカナダモやオオフサモを大規模に除去した際には、かえって在来種の個体数減少を招く恐れがある。外来植物の除去に関しては、有識者に意見を伺った上で、在来種への影響が小さくなる手順で実施することが望ましい。



特定外来生物ミズヒマワリ  
(杉並区外で撮影)

### (2) 河川構造の改善

杉並三川は、洪水が頻発していた歴史から多くの場所が河川改修によりコンクリート護岸になっており、人工的な河川構造となっている。そのような河岸であっても、石積みや寄り洲等には抽水植物が生育し、生物相が比較的豊富な場所がいくつか存在する。

近隣の住民の安全を確保するためには河川の構造を大きく変えることはできないが、こうした生物相が豊かな場所を参考に、生物相の乏しい場所の河川構造に少し手を加えることによって、河川全体の生物多様性を高める改善案を示す。

コンクリート護岸が生物の生育・生息に適さない理由として、コンクリート面が平滑なために魚類の隠れ場所や底生動物の付着基盤にならないことが挙げられる。これを解決する方法として、蛇籠と呼ばれる鉄線で編んだ籠に碎石を入れたもの(右写真)を配置する方法がある。この蛇籠をコンクリート護岸部の水際に並べることによって、コンクリート護岸の平滑な河川と陸地の境界面に多様性を創出する。蛇籠内部の石の間隙は、水流に変化を生み、流速や水深の多様化によって多くの生物種の生息基盤になると考えられる。



蛇籠の設置例

### (3) 普及啓発

環境保全に対する普及啓発の役割は、人々に環境問題を「知ってもらおう」だけでなく、「自分ごととして理解し、行動につなげる」ことを促す点にある。正確で分かりやすい情報を提供することで、環境への関心や理解を高め、日常生活や地域活動の中での自主的・継続的な環境配慮行動を広げる基盤をつくる役割を担っている。

本調査をはじめとする環境調査の成果は、区公式ページで掲載・公開するほか、報告書概要版を配布する等して、区民への積極的な情報発信が重要と考えられる。また、環境問題について関心のある区民だけではなく、関心のない区民にも広く普及啓発することが必要である。

小中学生を対象とした環境学習の実施は、環境問題に対する将来の社会意識にも影響を及ぼす特に有効な普及啓発の方法である。小中学期は価値観や行動様式が形成される段階にあり、この時期に環境問題を学ぶことで、自然を大切にす意識や行動が長期的に定着しやすい。また、彼らが成長して社会の一員となった時、環境学習で学んだことは社会全体の環境問題に対する姿勢についても影響を与える可能性が考えられる。杉並区では、各学校の希望に応じて環境学習コーディネーターやサポーターを派遣し、環境学習を支援しているが、今後も継続して行い、環境学習の充実を図っていくことが重要である。

さらに杉並区には、善福寺公園内の遅野井川親水施設など、区民が川に親しみながら学べる環境学習に適した場所が存在する。これらの地域資源を活用することで、体験的であり効果的な環境学習を展開でき、環境意識の醸成につながると考えられる。



環境学習の様子



遅野井川親水施設

# 資料編

- ◆ 資料1 魚類調査票
- ◆ 引用・参考文献等



# 魚類調査票(1)

調査実施日： 8月28日

地点名：松下橋 M-1

種名				種名				種名			
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1				1				1			
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考	備考	備考
----	----	----

種名				種名				種名			
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1				1				1			
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考	備考	備考
----	----	----

## 魚類調査票(2)

調査実施日： 9月2日 地点名：上池と下池の間 Z-1

ゲンゴロウブナ				モツゴ				ブルーギル				
種名	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	種名	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	種名	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	
No.				No.				No.				
1	134	108	40	1	64	54		2	1	163	130	71
2	140	113	46	2	78	65		4	2	140	112	45
3	110	90	23	3	59	48		2	3	125	99	34
4				4	57	47		2	4	131	105	41
5				5	62	51		2	5	110	87	23
6				6	66	54		3	6	84	70	9
7				7	62	52		2	7	52	41	2
8				8	67	55		2	8	73	58	6
9				9	63	52		2	9	94	73	12
10				10	55	45		1	10	39	31	1
11				11	66	55		3	11	50	41	2
12				12	66	55		2	12	82	65	8
13				13	62	51		2	13	85	68	9
14				14	58	48		2	14	92	72	12
15				15	64	53		2	15	42	35	1
16				16	65	54		2	16	48	38	2
17				17	70	58		3	17	47	38	1
18				18					18	56	44	3
19				19					19	45	36	1
20				20					20	46	36	1

備考 上池、投網	備考 上池、投網	備考 残り4個体 合計24個体 上池、投網
----------	----------	-----------------------------

トウヨシノボリ類				トウヨシノボリ類							
種名	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	種名	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	種名	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
No.				No.				No.			
1	41	34		1	53	44		1			
2	41	34		2				2			
3	38	32		3				3			
4	33	28	<1	4				4			
5	34	28	<1	5				5			
6	26	22	<1	6				6			
7	25	21	<1	7				7			
8	26	22	<1	8				8			
9	24	20	<1	9				9			
10	20	16	<1	10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 上池、夕毛網	備考 渡戸橋下流、夕毛網	備考
-----------	--------------	----

### 魚類調査票(3)

調査実施日： 9月2日 地点名：寺分橋 Z-2 (1/2)

種名	ギンブナ			種名	オイカワ			種名	カワムツ		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	120	98	25	1	90	75	7	1	87	71	6
2	121	98	23	2	72	60	3	2	87	71	6
3	118	95	23	3	63	53	2	3	57	47	1
4	117	95	23	4	99	82	8	4	61	51	2
5	106	85	17	5	57	46	1	5	72	59	4
6	100	82	15	6	76	63	3	6	63	51	2
7	77	60	6	7	65	53	2	7			
8				8	86	73	5	8			
9				9	80	67	4	9			
10				10	67	55	2	10			
11				11	78	64	4	11			
12				12	78	64	3	12			
13				13	64	53	2	13			
14				14	62	52	2	14			
15				15	35	28	<1	15			
16				16	41	34	<1	16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 投網	備考 投網	備考 投網
-------	-------	-------

種名	モツゴ			種名	タモロコ			種名	オイカワ		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	78	65	4	1	82	68	6	1	17	14	<1
2	85	70	5	2	82	68	6	2	19	16	<1
3	60	48	2	3	55	45	2	3	47	37	1
4	56	47	2	4	61	49	2	4	48	38	1
5	59	48	2	5	63	51	3	5	9	8	<1
6	59	48	2	6	62	50	2	6	10	9	<1
7	56	45	1	7	62	50	3	7			
8	59	48	2	8	58	48	2	8			
9	65	53	2	9	62	50	2	9			
10	62	50	2	10	77	64	4	10			
11	83	68	5	11	61	49	2	11			
12	60	49	2	12	62	50	2	12			
13	63	52	2	13	56	46	2	13			
14	83	68	5	14	60	49	2	14			
15	59	48	2	15	59	48	2	15			
16	56	46	2	16	63	52	2	16			
17	53	44	1	17	56	45	1	17			
18	61	50	2	18	70	58	3	18			
19	63	52	2	19	55	45	2	19			
20	84	70	6	20	60	50	2	20			

備考 残り21個体 合計41個体 投網	備考 残り30個体 合計50個体 投網	備考 タモ網
---------------------------	---------------------------	--------

### 魚類調査票(4)

調査実施日： 9月2日 地点名：寺分橋 Z-2 (2/2)

種名				種名				種名			
カワムツ				タモロコ							
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	42	34	1	1	64	53	3	1			
2	45	36	1	2	57	47	2	2			
3	43	35	1	3	50	40	1	3			
4	42	34	1	4	46	37	1	4			
5	39	32	1	5				5			
6	38	30	<1	6				6			
7	37	30	<1	7				7			
8	38	31	<1	8				8			
9	36	29	<1	9				9			
10	36	29	<1	10				10			
11	27	22	<1	11				11			
12	26	21	<1	12				12			
13	19	16	<1	13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 タモ網	備考 タモ網	備考
--------	--------	----

種名				種名				種名			
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1				1				1			
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考	備考	備考
----	----	----

### 魚類調査票(5)

調査実施日： 9月2日

地点名：原寺分橋 Z-3 (1/2)

種名			オイカワ			種名			タモロコ			種名			カマツカ		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)		
1	88	73		6	1	70	57	4	1	90	77	7					
2	72	59		3	2	57	46	2	2	81	68	5					
3	61	49		2	3	57	46	2	3								
4	51	42		1	4	58	48	2	4								
5	55	45		1	5	57	46	1	5								
6	66	54		2	6	57	46	2	6								
7	67	55		2	7	54	44	2	7								
8	68	56		2	8	58	48	2	8								
9	61	50		2	9	57	46	2	9								
10	55	45		1	10	57	47	1	10								
11	62	51		2	11	61	50	2	11								
12	61	50		2	12	55	45	2	12								
13	56	47		1	13	56	45	2	13								
14	57	47		2	14	56	46	1	14								
15	61	50		2	15				15								
16	60	49		2	16				16								
17	64	54		3	17				17								
18	57	48		2	18				18								
19	55	45		1	19				19								
20	58	48		2	20				20								

備考 残り21個体  
合計41個体  
投網

備考 投網

備考 投網

種名			コイ (型不明) ※目視			種名			オイカワ			種名			カワムツ		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)		
1				1	18	15	<1	1	23	19	<1						
2				2	17	14	<1	2									
3				3	14	12	<1	3									
4				4	19	16	<1	4									
5				5	16	13	<1	5									
6				6	16	13	<1	6									
7				7	19	15	<1	7									
8				8	18	15	<1	8									
9				9	16	13	<1	9									
10				10	17	14	<1	10									
11				11				11									
12				12				12									
13				13				13									
14				14				14									
15				15				15									
16				16				16									
17				17				17									
18				18				18									
19				19				19									
20				20				20									

備考 目視 (24)

備考 タモ網

備考 タモ網

## 魚類調査票(6)

調査実施日： 9月2日 地点名：原寺分橋 Z-3 (2/2)

種名			種名			種名					
ドジョウ (中国大陸系統)			カワヨシノボリ								
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	68	59	2	1	41	33	1	1			
2				2	37	30	1	2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 タモ網	備考 タモ網	備考
--------	--------	----

種名			種名			種名					
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1				1				1			
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考	備考	備考
----	----	----

### 魚類調査票(7)

調査実施日： 8月29日

地点名：井荻橋 Z-4

種名	カワムツ			種名	モツゴ			種名	タモロコ			
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	
1	63	52		2	1	69	55	3	1	78	65	4
2	57	47		2	2	60	49	2	2	64	52	3
3	48	39		1	3	64	52	2	3	65	53	2
4					4	66	53	2	4	61	50	2
5					5				5	75	62	4
6					6				6	59	48	2
7					7				7	75	63	4
8					8				8	60	49	2
9					9				9	61	50	2
10					10				10	67	55	3
11					11				11	59	48	2
12					12				12	58	46	2
13					13				13			
14					14				14			
15					15				15			
16					16				16			
17					17				17			
18					18				18			
19					19				19			
20					20				20			

備考 投網	備考 投網	備考 投網
-------	-------	-------

種名	カマツカ			種名	オイカワ			種名				
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	
1	73	61		3	1	9	8	<1	1			
2	76	64		4	2				2			
3	71	60		3	3				3			
4					4				4			
5					5				5			
6					6				6			
7					7				7			
8					8				8			
9					9				9			
10					10				10			
11					11				11			
12					12				12			
13					13				13			
14					14				14			
15					15				15			
16					16				16			
17					17				17			
18					18				18			
19					19				19			
20					20				20			

備考 投網	備考 タモ網	備考
-------	--------	----

## 魚類調査票(8)

調査実施日： 8月3日

地点名：神明橋 Z-5

種名	モツゴ			種名	タモロコ			種名	タモロコ			
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	
1	65	53		2	1	60	49	2	1	62	51	2
2				2				2				
3				3				3				
4				4				4				
5				5				5				
6				6				6				
7				7				7				
8				8				8				
9				9				9				
10				10				10				
11				11				11				
12				12				12				
13				13				13				
14				14				14				
15				15				15				
16				16				16				
17				17				17				
18				18				18				
19				19				19				
20				20				20				

備考 投網

備考 投網

備考 タモ網

種名				種名				種名			
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1				1				1			
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考

備考

備考

## 魚類調査票(9)

調査実施日： 8月29日

地点名：春日橋 Z-6

種名			オイカワ			種名			タモロコ			種名			ドジョウ (中国大陸系統)		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)		
1	121	104	19	1	86	72	7	1	59	51	1						
2				2	66	54	3	2	51	43	1						
3				3	72	60	4	3									
4				4	75	64	4	4									
5				5	71	59	3	5									
6				6	65	54	3	6									
7				7	73	60	4	7									
8				8	74	61	4	8									
9				9	74	61	4	9									
10				10	68	57	4	10									
11				11	75	62	5	11									
12				12	67	55	3	12									
13				13	64	52	3	13									
14				14	69	56	3	14									
15				15	65	54	3	15									
16				16	74	61	5	16									
17				17	67	54	3	17									
18				18	82	69	5	18									
19				19	46	38	1	19									
20				20	79	67	5	20									

備考 投網

備考 残り74個体  
合計94個体  
投網

備考

種名			種名			種名					
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1				1				1			
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考

備考

備考

# 魚類調査票(10)

調査実施日： 8月27日

地点名：尾崎橋 Z-7

種名			オイカワ			種名			モツゴ			種名			タモロコ		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)		
1	123	104	19	1	70	58	4	1	82	69	6						
2	114	94	13	2	68	57	3	2	74	63	4						
3	117	99	16	3	58	48	2	3	64	52	2						
4	129	108	21	4	73	60	4	4	60	50	2						
5	107	95	13	5	59	48	2	5	60	50	2						
6	118	96	16	6	74	62	3	6	60	50	2						
7	109	91	14	7	66	55	3	7	65	54	2						
8	106	90	12	8	69	57	3	8	51	43	1						
9	60	50	2	9	58	47	2	9	54	45	1						
10				10	68	57	3	10	69	56	3						
11				11	58	48	2	11	58	48	2						
12				12	58	48	2	12	58	48	2						
13				13	62	52	3	13	55	45	2						
14				14	66	55	3	14	63	51	2						
15				15	64	52	3	15	66	54	2						
16				16	60	50	2	16	61	50	2						
17				17	54	44	1	17	64	53	2						
18				18				18	60	50	2						
19				19				19	65	53	2						
20				20				20	63	52	2						

備考 投網	備考 投網	備考 残り8個体 合計28個体 投網
-------	-------	--------------------------

種名			ドジョウ (中国大陸系統)			種名			種名		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	90	76	未計測	1				1			
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 タモ網 死骸	備考	備考
--------------	----	----

# 魚類調査票(11)

調査実施日： 8月27日

地点名：宮下橋 Z-8

種名 モツゴ				種名 タモロコ				種名 ツチフキ				
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	
1	71	58		2	1	57	46	2	1	65	53	3
2	53	43		1	2	57	46	2	2	72	59	4
3	57	47		1	3	61	50	2	3	96	80	9
4	67	55		2	4	59	48	2	4	74	60	4
5	64	53		1	5	73	58	3	5	72	58	4
6	62	50		2	6	65	52	2	6	66	54	3
7	65	53		2	7	72	59	4	7	81	66	5
8	58	47		1	8	73	60	3	8			
9	70	57		2	9	70	58	3	9			
10	59	48		2	10	73	60	4	10			
11	58	47		2	11	62	50	2	11			
12	60	50		2	12	56	45	1	12			
13	60	50		2	13	62	50	2	13			
14	50	40		1	14	57	46	2	14			
15	58	48		2	15	55	45	1	15			
16	64	53		2	16	57	47	1	16			
17	66	55		3	17	62	50	2	17			
18	76	62		3	18	60	49	2	18			
19	65	52		2	19	61	50	2	19			
20	56	45		2	20	64	52	2	20			

備考 残り6個体  
合計26個体  
投網

備考 残り8個体  
合計28個体  
投網

備考 投網

種名 オイカワ				種名 コイ (型不明) ※目視				種名			
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	24	20	<1	1				1			
2	27	23	<1	2				2			
3	25	20	<1	3				3			
4	23	19	<1	4				4			
5	23	19	<1	5				5			
6	18	15	<1	6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 タモ網

備考 目視 (1)

備考

## 魚類調査票(12)

調査実施日： 8月27日 地点名：和田堀橋 Z-9 (1/2)

種名			コイ (型不明)			種名			モツゴ			種名			タモロコ		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)		
1	57	46	2	1	65	58	3	1	66	54	3						
2				2	62	50	2	2	76	62	4						
3				3	57	46	2	3	75	62	4						
4				4				4	75	62	5						
5				5				5	78	64	5						
6				6				6									
7				7				7									
8				8				8									
9				9				9									
10				10				10									
11				11				11									
12				12				12									
13				13				13									
14				14				14									
15				15				15									
16				16				16									
17				17				17									
18				18				18									
19				19				19									
20				20				20									
備考 投網				備考 No. 4奇形 投網				備考 No. 1奇形 投網									
種名			ツチフキ			種名			ドジョウ (中国大陸系統)			種名			モツゴ		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)		
1	58	48	2	1	41	35	<1	1	42	35	1						
2				2	44	38	1	2									
3				3				3									
4				4				4									
5				5				5									
6				6				6									
7				7				7									
8				8				8									
9				9				9									
10				10				10									
11				11				11									
12				12				12									
13				13				13									
14				14				14									
15				15				15									
16				16				16									
17				17				17									
18				18				18									
19				19				19									
20				20				20									
備考 投網				備考 投網				備考 タモ網									

# 魚類調査票(13)

調査実施日： 8月27日                      地点名：和田堀橋 Z-9 (2/2)

種名				種名				種名			
ドジョウ (中国大陸系統)											
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	48	42	1	1				1			
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考    タモ網	備考	備考
-----------	----	----

種名				種名				種名			
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1				1				1			
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考	備考	備考
----	----	----

## 魚類調査票(14)

調査実施日： 8月26日

地点名：井の頭線車庫脇 K-1

種名			種名			種名					
コイ (型不明) ※目視			モツゴ			カワヨシノボリ					
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1				1	78	63	5	1	49	40	1
2				2	74	60	4	2	26	21	<1
3				3	65	52	3	3	27	22	<1
4				4	57	44	2	4			
5				5	48	38	1	5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 目視(13) (鱗に病変1個体)	備考 投網	備考 他1個体 (全長約8cm、測定前に逃亡) 投網
---------------------	-------	----------------------------------

種名			種名			種名					
モツゴ			ドンコ			カワヨシノボリ					
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	33	27	<1	1	56	44	2	1	54	44	2
2				2				2	51	42	2
3				3				3	42	35	1
4				4				4	39	32	1
5				5				5	34	28	<1
6				6				6	31	26	<1
7				7				7	27	22	<1
8				8				8	26	21	<1
9				9				9	29	24	<1
10				10				10	27	22	<1
11				11				11	27	22	<1
12				12				12	27	22	<1
13				13				13	24	20	<1
14				14				14	24	20	<1
15				15				15	19	15	<1
16				16				16	17	14	<1
17				17				17	19	15	<1
18				18				18	36	29	1
19				19				19			
20				20				20			

備考 タモ網	備考 タモ網	備考 タモ網
--------	--------	--------

## 魚類調査票(15)

調査実施日： 8月26日

地点名：錦橋 K-2

種名	モツゴ			種名	カワヨシノボリ			種名	カワヨシノボリ			
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	
1	64	51		2	1	57	46	3	1	41	34	1
2	60	48		2	2	36	30	1	2	41	34	1
3	60	48		2	3	27	22	<1	3	38	31	1
4	80	65		5	4				4	37	30	1
5	81	66		5	5				5	38	31	1
6	84	68		5	6				6	36	30	1
7	57	45		2	7				7	37	30	1
8	60	48		2	8				8	32	26	<1
9	55	44		1	9				9	26	21	<1
10	63	52		2	10				10	23	19	<1
11	55	45		1	11				11			
12	53	43		1	12				12			
13					13				13			
14					14				14			
15					15				15			
16					16				16			
17					17				17			
18					18				18			
19					19				19			
20					20				20			

備考 投網

備考 投網

備考 タモ網

種名	コイ (型不明) ※目視			種名	コイ (改良品種型・錦鯉) ※目視			種名			
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1				1				1			
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 目視(5)  
投網

備考 目視(1)

備考

# 魚類調査票(16)

調査実施日： 8月7日

地点名： 鎌倉橋 K-3 (1/2)

種名	ギンブナ			種名	オイカワ			種名	カワムツ		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	135	110	41	1	96	82	10	1	95	78	7
2				2	85	71	5	2	77	63	5
3				3				3	82	67	5
4				4				4	58	47	2
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 投網	備考 投網	備考 投網
-------	-------	-------

種名	モツゴ			種名	タモロコ			種名	カマツカ		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	80	67	5	1	70	57	3	1	78	65	4
2	86	73	6	2	85	70	6	2			
3	81	66	5	3				3			
4	74	62	4	4				4			
5	82	68	6	5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 投網	備考 投網	備考 投網
-------	-------	-------

# 魚類調査票(17)

調査実施日： 8月7日

地点名： 鎌倉橋 K-3 (2/2)

種名	ドンコ			種名	コイ (型不明) ※目視			種名	ギンブナ		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	164	136	78	1				1	118	97	22
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 投網

備考 目視(4)

備考 タモ網

種名	カワヨシノボリ			種名				種名			
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	49	40	1	1				1			
2	40	33	1	2				2			
3	35	28	<1	3				3			
4	34	28	<1	4				4			
5	32	26	<1	5				5			
6	31	25	<1	6				6			
7	31	25	<1	7				7			
8	27	22	<1	8				8			
9	19	16	<1	9				9			
10	27	22	<1	10				10			
11	43	35	1	11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考

備考

備考

## 魚類調査票(18)

調査実施日： 8月28日

地点名： 蔵下橋 K-4 (1/2)

種名	コイ (型不明)			種名	オイカワ			種名	カワムツ (目視)		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	92	74	9	1	85	70	4	1			
2	59	47	3	2	90	75	6	2			
3	48	39	2	3	93	76	6	3			
4				4	100	84	8	4			
5				5	94	78	7	5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 投網

備考 投網

備考 目視 1個体

種名	モツゴ			種名	タモロコ			種名	ドジョウ (中国大陸系統)		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	94	77	8	1	80	68	5	1	30	25	<1
2	73	60	4	2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 投網

備考 投網

備考 タモ網

# 魚類調査票(19)

調査実施日： 8月28日

地点名： 蔵下橋 K-4 (2/2)

種名				種名				種名			
カワヨシノボリ											
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	46	37	1	1				1			
2	40	33	1	2				2			
3	39	32	1	3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 タモ網

備考

備考

種名				種名				種名			
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1				1				1			
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考

備考

備考

## 魚類調査票 (20)

調査実施日： 8月28日

地点名： 方南第一橋 K-5 (1/2)

種名	オイカワ			種名	モツゴ			種名	タモロコ		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	20	17	<1	1	54	42	1	1	58	48	2
2	25	21	<1	2	41	33	1	2			
3	105	88	10	3				3			
4	68	55	2	4				4			
5	57	47	1	5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 投網

備考 投網

備考 投網

種名	コイ (型不明)			種名	オイカワ			種名	ドジョウ (中国大陸系統)		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	71	57	4	1	24	20	<1	1	94	80	5
2				2	24	20	<1	2	59	51	1
3				3	23	19	<1	3			
4				4	20	16	<1	4			
5				5	22	18	<1	5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 タモ網

備考 タモ網

備考 タモ網

# 魚類調査票 (21)

調査実施日： 8月28日

地点名： 方南第一橋 K-5 (2/2)

種名 カワヨシノボリ				種名 コイ (型不明) ※目視				種名			
No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)
1	41	34	1	1				1			
2	34	28	<1	2				2			
3	34	28	<1	3				3			
4	41	34	1	4				4			
5	36	30	<1	5				5			
6	41	34	1	6				6			
7	40	33	1	7				7			
8	35	29	<1	8				8			
9	36	30	<1	9				9			
10	40	33	1	10				10			
11	37	31	1	11				11			
12	35	29	<1	12				12			
13	36	30	<1	13				13			
14	37	31	1	14				14			
15	37	31	1	15				15			
16	39	32	1	16				16			
17	38	32	1	17				17			
18	37	31	1	18				18			
19	35	29	<1	19				19			
20	39	33	1	20				20			

備考 タモ網

備考 目視 (9)

備考

種名				種名				種名			
No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)
1				1				1			
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考

備考

備考

## 魚類調査票 (22)

調査実施日： 10月22日

地点名：松下橋 M-1

種名				種名				種名			
ドジョウ (中国大陸系統)											
No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)
1	43	36	<1	1				1			
2	41	35	<1	2				2			
3	41	35	<1	3				3			
4	38	33	<1	4				4			
5	40	34	<1	5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 タモ網

備考

備考

種名				種名				種名			
No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)
1				1				1			
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考

備考

備考

## 魚類調査票 (23)

調査実施日： 10月22日

地点名： 上池と下池の間 Z-1 (1/2)

種名	モツゴ			種名	ブルーギル			種名	ウキゴリ			
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	
1	66	54		2	1	88	70	10	1	68	59	3
2	68	55		3	2	90	71	10	2	65	55	3
3	71	59		3	3	89	70	10	3			
4	68	58		3	4	47	38	1	4			
5	59	48		2	5	51	41	2	5			
6	65	52		2	6	51	41	2	6			
7	58	48		1	7	47	38	1	7			
8					8	39	31	1	8			
9					9	47	38	1	9			
10					10	54	43	2	10			
11					11	49	38	2	11			
12					12	52	42	2	12			
13					13	50	40	1	13			
14					14	47	38	1	14			
15					15	56	46	2	15			
16					16	38	30	1	16			
17					17	40	32	1	17			
18					18	40	32	1	18			
19					19	45	37	1	19			
20					20	49	38	1	20			

備考 上池、投網

備考 残り3個体  
合計23個体  
上池、投網

備考 上池、投網

種名	コイ (改良品種：ヒゴイ) ※目視			種名	コイ (型不明) ※目視			種名	トウヨシノボリ類		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1				1				1	43	36	1
2				2				2	51	42	2
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 上池、目視(1)

備考 上池、目視(2)

備考 渡戸橋下流、夕毛網

## 魚類調査票 (24)

調査実施日： 10月22日

地点名：上池と下池の間 Z-1 (2/2)

種名 ミナミメダカ				種名				種名			
No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)
1	27	22	<1	1				1			
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 渡戸橋下流、夕毛網

備考

備考

種名				種名				種名			
No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)
1				1				1			
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考

備考

備考

## 魚類調査票 (25)

調査実施日： 9月2日 地点名：寺分橋 Z-2 (1/2)

種名	オイカワ			種名	カワムツ			種名	モツゴ		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	127	105	17	1	45	37	1	1	76	62	4
2	124	103	15	2	83	67	5	2	68	57	3
3	135	110	21	3	57	47	2	3			
4	123	100	14	4	71	57	3	4			
5	108	90	10	5	56	45	1	5			
6	124	102	15	6	56	45	1	6			
7	115	97	12	7	57	47	2	7			
8	101	84	8	8	35	29	<1	8			
9	98	81	7	9				9			
10	35	28	<1	10				10			
11	58	47	1	11				11			
12	69	57	2	12				12			
13	59	49	2	13				13			
14	100	83	8	14				14			
15	89	73	5	15				15			
16	64	52	1	16				16			
17	89	74	5	17				17			
18	37	31	<1	18				18			
19	45	37	<1	19				19			
20	81	67	3	20				20			
備考 残り9個体 合計29個体 投網				備考 投網				備考 投網			
種名	タモロコ			種名	オイカワ			種名	カワムツ		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	81	68	6	1	11	9	<1	1	30	25	<1
2	74	60	4	2	10	9	<1	2			
3	73	61	4	3				3			
4	91	75	7	4				4			
5	92	76	7	5				5			
6	89	74	8	6				6			
7	72	59	3	7				7			
8	82	67	5	8				8			
9	69	58	3	9				9			
10	67	53	2	10				10			
11	61	50	2	11				11			
12	78	63	4	12				12			
13	63	50	2	13				13			
14	60	49	2	14				14			
15	74	60	4	15				15			
16	68	55	3	16				16			
17	72	59	4	17				17			
18	65	54	3	18				18			
19	67	55	3	19				19			
20				20				20			
備考 投網				備考 タモ網				備考 タモ網			

## 魚類調査票 (26)

調査実施日 : 9月2日

地点名 : 寺分橋 Z-2 (2/2)

種名	タモロコ			種名	ドンコ			種名			
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	68	56	3	1	161	133	62	1			
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 タモ網

備考 タモ網

備考

種名				種名				種名			
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1				1				1			
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考

備考

備考

# 魚類調査票 (27)

調査実施日： 10月21日

地点名：原寺分橋 Z-3

種名	オイカワ			種名	タモロコ			種名	カマツカ		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	131	109	20	1	81	66	5	1	105	90	12
2	127	104	17	2	64	52	2	2	94	77	7
3	105	87	9	3	67	55	2	3			
4	119	98	11	4				4			
5	100	84	8	5				5			
6	97	79	6	6				6			
7	78	64	3	7				7			
8	88	73	5	8				8			
9	66	54	2	9				9			
10	71	58	2	10				10			
11	72	59	2	11				11			
12	66	54	2	12				12			
13	78	64	3	13				13			
14	75	62	3	14				14			
15	67	55	2	15				15			
16	67	55	2	16				16			
17	65	54	2	17				17			
18	73	60	3	18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考	備考 投網	備考 投網
----	-------	-------

種名	ドンコ			種名	カワムツ			種名	カワヨシノボリ		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	69	56	5	1	25	20	<1	1	52	43	2
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 投網	備考 タモ網	備考 タモ網
-------	--------	--------

## 魚類調査票 (28)

調査実施日： 10月21日

地点名：井荻橋 Z-4 (1/2)

種名	オイカワ			種名	カワムツ			種名	モツゴ		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	95	79	5	1	110	90	10	1	77	64	5
2	64	52	2	2	86	70	4	2	85	69	5
3				3	60	48	1	3			
4				4	83	69	4	4			
5				5	100	82	8	5			
6				6	93	74	6	6			
7				7	76	61	3	7			
8				8	72	58	3	8			
9				9	71	57	3	9			
10				10	61	49	1	10			
11				11	55	45	1	11			
12				12	71	57	3	12			
13				13	63	51	2	13			
14				14	63	51	2	14			
15				15	72	58	3	15			
16				16	59	49	1	16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 投網

備考 投網

備考 投網

種名	カマツカ			種名	オイカワ			種名	モツゴ		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	85	70	5	1	10	10	<1	1	85	70	6
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 投網

備考 タモ網

備考 タモ網

## 魚類調査票 (29)

調査実施日： 10月21日

地点名：井荻橋 Z-4 (2/2)

種名	タモロコ			種名	カワヨシノボリ			種名			
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	15	13	<1	1	58	47	2	1			
2	16	14	<1	2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考	備考	備考
----	----	----

種名				種名				種名			
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1				1				1			
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考	備考	備考
----	----	----

### 魚類調査票 (30)

調査実施日： 10月21日

地点名：神明橋 Z-5

種名				種名				種名			
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1								1			
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考	備考	備考
----	----	----

種名				種名				種名			
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1				1				1			
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考	備考	備考
----	----	----

# 魚類調査票 (31)

調査実施日： 10月20日

地点名：春日橋 Z-6

種名	オイカワ			種名	モツゴ			種名	タモロコ		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	112	93	11	1	60	49	2	1	81	67	5
2	89	74	6	2				2			
3	88	73	5	3				3			
4	64	53	2	4				4			
5	65	54	2	5				5			
6	63	52	2	6				6			
7	71	58	3	7				7			
8	75	60	3	8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 投網	備考 投網	備考 投網
-------	-------	-------

種名	タモロコ			種名	ドジョウ (中国大陸系統)			種名			
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	66	55	3	1	103	89	7	1			
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 タモ網	備考 タモ網	備考
--------	--------	----

## 魚類調査票 (32)

調査実施日： 8月27日

地点名：尾崎橋 Z-7

種名			モツゴ			種名			タモロコ			種名			オイカワ		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)		
1	60	49	2	1	66	54	4	1	17	15	<1						
2				2				2	10	9	<1						
3				3				3	12	11	<1						
4				4				4	13	12	<1						
5				5				5	12	11	<1						
6				6				6	7	7	<1						
7				7				7	11	10	<1						
8				8				8	11	10	<1						
9				9				9	9	9	<1						
10				10				10	13	11	<1						
11				11				11	11	10	<1						
12				12				12	14	13	<1						
13				13				13	12	10	<1						
14				14				14	14	12	<1						
15				15				15	12	10	<1						
16				16				16	12	11	<1						
17				17				17	9	9	<1						
18				18				18	11	10	<1						
19				19				19	7	7	<1						
20				20				20	17	15	<1						

備考 投網

備考 投網

備考 残り30個体  
合計50個体  
タモ網

種名			種名			種名					
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1				1				1			
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考

備考

備考

### 魚類調査票 (33)

調査実施日： 10月20日

地点名：宮下橋 Z-8

種名			コイ (型不明) ※目視			種名			モツゴ			種名			ツチフキ		
No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)		
1				1	67	53		3	1	100	81	11					
2				2	57	46		1	2								
3				3	54	44		1	3								
4				4	53	42		1	4								
5				5	57	46		2	5								
6				6	52	42		1	6								
7				7	59	48		2	7								
8				8	59	48		2	8								
9				9	64	51		3	9								
10				10	67	54		3	10								
11				11	53	43		1	11								
12				12	46	37		1	12								
13				13	53	42		2	13								
14				14	71	58		3	14								
15				15	57	47		2	15								
16				16	63	52		2	16								
17				17	57	46		2	17								
18				18	61	50		3	18								
19				19	53	43		1	19								
20				20	54	44		1	20								

備考 目視 (12個体)

備考 残り48個体  
合計68個体  
投網

備考 タモ網

種名			種名			種名					
No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)
1				1				1			
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考

備考

備考

### 魚類調査票 (34)

調査実施日： 10月16日

地点名： 和田堀橋 Z-9

種名	オイカワ			種名	モツゴ			種名	タモロコ		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	61	51	2	1	59	48	2	1	68	55	3
2	58	48	2	2	63	51	2	2	69	56	4
3	38	30	<1	3	63	50	2	3	68	55	3
4				4	66	53	3	4	79	63	4
5				5	58	47	2	5	65	54	3
6				6	59	48	2	6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 投網	備考 投網 ※No. 3 奇形	備考 投網
-------	--------------------	-------

種名	オイカワ			種名	タモロコ			種名	ドジョウ (中国大陸系統)		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	7	7	<1	1	14	12	<1	1	70	60	2
2	11	10	<1	2	8	7	<1	2	61	51	1
3	8	8	<1	3				3	9	8	<1
4	11	10	<1	4				4	14	13	<1
5	10	9	<1	5				5	13	12	<1
6				6				6	12	11	<1
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 タモ網	備考 タモ網	備考 タモ網
--------	--------	--------

### 魚類調査票 (35)

調査実施日： 10月17日

地点名： 井の頭線車庫脇 K-1

種名			コイ (型不明) ※目視			種名			モツゴ			種名			モツゴ		
No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)		
1				1	81	67		6	1	43	34	1					
2				2	70	58		3	2								
3				3	70	57		4	3								
4				4	66	53		3	4								
5				5	61	50		2	5								
6				6	57	46		2	6								
7				7	57	46		2	7								
8				8	58	47		2	8								
9				9					9								
10				10					10								
11				11					11								
12				12					12								
13				13					13								
14				14					14								
15				15					15								
16				16					16								
17				17					17								
18				18					18								
19				19					19								
20				20					20								

備考 目視(11) (鱗に病変1個体)

備考 投網

備考 タモ網

種名			カワヨシノボリ			種名			種名			種名			
No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)
1	66	54		4	1				1						
2	51	41		2	2				2						
3	50	40		2	3				3						
4	50	40		2	4				4						
5	45	37		1	5				5						
6	44	35		1	6				6						
7	42	34		1	7				7						
8	43	36		1	8				8						
9	41	34		1	9				9						
10	39	32		1	10				10						
11	31	26	<1	11					11						
12	31	26	<1	12					12						
13	30	25	<1	13					13						
14	38	30	1	14					14						
15	31	25	<1	15					15						
16	35	29	<1	16					16						
17	29	24	<1	17					17						
18				18					18						
19				19					19						
20				20					20						

備考 タモ網

備考

備考

### 魚類調査票 (36)

調査実施日： 10月17日

地点名： 錦橋 K-2 (1/2)

種名	オイカワ			種名	モツゴ			種名	タモロコ		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	103	89	9	1	84	67	6	1	84	69	7
2	114	95	12	2	87	70	7	2	80	67	6
3	84	70	5	3	85	71	6	3	87	74	7
4				4	89	74	8	4	92	77	8
5				5	88	73	7	5	87	70	7
6				6	85	70	7	6	74	60	4
7				7	80	69	7	7	87	73	7
8				8	79	66	5	8	98	80	10
9				9	82	66	6	9	81	67	7
10				10	75	60	5	10	79	66	5
11				11	67	55	3	11	79	66	5
12				12	66	54	3	12	84	70	7
13				13	54	43	1	13	84	69	6
14				14	55	44	2	14	85	70	6
15				15	23	19	<1	15	83	68	6
16				16				16	75	61	5
17				17				17	84	69	7
18				18				18	74	60	5
19				19				19	72	58	4
20				20				20	54	44	2

備考 投網	備考 投網 ※No. 10 奇形	備考 残り3個体 合計23個体 投網
-------	---------------------	--------------------------

種名	カマツカ			種名	ミナミメダカ			種名	カワヨシノボリ		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	62	51	2	1	29	24	<1	1	29	24	<1
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 投網	備考 投網	備考 投網
-------	-------	-------

## 魚類調査票 (37)

調査実施日： 10月17日

地点名： 錦橋 K-2 (2/2)

種名	ドンコ			種名	カワヨシノボリ			種名	コイ (型不明) ※目視		
No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)
1	87	72	11	1	50	41	1	1			
2	98	78	14	2	35	28	<1	2			
3				3	43	36	1	3			
4				4	43	36	1	4			
5				5	36	30	1	5			
6				6	40	32	1	6			
7				7	38	32	1	7			
8				8	30	25	<1	8			
9				9	32	26	<1	9			
10				10	30	25	<1	10			
11				11	32	26	<1	11			
12				12	31	25	<1	12			
13				13	28	23	<1	13			
14				14	26	22	<1	14			
15				15	28	23	<1	15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 タモ網	備考 タモ網	備考 目視 (12)
--------	--------	------------

種名	コイ (改良品種：錦鯉) ※目視			種名				種名			
No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)
1				1				1			
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 目視 (1)	備考	備考
-----------	----	----

### 魚類調査票 (38)

調査実施日： 10月17日

地点名： 鎌倉橋 K-3 (1/2)

種名	カワムツ			種名	モツゴ			種名	タモロコ		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	39	32	<1	1	86	70	7	1	92	76	8
2				2	73	59	4	2	88	72	7
3				3	90	74	7	3	78	64	5
4				4	69	56	4	4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 投網	備考 投網	備考 投網
-------	-------	-------

種名	カマツカ			種名	カワヨシノボリ			種名	カワヨシノボリ		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	66	53	2	1	42	35	1	1	70	58	4
2	65	53	2	2				2	51	42	2
3				3				3	49	40	2
4				4				4	51	42	2
5				5				5	47	38	1
6				6				6	46	37	1
7				7				7	50	42	2
8				8				8	50	42	2
9				9				9	41	33	1
10				10				10	47	39	1
11				11				11	42	35	1
12				12				12	42	35	1
13				13				13	38	31	1
14				14				14	41	34	1
15				15				15	35	29	<1
16				16				16	41	34	1
17				17				17	38	31	1
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 投網	備考 投網	備考 タモ網
-------	-------	--------

## 魚類調査票 (39)

調査実施日： 10月17日

地点名： 鎌倉橋 K-3 (2/2)

種名	コイ (型不明) ※目視			種名				種名			
No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)
1				1				1			
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 目視 (3)

備考

備考

種名				種名				種名			
No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)
1				1				1			
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考

備考

備考

# 魚類調査票 (40)

調査実施日： 10月16日

地点名： 蔵下橋 K-4 (1/2)

種名	オイカワ			種名	モツゴ			種名	タモロコ		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	135	113	21	1	85	68	6	1	89	73	8
2	110	91	11	2	76	62	4	2	78	62	7
3	114	93	11	3				3	80	65	5
4	53	43	1	4				4	86	71	7
5	54	44	1	5				5	77	62	4
6	55	45	2	6				6			
7	54	44	1	7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 投網	備考 投網	備考 投網
-------	-------	-------

種名	カワヨシノボリ			種名	モツゴ			種名	ドジョウ (中国大陸系統)		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	59	47	3	1	62	50	3	1	55	47	1
2				2				2	82	70	3
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 投網	備考 タモ網	備考 タモ網
-------	--------	--------

## 魚類調査票(41)

調査実施日： 10月16日

地点名： 蔵下橋 K-4 (2/2)

種名				種名				種名			
カワヨシノボリ											
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	57	48	3	1				1			
2	49	41	2	2				2			
3	44	36	1	3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 タモ網

備考

備考

種名				種名				種名			
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1				1				1			
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考

備考

備考

## 魚類調査票(42)

調査実施日： 10月16日

地点名：方南第一橋 K-5 (1/2)

種名	オイカワ			種名	モツゴ			種名	タモロコ		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	112	91	11	1	66	53	3	1	76	62	5
2	115	94	12	2	57	47	2	2	71	61	4
3	47	38	1	3				3	75	63	4
4	55	45	1	4				4			
5	40	32	1	5				5			
6	50	41	1	6				6			
7	32	26	<1	7				7			
8	38	31	<1	8				8			
9	52	42	1	9				9			
10	40	32	<1	10				10			
11	33	26	<1	11				11			
12	41	33	<1	12				12			
13	35	28	<1	13				13			
14	46	38	<1	14				14			
15	22	18	<1	15				15			
16	32	26	<1	16				16			
17	39	32	<1	17				17			
18	42	34	<1	18				18			
19	37	30	<1	19				19			
20	23	19	<1	20				20			

備考 投網	備考 投網	備考 投網
-------	-------	-------

種名	カマツカ			種名	オイカワ			種名	モツゴ		
No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)	No.	全長(mm)	体長(mm)	湿重量(g)
1	83	67	4	1	8	7	<1	1	65	54	3
2				2	10	9	<1	2			
3				3	10	9	<1	3			
4				4	10	9	<1	4			
5				5	8	8	<1	5			
6				6	11	10	<1	6			
7				7	9	8	<1	7			
8				8	10	9	<1	8			
9				9	10	9	<1	9			
10				10	10	9	<1	10			
11				11	13	12	<1	11			
12				12	7	7	<1	12			
13				13	12	11	<1	13			
14				14	11	10	<1	14			
15				15	9	8	<1	15			
16				16	10	9	<1	16			
17				17	8	7	<1	17			
18				18	12	11	<1	18			
19				19	13	11	<1	19			
20				20	9	8	<1	20			

備考 投網	備考 残り134個体 合計154個体 タモ網	備考 タモ網
-------	------------------------------	--------

## 魚類調査票 (43)

調査実施日： 10月16日

地点名： 方南第一橋 K-5 (2/2)

種名	タモロコ			種名	ドジョウ (中国大陸系統)			種名	メダカ属		
No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)
1	56	45	2	1	18	15	<1	1	9	9	<1
2	6	6	<1	2				2	5	5	<1
3	8	8	<1	3				3			
4	8	8	<1	4				4			
5	10	9	<1	5				5			
6	12	11	<1	6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 タモ網

備考 タモ網

備考 タモ網

種名	コイ (型不明) ※目視			種名				種名			
No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)	No.	全長 (mm)	体長 (mm)	湿重量 (g)
1				1				1			
2				2				2			
3				3				3			
4				4				4			
5				5				5			
6				6				6			
7				7				7			
8				8				8			
9				9				9			
10				10				10			
11				11				11			
12				12				12			
13				13				13			
14				14				14			
15				15				15			
16				16				16			
17				17				17			
18				18				18			
19				19				19			
20				20				20			

備考 目視 (11)

備考

備考



## 引用・参考文献等 (著者五十音順)

- 門田裕一・三浦憲人. 2021. 日本産アザミ属の分類学的研究 XXVI. 北海道と本州からの 5 新種. 植物研究雑誌, 96 巻, 3 号, p.131-148.
- 環境庁. 1971. 水質汚濁に係る環境基準. 昭和 46 年 12 月 28 日環境庁告示第 59 号.
- 環境庁水質保全局. 1985. 水生生物による水質の調査法. 環境庁水質保全局.
- 環境省. 全国水生生物調査のページ. <https://water-pub.env.go.jp/water-pub/mizu-site/mizu/suisei/suisei.html>, (参照 2026-01-05)
- 国土地理院. 1981. 二万五千分の一 土地条件図Ⅱ- (東京). 国土地理院.
- 坂田正次. 1987. 江戸東京の神田川. 論創社.
- 杉並区. 1982. 新修杉並区史 (上巻). 杉並区.
- 杉並区. 1998. 平成 9 年度緑化基本調査報告書. 杉並区.
- 杉並区環境清掃部環境課. 2003. 杉並区河川水質分析データ集 (平成 4 年度～平成 13 年度). 杉並区環境清掃部環境課.
- 杉並区環境清掃部環境課. 2005. すぎなみの川と生き物. 杉並区.
- 杉並区環境清掃部環境課. 2008. 杉並区自然環境調査報告書 (第 5 次). 杉並区環境清掃部環境課.
- 杉並区環境部環境課. 2016. 杉並区 河川の生物—第七次河川生物調査報告書—. 杉並区環境部環境課.
- 杉並区環境部環境課. 2020. 令和 2 年度杉並区環境白書 (資料編). 杉並区環境部環境課.
- 杉並区環境部環境課. 2021a. 杉並区 河川の生物—第八次河川生物調査報告書—. 杉並区環境部環境課.
- 杉並区環境部環境課. 2021b. 令和 3 年度杉並区環境白書 (資料編). 杉並区環境部環境課.
- 杉並区環境部環境課. 2022. 令和 4 年度杉並区環境白書 (資料編). 杉並区環境部環境課.
- 杉並区環境部環境課. 2023. 令和 5 年度杉並区環境白書 (資料編). 杉並区環境部環境課.
- 杉並区環境部環境課. 2024. 令和 6 年度杉並区環境白書 (資料編). 杉並区環境部環境課.
- 杉並区環境部環境課. 2025a. 令和 7 年度杉並区環境白書 (資料編). 杉並区環境部環境課.
- 杉並区環境部環境課. 2025b. 杉並区自然環境調査報告書 (第 8 次). 杉並区環境部環境課.
- 杉並区都市整備部みどり公園課. 2023a. 令和 4 年度杉並区みどりの実態調査報告書. 杉並区都市整備部みどり公園課.
- 杉並区都市整備部みどり公園課. 2023b. 施設案内 妙正寺公園. <https://www.city.suginami.tokyo.jp/s100/shisetsu/14715.html>, (参照 2026-01-05)
- 東京都. 2000. 東京都環境白書 2000 (資料集). 東京都.
- 東京都. 2009. 東京都現存植生図 (2007 年版). 東京都.
- 東京都環境保全局. 1985. 東京における自然の保護と回復の施策に関する事業報告書. 東京都.
- 東京都環境局. 2018. 公共用水域の水質汚濁に係る環境基準等. [https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/water/tokyo\\_bay/measurements/standard](https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/water/tokyo_bay/measurements/standard), (参照 2026-01-05)
- 東京都環境局. 2024a. 令和 5 (2023) 年「みどり率」の調査結果について. <https://www.metro.tokyo.lg.jp/information/press/2024/10/2024102816>, (参照 2026-01-05)
- 東京都環境局. 2024b. 令和 6 年度公共用水域水質測定結果. [https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/water/tokyo\\_bay/measurements/measurements/r6](https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/water/tokyo_bay/measurements/measurements/r6), (参照 2026-01-05)

- 東京都建設局河川部. 2023. 神田川流域河川整備計画. 東京都.
- 東京都建設局公園緑地部. 2025. 都立公園ガイド (令和7年度~8年度). 東京都.
- 東京都第三建設事務所. 2024. 事業概要 令和6年度版. 東京都第三建設事務所.
- (一財)日本地図センター. 1996. 明治前期測量 2万分1フランス式彩色地図, 東京都杉並区・世田谷区・中野区・田無市・武蔵野市・三鷹市・調布市周辺. (一財)日本地図センター.
- 林直也・田中次郎. 2015. 絶滅危惧種の淡水藻類オキチモズク (チスジノリ科, 紅藻) を東京都で初確認. 植物研究雑誌, 90 巻, 2 号, p. 134-136.
- 福嶋悟. 2007. 都市河川における付着藻類群集の長期的変遷. 水処理技術, 48 巻, p. 103-110.
- みどりのボランティア・杉並区都市整備部みどり公園課. 2018. みどりの新聞 みどりとひと 171 号. 杉並区都市整備部みどり公園課.
- 渡辺仁治・浅井一視・伯耆. 1988. 有機汚濁に対する珪藻群集による汚濁指数 DAI<sub>po</sub> と密接に関連した生物学的情報. 珪藻学会誌, 4 巻, p. 49-60.
- 渡辺仁治編著. 2005. 淡水珪藻生態図鑑. 内田老鶴圃.



杉並区 河川の生物 -第九次河川生物調査報告書-

登録印刷物番号

07 - 0097

令和 7 年度版

令和 8 年 3 月発行

頒布 1,100 円

編集・発行：杉並区環境部環境課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目 15 番 1 号

電話 (03) 3312-2111(代)

☆杉並区のホームページでご覧になれます。 <https://www.city.suginami.tokyo.jp>

編集・構成



株式会社 総合環境計画